

香川県農業試験場移転事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告  
第5冊

## 西末則遺跡 V

—第2分冊—

2015.3

香川県教育委員会



F地区 遺構出土の弥生土器



282

283 ~ 300

277 ~ 281



102 ~ 117

J地区 SP115 出土遺物



J地区 SDj74 出土遺物

## 例 言

1. 本報告書は、香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告の第5冊で、香川県綾歌郡綾川町に所在する西末期遺跡（にしすえのりいせき）の調査成果を収録した。
2. 発掘調査は、香川県農林水産部（当時）から依頼を受けて、香川県教育委員会事務局文化行政課（現在 生涯学習・文化財課）が調査主体となり、現地調査は平成14・15年度は財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが、平成16・17年度は香川県埋蔵文化財センターが調査担当者として実施した。
3. 発掘調査の担当は以下のとおりである。

平成14年度担当 C 調査区：木下晴一、石原徹也、武井美和  
D 調査区：西村尋文、川原和生、角田三保  
E 調査区：柏 徹哉、小野秀幸、飯間俊行  
平成15年度担当 F 調査区：蔵本晋司、柏 徹哉、武井美和  
平成16年度担当 E 調査区：北山健一郎、佐々木和裕、武井美和  
J 調査区：蔵本晋司、松井和久、平尾勝洋  
平成17年度担当 E 調査区：福家正人、長井博志、森 麻子

4. 調査にあたっては、下記の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい（順不同、敬称略）。  
香川県農政水産部農業経営課、地元自治会、地元水利組合
5. 本報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。
6. 本書の整理作業及び執筆は以下の分担で実施した。  
C調査区：木下晴一 D・E調査区：西村尋文 J・F調査区：小野秀幸  
編集は森格也・西村尋文が担当した。  
なお、第Ⅷ章第3節では、元香川県埋蔵文化財センターの調査担当で、現在高松市立川添小学校教諭、柏徹哉氏に寄稿していただいた。
7. 本報告書で用いる方位の北は、国土座標第Ⅵ系（世界測地系）の北であり、標高は東京湾平均海面（T. P.）を基準としている。

8. 本書で用いている遺構記号は次のとおりである。  
SH：堅穴建物 SB：掘立柱建物 SA：櫛列 SP：柱穴 SK：土坑 SF：窟跡 ST：墓 SD：溝状遺構 SX：不整形遺構 SR：自然河川
9. 報告遺構名は、以下の方法で再整理を行った。

発掘調査時は「調査区」単位で、遺構の種類ごとに「01」からはじまる通し番号を付した。報告の際には同じ番号が重複するため、調査区や整理年度で異なる小文字のアルファベットの「整理区画記号」を、遺構記号と遺構番号の中間に付すことで、固有の報告遺構名を表すことにした。

例 ●区検出のSB01（検出時遺構名）→SB01（報告遺構名）

10. 挿図の一部に国土交通省国土地理院作成の1/25,000地形図を使用した。
11. 遺物観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色標監修「新版標準土色帖1997年度版」による。
12. 本遺跡の報告にあたっては、下記の機関に土器実測と写真撮影を委託した。  
土器実測・デジタルトレース……………（株）アコード  
遺物写真撮影…………… 岡村印刷工業株式会社

# 本文目次

## 第2分冊

### 第Ⅵ章 J調査区の調査

- 第1節 概要・基本層位……………(小野) 1
- 第2節 J調査区の遺構・遺物……………(小野) 13

### 第Ⅶ章 F調査区の調査

- 第1節 概要・基本層位……………(小野) 169
- 第2節 F調査区の遺構・遺物……………(小野) 169

### 第Ⅷ章 まとめ

- 第1節 C調査区の歴史の変遷……………(木下) 197
- 第2節 D・E調査区の歴史の変遷……………(西村) 200
- 第3節 周辺水利調査と西末則遺跡検出中世居館について……………(柏) 211

## 第1分冊

### 第Ⅰ章 調査の経緯と経過

- 第1節 発掘調査の経過……………(西村) 1
- 第2節 整理作業の経過……………(西村) 4

### 第Ⅱ章 調査の方法

- 第1節 発掘調査の方法……………(西村) 6
- 第2節 整理作業の方法……………(西村) 9

### 第Ⅲ章 C調査区の調査

- 第1節 C調査区の概要・基本層位……………(木下) 11
- 第2節 C調査区の遺構・遺物……………(木下) 15

### 第Ⅳ章 D調査区の調査

- 第1節 D調査区の概要・基本層位……………(西村) 49
- 第2節 D調査区の遺構・遺物……………(西村) 55
  - 1.C13・D15S・D12地区
  - 2.E15・E14・E13・F12地区

### 第Ⅴ章 E調査区の調査

- 第1節 E調査区の概要・基本層位……………(西村) 150
- 第2節 E調査区の遺構・遺物……………(西村) 152

# 挿図目次

第1図	遺跡位置図	1	第57図	SBj43平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	57
第2図	グッド割図	2	第58図	SBj44平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	58
第3図	年度別地区割図	3	第59図	SBj45平・断面図 (1/60)	59
第4図	調査区割図	4	第60図	SAj01平・断面図 (1/80)	60
第5図	J区西壁土層断面図1 (縦1/40・横1/80)	5	第61図	SP出土遺物1 (1/4)	61
第6図	J区西壁土層断面図2 (縦1/40・横1/80)	6	第62図	SP出土遺物2 (1/4・1/2)	62
第7図	J区南壁土層断面図1 (縦1/40・横1/80)	7	第63図	SP出土遺物3 (1/4・1/2)	63
第8図	J区南壁土層断面図2 (縦1/40・横1/80)	8	第64図	SP出土遺物4 (1/4・1/2)	64
第9図	J区東壁土層断面図1 (縦1/40・横1/80)	9	第65図	SP出土遺物5 (1/4)	65
第10図	J区東壁2・東拡張区北壁土層断面図 (縦1/40・横1/80)	10	第66図	SKj01・02平・断面図 (1/40)	66
第11図	J調査区遺構配置図	11-12	第67図	SKj03・04平・断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4)	67
第12図	SBj01平・断面図 (1/60)	13	第68図	SKj05平・断面図 (1/40)	67
第13図	SBj02平・断面図 (1/60)	14	第69図	SKj06・07平・断面図 (1/40)	68
第14図	SBj03平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	15	第70図	SKj09・10平・断面図 (1/20・1/40)、 出土遺物 (1/4)	69
第15図	SBj04平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	16	第71図	SKj11・12平・断面図 (1/20)、 出土遺物 (1/4)	70
第16図	SBj05平・断面図 (1/60)	17	第72図	SKj13・16平・断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4)	71
第17図	SBj06平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	18	第73図	SKj17・19平・断面図 (1/20・1/40)、 出土遺物 (1/4)	72
第18図	SBj07平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	19	第74図	SKj24・25平・断面図 (1/40)	73
第19図	SBj08平・断面図 (1/60)、出土遺物1 (1/4)・20	20	第75図	SKj35・40平・断面図 (1/40)	74
第20図	SBj08出土遺物2 (1/4)	21	第76図	SKj42平・断面図 (1/40)	74
第21図	SBj09平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	22	第77図	SKj44・45平・断面図 (1/40)	75
第22図	SBj10平・断面図 (1/60)	23	第78図	SKj47・48平・断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4)	76
第23図	SBj11平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	24	第79図	SKj49・50平・断面図 (1/40)	77
第24図	SBj12平・断面図 (1/60)	25	第80図	SKj51・53平・断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4)	78
第25図	SBj13平・断面図 (1/60)	26	第81図	SKj54・55平・断面図 (1/40)	79
第26図	SBj13出土遺物 (1/4)	27	第82図	SKj58平・断面図 (1/40)	79
第27図	SBj14平・断面図 (1/40)	28	第83図	SKj59平・断面図 (1/40)	80
第28図	SBj15平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	29	第84図	SKj60・61平・断面図 (1/20)、 出土遺物 (1/4)	81
第29図	SBj16平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	30	第85図	SKj62平・断面図 (1/40)	82
第30図	SBj17平・断面図 (1/60)	31	第86図	SKj64・65平・断面図 (1/20・1/40)、 出土遺物 (1/4)	83
第31図	SBj18平・断面図 (1/60)	32	第87図	SKj66・67平・断面図 (1/40)	84
第32図	SBj19平・断面図 (1/60)	33	第88図	SKj68・69平・断面図 (1/40)	84
第33図	SBj19出土遺物 (1/4・1/2)	34	第89図	SKj71・72平・断面図 (1/40)	85
第34図	SBj20平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	35	第90図	SKj78平・断面図 (1/40)	86
第35図	SBj21平・断面図 (1/60)	36	第91図	SKj79・81平・断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4)	86
第36図	SBj22平・断面図 (1/60)	36	第92図	SKj82・83平・断面図 (1/40)	87
第37図	SBj23平・断面図 (1/60)	37	第93図	SKj86平・断面図 (1/40)	88
第38図	SBj24平・断面図 (1/60)	38	第94図	SKj87・88平・断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4)	88
第39図	SBj25平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	39	第95図	SKj89・90平・断面図 (1/40)	89
第40図	SBj26平・断面図 (1/60)	40	第96図	SKj91・92平・断面図 (1/40)	90
第41図	SBj27平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/2)	41	第97図	SKj98・99平・断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4)	91
第42図	SBj28平・断面図 (1/60)	42	第98図	SKj100平・断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4)	91
第43図	SBj28出土遺物 (1/4・1/2)	43	第99図	SKj101・102平・断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4)	92
第44図	SBj29平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	44			
第45図	SBj30平・断面図 (1/60)	45			
第46図	SBj31平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	46			
第47図	SBj32平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	47			
第48図	SBj33平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	48			
第49図	SBj34平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	49			
第50図	SBj36平・断面図 (1/60)	50			
第51図	SBj37平・断面図 (1/60)	51			
第52図	SBj38平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	52			
第53図	SBj39平・断面図 (1/60)	53			
第54図	SBj40平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	54			
第55図	SBj41平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	55			
第56図	SBj42平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	56			



第 100 国	SKj103 · 104 平 · 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······93	出土遺物 (1/4 · 1/2) ······129	
第 101 国	SKj105 · 106 平 · 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······94	SDj29 · 30 断面图 (1/20 · 1/40), 出土遺物 (1/4) ······130	
第 102 国	SKj107 ~ 109 平 · 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······95	第 142 国	SDj31 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/2) ······131
第 103 国	SKj110 · 112 平 · 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······96	第 143 国	SDj32 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······132
第 104 国	SKj113 · 114 平 · 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······97	第 144 国	SDj33 · 34 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······133
第 105 国	SKj115 · 117 平 · 断面图 (1/40) ······98	第 145 国	SDj37 · 38 · 40 断面图 (1/40) ······134
第 106 国	SKj118 平 · 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······98	第 146 国	SDj36 · 54 断面图 (1/40) ······135
第 107 国	SKj120 · 122 平 · 断面图 (1/40) ······99	第 147 国	SDj36 出土遺物 (1/2) ······136
第 108 国	SKj123 平 · 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······100	第 148 国	SDj54 出土遺物 (1/4 · 1/2) ······137
第 109 国	SKj124 · 125 平 · 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······101	第 149 国	SDj35 · 39 断面图 (1/20) ······138
第 110 国	SKj126 · 127 平 · 断面图 (1/40) ······102	第 150 国	SDj43 · 45 断面图 (1/40 · 1/20) ······139
第 111 国	SKj128 · 129 平 · 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······102	第 151 国	SDj47 断面图 (1/20) ······139
第 112 国	SKj130 平 · 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······103	第 152 国	SDj49 · 51 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······139
第 113 国	STj01 平 · 断面图 (1/20), 出土遺物 (1/4) ······105	第 153 国	SDj52 断面图 (1/20) ······140
第 114 国	STj01 出土遺物 2 (1/1) ······106	第 154 国	SDj53 · 62 断面图 (1/20) ······140
第 115 国	STj01 出土遺物 3 (1/2) ······106	第 155 国	SDj55 断面图 (1/40) ······140
第 116 国	STj02 平 · 断面图 (1/20), 出土遺物 (1/4) ······107	第 156 国	SDj57 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······141
第 117 国	STj03 平 · 断面图 (1/20) ······109	第 157 国	SDj58 · 61 断面图 (1/20 · 1/40), 出土遺物 (1/4) ······142
第 118 国	STj03 出土遺物 (1/2) ······110	第 158 国	SDj63 断面图 (1/20) ······142
第 119 国	SFj01 平 · 断面图 (1/40) ······111	第 159 国	SDj64 · 66 断面图 (1/40 · 1/20), 出土遺物 (1/4) ······143
第 120 国	SFj02 平 · 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······111	第 160 国	SDj73 断面图 (1/40) ······143
第 121 国	SFj03 平 · 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······112	第 161 国	SDj74 平 · 断面图 (1/40 · 1/80) ······144
第 122 国	SFj04 平 · 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······113	第 162 国	SDj74 出土遺物 1 (1/4) ······145
第 123 国	SEj01 平 · 断面图 (1/40) ······114	第 163 国	SDj74 出土遺物 2 (1/4) ······146
第 124 国	SEj02 上層平面图 (1/40) ······115	第 164 国	SDj75 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······147
第 125 国	SEj02 下層平 · 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······116	第 165 国	SDj76 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······148
第 126 国	SDj01 · 02 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······117	第 166 国	SDj77 ~ 79 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······149
第 127 国	SDj03 · 04 断面图 (1/20) ······118	第 167 国	SDj81 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······150
第 128 国	SDj05 · 06 · 断面图 (1/20) ······119	第 168 国	SDj82 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······151
第 129 国	SDj07 ~ 09 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······120	第 169 国	SDj84 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······152
第 130 国	SDj10 · 11 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······121	第 170 国	SDj87 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······152
第 131 国	SDj12 断面图 (1/40) ······121	第 171 国	SDj88 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4 · 1/2) ······153
第 132 国	SDj16 断面图 (1/20), 出土遺物 (1/2) ······122	第 172 国	SDj89 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······154
第 133 国	SDj18 · 19 断面图 (1/20 · 1/40) ······123	第 173 国	SDj91 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······155
第 134 国	SDj20 断面图 (1/20), 出土遺物 (1/4) ······123	第 174 国	SDj92 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······156
第 135 国	SDj22 · 23 断面图 (1/40) ······124	第 175 国	SDj94 断面图 (1/20) ······156
第 136 国	SDj27 断面图 (1/40) ······125	第 176 国	SDj96 断面图 (1/20), 出土遺物 (1/4) ······156
第 137 国	SDj27 出土遺物 1 (1/4 · 1/2) ······126	第 177 国	SDj100 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······157
第 138 国	SDj27 出土遺物 2 (1/4) ······127	第 178 国	SDj102 断面图 (1/20), SDj107 出土遺物 (1/2) ······157
第 139 国	SDj27 出土遺物 3 (1/2) ······128	第 179 国	SDj812 · 884 出土遺物 (1/4) ······158
第 140 国	SDj28 断面图 (1/40),	第 180 国	SRj01 断面图 (1/40) ······159
		第 181 国	SRj01 出土遺物 (1/4 · 1/2) ······159
		第 182 国	SXj06 平 · 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······160
		第 183 国	SXj07 平 · 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······161
		第 184 国	SXj08 平 · 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······161
		第 185 国	SXj15 出土遺物 (1/4) ······162
		第 186 国	SXj23 平 · 断面图 (1/40), 出土遺物 (1/4) ······162
		第 187 国	SXj24 周辺平 · 断面图 (1/40 · 1/100),

	出土遺物 (1/4).....	163
第188 図	SXj28 出土遺物 (1/2).....	164
第189 図	SXj30・36 平・断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4).....	164
第190 図	中央溝群出土遺物 (1/4).....	165
第191 図	包含層出土遺物 1 (1/4).....	165
第192 図	包含層出土遺物 2 (1/4).....	166
第193 図	F 調査区遺構配置図.....	167-168
第194 図	SDr01・02 出土遺物.....	170
第195 図	SRr02 出土遺物.....	171
第196 図	SRr03 出土遺物.....	173
第197 図	SXr01 出土遺物.....	174
第198 図	SXr02 出土遺物.....	175
第199 図	SXr05・06・07・09 出土遺物.....	177
第200 図	SXr14・17 出土遺物.....	179
第201 図	SXr21 平・断面図、出土遺物.....	180
第202 図	SXr11 出土遺物.....	182
第203 図	SKr01 平・断面図.....	186
第204 図	SDr04 断面図.....	187

第205 図	SDr04 出土遺物 (1).....	188
第206 図	SDr04 出土遺物 (2).....	189
第207 図	SBr01 平・断面図.....	191
第208 図	SBr02 平・断面図.....	192
第209 図	SBr03 平・断面図.....	193
第210 図	SBr04 平・断面図.....	194
第211 図	SBr05 平・断面図.....	195
第212 図	包含層出土遺物.....	196
第213 図	年代別配置図.....	198
第214 図	年代別配置図.....	201-202
第215 図	年代別配置図.....	203-204
第216 図	西末則遺跡周辺条里型地割復元図.....	205
第217 図	発掘調査前の用水配置 (筆者の調査による).....	214
第218 図	周辺水利.....	215
第219 図	弥生時代後期の用水.....	216
第220 図	古代の用水.....	217
第221 図	中世前半の用水.....	218
第222 図	中世後半の用水.....	219

## 図版目次

### 巻頭図版 1

F 地区 遺構出土の弥生土器

### 巻頭図版 2

J 地区 STj01 出土遺物

### 巻頭図版 3

J 地区 SP115 出土遺物

### 巻頭図版 4

J 地区 SDj74 出土遺物

### 図版 1

J2 区全景 南から

J3 区・J7 区全景 南から

### 図版 2

J3 区・J7 区全景 西から

### 図版 3

J4 区全景 南から

J7 区 STj01 南東部土層 東から

### 図版 4

J7 区 STj01 南東部北壁土層 南から

### 図版 5

J7 区 STj01 北西部東壁土層 西から

J7 区 STj01 北西部南壁土層 北から

### 図版 6

J7 区 STj01 木棺検出状況 西から

J7 区 STj01 人骨出土状況 南から

### 図版 7

J7 区 STj01 棺内完掘状況 南から

J7 区 STj02 全景 西から

### 図版 8

J7 区 STj02 全景 東から

J7 区 STj02 木棺検出状況 北から

### 図版 9

J7 区 STj02 棺内完掘状況 北から

J2 区 STj03 棺内完掘状況 西から

### 図版 10

J7 区 SFj04A ブロック西壁土層 東から

J7 区 SFj04 中層遺物出土状況 南から

### 図版 11

J7 区 SFj04 下層炭層検出状況 南から

J3 区 SXj24 下層 (炭層) 上面全景 南から

### 図版 12

17・25・28・29・36・38

### 図版 13

39・40・46・47・56・53

### 図版 14

54・62・67・94・101・118・132

### 図版 15

137・152・154・157・168・187・205・208

### 図版 16

224・225・228・230・231・234・235・238

### 図版 17

236・237・252・254・257

### 図版 18

258・261・265・267・269・272・305・306

### 図版 19

307・308・386・421・446・451・455・467

### 図版 20

499・503・510・523・512・525・528

### 図版 21

530・532・542・546・559・552・553・554・564

### 図版 22

565・566・599・603・605・606・609・622

### 図版 23

349・383・219・418・327・391

### 図版 24

393・149・189・550・653

### 図版 25

調査区東壁土層 SRr02 部分 西から

調査区東壁北半土層 Rr01 北西から

### 図版 26

SDr04 A-A' 断面 東から

SDr04 B-B' 断面 東から

図版 27

SKr01 断面 北西から

SKr01 断面 東から

図版 28

調査区西壁土層 SRr03 部分 東から

SXr05 遺物出土状況 西から

図版 29

SXr05 遺物出土状況 南から

SXr06 遺物出土状況 南から

図版 30

SXr07 断面 西から

SKr08 断面 南から

図版 31

SXr10 東西断面 南から

SXr02 B 断面 東から

図版 32

SXr13 断面 東から

SKr05 断面 東から

図版 33

SXr22 断面 東から

SDr02 C 断面 南西から

図版 34

SDr02 D 断面 北東から

34U・34T・33U グリッド全景 南西から

図版 35

調査区南部全景 北西から

調査区南部全景 南東から

図版 36

調査区北部全景 南東から

調査区南部全景 北東から

図版 37

調査区西壁土層 SDr01 部分 東から

図版 38

688・704・689・706・709・710・711

図版 39

712・713・715・717・718・687

図版 40

686・700・724・794・799

## 表目次

第 1 表 J4 区出土鉄製品一覧 ……………166

第 2 表 西末明道跡 C・D・E 区掘立柱建物跡一覧 ……207

第 3 表 西末明道跡 V 出土土器観察表 (1) ～ (31)

第 4 表 西末明道跡 V 出土石器観察表 (1) ～ (3)

第 5 表 西末明道跡 V 出土鉄器観察表

第 6 表 西末明道跡 V 出土玉観察表

第 7 表 西末明道跡 V 出土瓦観察表

## 付図目次

付図 1 西末明道跡遺構配置図 (J5・J6・J7・J8・J1・J2・J3・J4 区)

付図 2 西末明道跡遺構配置図 (R32 区)

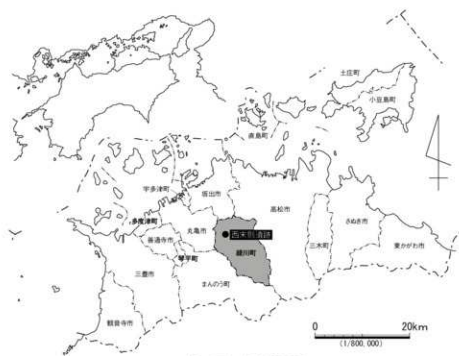
## 第Ⅵ章 J 調査区の調査

### 第1節 概要・基本層位

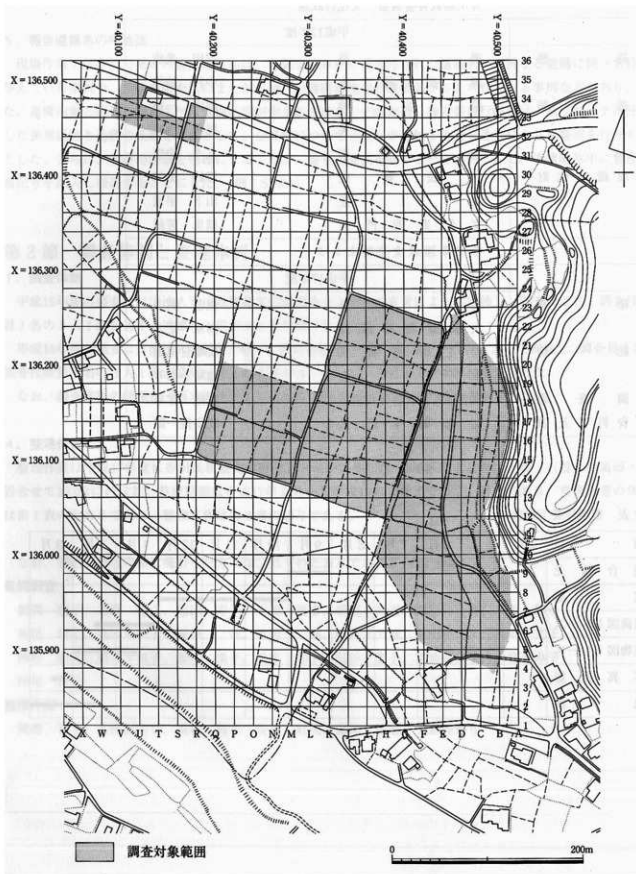
本調査区は西末則遺跡の調査対象地の中央部分にある。遺跡全体の調査区割りではJ1区～J8区に相当する。調査面積は9,000㎡で、平成16年6月1日～平成17年3月31日に発掘調査を実施した。

今回の調査対象地における基本土層序については、第5～10図のとおりである。耕作土・旧耕作土を除去すると若干の包含層を挟みすぐに地山へと変化する。地山は黄褐色系砂混じり粘質土を主体とするが、部分的に下位に存在する砂礫層の高まりが認められるところもある。これらの地山には古くは弥生時代後期後半埋没開始の溝が開削されており、それ以前に堆積した河川堆積物ないし洪水堆積物によって形成されたものと考えられる。

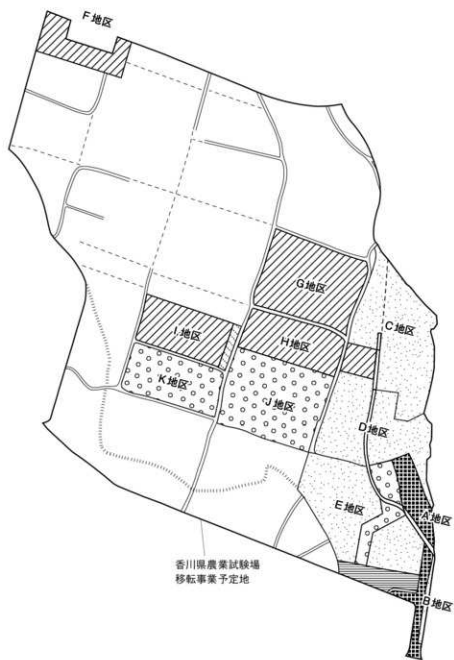
なお、本調査区の報告は時代順ではなく、遺構の種類ごとにまとめている。



第1図 遺跡位置図

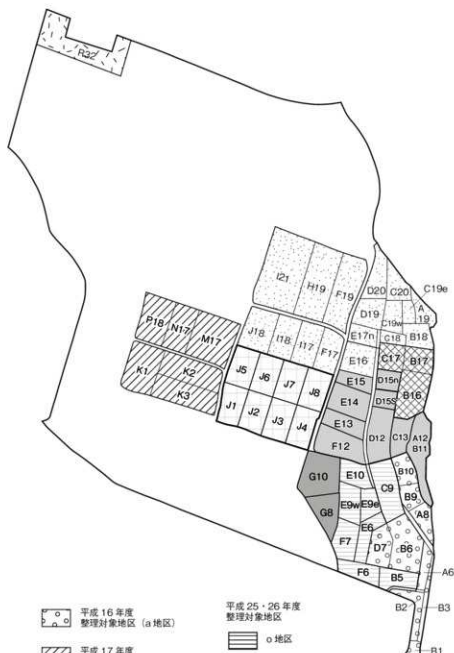


第2図 グリッド割図



- 平成13年度調査区
- 平成14年度調査区
- 平成15年度調査区
- 平成16年度調査区
- 平成17年以降の調査区

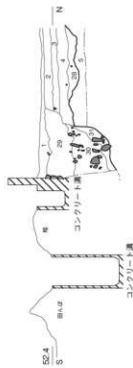
第3図 年度別地区割図



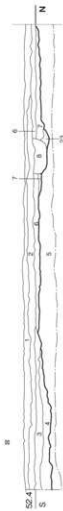
- |  |                        |  |                     |
|--|------------------------|--|---------------------|
|  | 平成16年度<br>整理対象地区 (a地区) |  | 平成25・26年度<br>整理対象地区 |
|  | 平成17年度<br>整理対象地区 (f地区) |  | o地区                 |
|  | 平成18年度<br>整理対象地区 (d地区) |  | e地区                 |
|  | 平成24年度<br>整理対象地区 (c地区) |  | b地区                 |
|  |                        |  | j地区                 |
|  |                        |  | r地区                 |

第4図 調査区割図

J1 南広狭区西壁



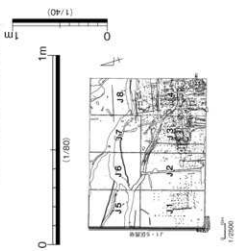
J1・J5 西壁



1/4

15

- 補注：1. 西壁は、F4・M6を、西壁は、幅約30cm程度の小笠 幅約1~20cmの小笠のコンクリート壁、周囲土
- 2 15077の西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 3 15077の西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 4 15077の西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 5 15077の西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 6 15077の西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 7 15077の西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 8 15077の西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 9 人が立ち入り、土を掘削したと思われる箇所は、5002以上、土質が硬く、掘削が困難な箇所がある。
  - 10 25741 西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 11 25741 西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 12 25741 西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 13 25741 西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 14 25741 西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 15 25741 西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 16 25741 西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 17 25741 西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 18 25741 西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 19 25741 西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 20 25741 西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 21 25741 西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 22 25741 西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 23 25741 西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 24 25741 西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 25 25741 西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 26 25741 西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 27 25741 西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 28 25741 西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 29 25741 西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 30 25741 西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成
  - 31 25741 西壁の断面は、F4・M6を、幅約30cm程度の小笠(厚さ 5001)と、西壁に形成



第5図 J区西壁土層断面図1 (縦 1/40・横 1/80)

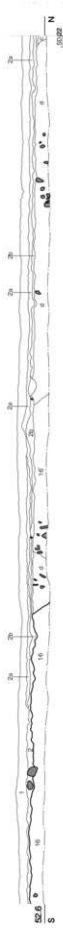








J区2・6断面



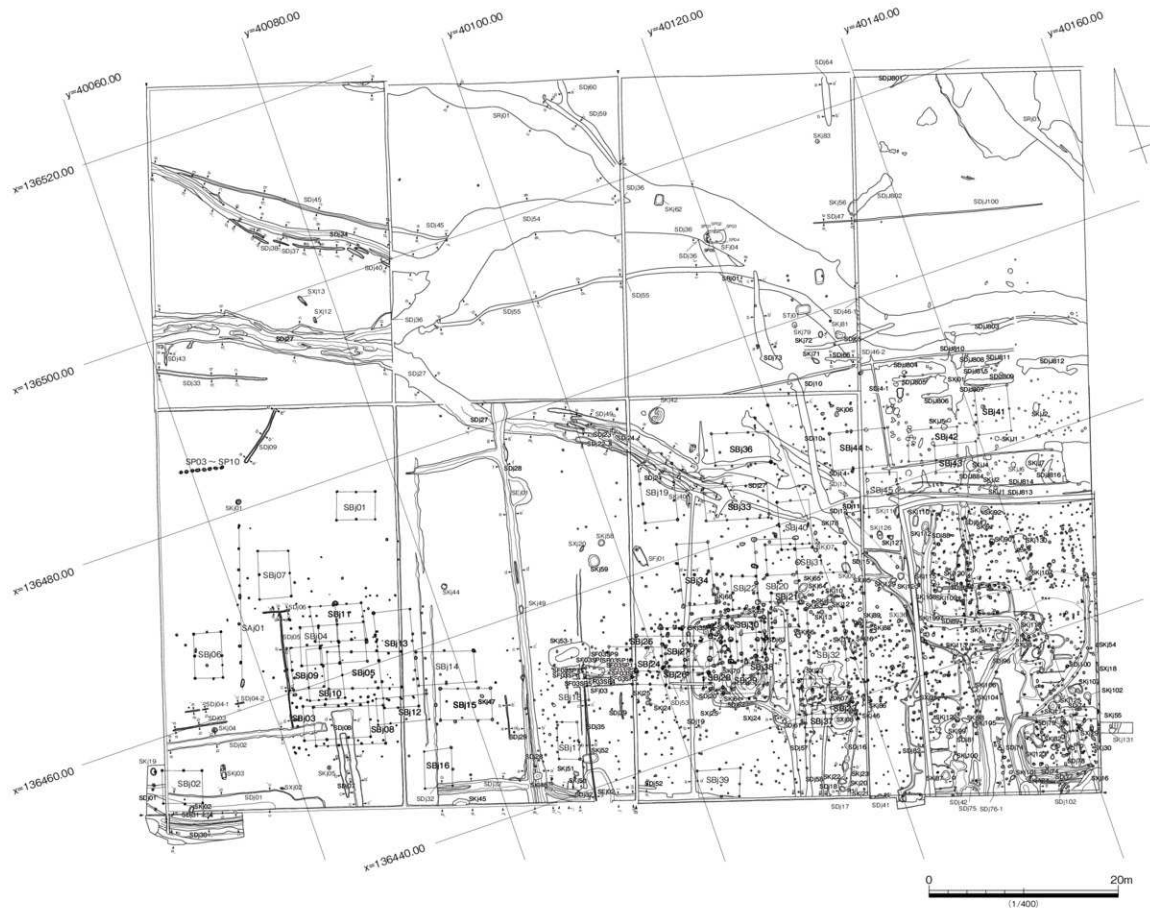
- 1 耕作土・深土  
 2 25YR5/6黄褐色砂状シルト粘土(強粘質 深土)  
 3a 深土  
 3b 深土  
 3c 深土  
 4 25Y5/1黄褐色流し小粒土 (Fe・Mn 含 中粘質土) S0322 上層  
 5 25Y5/1黄褐色流し小粒土 (Fe・Mn 含 中粘質土) S0322 中層  
 6 25Y4/1黄褐色粘板層 (団粒1~10mmの円一帯角多量) 深土  
 7 25Y4/1黄褐色粘板層 (団粒1~10mmの円一帯角多量) 深土  
 8 25Y5/2暗赤褐色粘板層 (団粒1~10mmの円一帯角多量) 深土  
 9 中粘質土 団粒 1mm以上、粘質の配化、膠着中粘質層  
 10 25Y4/1黄褐色流し小粒土 (Fe・Mn 含 粘厚20mmの厚層70%含有) 耕作層土  
 11 10YR4/1暗褐色粘状シルト粘土 (Fe・Mn 含 粘厚2~3cmの小砂多量) 粘厚土(小粒土)  
 12 10YR4/1暗褐色粘状シルト粘土 (Fe・Mn 含 粘厚1~2cmの小砂多量) 粘厚土(小粒土)  
 13 粘厚土 粘厚土 粘厚土  
 14 10Y7/1紅色シルト (Fe 含 中粘質土) 粘厚粘厚小層下層土  
 15 25Y5/1黄褐色流し小粒土 (Fe・Mn 含 粘厚2~5cmの円一帯角多量)に深赤土・粘土粘土  
 16 25Y5/1黄褐色流し小粒土(上段10~15cm)に粘土多量 Fe・Mn 含 下段粘厚粘厚層  
 16' 1~10cmの円一帯角多量に粘土 粘厚土  
 16'' 25Y7/2黄褐色粘板層 (Fe・Mn 含 粘厚多量 粘厚2~10cmの円一帯角多量)に粘土

- 10YR5/2黄褐色粘板層 (Fe・Mn 含 中粘質土)  
 b 10YR2/1黄褐色粘土 (Fe・Mn 含 中粘質土) S0207 上層  
 c 10YR2/1黄褐色粘土 (Fe・Mn 含 中粘質土) S0207 中層  
 d 25Y5/6黄褐色土 (Fe・Mn 含 粘厚2~5cmの円一帯角多量)に深土  
 e 25Y5/6黄褐色土 (Fe・Mn 含 粘厚2~5cmの円一帯角多量)に深土  
 f 25Y5/6黄褐色土 (Fe・Mn 含 粘厚2~5cmの円一帯角多量)に深土  
 g 25Y5/6黄褐色土 (Fe・Mn 含 粘厚2~5cmの円一帯角多量)に深土  
 h 25Y7/3黄褐色シルト (Fe・Mn 含 中粘質土) 粘厚土  
 i 25Y7/1黄褐色シルト (Fe 含 中粘質土) 粘厚土  
 j 25Y4/1黄褐色粘板層 (団粒1~10mmの円一帯角多量)に深土  
 k 10YR4/1暗褐色粘状シルト粘土 (Fe・Mn 含 粘厚) 粘厚粘厚層  
 l 10YR4/1暗褐色粘状シルト粘土 (Fe・Mn 含 粘厚) 粘厚粘厚層  
 m 10YR7/1紅色シルト (Fe 含 粘厚2~5cmの円一帯角多量)



第9図 J区東壁土層断面図1 (縦1/40・横1/80)





第11図 J調査区遺構配置図

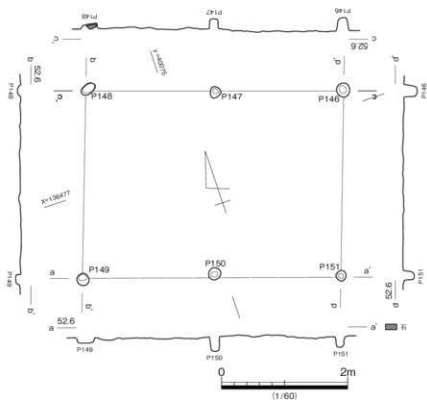
## 第2節 J 調査区の遺構・遺物

### 掘立柱建物跡

#### SBj01 (第12図)

14 K グリッド北東隅付近で検出した。梁間 2.95 m (1 間) × 桁行 4.1 m (2 間) で床面積 12.1㎡ を測る東西棟である。柱間は梁間が 2.95 m、桁行は 2 ~ 2.1 m を測る。主軸方位は N 71.5° W を測る。

出土遺物は小片を中心とし、詳細を把握するのが困難であるが、概ね中世の建物であると考えられる。

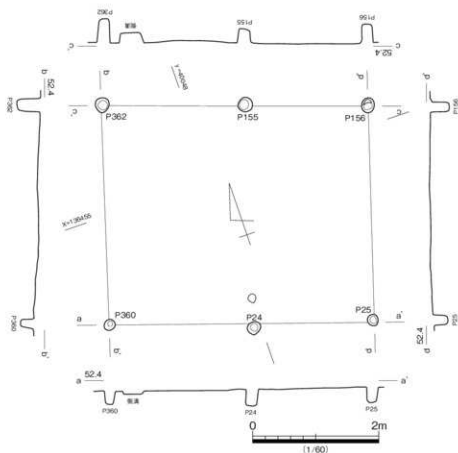


第12図 SBj01 平・断面図 (1/60)

### SBj02 (第13図)

13 Lグリッド北西部で検出した。梁間 3.5 m (1間) × 桁行 4.2 m (2間) で床面積 14.7㎡を測る東西棟である。桁行の柱間は 1.9 ~ 2.3 m とばらつきが認められる。主軸方位は N 71° W を測る。SDj01 と重複しており、遺構検出時の状況から見てこれに先行する建物であると考えられる。

出土遺物は小片を中心とし、詳細を把握するのが困難であるが、概ね中世の建物であると考えられる。



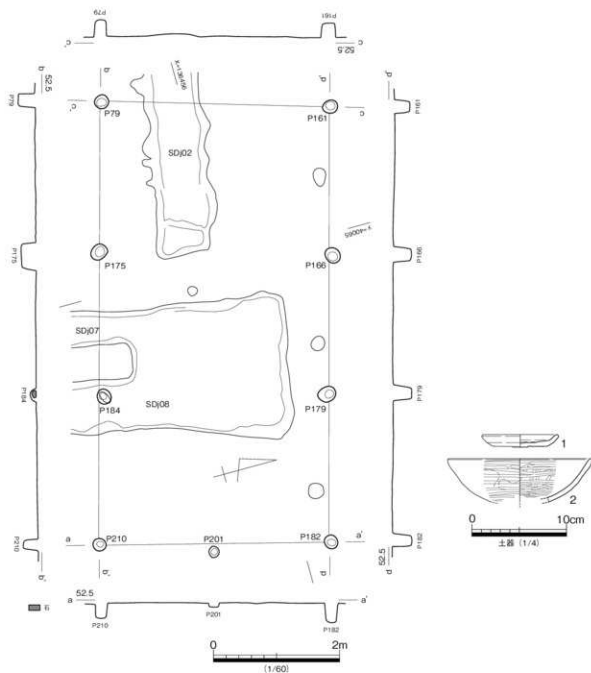
第13図 SBj02 平・断面図 (1/60)

### SBj03 (第14図)

13 Kグリッド北西部で検出した。梁間 3.65 m (1間) × 桁行 7 m (3間) で床面積 25.55㎡を測る東西棟である。柱間は梁間が 3.65 m、桁行が約 2.3 m を測る。建物東辺の柱穴配置は間に SP201 が入り、これを SBj03 を構成するものとして理解すると梁間 1.8 m となる。主軸方位は N 74.7° W を測る。

出土遺物は小片を中心とし、詳細を把握するのが困難であるが、概ね中世の建物であると考えられる。



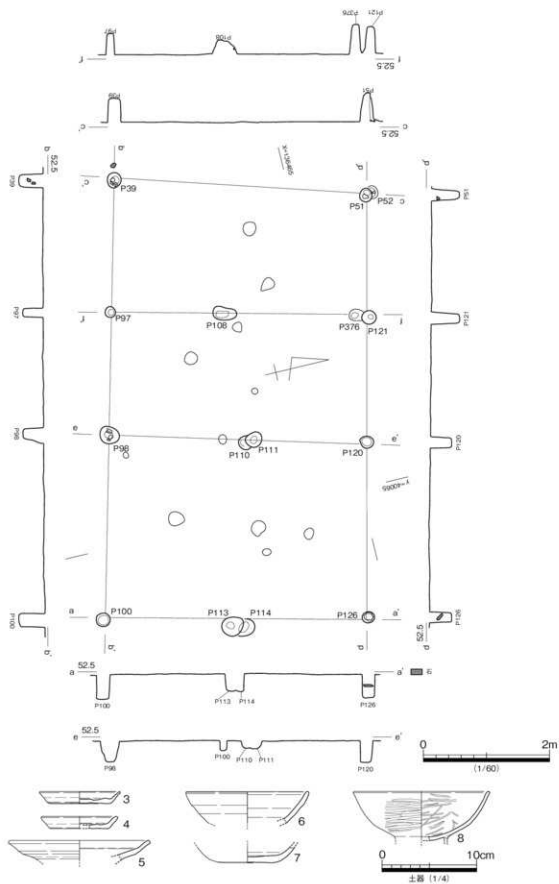


第 14 図 SBj03 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

#### SBj04 (第 15 図)

14 K グリッド南半で検出した。梁間 4.1 m (1 間) × 桁行 7 m (3 間) で床面積 28.7㎡を測る東西棟である。建物西辺以外は、梁間方向に 1 本ずつ柱が東柱状に加わる構造となる。柱間は梁間は 4 m、桁行は約 2 m を測る。梁間については東柱状のものを入れると概ね 2 m を測る。主軸方位は N 76.5° W を測る。

出土遺物は小片を中心とし、詳細を把握するのが困難であるが、概ね中世の建物であると考えられる。

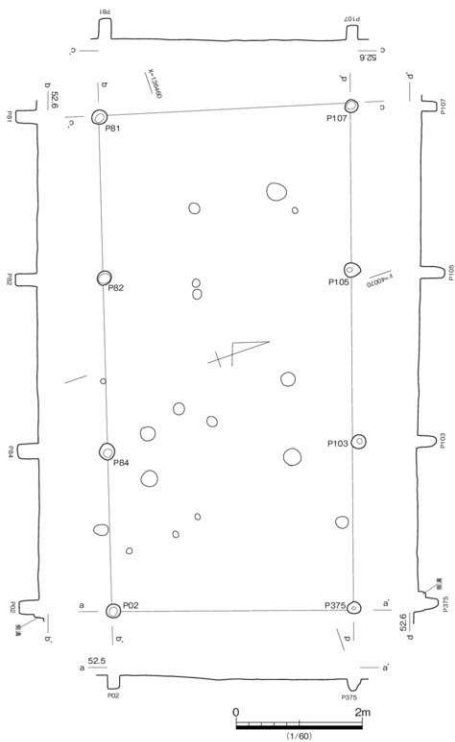


第15図 SBJ04平・断面図(1/60)、出土遺物(1/4)

SBj05 (第16図)

13・14 Kグリッドに亘り検出した。梁間4 m (1間) × 桁行8 m (3間) で床面積32㎡を測る東西棟である。桁行の柱間は25～28 mを測る。主軸方位はN 71° Wを測る。

出土遺物は小片を中心とし、詳細を把握するのが困難であるが、概ね中世の建物であると考えられる。

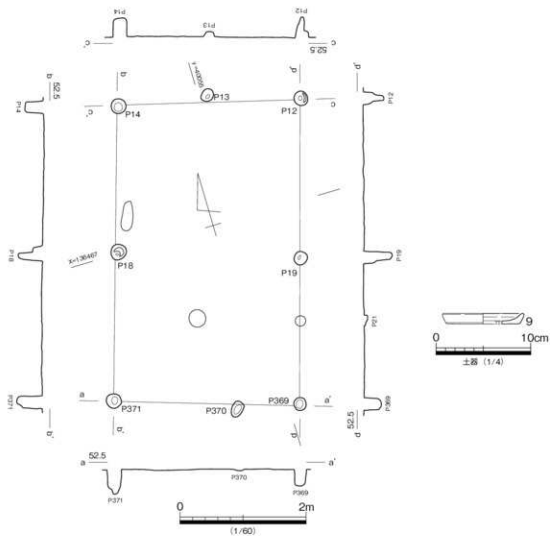


第16図 SBj05 平・断面図 (1/60)

SBj06 (第17図)

14 Lグリッド南東部で検出した。梁間 2.9 m (1間) × 桁行 4.8 m (2間) で床面積 13.92㎡を測る南北棟である。桁行の柱間は 2.3 ~ 2.5 m を測る。主軸方位は N 163° E を測る。

出土遺物は小片を中心とし、詳細を把握するのが困難であるが、概ね中世の建物であると考えられる。

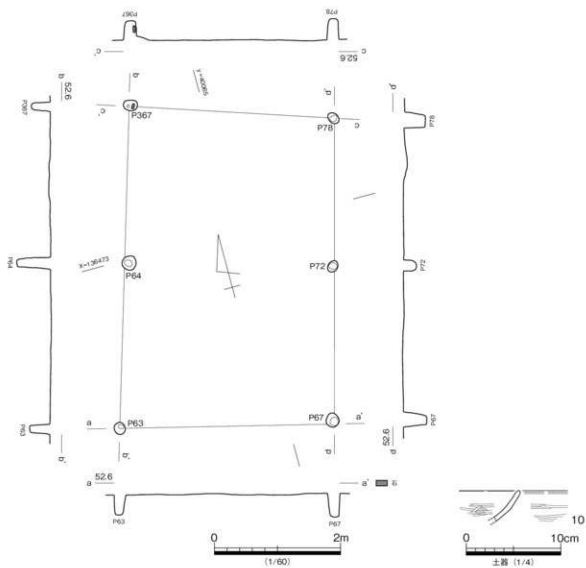


第17図 SBj06平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

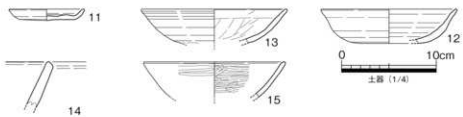
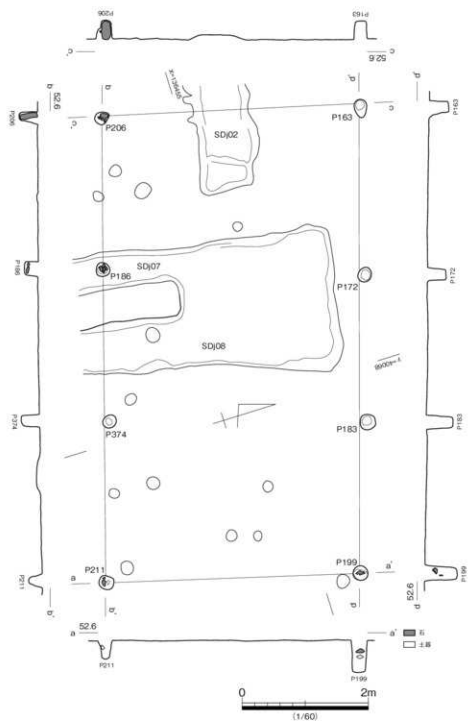
SBj07 (第18図)

14 Kグリッド北西部で検出した。梁間3.25 m (1間) × 桁行約5.1 m (2間)で床面積16.58㎡を測る南北棟である。桁行の柱間は2.3 ~ 2.5 mを測る。主軸方位はN 15° Eを測る。

出土遺物は小片を中心とし、詳細を把握するのが困難であるが、概ね中世の建物であると考えられる。



第18図 SBj07平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

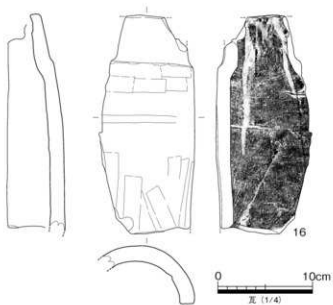


第19図 SBj08平・断面図 (1/60)、出土遺物1 (1/4)

SBj08 (第19・20図)

13 Kグリッド北半で検出した。梁間4.1 m (1間) ×桁行7.4 m (3間) で床面積30.34㎡を測る東西棟である。桁行の柱間は2.3～2.7 mを測る。主軸方位はN 72.8° Wを測る。

出土遺物は小片を中心とし、詳細を把握するのが困難であるが、概ね中世の建物であると考えられる。

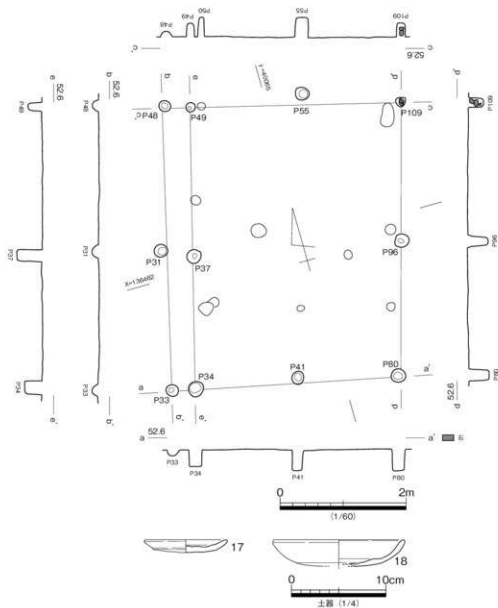


第20図 SBj08 出土遺物2 (1/4)

SBj09 (第21図)

14 Kグリッド南西隅で検出した。梁間3.3 m (1間) × 桁行4.5 m (2間)に0.4 m (1間) × 4.5 m (2間)の庇が付く総床面積16.88㎡を測る南北棟である。桁行の柱間は2.1 ~ 2.3 mを測る。主軸方位はN 15.7° Eを測る。

出土遺物は小片を中心とし、詳細を把握するのが困難であるが、概ね中世の建物であると考えられる。

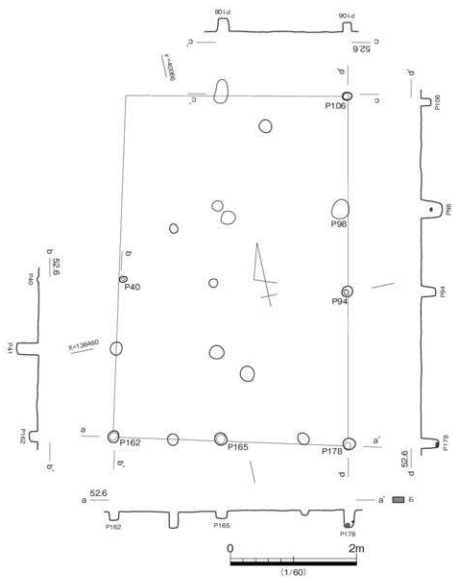


第21図 SBj09平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)



SBj10 (第22図)

13・14 Kグリッドに亘り検出した。梁間3.7 m (2間) × 桁行5.5 m (2間)で床面積20.35㎡を測る南北棟である。柱間は梁間は1.7～2 m、桁行は2.4～3 mを測る。主軸方位はN 12.3° Eを測る。柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。



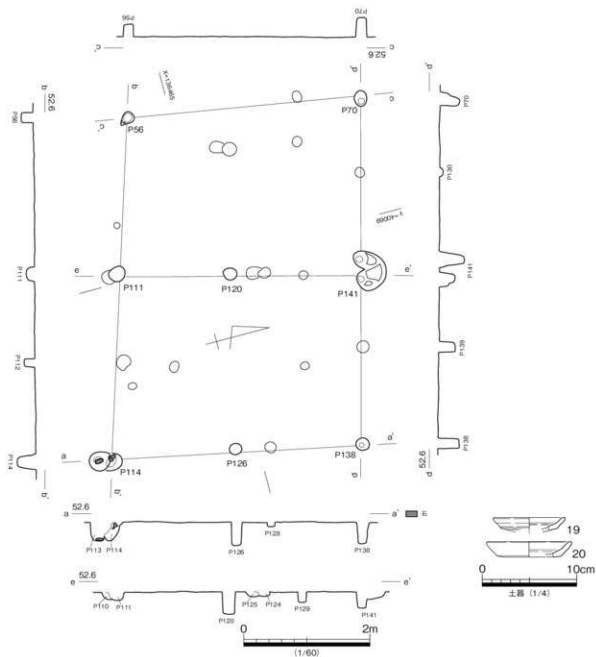
第22図 SBj10平・断面図 (1/60)

SBj11 (第23図)

14 K グリッド南半で検出した。梁間 4 m (2 間) × 桁行 5.5 m (2 間) で床面積 22m<sup>2</sup> を測る南北棟である。桁行の柱間は 2.5 ～ 2.8 m を測る。主軸方位は N 75.2° W を測る。

19・20 はともに SP70 から出土した土師器小皿である。

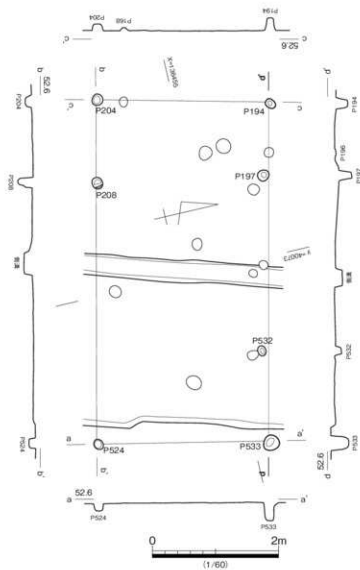
出土遺物から中世の建物である。



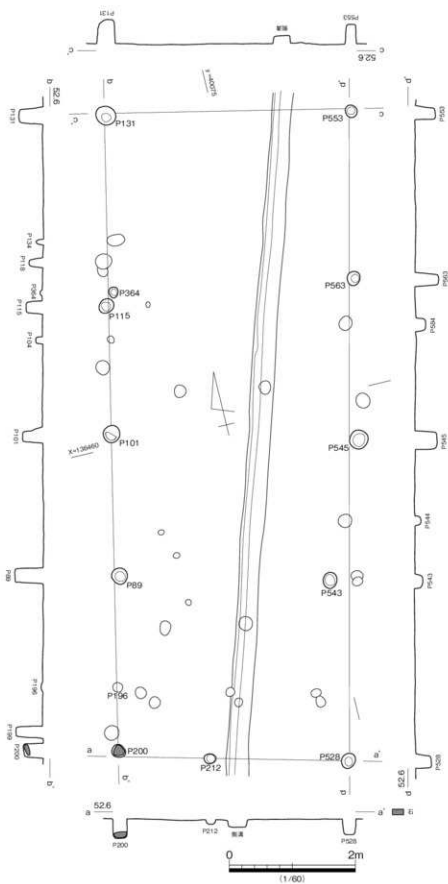
第23図 SBj11 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SBj12 (第24図)

13 Kグリッド北東部で検出した。梁間 2.7 m (1間) × 桁行 5.4 m (4間) で床面積 14.58m<sup>2</sup>を測る東西棟である。南北とも桁行の東寄りの柱穴を欠くもの4間として復元した。主軸方位はN 76.8° Wである。柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。



第24図 SBj12 平・断面図 (1/60)

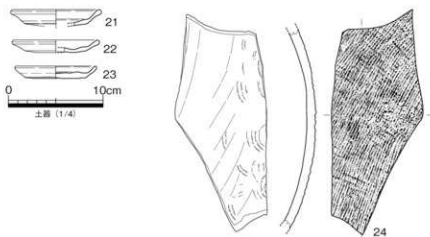


第25图 SBj13平·断面图 (1/60)

SBj13 第 25・26 図)

13・14 K グリッド東半に亘り検出した。梁間 3.7 m (1 間) × 桁行 10.2 m (4 間) で床面積 38.11 m<sup>2</sup> を測る南北棟である。桁行の柱間は 2.3 ~ 2.8 m を測る。主軸方位は N 13.6° E を測る。出土遺物は小片が多い。

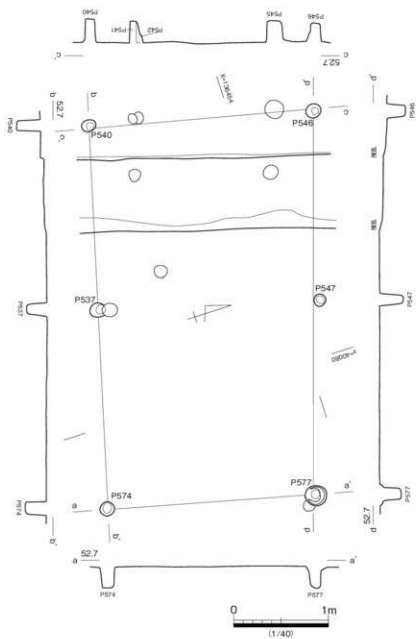
21・22 は SP563 から出土した土師器小皿、23 と 24 は SP545 から出土した土師器小皿と須恵器甕である。出土遺物から中世の建物である。



第 26 図 SBj13 出土遺物 (1/4)

SBj14 (第27図)

13 J・Kグリッド北半に亘り検出した。梁間3.5m(1間)×桁行6.1m(4間)で床面積21.35㎡を測る東西棟である。桁行の柱間は2.9～3.1mを測る。主軸方位はN 72.15° Wを測る。柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。



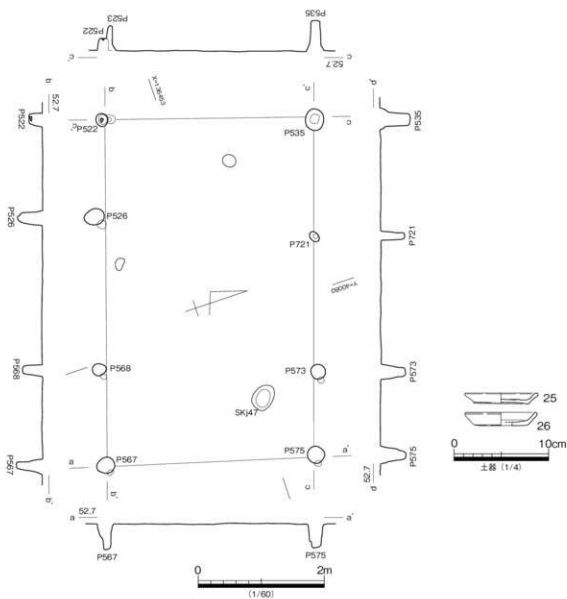
第27図 SBj14平・断面図(1/40)

SBj15 (第28図)

13 J・Kグリッドに亙り検出した。梁間3.3m(1間)×桁行5.5m(3間)で床面積18.15㎡を測る東西棟である。主軸方位はN71.4°Wを測る。桁行の柱間は1.3～2.5mと大きくばらつく。SP568とSP573は西辺を基準にした際に等間隔となることから、この2基を東辺とする可能性もある。

25はSP535から出土した土師器小皿、26はSP721から出土した土師器小皿である。

出土遺物から中世の建物である。

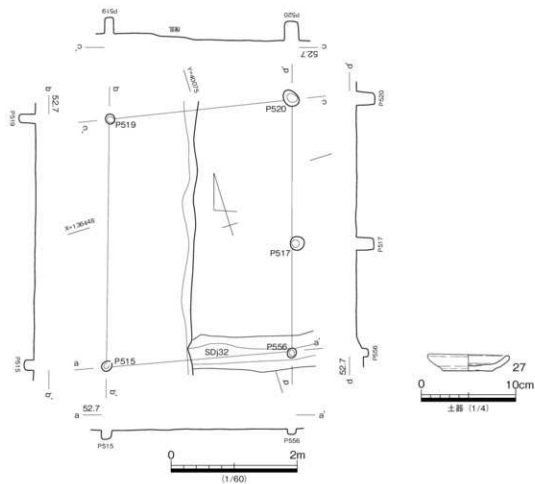


第28図 SBj15平・断面図(1/60)、出土遺物(1/4)

SBj16 (第29図) 13 Kグリッド南東隅で検出した。梁間295 m (1間) × 桁行4 m (2間)で床面積11.8㎡を測る。主軸方位はN 17° Eを測り、平面形が矩形を描く南北棟である。桁行の柱間は1.7 ~ 2.3 mを測る。

27はSP519から出土した土師器小皿である。

出土遺物から中世の建物である。



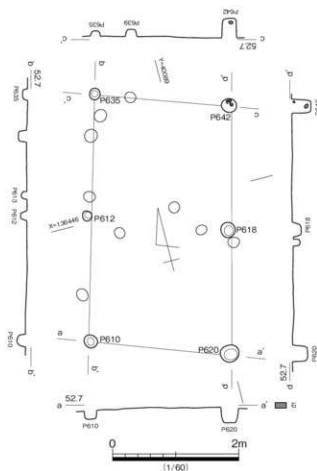
第29図 SBj16平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)



SBj17 (第30図)

13 J グリッド南半で検出した。梁間 2.2 m (1 間) × 桁行 3.9 m (2 間) で床面積 8.58m<sup>2</sup>を測る。主軸方位は N 14.5° E を測り、平面形が矩形を描く南北棟である。柱間は概ね 2 m を測る。

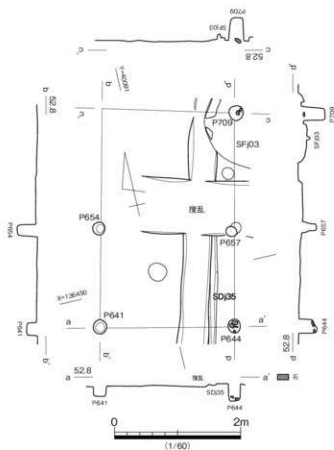
柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。



第30図 SBj17 平・断面図 (1/60)

SBj18 (第31図)

13 J グリッド中央で検出した。梁間 2.1 m (1 間) × 桁行 3.4 m (2 間) で床面積 7.14m<sup>2</sup> を測る南北棟である。主軸方位は N 13° E を測る。桁行の柱間は 1.5 ~ 1.9 m を測る。SP709 が S F 03 の埋没後に掘削されていることから、これに後出する遺構であることがわかる。柱穴からの遺物は小片が主体で詳細不明であるが、SF03 が放射性炭素年代測定 (AMS 法) により 12 世紀終わりから 13 世紀中頃以降に操業されていた可能性が指摘されており、少なくともそれ以降の中世の建物であることが言える。



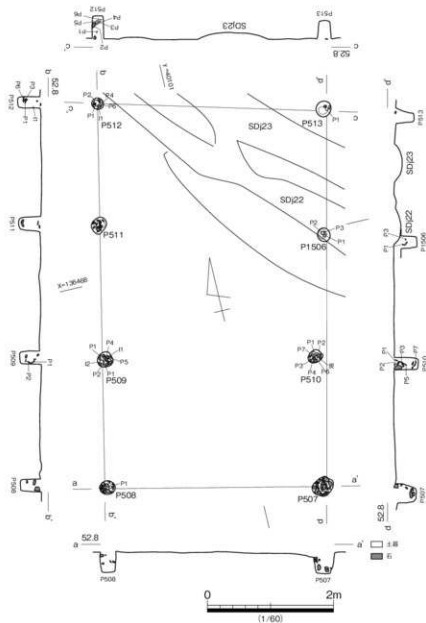
第31図 SBj18 平・断面図 (1/60)

SBj19 (第32・33図)

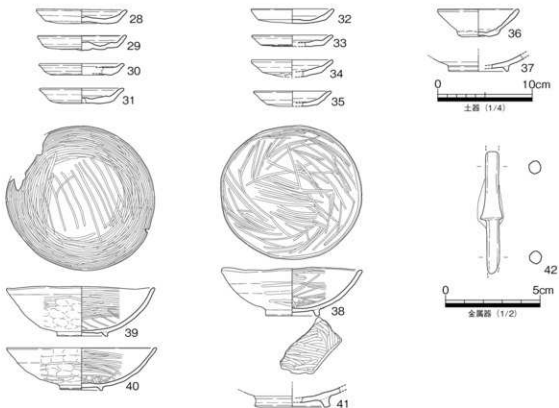
14 Iグリッド中央南西寄りで検出した。梁間3.6m(1間)×桁行6.0m(3間)で床面積21.6㎡を測る南北棟である。主軸方位はN133°Eを測る。桁行の柱間は約2mを測り、比較的整然とした配置である。各柱穴には根石並びに根巻石として用いられたと考えられる砂岩礫が多量に認められる。

30はSP507、33はSP508、28・34・40はSP509、32・35・38・41はSP510、37はSP511、29・39・42はSP512、31はSP513、36はSP1506からそれぞれ出土している。28～35は土師器小皿、36は土師器杯で底部は突出している。37は土師器椀、38は十瓶山産須恵器椀、39・40は和泉型瓦器椀で体部外面には指押さえが顕著である。41は黒色土器椀、42は鉄鍬である。

出土遺物、特に瓦器椀の形状から中世(12世紀中頃)の建物である。



第32図 SBj19平・断面図(1/60)



第33図 SBj19出土遺物 (1/4・1/2)

#### SBj20 (第34図)

13 I グリッド北東部で検出した。梁間 4.3 m (2 間) × 桁行 6.7 m (3 間) で床面積 28.81 m<sup>2</sup> を測る南北棟である。主軸方位は N 15° E を測る。北側の梁間の中央の柱穴 SP1185 は柱筋からややずれている。桁行の柱間は約 1.8 ~ 2.8 m と幅がある。建物北辺をなす SP1193・SP1225 の中には根石並びに根巻石と見られる礫が認められる。

43 は SP987、44 は S K 63、45 は SP1225、46 は SP1155 から出土している。43・44 は土師器小皿で、43 の底部には穿孔されている。46 は須恵器片口鉢である。

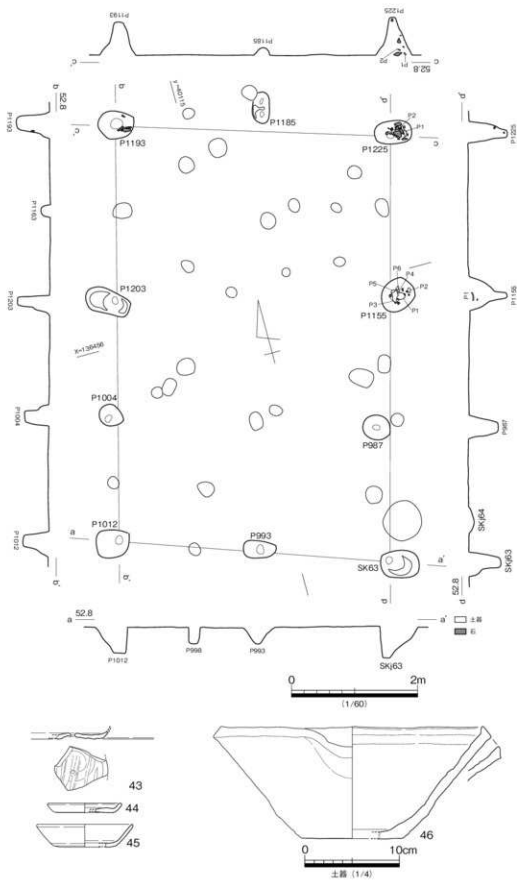
出土遺物から中世 (12 世紀中頃) の建物である。

#### SBj21 (第35図)

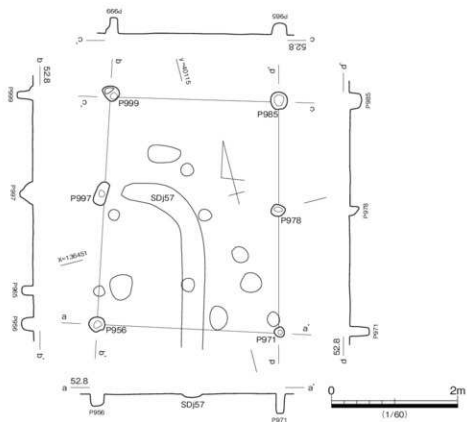
13 I グリッド中央やや北東付近で検出した。梁間 2.9 m (1 間) × 桁行 3.65 m (2 間) で床面積 10.59 m<sup>2</sup> を測る南北棟である。主軸方位は N 14.4° E を測る。桁行の柱間は 1.7 ~ 1.9 m を測る。柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。

#### SBj22 (第36図)

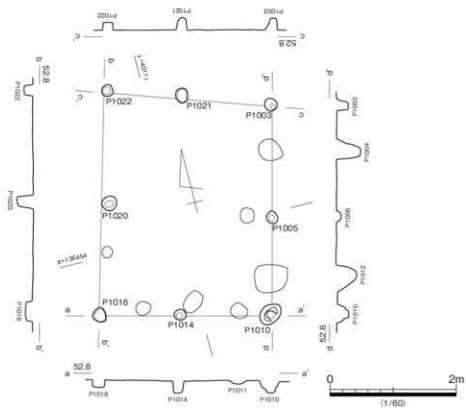
13 I グリッド北半中央付近で検出した。梁間 2.7 m (2 間) × 桁行 3.5 m (2 間) で床面積 9.45 m<sup>2</sup> を測る南北棟である。主軸方位は N 14.6° E を測る。桁行の柱間は 1.2 ~ 1.45 m を測る。柱穴の埋土や建



第34図 SBJ20平・断面図(1/60)、出土遺物(1/4)



第 35 图 SBj21 平·断面图 (1/60)

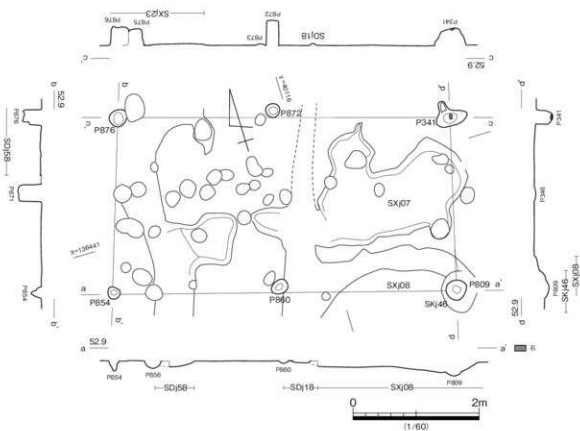


第 36 图 SBj22 平·断面图 (1/60)

物の方向などから中世の建物とする。

### SBj23 (第37図)

13 I グリッド南東隅で検出した。梁間 2.8 m (1 間) × 桁行 5.4 m (2 間) で床面積 15.12 m<sup>2</sup> を測る東西棟である。主軸方位は N 16.88° W を測る。柱間は 2.6 ~ 2.8 m を測り、概ね等間隔である。柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。



第37図 SBj23 平・断面図 (1/60)

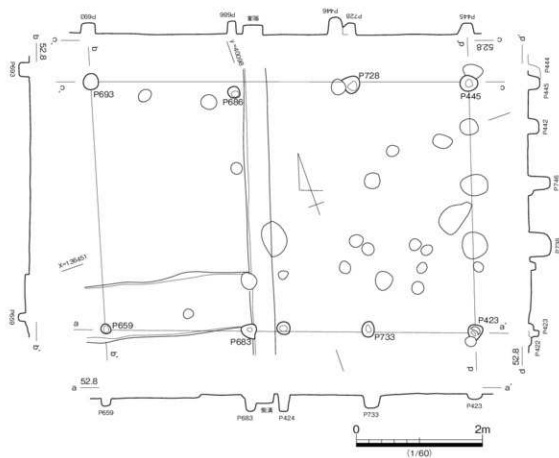
### SBj24 (第38図)

13 J グリッド東半中央付近で検出した。梁間 4.0 m (2 間) × 桁行 5.9 m (3 間) で床面積 23.6m<sup>2</sup>を測る東西棟である。梁間中央に柱穴は認められなかったが 2 間とする。主軸方位は N 19.5° W を測る。柱間は梁間と桁行で概ね似通い、1.6 ~ 2.4 m を測る。柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。

### SBj25 (第39図)

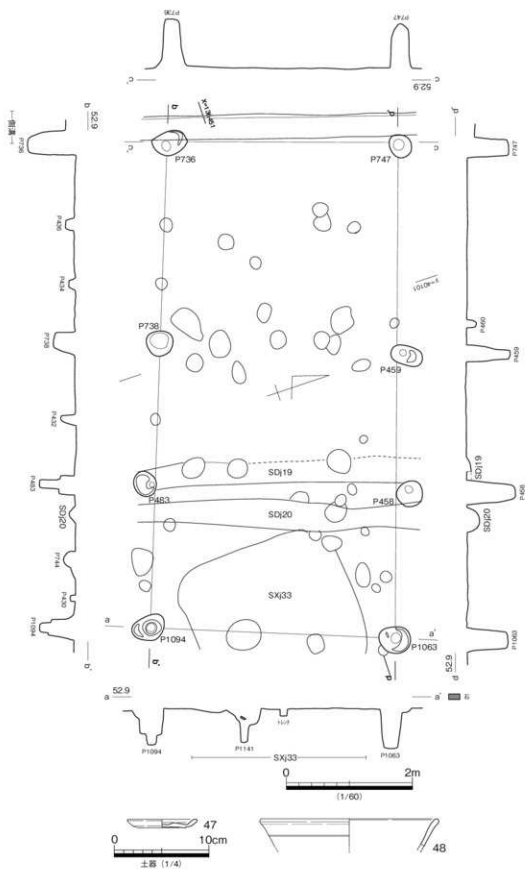
13 I・J グリッドに亘って検出した。梁間 3.9 m (2 間) × 桁行 7.8 m (3 間) で床面積 30.42m<sup>2</sup>を測る東西棟である。主軸方位は N71.5° W を測る。桁行の西 1 間分の幅が桁行の他の部分より広がっている。

47・48 ともに SP1063 から出土している。48 は青磁碗で、体部外面に沈線が 1 条巡っている。



第 38 図 SBj24 平・断面図 (1/60)





第 39 図 SBj25 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

出土遺物から中世の建物である。

#### SBj26 (第40図)

13 I グリッド西辺中央で検出した。梁間 2.3 m (2 間) × 桁行 3.6 m (2 間) で床面積 8.28m<sup>2</sup>を測る東西棟である。西側の梁間の中央の柱穴を欠いている。主軸方位は N 18.7° W を測る。桁行の柱間は 1.7 ~ 1.9 m を測る。柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。

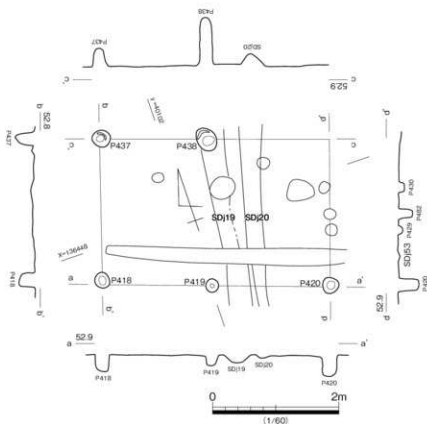
#### SBj27 (第41図)

13 I グリッド西辺中央で検出した。梁間 4.2 m (2 間) × 桁行 5.35 m (2 間) で床面積 22.47m<sup>2</sup>を測る東西棟である。主軸方位は N 71.3° W を測る。柱間は梁間は 1.8 ~ 2.4 m、桁行は 2.3 ~ 3.0 m を測る。SP450 が SP448 の対面に配置され、柱間が整うことから、間仕切りのな構造に関わる可能性が考えられる。

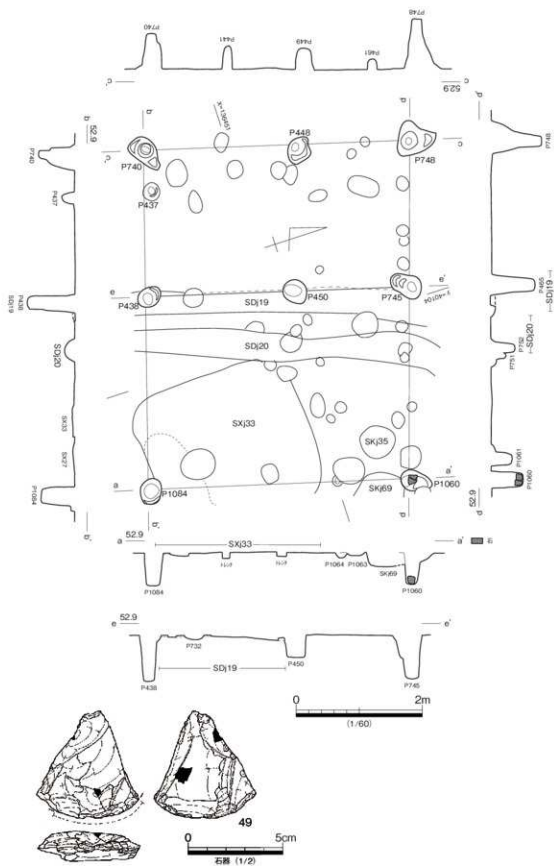
遺物は混入した石器だけであるが、柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。

#### SBj28 (第42・43図)

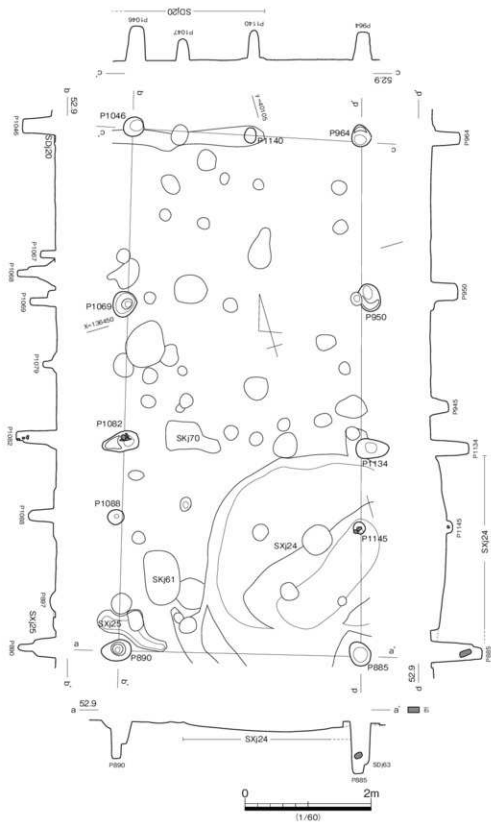
13 I グリッド中央付近で検出した。梁間 3.8 m (1 間) × 桁行 8.2 m (3 間) で床面積 31.16m<sup>2</sup>を測る南北棟である。主軸方位は N 16° E を測る。桁行の柱間は 3 間とも異なっているが、それぞれ正対する位置に柱穴が配置されている。北側の梁間の中央の柱穴は柱筋に乗っているが東西で柱間が異なるこ



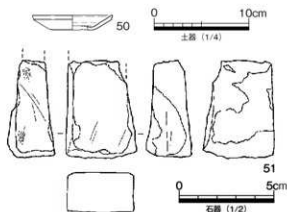
第40図 SBj26 平・断面図 (1/60)



第41図 SBJ27平・断面図(1/60)、出土遺物(1/2)



第 42 図 SBj28 平・断面図 (1/60)



第 43 図 SBJ28 出土遺物 (1/4・1/2)

とと、南側梁間中央の柱穴が認められないことから、梁間は 1 間で復元した。

50・51 とともに SP885 から出土している。51 は流紋岩製の砥石である。

出土遺物から中世の建物である。

#### SBJ29 (第 44 図)

13 I グリッド南半で検出した。梁間 3.8 m (1 間) × 桁行 7.2 m (3 間) で床面積 27.36 m<sup>2</sup> を測る南北棟である。主軸方位は N 16° E を測る。桁行の柱間は 2.2 ~ 2.5 m を測る。建物南西隅に当たる SP899 が SXj61 および SXj24 によって壊されており、これに先行する建物であることがわかる。ただ、両者共に埋土中に焼土塊や炭化物を多量に含むほか、地山ブロックを多量に含むことから、短期間での埋め戻しが想定される遺構である。一方で、SBJ29 を構成する柱穴も同様に炭化物や焼土を含んでいる。これらの遺構から出土したのものには SP899 から出土した 53・54 のように片側に平坦面を持ち、太さ 1 cm 程度の円柱状圧痕が認められる壁土がある。これは壁面と壁土の中に塗り込められた心材とみられ、建物が土壁であったことを示している。このことから、SBJ29 が火災で焼失し、その片付けとして SKj61 や SXj24 が掘削され、廃材が埋め立てられたものと考えられる。

52 は SP944 から出土した土師器小皿である。体部外面は強くナデている。

出土遺物から中世の建物である。

#### SBJ30 (第 45 図)

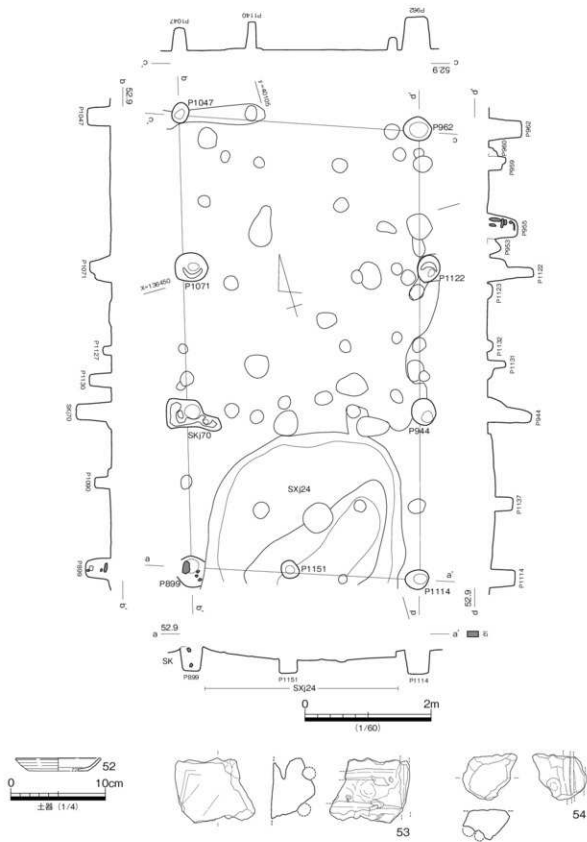
13 I グリッド中央で検出した。梁間 2.8 m (1 間) × 桁行 4.0 m (2 間) で床面積 11.2 m<sup>2</sup> を測る南北棟である。主軸方位は N 16.2° E を測る。桁行の柱間は 1.8 ~ 2 m を測る。

出土遺物は小片が中心のため詳細不明であるが、柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。

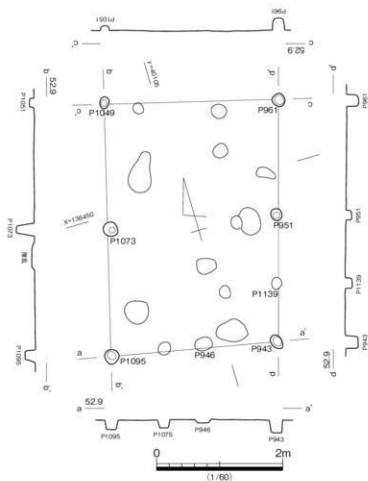
#### SBJ31 (第 46 図)

13 H・I グリッド中央で検出した。梁間 3.2 m (2 間) × 桁行 8.4 m (3 間) で床面積 26.88 m<sup>2</sup> を測る東西棟である。主軸方位は N 72.3° W を測る。柱間は梁間は 1.55 ~ 1.6 m、桁行は 2.7 ~ 2.9 m を測る。大半の柱穴で詰石が認められた。

55 は SP244 から、56 は SP988 から出土した土師器杯である。



第44図 SBJ29平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)



第45図 SBj30平・断面図(1/60)

出土遺物から中世の建物である。

#### SBj32 (第47図)

13 I グリッド南東隅で検出した。梁間 3.9 m (1 間) × 桁行 10.3 m (7 間) で床面積 40.17㎡を測る南北棟である。主軸方位は N 15.5° E を測る。南北に長い建物で、桁行の柱間は 1.4 m 前後で狭くなっている。

57 は SP813 から出土した土師器鉢である。

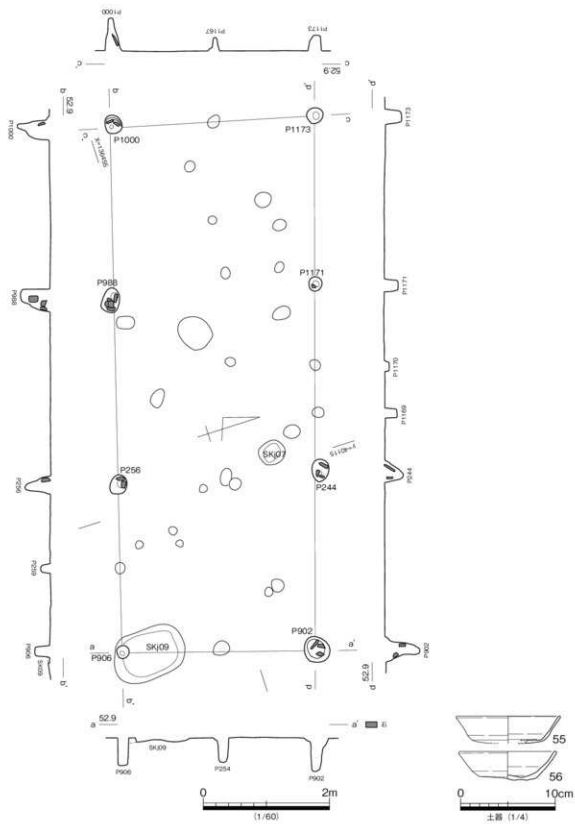
出土遺物から中世の建物である。

#### SBj33 (第48図)

14 I グリッド中央で検出した。梁間 3.5 m (1 間) × 桁行 6.7 m (3 間) で床面積 23.45㎡を測る東西棟である。主軸方位は N 74.5° W で、桁行の柱間は 2.3 m である。

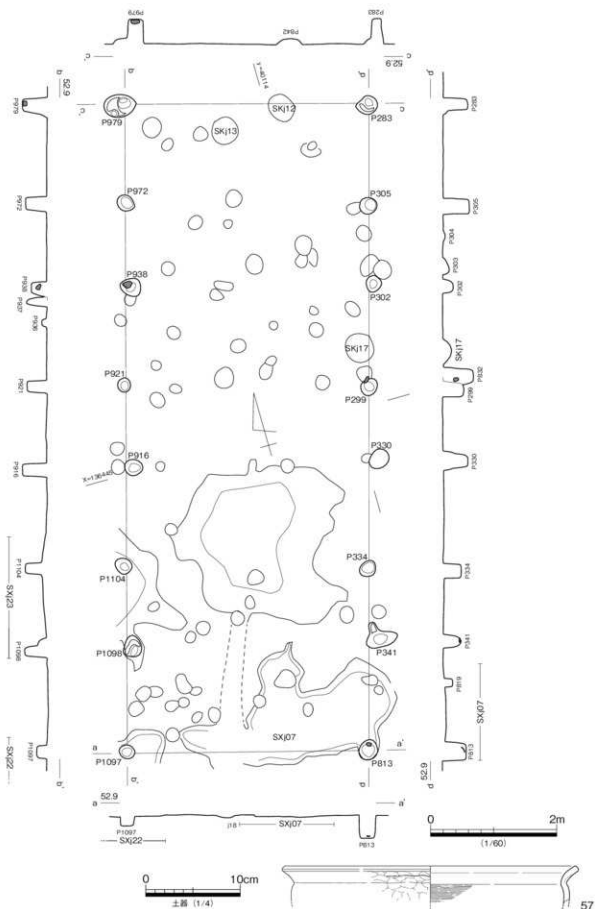
58 は SP1504 から出土した十瓶山産須恵器椀である。口縁部外面を強くナデている。

出土遺物から中世前半期の建物である。

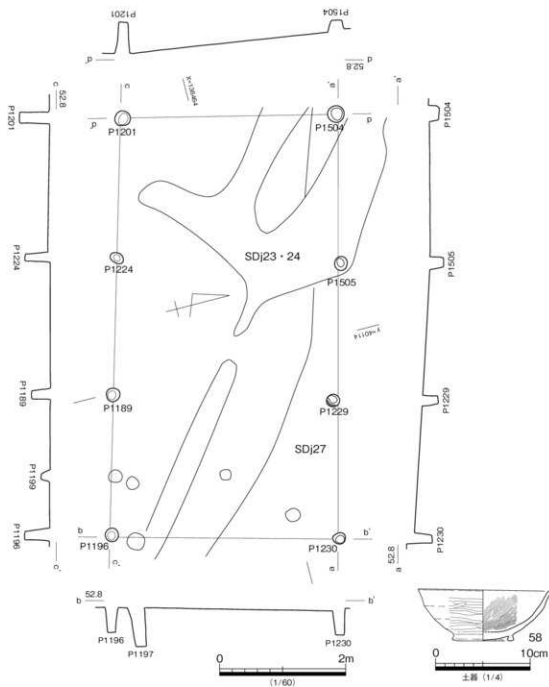


第 46 図 SBj31 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)





第 47 図 SBj32 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

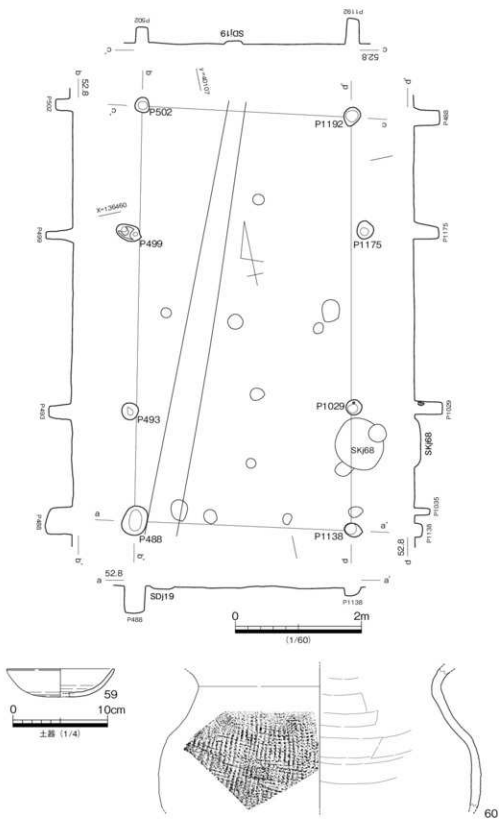


第48図 SBj33平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

#### SBj34 (第49図)

13・14 I グリッドに亘り検出した。梁間3.4 m (1間) × 桁行6.6 m (3間) で床面積2244㎡を測る南北棟である。主軸方位はN 116° Eを測る。桁行の柱間は1.7～2.8 mで、東側の桁行の柱穴SP1175は少し東側にずれている。

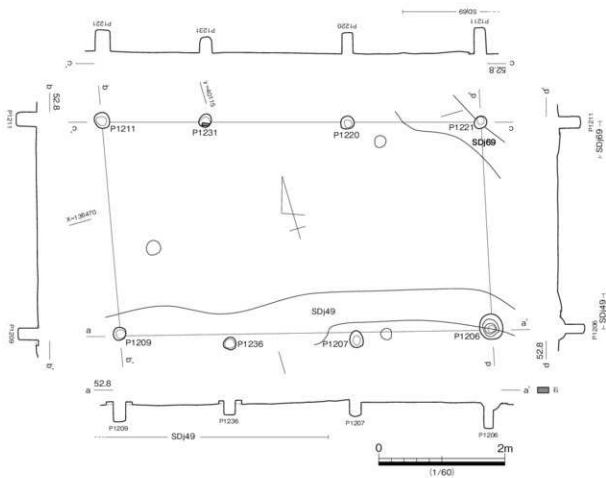
59はSP488から出土した土師器杯、60はSP1175から出土した須恵器甕である。  
出土遺物から中世の建物である。



第 49 図 SBJ34 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SBj36 (第50図)

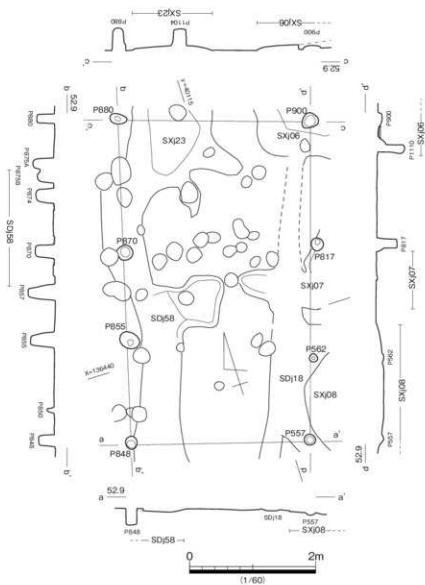
14 I グリッド東半中央で検出した。梁間 3.3 m (1 間) × 桁行 5.9 m (3 間) で床面積 19.47 m<sup>2</sup> を測る東西棟である。主軸方位は N 73.7° W を測る。西側の梁間は多少ずれている。桁行の柱間は 1.6 ~ 2.2 m を測る。柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。



第50図 SBj36平・断面図 (1/60)

SBj37 (第51図)

12・13 I グリッドに亘り検出した。梁間 3.05 m (1間) × 桁行 5.1 m (3間) で床面積 15.56㎡を測る南北棟である。主軸方位は N 17.3° E を測る。桁行の柱間は 1.3 m ~ 2.1 m を測る。東西の桁行でそれぞれ対応する柱穴は若干のずれがある。柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。



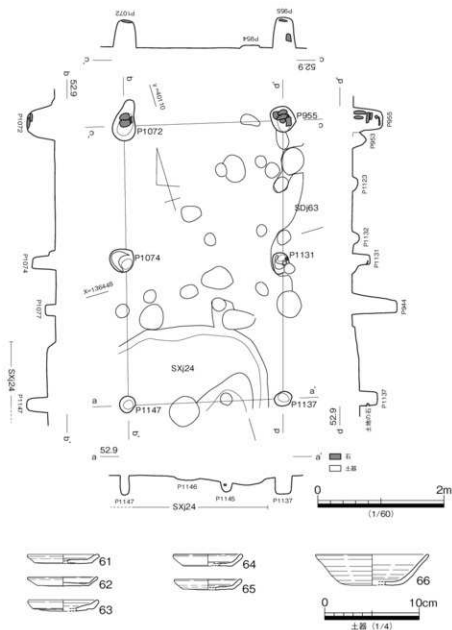
第51図 SBj37平・断面図 (1/60)

### SBj38 (第52図)

13 I グリッド中央付近で検出した。梁間 2.5 m (1 間) × 桁行 4.4 m (2 間) で床面積 11.0 m<sup>2</sup> を測る南北棟である。主軸方位は N 16.6° E を測る。桁行の柱間は 2.2 m を測る。北辺の柱列には根石及び詰石が認められる。

61・65 が SP955 から、66 が SP1072 から、63 が SP1074 から、62・64 が SP1131 からそれぞれ出土している。61～65 は土師器小皿で、63 の底部は突出している。66 は土師器杯である。

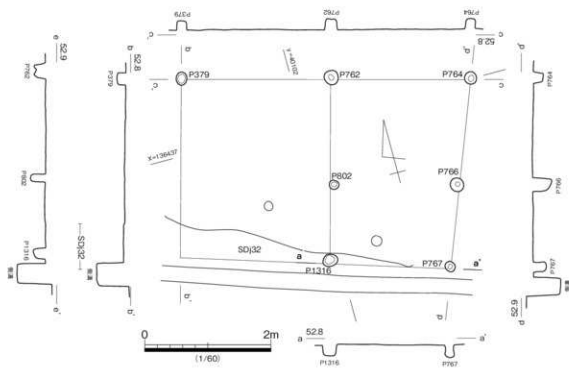
出土遺物から中世の建物である。



第52図 SBj38平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

### SBj39 (第53図)

12 I グリッド北西隅で検出した。梁間 3.0 m (2 間) × 桁行 4.6 m (2 間) で床面積 13.8m<sup>2</sup>を測る東西棟である。主軸方位は N 78.78° W を測る。東側の梁間は斜めになり、西側の梁間は柱穴を 2 基欠いている。やや歪な平面形態であり、柱穴の多くが浅く欠落するものもあるが、建物として復元した。柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。



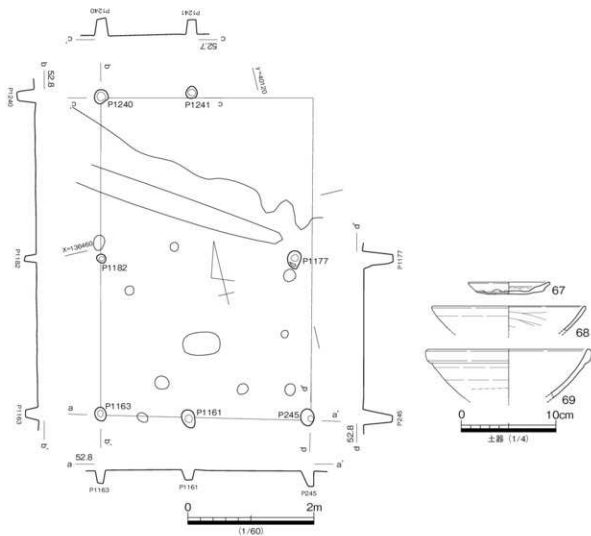
第53図 SBj39平・断面図 (1/60)

SBj40 (第54図)

14 I グリッド付近で検出した。梁間 3.35 m (2 間) × 桁行 5.0 m (2 間) で床面積 16.75m<sup>2</sup>を測る南北棟である。主軸方位はN 13.5° Eを測る。柱間は梁間は 1.4 ~ 1.9 m、桁行は 2.5 mを測る。梁間は南北共に同じ柱間配置となることから、意図的に柱間を変えている可能性が考えられる。また東側の桁行の北隅柱は認められず、中央の柱穴は柱筋より内側になっている。

遺物はすべて SP245 から出土している。67 の土師器小皿と共に、69 の口縁部が玉縁になる白磁碗Ⅳ類が出土している。

出土遺物から中世前半 (12 世紀) の建物である。



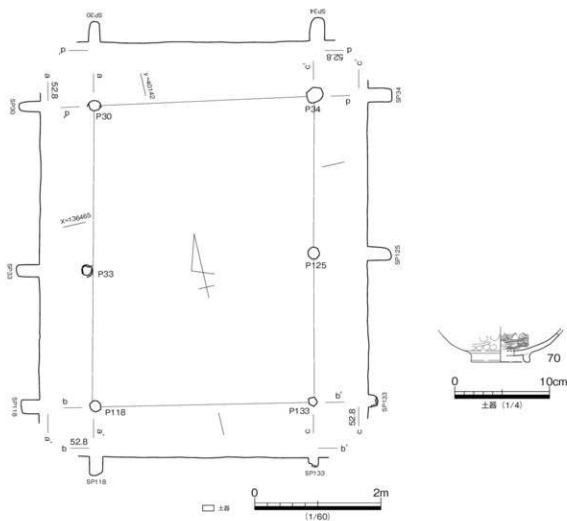
第54図 SBj40平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)



SBj41 (第55図)

14 Gグリッド中央で検出した。梁間3.5 m (1間) × 桁行4.85 m (2間)で床面積16.98㎡の南北棟である。主軸方位はN 12° Eを測る。柱穴は全体に小さく、桁行の柱間は2.45 mである。

70はSP33から出土した黒色土器碗である。体部内面はハケ目の後にヘラミガキを施している。出土遺物から中世の建物である。



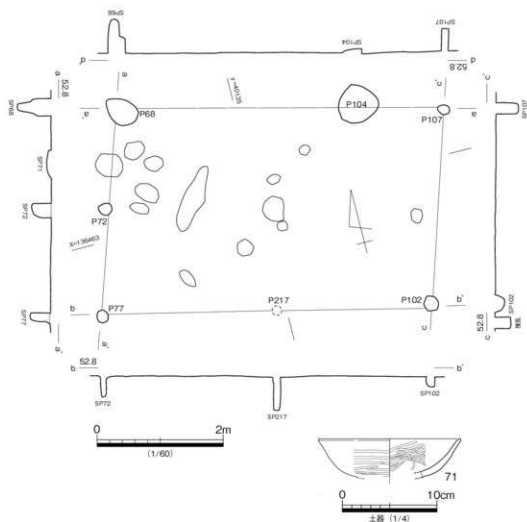
第55図 SBj41 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SBj42 (第56図)

14 Hグリッド東部で検出した。梁間3.2 m(2間)×桁行5.2 m(2間)で床面積16.64㎡の東西棟である。主軸方位はN 77° Wを測る。東側の梁間中央の柱穴と、北側の桁行の中央の柱穴を欠くが、建物として復元した。南東の隅柱のSP102は他に比べて浅くなっている。SP104は北側の桁行上にあるが、対応する柱穴はなく建物を構成する他の柱穴に比べて規模も大きく位置的にも不自然であることから、積極的にこの建物の柱穴とは言い難い。

71は上記のSP104から出土している十瓶山産須恵器椀である。

71が直接この建物の時期を示すとは言い難いが、これを加味すると柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。



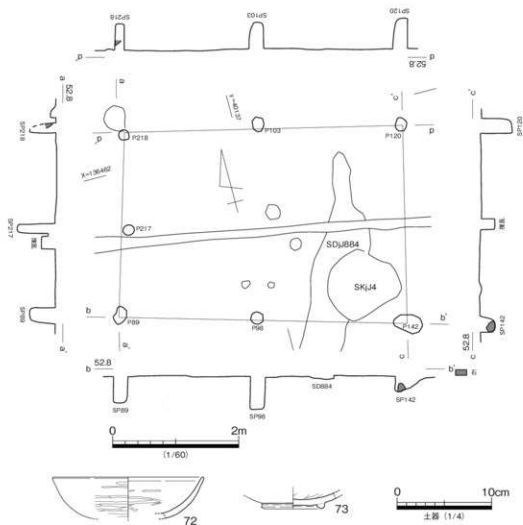
第56図 SBj42平・断面図(1/60)、出土遺物(1/4)

### SBj43 (第57図)

14 G～14 Hグリッドにかけての南部で検出した。梁間 3.1 m (2間)×桁行 4.5 m (2間)で床面積 13.95㎡の東西棟である。主軸方位はN 74°Wを測る。梁間の西側中央の柱穴は柱筋よりやや内側に入り、東側は攪乱部分にあたり検出されなかった。南東の隅のSP142には根石が認められたが、他の柱穴より浅くなっている。柱間は梁間で1.55 m、桁行で2.2～2.3 mである。

72はSP120から、73はSP103から出土しており、両者とも十瓶山産須恵器である。

出土遺物から中世の建物である。



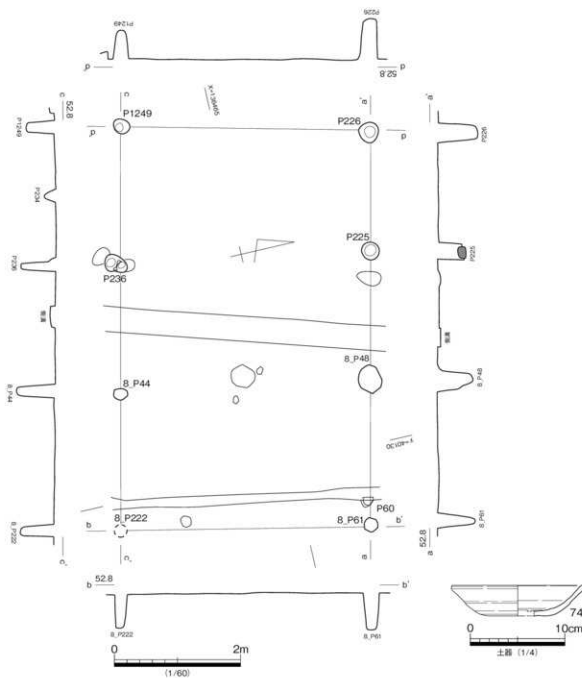
第57図 SBj43平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SBj44 (第58図)

14 Hグリッド西部で検出した。梁間3.95 m (1間) × 桁行6.3 m (3間)で床面積24.89㎡の東西棟である。主軸方位はN 77° Wを測る。梁間は東西とも中央に柱穴は認められず幅広の1間となっている。また南東隅の柱穴も認められなかった。桁行の柱間は2.1 mと均等に配置されている。

74はSP1249から出土した土師器杯である。体部上半を強くナデている。

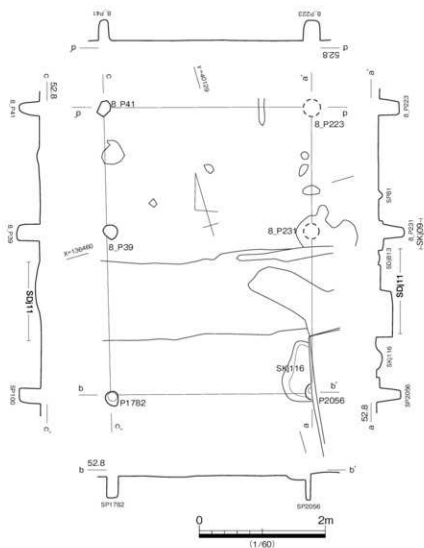
出土遺物から中世の建物である。



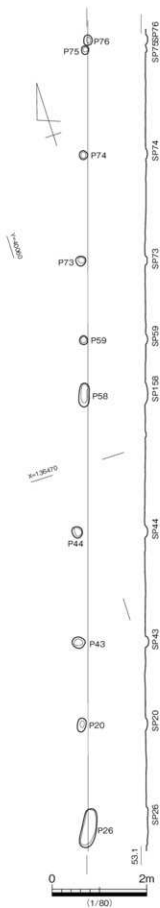
第58図 SBj44平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SBj45 (第59図)

14 Hグリッド南部で検出した。梁間 3.3 m (1 間) × 桁行 4.55 m (2 間) で床面積 15.02m<sup>2</sup>の南北棟である。主軸方位はN 15° Eを測る。東側の桁行の柱穴は他の遺構に壊されていたりして検出されなかったり、部分的にしか検出されなかったが、建物として復元した。桁行の柱間は 2.0 m と 2.55 m と不揃いである。柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。



第59図 SBj45 平・断面図 (1/60)



第60図 SAJ01 平・断面図 (1/80)

## 柵列

### SAJ01 (第60図)

14 K・14 L・15 Kにかけて検出した。長さ17.2 mで7間の規模をもつ長大な柵列である。柱間は2.4 mの部分が多いが、1.8 mや3.0 mの箇所もある。また南端の柱穴は平面形が楕円形で他のものに比べてかなり大きくなっているが、深さは他のものとはほぼ同じであり、間隔も同じであることからこれも柱穴に含めて柵列の端とした。主軸方位はN 18° Eで、この柵列の東西にあるSBj06、SBj07とはほぼ同じ方位である。埋土や周囲の建物の方向との関係から中世の柵列である。

### 小穴出土の遺物 (第61～65図)

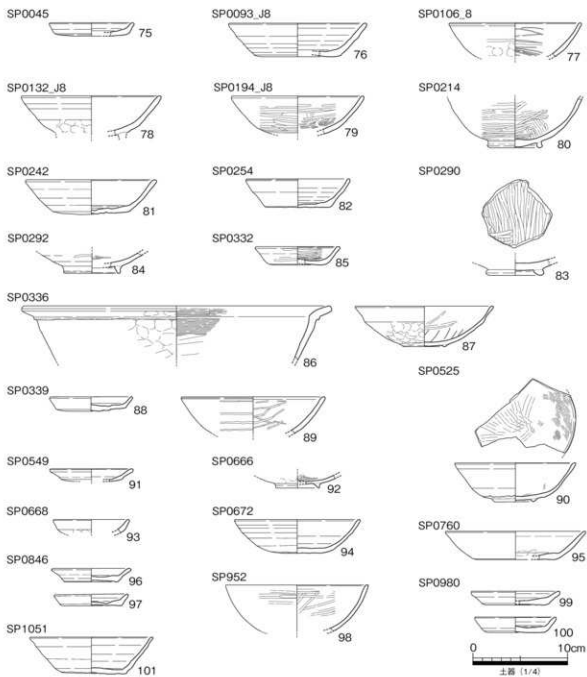
75～219は建物を構成しない小穴から出土した遺物である。

80は黒色土器A類の椀で、内・外面にヘラミガキを丁寧に施している。87は和泉型瓦器椀で体部外面には指押さえが顕著である。内面の暗文になるヘラミガキは雑である。101は土師器杯で全体に回転ナデで整形している。底部はヘラ切りの後に板状圧痕が認められる。

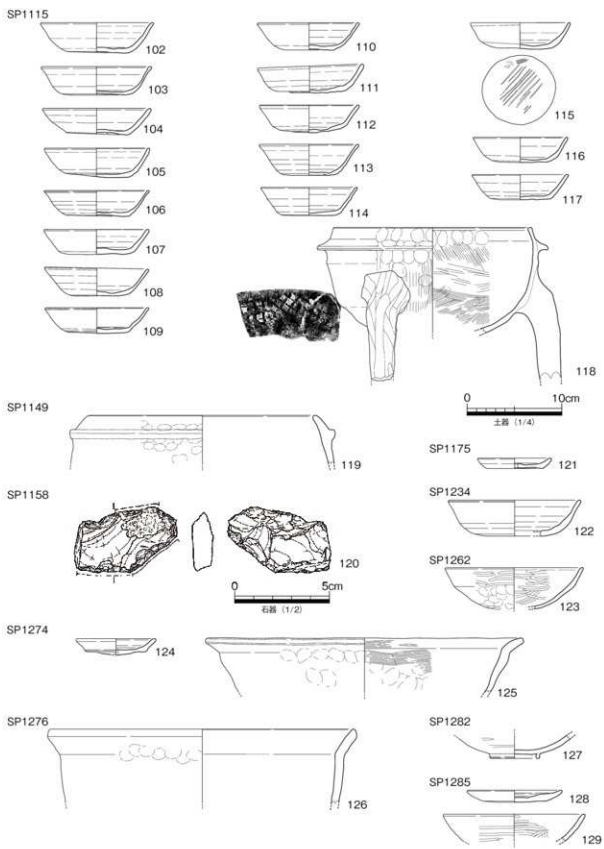
102～118はSP1115から一括で出土している。このうち102～117は土師器杯でいずれも回転ナデで整形している。これらの口径は平均で10.8cm、器高2.9cmである。

123は和泉型瓦器で体部外面には指押さえが顕著であるが、口縁部外面にはヘラミガキを施している。136は黒色土器皿で体部の内・外面にはヘラミガキを施している。140は和泉型瓦器椀である。142は流紋岩製の砥石、143は白磁の皿、144は黒色土器A類の椀、149・189は軒平瓦である。

154・156・208は土師器の脚台付き小皿で、154の皿部の底部中央には穿孔が施されている。172は土師器の耳皿、173は和泉型瓦器椀、185は白磁碗で口縁部は玉縁になっている。209は壁土、219は滑石製の石鍋である。

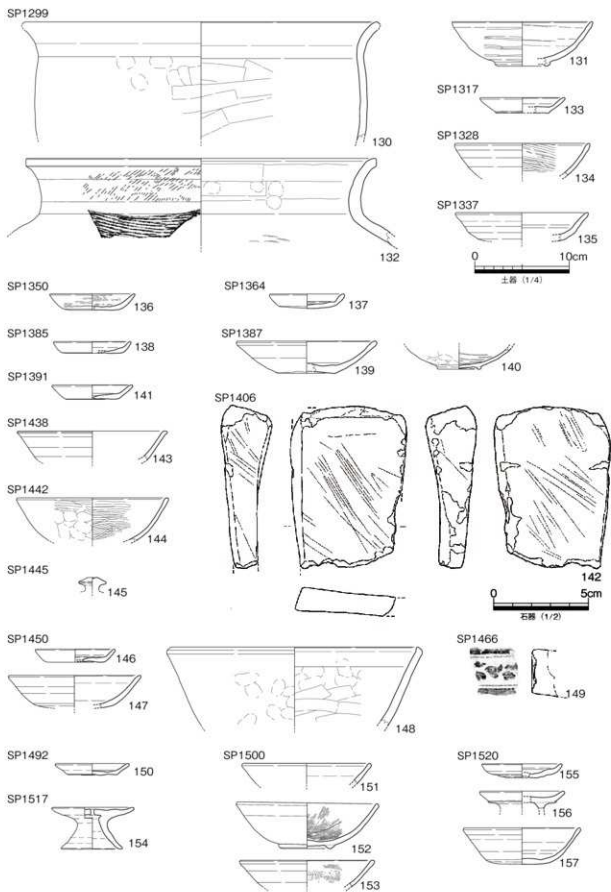


第61図 SP出土遺物1 (1/4)

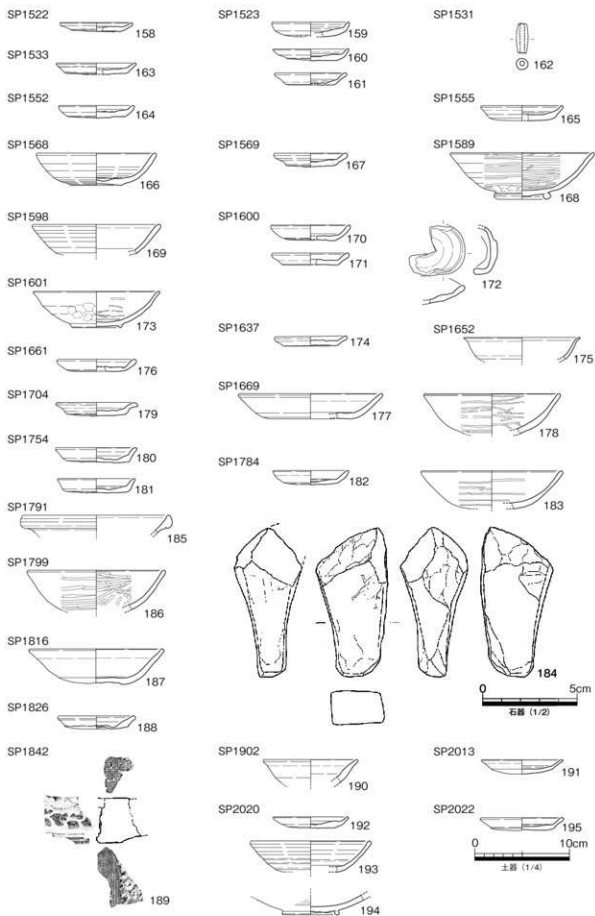


第 62 図 SP 出土遺物 2 (1/4 · 1/2)

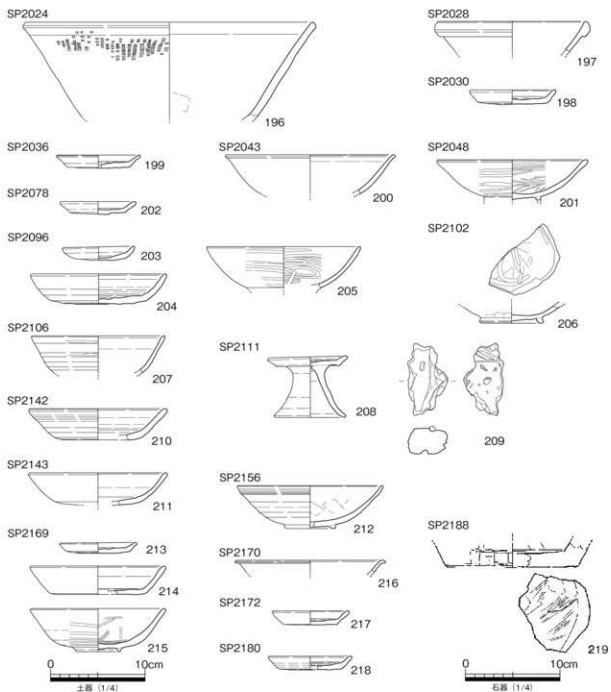




第 63 図 SP 出土遺物 3 (1/4・1/2)



第64図 SP出土遺物4 (1/4・1/2)



第 65 図 SP 出土遺物 5 (1/4)

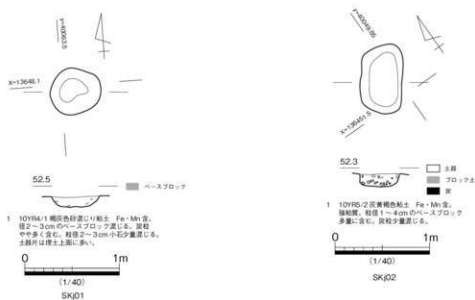
土坑

### SKj01 (第66図)

15 Kグリッド南部で検出した。平面形は円形で、直径0.52 m、深さ0.15 mである。埋土にはベース土ブロック、炭化物を含んでいる。遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

### SKj02 (第66図)

13 Lグリッドにあり調査区の南西隅で検出した。平面形は長方形であるが隅は丸みを帯びている。長辺0.5 mと0.7 mで対辺の長さは異なる。短辺は0.44 m、深さは0.14 mである。埋土にはベース土ブロックと炭化物が少量含まれている。遺物は細片しか出土していないものの、埋土の状況から中世の土坑とする。



第66図 SKj01・02 平・断面図 (1/40)

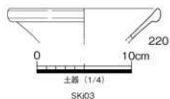
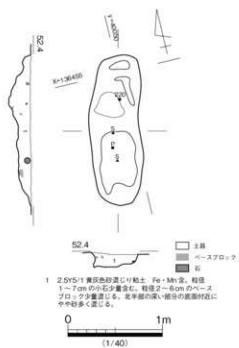
### SKj03 (第67図)

13 Lグリッドにあり調査区の南西隅で検出した。平面形は長方形で、長辺1.60 m、短辺0.55 m、深さ0.23 mである。北半部は不整形に段状に掘り込まれており、底部も北側のほうが深くなっている。

埋土は北側部分に砂が多くなっている。

220は白磁の碗で、口縁部が玉縁になっている。

出土遺物から中世の土坑である。



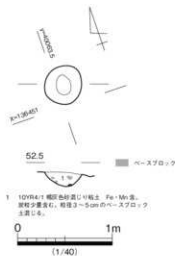
第 67 図 SKj03・04 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

#### SKj04 (第 67 図)

14 L グリッドの南東部で検出した。平面形は円形であるが、東側が尖り気味である。直径 0.55 m 前後で、深さ 0.08 m と浅いものである。東側は浅くテラス状である。埋土には炭化物を少々含んでいる。遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

#### SKj05 (第 68 図)

13 K グリッド北西部で検出した。平面形は円形で、直径 0.40 m、深さ 0.15 m である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。



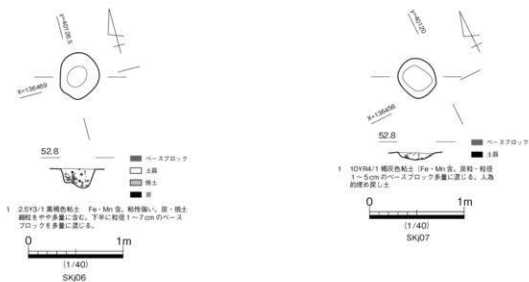
第 68 図 SKj05 平・断面図 (1/40)

### SKj06 (第69図)

14 Hグリッド中央付近で検出した。平面形は円形であるが直線のな部分もある。直径0.40～0.48 m、深さ0.20 mである。底部は東側が一段深くなっている。埋土には炭化物和焼土を多く含んでいる。遺物は細片しか出土しておらず、時期は不明である。

### SKj07 (第69図)

13 Hグリッドの北西隅で検出した。平面形は円形であるが、南側は直線のな部分がある。直径0.30 m、深さ0.08 mと浅いものである。遺物は細片しか出土しておらず、時期は不明である。



第69図 SKj06・07平・断面図 (1/40)

### SKj09 (第70図)

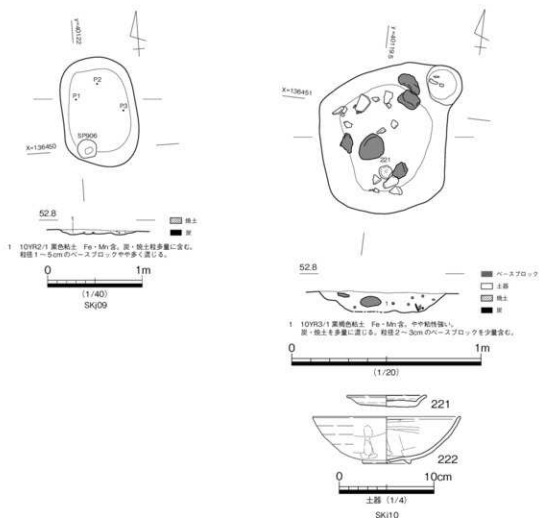
13 Hグリッドの北西部で検出した。平面形は隅丸の長方形である。長辺 1.16 m、短辺 0.80 m、深さ 0.06 m と浅いものである。底部は凹凸が目立ち、埋土には炭化物と焼土が多量に含まれる。遺物は細片しか出土していないが、SKj09 の埋没後に中世の建物である SBj31 の柱穴が設けられていることから、SBj31 以前の中世の土坑とする。

### SKj10 (第70図)

13 Hグリッド西端で検出した。平面形は方形であるが丸みを帯びている部分がある。また北東部分は別の小穴で壊されている。長辺 1.54 m、短辺 1.32 m、深さ 0.20 m である。底面は若干の起伏があり、掘り込みは全体に緩やかである。埋土には炭化物と焼土が多量含まれている。

221 は土師器小皿で底部は肥厚している。222 は十瓶山産須恵器椀で、内面の口縁部付近にヘラミガキが若干認められる。

出土遺物から中世 (13 世紀前半) の土坑である。



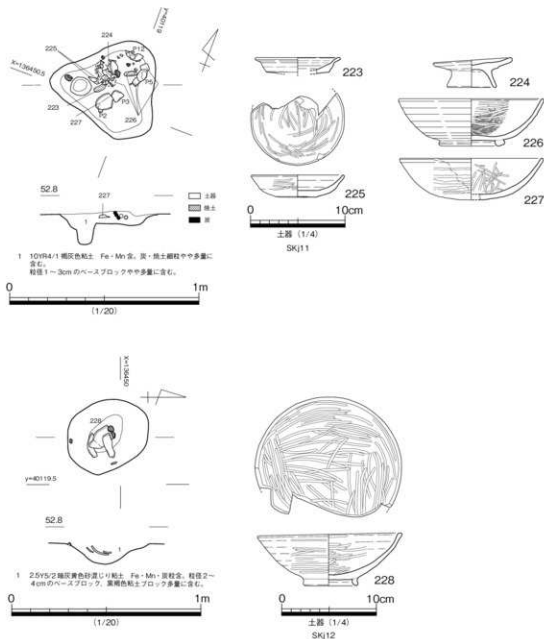
第70図 SKj09・10 平・断面図 (1/20・1/40)、出土遺物 (1/4)

### SKj11 (第71図)

13 I グリッド東端で検出した。平面形は三角形で隅はいずれも丸みを帯びている。一辺 0.5 m であり、東側部分はテラス状になり深さは 0.07 m と浅くなっているが、西側部分には柱穴状に部分的に深くなっており、0.17 m の深さになる。埋土には炭化物和焼土が多く含まれている。

比較的多くの遺物が出土している。223 は土師器小皿、224 は土師器脚台付き小皿、225 は黒色土器皿、226・227 は黒色土器 A 類椀である。227 は高台が剥がれている。226 の体部外面のヘラミガキは省略されており、227 は雑に施されている。

出土遺物から中世 (12 世紀後半) の土坑である。



第 71 図 SKj11・12 平・断面図 (1/20)、出土遺物 (1/4)



### SKj12 (第71図)

13 I グリッド東端でSKj11の南西に隣接して検出した。平面形は楕円形で長径0.45 m、短径0.35 m、深さ0.11 mである。埋土には炭化物を含んでいる。掘り込みは緩やかで、全体に挿鉢状になっている。

228は黒色土器A類碗で、体部内・外面に細かいヘラミガキを施している。

出土遺物から中世(12世紀後半)の土坑である。

### SKj13 (第72図)

13 I グリッド東端で検出した。平面形は円形で、直径0.42 m、深さ0.14 mである。埋土には炭化物と焼土を少量含んでいる。底面は平坦になっている。

229は土師器小皿で、底部から体部の立ち上がり部分が肥厚している。

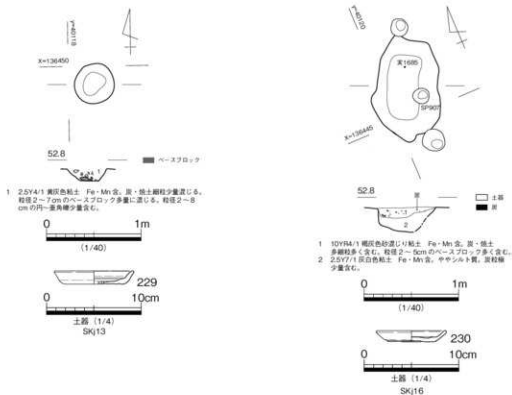
出土遺物から中世の土坑である。

### SKj16 (第72図)

13 H グリッド西端で検出した。平面形は不整形で歪な方形で、南西部分が突出している。長辺は1.0～1.1 m、短辺は0.62～0.73 m、深さ0.25 mである。底面は西から東に向かって傾斜している。西側の掘り込みは急であるが、東側は緩やかである。埋土には炭化物と焼土を含んでいる。上面は埋没後に他の小穴により壊されている。

230は土師器小皿で、底部内面には強いナデが施されている。

出土遺物から中世の土坑である。



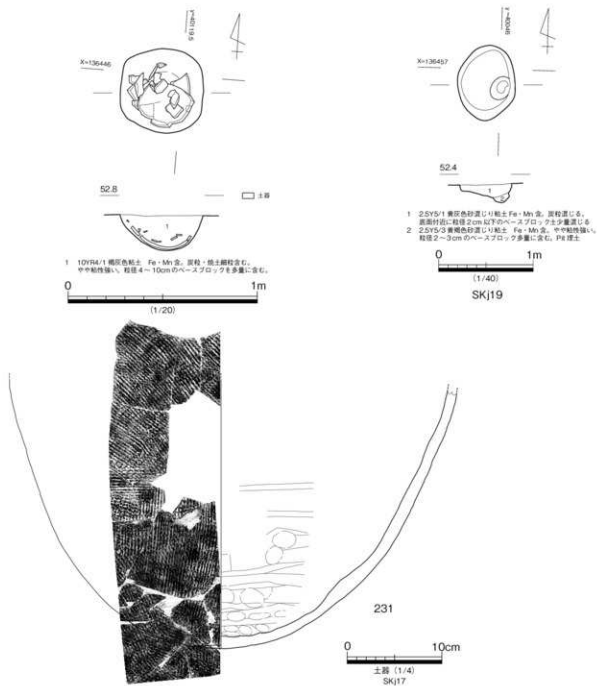
第72図 SKj13・16 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

SKj17 (第73図)

13 I グリッド東端で検出した。平面形は隅丸方形であるが、北西部は角張っている。辺0.44 m前後で、深さ0.19 mである。埋土には炭化物と焼土を含んでいる。底面から須恵器甕が出土したが、須恵器甕の体部の形状に合わせたように底部は丸みを帯びている。SKj17はSBj32の内側に位置しその東壁際であり、建物内で須恵器甕を据えるために掘削された土坑と見なせる。

231は上記の須恵器甕で底部は丸底である。体部外面には格子目のタタキが施されている。

出土遺物から中世の土坑であり、SBj32の年代とも矛盾しない。



第73図 SKj17・19平・断面図 (1/20・1/40)、出土遺物 (1/4)

### SKj19 (第73図)

13 L北端で、調査区の南西隅の拡張区で検出した。平面形は楕円形で、長径0.80 m、短径0.62 m、深さ0.20 mである。底面は西から東に向かって傾斜し、東端には直径0.22 mの円形の小穴があり一段低くなっている。この小穴はSKj19の上層の埋土に覆われており、SKj19に伴うものと考えより、それ以前の小穴がSKj19により壊されたものであろう。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

### SKj24 (第74図)

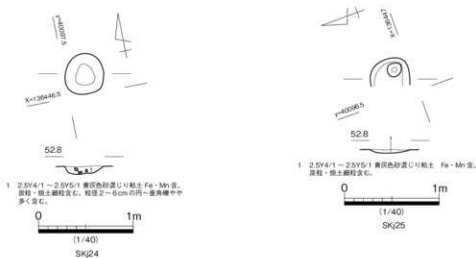
13 J東端で検出した。平面形は円形で、直径0.42 m、深さ0.08 mと浅いものである。埋土には炭化物と焼土を含んでいる。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

### SKj25 (第74図)

13 J東部で検出した。小調査区のJ2とJ3の境にあり、調査上の都合で掘削した排水を兼ねた側溝により、このSKj25の西側が壊されている。平面形は円形あるいは隅丸方形になるものと思われ、検出部分で直径0.42 m、深さ0.04 mで非常に浅いものである。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

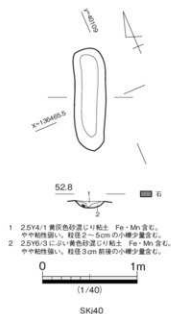
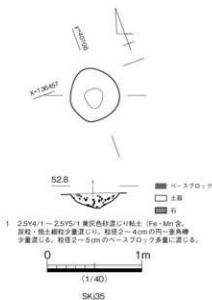


第74図 SKj24・25 平・断面図 (1/40)

### SKj35 (第75図)

13 I グリッド中央やや北寄りで検出した。平面形は円形であるが、南側が角張っている。直径 0.52 m、深さ 0.15 m で錐鉢状になっている。埋土にはベース土ブロックを多く含んでいる。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。



第75図 SKj35・40 平・断面図 (1/40)

### SKj40 (第75図)

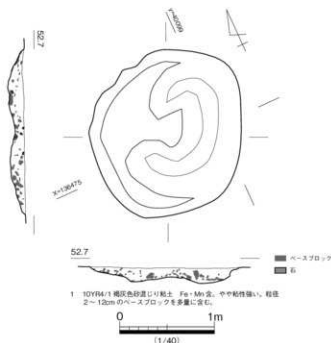
14 I グリッド中央で検出した。平面形は長楕円形で細長い。長径 1.08 m、短径 0.32 m、深さ 0.07 m である。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

### SKj42 (第76図)

14 I グリッド北端で検出した。平面形は楕円形と隅丸方形の中間形態であり、北西部分が蛇行しており、また東側と南側は直線的になっている。北東—南西主軸の楕円形として測ると、長径 1.86 m、短径 1.62 m、深さ 0.15 m である。底面には起伏があり、中央部分が突出してその両側が窪んでいる。埋土にはベース土ブロックを多く含んでいる。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。



第76図 SKj42 平・断面図 (1/40)

#### SKj44 (第77図)

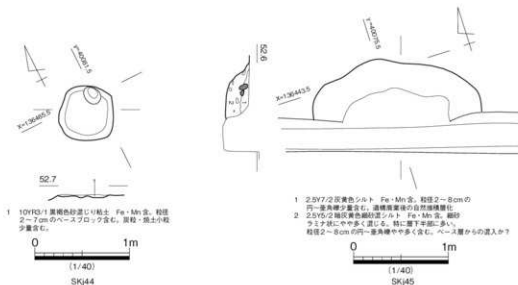
14 J グリッド西側で検出した。平面形は隅丸方形であるが、北東部は角張っている。一辺 0.56 m、深さ 0.04 m と非常に浅くなっている。底面は起伏があり、北東辺際には直径 0.18 m 前後の円形の小穴がある。柱穴の柱痕と掘り方のような形状であるが、周辺に遺構は稀少で単独であるため土坑としたものである。

遺物は出土しておらず、埋土も炭化物の影響により黒褐色で本来の色調が不明であるため、この土坑の時期は不明である。

#### SKj45 (第77図)

13 K グリッドで調査区南壁際で検出した。南側は調査区外へ広がるとともに、調査の排水を兼ねた側溝で壊されているため、全体形は不明である。検出部分では楕円形に近く、長径 1.78 m、短径は検出部分で 0.60 m、深さ 0.14 m である。底部は検出部分では平坦で、掘り込みも緩やかである。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。



第77図 SKj44・45 平・断面図 (1/40)

#### SKj47 (第78図)

13 J グリッド北西部で検出した。平面形は楕円形であるが南東部分は丸みが弱い。長径 0.42 m、短径 0.32 m、深さ 0.06 m である。

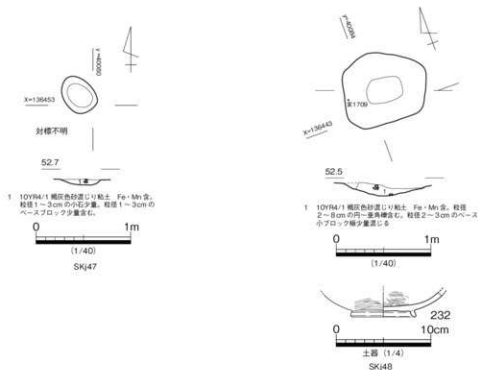
遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の遺構土坑とする。

#### SKj48 (第78図)

13 J グリッド南西部で検出した。平面形は五角形で北側は丸みを帯びている。南北方向の突出部分で 0.76 m、東西 0.90 m、深さ 0.11 m である。SDj28 により上部全体を壊されており、下部のみが残存している。

232 は土師器椀で、体部内・外面にはヘラミガキを施している。

出土遺物から中世 (12 世紀後半) の土坑である。



第78図 SKj47・48 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

#### SKj49 (第79図)

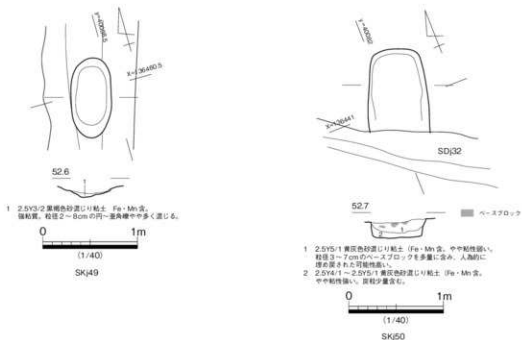
14 J グリッド南部で検出した。平面形は楕円形で、長径0.84 m、短径0.42 m、深さ0.25 mである。SDj28の底部で検出されたもので、SKj48と同様にSDj28により上部全体を壊されており、下部のみが残存している。

遺物は出土していないが、中世(13世紀)のSDj28より古い段階の中世の土坑である。

#### SKj50 (第79図)

13 J グリッド南部で検出した。南側をSDj32に壊されているため全体形は不明である。検出部分で平面形は長方形で、長辺0.88 m、短辺0.64 m、深さ0.18 mである。掘り込みは垂直に近く急で、底面は平坦である。

遺物は出土していないが、中世(13世紀)のSDj32より古い段階の中世の土坑である。



第79図 SKj49・50 平・断面図 (1/40)

SKj51 (第80図)

13 J グリッド南部で、SKj50 の北西に隣接して検出した。平面形は楕円形で、長径 0.58 m、短径 0.45 m、深さ 0.05 m である。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

SKj53 (第80図)

13 J グリッド北部で検出した。平面形は隅丸の長方形で、長辺 4.42 m、短辺 2.41 m、深さ 0.15 m である。大型の土坑であるが浅いものである。掘り込みは非常に緩やかで、断面は浅い皿状になっている。

233 は備前焼壺の体部の破片で、肩部に沈線が5条巡っている。

出土遺物から、中世 (13 世紀) の土坑である。

SKj54 (第81図)

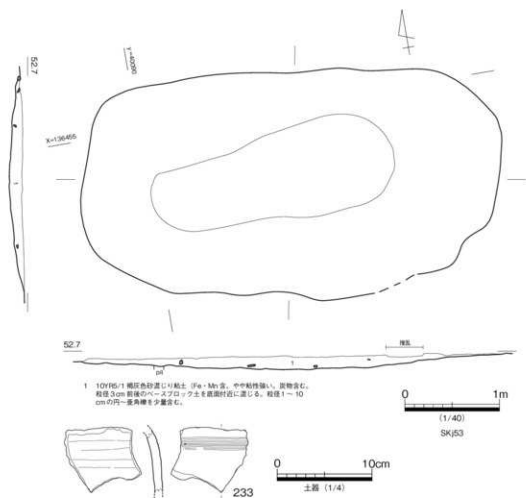
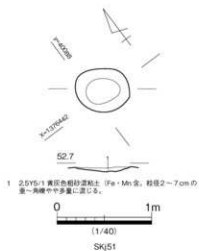
12 G グリッドで調査区東壁際で検出した。東側は調査区外となるため全体形は不明である。検出部分から考えると平面形は楕円形になるが西側は一部内側に窪んでいる。検出部分で長径 0.43 m、短径 0.16 m、深さ 0.06 m である。底面には起伏が見られる。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SKj55 (第81図)

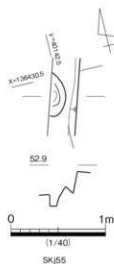
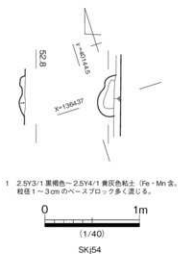
12 G グリッドで調査区東壁際で検出した。西側部分は不明瞭であり掘削を行っていない。検出部分での平面形は半月状で、本来は楕円形になるものと思われる。検出部分で南北 0.48 m、東西 0.16 m、深さ 0.11 m である。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。



第80図 SKJ51・53平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



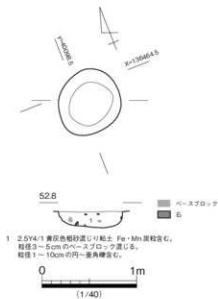


第 81 図 SKj54・55 平・断面図 (1/40)

SKj58 (第 82 図)

14 J グリッド東端で検出した。平面形は円形で、直径 0.65～0.72 m、深さ 0.16 m である。東側の掘り込みが急になっており、底面は平坦である。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

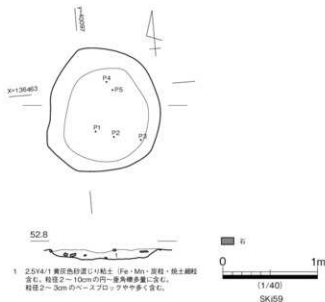


第 82 図 SKj58 平・断面図 (1/40)

### SKJ59 (第83図)

14 J グリッド東端で、SKJ58 の南西に隣接して検出した。平面形は円形に近いが、角張ったり直線的な部分がある。円形とすると直径1.20 m前後で、深さ0.11 mである。底面は若干の起伏がある。埋土には炭化物と焼土を含んでいる。

遺物は細片が少量出土したのみであり時期決定は困難であるが、埋土の状況から中世の土坑とする。



第83図 SKJ59 平・断面図 (1/40)

### SKJ60 (第84図)

14 I グリッド中央付近で検出した。平面形は不整形で隅丸方形の南西部に丸みを帯びて突出している部分がある。北東—南西方向の最大部分で0.89 m、北西—南東方向の最大部分で0.62 m、深さ0.22 mになる。緩やかに段を形成して掘り込まれており、中央やや西側が最も深くなっている。

埋土には焼土とともにベースブロックを多量に含んでいる。

234 は土師器小皿、235 は土師器杯である。235 は回転ナデで整形し、底部外面には板状圧痕が認められる。

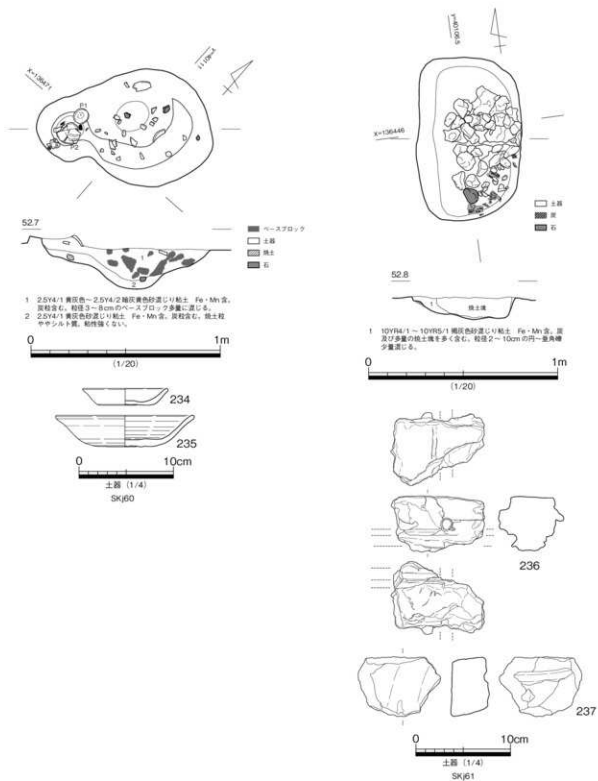
出土遺物から中世 (13世紀初頭前後) の土坑である。

### SKJ61 (第84図)

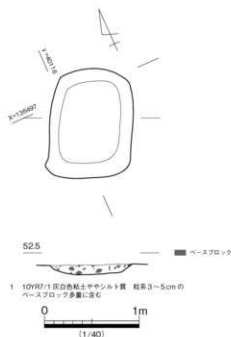
13 グリッド中央付近で検出した。平面形は長方形であるが、東側が短くなり南側は丸みを帯びている。長辺0.85 m、短辺0.54 m、深さ0.12 mである。掘り込みは東側は急であるが、西側は緩やかである。底面は若干の起伏があり、埋土中から炭化物とともに焼土塊が西側に寄せて多量に出土した。

236・237 は壁土で、片側に平坦面を持ち、壁面と壁土の中に塗り込められた心材と考えられる太さ1 cm程度の円柱状圧痕が認められる。

時期のわかる遺物は出土していないが、周辺遺構との関係で中世の土坑とする。



第84図 SKj60・61平・断面図(1/20)、出土遺物(1/4)



第 85 図 SKj62 平・断面図 (1/40)

#### SKj62 (第 85 図)

15 I グリッド北東部で検出した。平面形は方形であるが、北側は丸みを帯びており、南西部は少し突出している。長辺 1.15 m、短辺 0.86 m、深さ 0.10 m である。掘り込みは緩やかで、底面は平坦である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

#### SKj64 (第 86 図)

13 I グリッド北東部で検出した。平面形は円形で、直径 0.62 m、深さ 0.13 m である。掘り込みは東側は急であるが、西側は緩やかである。

238・239 は土師器小皿である。238 は内面の見込み部を先にナデでから周囲をナデで調整している。239 は器高は 0.7cm と低くなっている。

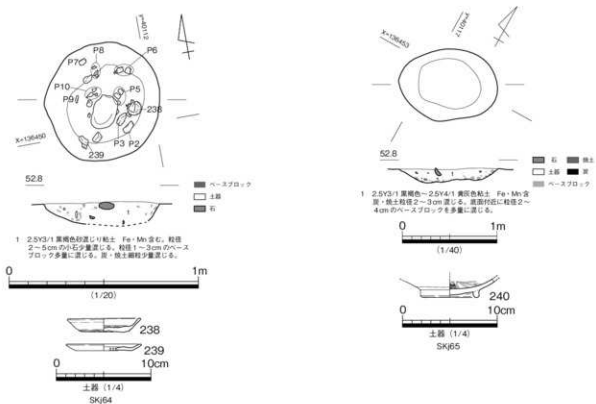
出土遺物から中世 (13 世紀前半) の土坑である。

#### SKj65 (第 86 図)

13 I グリッド北東部で検出した。平面形は楕円形で、長径 1.02 m、短径 0.74 m、深さ 0.08 m である。掘り込みは緩やかで、底面は中央部分が若干盛り上がっている。埋土には炭化物和焼土を含んでいる。

240 は十瓶山産須恵器碗で、外向きの肥厚した高台を貼り付けている。

出土遺物から中世 (13 世紀初頭前後) の土坑である。



第 86 図 SKj64・65 平・断面図 (1/20・1/40)、出土遺物 (1/4)

#### SKj66 (第 87 図)

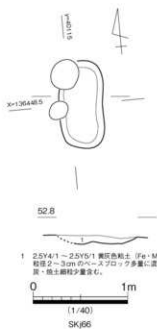
13 I グリッド東部で検出した。平面形は隅丸長方形で、長辺 0.93 m、短辺 0.47 m、深さ 0.09 m である。西側部分を小穴により壊されている。底面は東側に比べて西側が若干深くなっている。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

#### SKj67 (第 87 図)

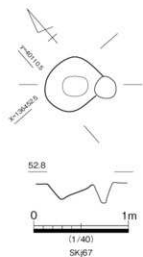
13 I グリッド北東部で検出した。平面形は隅丸方形で、南東隅を小穴により壊されている。南北 0.50 m、東西 0.60 m、深さ 0.15 m である。底面は全体に東側西に向かって下っている。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。



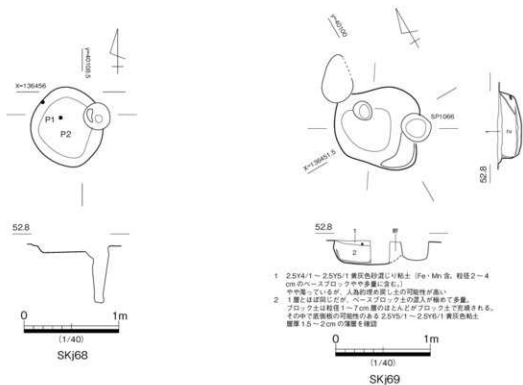
1 2.5V4/1 ~ 2.5V5/1 黄灰色粘土 (Fe・Mn 含)  
 粒径 2 ~ 3cm のベースブロック多量に混じる。  
 泥・粘土細粒少量含む。

0 1m  
 (1/40)  
 SKj66



(1/40)  
 SKj67

第 87 図 SKj66・67 平・断面図 (1/40)



1 2.5V4/1 ~ 2.5V5/1 黄灰色砂混じり粘土 (Fe・Mn 含、粒径 2 ~ 4 cm のベースブロックやや多量に混在。) やや厚まっているが、人為的埋め戻しの可能性が高い

2 1層にはほぼ同じが、ベースブロックとの混入が極めて多量。ブロックは粒径 1 ~ 7cm 層のほとんどがブロックで充填される。その中で最上層の埋め戻りある。2.5V5/1 ~ 2.5V6/1 黄灰色粘土 厚さ 1.5 ~ 2cm の高層を被覆

0 1m  
 (1/40)  
 SKj68 SKj69

第 88 図 SKj68・69 平・断面図 (1/40)

### SKJ68 (第88図)

13 I グリッド北端部で検出した。平面形は円形で、東側を小穴により壊されている。直径0.80 m、深さ0.09 mである。

遺物は細片が少量出土したのみであり時期決定は困難である。

### SKJ69 (第88図)

13 I グリッド中央付近で検出した。平面形は隅丸方形であるが東西で若干長さが異なる。また北と南東部分が小穴により壊されている。最大で一辺0.86 m、深さ0.24 mである。西側の壁面下半から底面の直上で、板材の痕跡のような黄灰色粘土の細長い層を確認した。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

### SKJ71 (第89図)

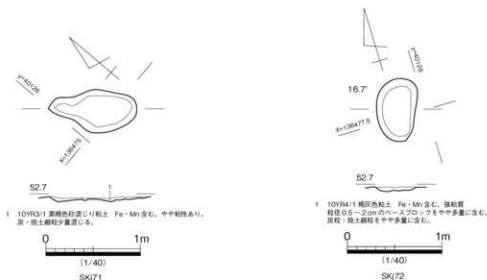
14 H グリッド北西部で検出した。平面形は楕円形に近く、北西側の幅が狭くなり突出しているような形態である。長軸0.93 m、短軸0.46 m、突出部分の幅0.20 m、深さ0.04 mである。全体に浅いもので、底面には微細な起伏が目立つ。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。

### SKJ72 (第89図)

14 H グリッド北端部で検出した。平面形は楕円形であるが、東側部分は直線的である。長径0.67 m、短径0.40 m、深さ0.05 mである。埋土は炭化物と焼土を多く含み、粘性が強い。底面は微細な起伏がある。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。

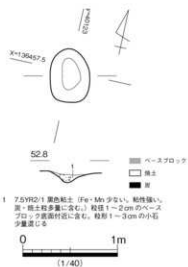


第89図 SKJ71・72 平・断面図 (1/40)

### SKj78 (第90図)

13 Hグリッド北西部で検出した。平面形は卵形で東側から北側にかけて丸みをもつ。南北0.56 m、東西0.41 m、深さ0.08 mである。掘り込みは緩やかで、底面は丸みを帯びて狭い。埋土は炭化物和焼土を多く含み、粘性が強い。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。



第90図 SKj78平・断面図 (1/40)

### SKj79 (第91図)

14 Hグリッド北端部で検出した。平面形は東側が直線になっている以外は円形である。円形の部分の直径は0.55 mになり、深さは0.32 mである。底面は狭く、断面はU字形になる。

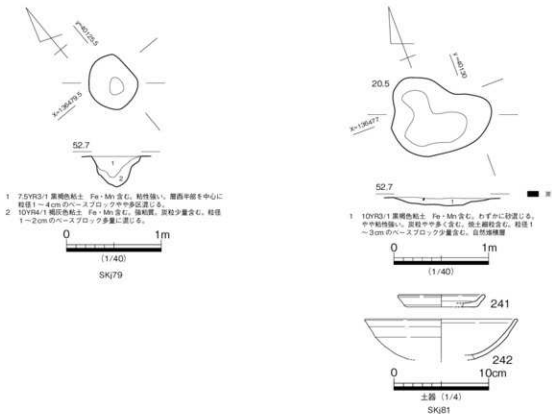
遺物は出土しておらず、時期は不明である。

### SKj81 (第91図)

14 Hグリッド北部で検出した。平面形は不整形で、東側と西側が内湾している。南北0.86 m、東西は最大1.08 m、深さ0.08 mである。掘り込みは全体に緩やかであるが、特に東側部分は緩やかでテラス状なる。埋土には炭化物を多く含む。

241は土師器小皿、242は黒色土器碗であるが全体に摩滅している。

出土遺物から中世(13世紀初頭前後)の土坑である。



第91図 SKj79・81平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



### SKj82 (第92図)

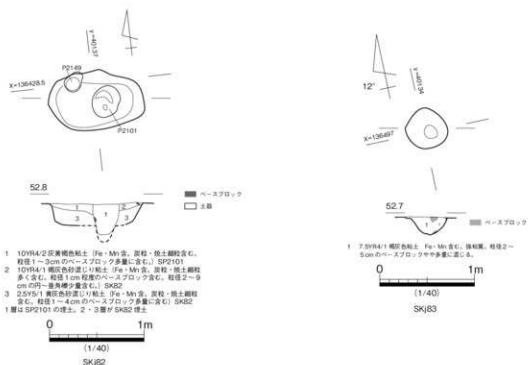
12 Hグリッド東部で検出した。平面形は隅丸長方形に近いが、北側と西側が角張っている。東西1.0 m、南北0.62 m、深さ0.22 mである。中央部分に小穴があり柱痕のように見えるが、SKj82埋没後の別の遺構である。埋土には炭化物と焼土を多く含んでいる。

遺物は細片が少量出土したのみであり時期決定は困難であるが、埋土の状況から中世の土坑とする。

### SKj83 (第92図)

15 Hグリッド北東部で検出した。平面形は円形と隅丸方形の中間形態で西側が角張っている。円形とすれば直径0.42 m相当で、深さは0.19 mである。掘り込みは緩やかで、断面はU字形になる。

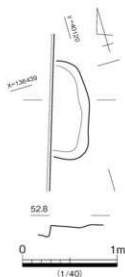
遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。



第92図 SKj82・83平・断面図 (1/40)

### SKj86 (第93図)

12 I グリッド北東隅で検出した。小調査区間の側溝を設けた部分に相当しているため、西側部分が失われている。側溝を越えて西側では検出されていないので、この部分で収束するものである。平面形は隅丸の長方形になるものと思われ、検出部分で長辺 1.02 m、短辺 0.40 m、深さ 0.06 m である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

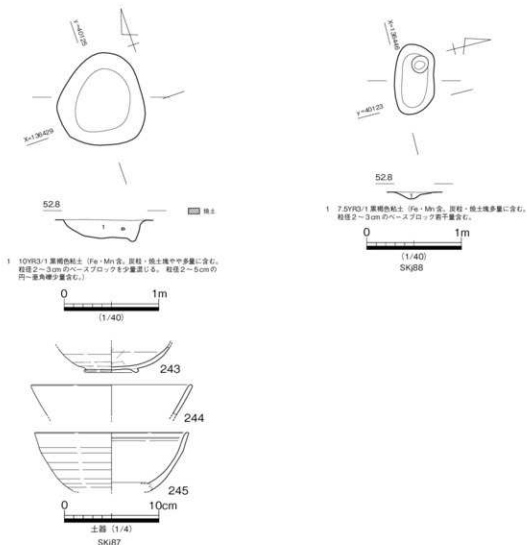


第93図 SKj86 平・断面図 (1/40)

### SKj87 (第94図)

12 H グリッド西部で調査区の南壁付近で検出した。平面形は隅丸の三角形に近い。一辺 0.9 m 前後で、深さ 0.22 m である。掘り込みは西側は緩やかであるが、東側は急になっておりその下端は一段低くなっている。埋土には炭化物和焼土を多く含んでいる。

243 は土師器碗で、外側に大きく踏ん張る断面方形の高台をもつ。244・245 は青磁碗である。245 は



第94図 SKj87・88 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

口縁部内面に沈線をもつ。

出土遺物から中世（13世紀前半）の土坑である。

#### SKj88（第94図）

13 H グリッド西部で検出した。平面形は隅丸長方形に近いが、北側は短くなっており若干内湾している。北西部は小穴により壊されている。東西 0.74 m、南北 0.42 m、深さ 0.07 m である。埋土には炭化物と焼土を多く含んでいる。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。

#### SKj89（第95図）

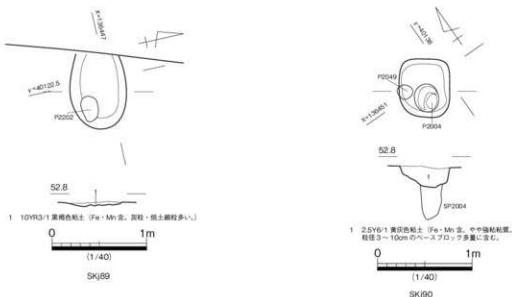
13 H グリッド西部で SKj88 の北西に隣接して検出した。西側は小調査区間に設けた側溝により失われている。側溝を越えて西側では検出されていないので、この部分で収束するものである。平面形は楕円形になるものと思われ、検出部分で長径 0.81 m、短径 0.60 m、深さ 0.04 m である。底面は起伏が目立ち、埋土には炭化物と焼土を含んでいる。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。

#### SKj90（第95図）

13 H グリッド東端で検出した。平面形は隅丸方形で、長辺 0.62 m、短辺 0.52 m、深さ 0.20 m である。底面には SKj90 以前の遺構 SP2004 の残存部分が認められる。掘り込みは全体に急である。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。



第95図 SKj89・90平・断面図 (1/40)

### SKj91 (第96図)

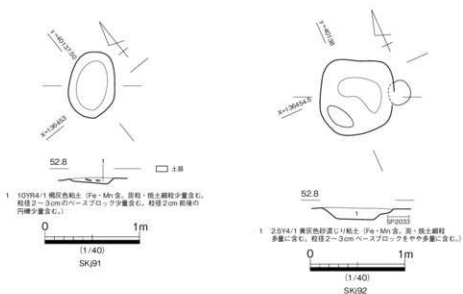
13 Hグリッド東端でSKj90の北側に隣接して検出した。平面形は楕円形であるが、南側が直線的な部分がある。長径0.70 m、短径0.48 m、深さ0.06 mである。底面は平坦であるが、西から東に向かって下がっている。

遺物は細片が少量出土したのみで時期決定は困難であるが、埋土の状況から中世の土坑とする。

### SKj92 (第96図)

13 Hグリッド東端でSKj91の北側に隣接して検出した。東側を小穴により壊されている。平面形は隅丸方形に近いが、西側の湾曲が強い。一辺0.80 m前後、深さ0.12 mである。南西部分にはテラス状の平坦面がある。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。



第96図 SKj91・92 平・断面図 (1/40)

### SKj98 (第97図)

12 Hグリッド中央やや北寄りて検出した。平面形は楕円形で、長径0.84 m、短径0.42 m、深さ0.11 mである。掘り込みは急で、底面は平坦であるが、北西から南東に向かって緩やかに下っている。

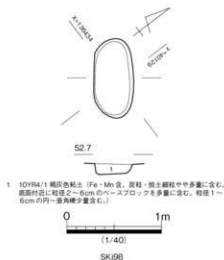
遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

### SKj99 (第97図)

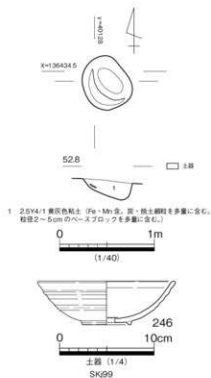
12 Hグリッド中央やや北寄りて、SKj98の西側に隣接して検出した。平面形は扁平な円形で、東側が直線的である。円形とすれば直径0.55 mになり、深さは0.19 mである。南西部分は段状に掘り込まれており、北東部分は急になっている。底面は平坦であるが、西から東に向かって下っている。埋土には炭化物と焼土を多く含んでいる。

246は土師器椀で、体部上半のナデは強い。底部には断面方形の高台を貼り付けている。

出土遺物から中世(13世紀前半)の土坑である。



第97図 SKj98・99 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

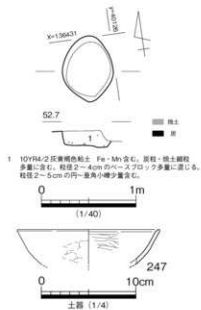


#### SKj100 (第98図)

12 Hグリッド中央やや西寄りで検出した。平面形は楕円形で、長径0.70 m、短径0.54 m、深さ0.17 mである。底面は平坦な部分が多いが、東側の壁際が一段低くなっている。また掘り込みは全体に急になっている。埋土には炭化物和焼土を多く含んでいる。

247は瓦器碗である。体部外面には指押さえが顕著で、内面の口縁部付近には幅広のヘラミガキを施している。

出土遺物から中世(12世紀後半)の土坑である。



第98図 SKj100 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

### SKj101 (第99図)

12 H グリッド南部の調査区南壁付近で検出した。平面形は楕円形で、長径0.57 m、短径0.38 m、深さ0.05 mである。底面は若干の起伏がある。

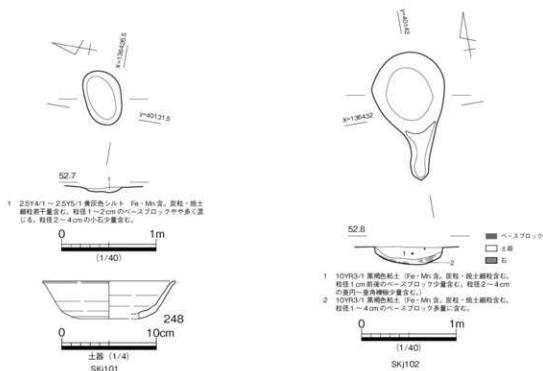
248は土師器杯で、体部立ち上がり部は回転ナデによる稜線が明瞭である。

出土遺物から中世(12世紀後半)の土坑である。

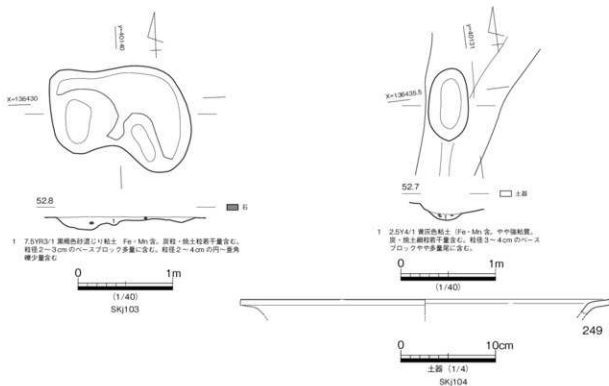
### SKj102 (第99図)

12 G グリッド西端で調査区東壁際で検出した。円形部分の南側に短い溝状の突出部が付いている。円形部分は直径0.75 m、深さ0.18 mで、溝状部分は長さ0.48 m、幅0.21 mで、円形部分より浅くなっている。円形部分の底面は緩く湾曲しており、掘り込みは急である。

遺物は細片が少量出土したのみで時期決定は困難である。



第99図 SKj101・102 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第 100 図 SKj103・104 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

#### SKj103 (第 100 図)

12 G グリッド西端で調査区東壁際で SKj102 の北西に隣接して検出した。平面形は不整形で、南東部分が円形に突出している。東西 1.48 m、南北 0.80 ~ 1.15 m、深さ 0.14 m である。北側一帯はテラス状の面をもち、南側と西側が局部的に低くなっている。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。

#### SKj104 (第 100 図)

12 H グリッド北部で検出した。上部全体を後に掘削された溝により削平されている。平面形は楕円形で、長径 0.77 m、短径 0.42 m、残存している深さ 0.06 m である。

249 は土師質鍋である。口縁部は外側に直線的に屈曲し、端部は平坦な面を形成している。

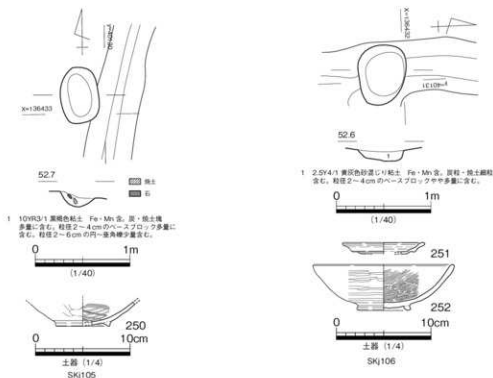
出土遺物から中世の土坑である。

#### SKj105 (第 101 図)

12 H グリッド中央付近で検出した。SKj104 を削平している溝の埋没後に掘削されている。平面形は楕円形と隅丸長方形の中間形態である。長径 0.60 m、短径 0.41 m、深さ 0.15 m である。埋土には炭化物と焼土を多量に含んでいる。

250 は和泉型瓦器碗で、体部外面は指押さえが顕著で、底部には断面三角形の高台を貼り付けている。

出土遺物から中世 (12 世紀後半) の土坑である。



第 101 図 SKj105・106 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

#### SKj106 (第 101 図)

12 H グリッド北部で、SKj104 の北側に隣接して検出した。SKj105 と同様に、SKj104 を削平している溝の埋没後に掘削されている。平面形は楕円形と隅丸長方形の中間形態である。長径 0.66 m、短径 0.52 m、深さ 0.10 m である。

251 は土師器小皿で体部上半と立ち上がり部を強くナデているため、その境が突帯のような鋭い稜を形成している。252 は十瓶山産須恵器碗で、体部内面には全体にハケ目を施した後に、下半部に間隔の開いたヘラミガキを加えている。

出土遺物から中世 (13 世紀初頭前後) の土坑である。

#### SKj107 (第 102 図)

13 G グリッド西端部で検出した。平面形は不整形で隅丸方形の一部が突出している。南北 0.84 m、東西の最大幅 0.52 m、深さ 0.30 m である。突出する箇所平坦面をもち、その両側が柱穴の柱痕部分のように一段深くなる。あるいは 2 つの遺構が重なっているのかも知れないが、埋土の断面観察からはすべて単一層になっており、その状況は何えなかった。

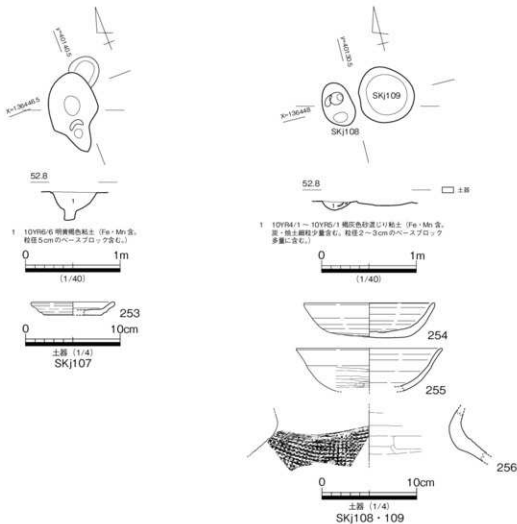
253 は土師器小皿で、体部を 2 段にナデている。

出土遺物から中世 (13 世紀後半) の土坑である。

#### SKj108 (第 102 図)

13 H グリッド中央で検出した。平面形は楕円形で、長径 0.48 m、短径 0.32 m、深さ 0.10 m である。掘り込みは緩やかで、断面は U 字形になる。





第 102 図 SKj107～109 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

254 は土師器杯、255 は十瓶山産須恵器椀で体部外面に間隔の開いた横方向のヘラミガキを施している。256 は須恵器甕で体部外面に格子目タタキを施している。

出土遺物から中世 (13 世紀前半) の土坑である。

#### SKj109 (第 102 図)

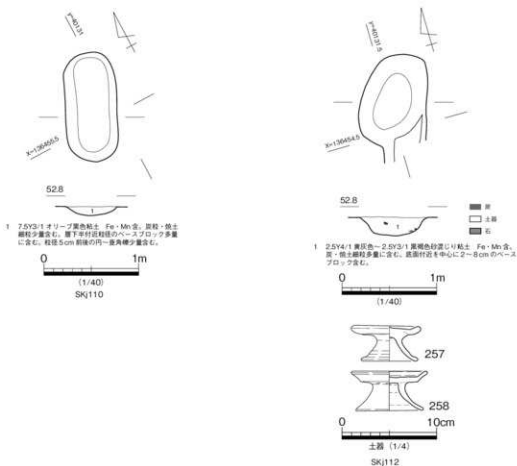
13 H グリッド中央で SKj108 の東側に隣接して検出した。平面形は円形で、直径 0.60 m、深さ 0.04 m である。非常に浅いもので、断面は皿状になる。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。

#### SKj110 (第 103 図)

13 H グリッド北部で検出した。平面形は楕円形であるが、東西は直線的になる。長さ 1.16 m、短径 0.54 m、深さ 0.09 m である。底面は緩やかに湾曲しており、掘り込みも緩やかである。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。



第 103 図 SKj110・112 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

#### SKj112 (第 103 図)

13 H グリッド北部で SKj110 の東側に隣接して検出した。平面形は楕円形で、長径 1.00 m、短径 0.67 m、深さ 0.20 m である。南側に溝が接続するが同時併存か前後関係があるのかは不明である。掘り込みは緩やかで、底面はほぼ平坦である。埋土には炭化物和焼土を多く含んでいる。

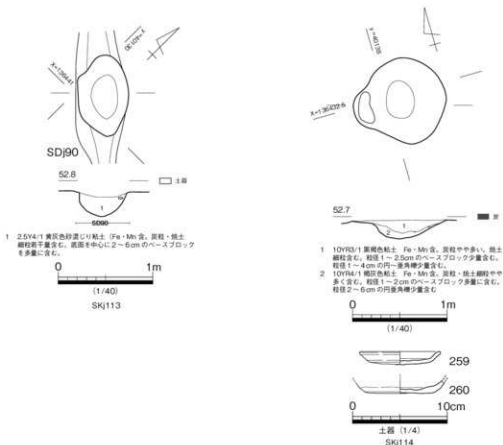
257 は土師器台付き小皿で、皿部分は全体に肥厚しており、底部から若干折り曲げるだけで口縁部を作り出している。258 は黒色土器台付き小皿で、皿部の内面を黒色処理している。

出土遺物から中世 (12 世紀後半頃) の土坑である。

#### SKj113 (第 104 図)

13 H グリッド南端部で検出した。平面形は西側が内湾しているものの概ね楕円形である。長径 0.85 m、短径 0.54 m、深さ 0.22 m である。SDj90 に丁度収まるようにあるが、SDj90 との前後関係は不明である。底面は緩やかに弧を描き、断面は U 字形である。

遺物は細片が少量出土したのみで時期決定は困難であるが、埋土の状況から中世の土坑とする。



第 104 図 SKJ113・114 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

#### SKJ114 (第 104 図)

12 H グリッド東端部で検出した。平面形は隅丸方形の西側が突出している形状である。南北 0.92 m、東西 0.99 m、深さ 0.18 m である。掘り込みは全体に緩やかで、西側の突出した部分は一段高く、テラス状の面をもつ。底面は若干の丸みを帯び、埋土には炭化物と焼土を含んでいる。

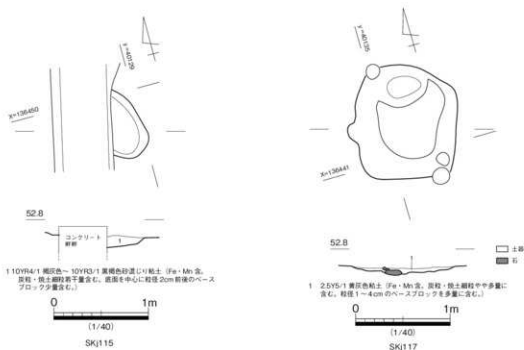
259 は土師器小皿で体部を強くナデている。260 は土師器杯で立ち上がり部は肥厚している。

出土遺物から中世 (12 世紀後半頃) の土坑である。

#### SKJ115 (第 105 図)

13 H グリッド中央で検出した。西側は現代の構造物で壊されており全体形は不明である。検出部分から考えると楕円形に近くなるものと思われる。南北 0.7 m 前後、東西は最大で 0.42 m、深さ 0.13 m である。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。



第 105 図 SKj115・117 平・断面図 (1/40)

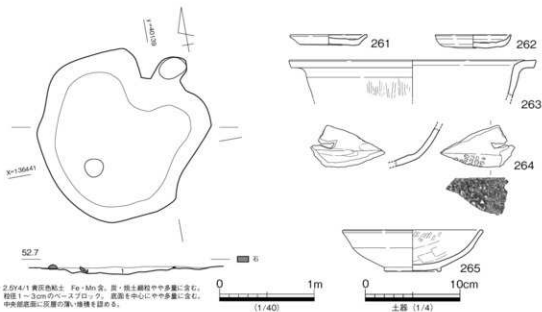
SKj117 (第 105 図)

13 H グリッド南東部で検出した。平面形は隅丸方形であるが、北側は丸みを帯び、両隅は不揃いである。また西側には丸みを帯びた小さな突出がある。南北 1.20 m、東西 1.10 m、深さ 0.07 m である。全体に浅いが北側が一段低くなっており、底面には起伏がある。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

SKj118 (第 106 図)

13 H グリッド南東隅で検出した。平面形は不整形で北東部分は内側に入り込むが、その一部が突出



第 106 図 SKj118 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

している。南北1.78 m、東西1.84 m、深さ0.08 mである。全体に浅く皿状の落ち込みになっている。埋土には炭化物と焼土をやや多く含んでいる。

261・262は土師器小皿で、262の口縁部は強いナデにより先細りになっている。263・264は土師質鍋で、264の下部には粗い格子目タタキが施されている。265は須恵器椀で体部中央で湾曲する。断面方形の短い高台を貼り付けている。

出土遺物から中世（13世紀中頃）の土坑である。

#### SKj120 (第107図)

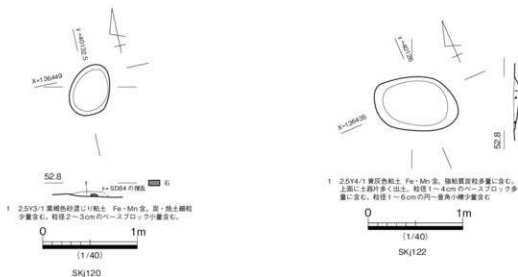
13 Hグリッド中央で検出した。平面形は楕円形で、長径0.55、短径0.40 m、深さ0.06 mである。周囲の遺構面はSDj84の氾濫により低くなっており、SKj120の掘り方部分より中央が高くなってしまっている。底面は平坦で、全体に浅いものである。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。

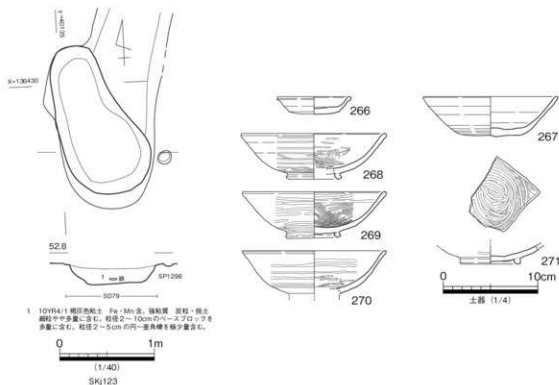
#### SKj122 (第107図)

12 Hグリッド北西部で検出した。平面形は隅丸長方形と楕円形の間形態である。北東—南西0.56 m、北西—南東0.90 m、深さ0.06 mである。埋土は粘性が強く炭化物を多く含んでいる。

遺物は細片が少量出土したのみで時期決定は困難であるが、埋土の状況から中世の土坑とする。



第107図 SKj120・122平・断面図 (1/40)



第108図 SKj123平・断面図(1/40)、出土遺物(1/4)

#### SKj123 (第108図)

12 Hグリッド東部で検出した。上部をSDj79により削平されており、SDj79の取東部と重なっている。平面形は隅丸長方形の北東部が欠けているような形態である。北西―南東1.64 m、北東―南西は0.55～0.88 m、残存する深さは0.17 mである。底面は平坦で、埋土には炭化物と焼土を含んでいる。

266は土師器小皿で体部を2段に強くナデている。267は土師器杯である。268～271は十瓶山産須恵器椀である。270以外の高台はいずれも断面方形で外向きである。271は内面見込み部にハケ目の後にらせん状にヘラミガキを施している。

出土遺物から中世(13世紀初頭前後)の土坑である。

#### SKj124 (第109図)

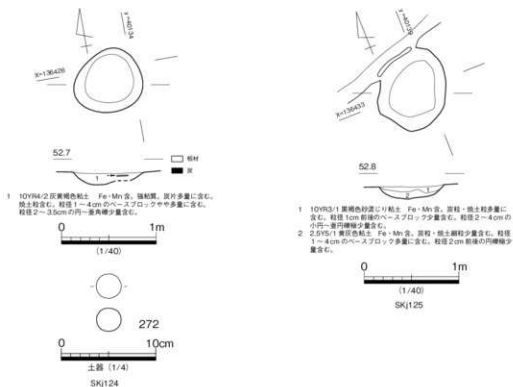
12 Hグリッド南東部の調査区南壁際で検出した。平面形は扁平な円形で、直径0.62～0.75 m、深さ0.12 mである。掘り込みは緩やかで、底面は丸みを帯びている。埋土は粘性が強く炭化物を多く含み、本片も少量出土した。

272は直径2.6cmの土玉である。

時期を特定できる遺物は出土していないが、13世紀代のSDj74の埋没後に築かれていることから、それ以降の中世の土坑である。

#### SKj125 (第109図)

12 Hグリッド東端部で検出した。北側でSDj100と接しているが、前後関係は不明である。平面形は楕円形と隅丸方形との中間形態であり、西側が全体に直線的になっている。楕円形とすれば長径0.87 m、短径0.70 m、深さ0.14 mである。掘り込みは緩やかで、底面は若干の丸みを帯びている。上層には炭



第 109 図 SKj124・125 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

化物と焼土を多く含んでいる。

遺物は出土していないが、13 世紀初頭前後の SDj100 との前後関係は不明ながら接していることから同時期に近い中世の土坑とする。

#### SKj126 (第 110 図)

13 H グリッド北西部で検出した。平面形は楕円形で、長径 0.90 m、短径 0.58 m、深さ 0.10 m である。北側半分はテラス状の平坦面を形成して底面に至り、底面には若干の起伏が認められる。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

#### SKj127 (第 110 図)

13 H グリッド北西部で SKj126 の東側に隣接して検出した。平面形は不整形で、北側が一部内湾しているが、全体として三角形に近い。北西—南東で 0.65 m、北東—南西で 0.50 m、深さ 0.04 m である。全体に浅く、底面は起伏に富んでいる。遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

#### SKj128 (第 111 図)

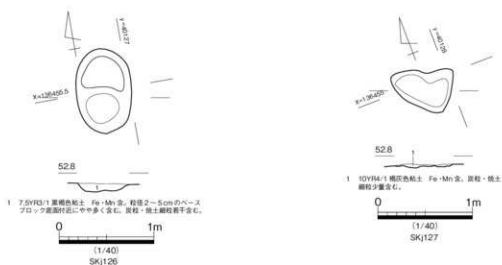
13 H グリッド中央で検出した。平面形は隅丸の三角形であるが、全体に丸みを帯びている。一辺 0.65 m 前後で、深さ 0.08 m である。東から西に向かって緩やかな段を形成しながら下っている。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SKj129 (第111図)

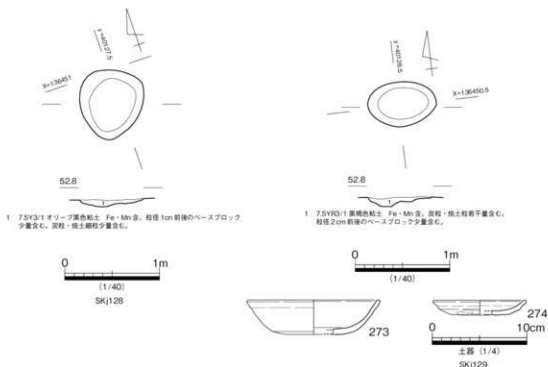
13日グリッド中央でSKj128の西側に隣接して検出した。平面形は楕円形で、長径0.71m、短径0.47m、深さ0.09mである。東から西に向かって段を形成しながら下っている。

273は土師器杯、274は瓦器小皿で口縁部を強くナデており、体部立ち上がり部外面には指押さえが顕著である。

出土遺物から中世(13世紀前半)の土坑である。



第110図 SKj126・127平・断面図(1/40)



第111図 SKj128・129平・断面図(1/40)、出土遺物(1/4)

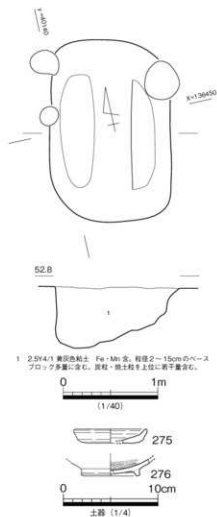


SKj130 (第112図)

13 Gグリッド西端から13 Hグリッドにかけて検出した。平面形は隅丸長方形で、長辺1.94 m、短辺1.28 m、深さ0.64 mである。西側は垂直に掘り込まれており、東側も垂直に近く0.26 mほど掘り込んだ後に起伏を持ちながら徐々に下って行く。底面の最深部は東側の下端付近に片寄っている。深さをもつ遺構であるが、埋土は黄灰色粘土の単一層である。

275は土師器小皿、276は黒色土器A類椀で、内面にはヘラミガキを施し、底部には断面方形の高台を外向きに貼り付けている。

出土遺物から中世(13世紀初頭前後)の土坑である。



第112図 SKj130 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

## 木棺墓

### STJ01 (第113～115図)

15 Hグリッド南端部で検出した。墓壇は隅丸長方形で、長辺1.55 m、短辺0.96 mである。残存する深さは0.55 mと深く、底面の標高は52.08 mで、垂直に近く掘り込まれている。底面は概ね平坦であるが、木棺が置かれた部分だけ0.03 mほど深く掘り込まれ、断面形は中央部分が凹字状に窪んだ方形になる。

埋土は上位の墓壇埋め戻し土、棺内埋土、棺裏込め土の3層に大別される。埋め戻し土はベース層のブロック土を多量に含んだ土壌で、墓壇掘削から棺埋納後直ちに埋め戻されている。また墓壇上面には、墓壇掘削土のうち少なくとも木棺分に相当する量が塚状に盛り上げられていたことであろう。

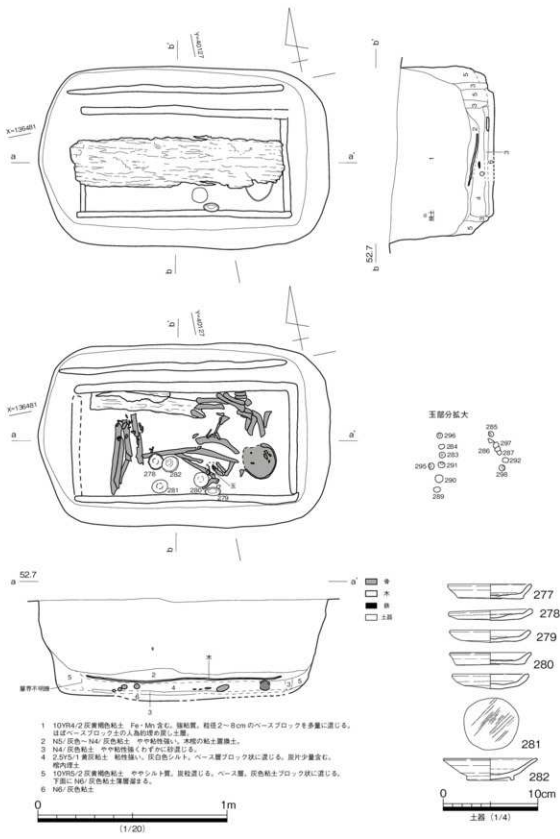
木棺は内法で長辺1.05 m、短辺0.51 m、残存する深さ0.10 mで、主軸方位はN 79°Wと東西主軸になる。棺は蓋板がかろうじて残存していたが、側板と底板は完全に腐食し、灰色粘土に置き換わっていた。蓋板木質部は長辺1.03 m、短辺0.28 mが残存していたのみで、長辺の左右側縁部は腐食して粘土に置き換わっていたが、粘土の範囲から棺の上面を覆っていたことがわかる。釘は確認されなかったため、蓋と側板の結合方法は不明である。側板は南北両長側板と東小口板は明瞭に確認できたが、西小口板は土層断面でも明瞭に確認出来なかった。上面で帯状に検出された灰色粘土と蓋板から西小口板を復元した。このため先の木棺の寸法は長辺の長さに若干の誤差を含むものである。また棺北東隅部の状況も不明瞭であったが、比較的明瞭に確認された南東隅部の状況から、長側板が小口板を挟む構造であったと復元する。底板は側板内側にのみ確認された。さらに木棺の北側に棺とほぼ平行して長さ1.15 mの板材が立てられていたことを確認した。埋土の状況から、棺埋納とほぼ同時に立てられたようだが、棺蓋板や側板はこの板材まで及んでおらず、棺主軸と僅かに方向も異なることから、棺とは別物と判断できる。墓壇の北半が弥生時代の大溝と重複しており軟弱な地盤であると判断したため、墓壇の崩落を防止する擁壁のような機能をもって設置されたと考えておく。

棺内で、頭部を東に向けて仰臥し膝を折り曲げて埋葬された人骨を1体検出した。人骨の残存状況は不良で、頭蓋骨と四肢骨の一部などが確認されたに過ぎない。人骨は成人男性(山口県土井が浜遺跡・人類学ミュージアム館長・松下孝幸氏の鑑定による)である。

副葬品はすべて棺内から出土した。腹部と想定される位置の南側で白磁皿(282)と土師器小皿(278～281)が内面を上に向けて出土した。土師器小皿のうちの3点(279～281)は棺側に落ち込むように出土したが、いずれも本来は遺体の上に据え置かれていたものであろう。また遺体の中央付近の白磁皿(282)の下から鉄製の短刀(301)が出土した。長さ31.1cm、刃部幅32cm、厚さ0.7cmのもので、茎を頭部側に、切先を足側に、刃は南に向けてほぼ遺体と平行に置かれていた。また頭蓋骨から西へ0.15～0.20 m離れたところにガラス製小玉が16点(283～293・295～299)出土している。小さな骨片を中心に玉が環状に近く出土したことから、紐を通して環状にして手首に巻かれていたようである。にぶい青緑色から劣化した白濁色のものがある。

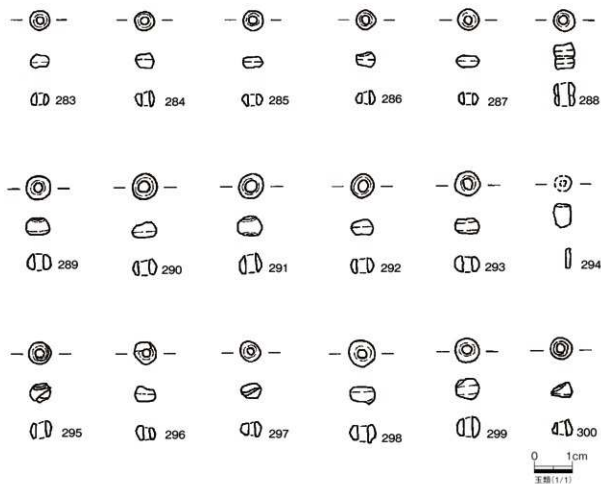
さらに木棺の下で墓壇底面に接して土師器小皿(277)が口縁部を下に伏せた状態で出土した。木棺の埋納前の儀礼的な意味をもって埋められたのであろうか。

出土遺物から中世(13世紀前半)の木棺墓である。

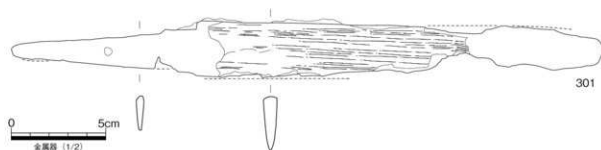


- 1 10YR4/2 灰青褐色粘土 Fe・Mn 含有。細粒質、粒径2〜8cmのベースブロックを多数に渡り、ほぼベースブロック上の人為的埋め戻し土層。
- 2 N5/ 灰色〜N4/ 灰色粘土 やや粘性强い。本塚の粘土層土。
- 3 N4/ 灰色粘土 やや粘性强くわずかに粒状。
- 4 2.5Y5.1 黄灰粘土 粘性強い。灰白色シルト。ベース層ブロック状に渡り、厚み少量含む。塚内土。
- 5 10YR5/2 灰青褐色粘土 ややシルト質。粒較細。ベース層、灰色粘土ブロック状に渡り、下部にN6/ 灰色粘土薄層層する。
- 6 N6/ 灰色粘土

第113図 STJ01 平・断面図 (1/20)、出土遺物 (1/4)



第114図 STj01 出土遺物 2 (1/1)



第115図 STj01 出土遺物 3 (1/2)

### STj02 (第116図)

15 Hグリッド南部で、STj01の北東部隣接して検出した。墓壙は隅丸長方形で、長辺1.62 m、短辺0.95 mである。残存する深さは0.27 mで底面の標高は52.28 mとSTj01と比べて0.2 mほど浅い位置に木棺が据えられている。四周とも垂直に近く掘り込まれており、底面はほぼ平坦であり、木棺の周囲に僅かな段が認められる。断面形は方形になる。

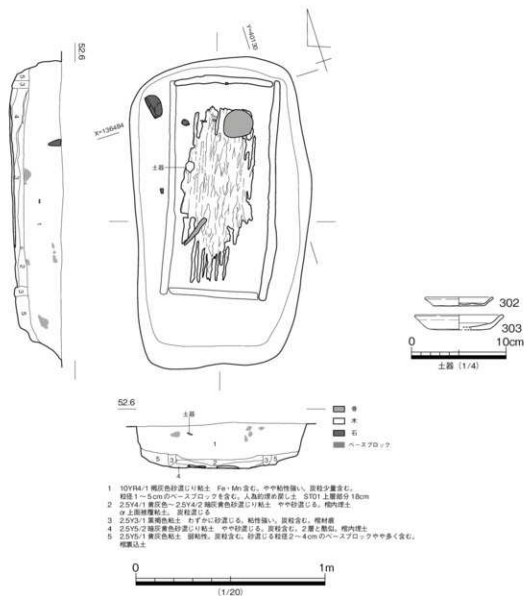
埋土は墓壙埋め戻し土、棺内埋土、棺裏込め土の3層に大別される。埋め戻し土はベース層のブロック土を多量に含んだ土壌である。全体として埋土はSTj01と酷似している。

木棺は内法で長辺1.10 m、短辺0.50 m、残存する深さ0.07 mで、主軸方位はN 20° Eと南北主軸になる。

STJ01とは直交に近い位置関係になる。棺は底板のみがcaろうじて残存していたが、側板と蓋板は腐食しており、側板の痕跡は確認できたが、蓋板は痕跡も確認出来なかった。側板は明瞭に確認でき、長側板が両小口板を挟む構造であった。底板は側板内側のみで確認できた。

棺内には頭部を北に向けて埋葬された人骨を1体検出した。顔は南の位置から西を向いている。頭蓋骨は比較的良好に残っていたが、他の骨は痕跡も確認できなかったため埋葬姿勢は不明である。

棺内埋土からは混入した土器の小片が出土したのみで副葬品はなかった。302は墓壇上面で出土した土師器小皿である。副葬品がないため正確な時期決定はできないが、302を墓壇の埋め戻し時の遺物とすることが出来るなら、302とSTJ01との類似性を考慮して、STJ01と相前後した時期である中世(13世紀前半)の木棺墓とする。



第116図 STJ02平・断面図(1/20)、出土遺物(1/4)

### STj03 (第 117・118 図)

13 J グリッド南部で検出した。墓壙は隅丸長方形で、長辺 1.52 m、短辺 0.98 m である。残存する深さは 0.27 m で底面の標高は 52.38 m と STj02 とほぼ同じ深さに木棺が据えられている。南側が若干緩やかながら、四周とも垂直に近く掘り込まれている。底面はほぼ平坦であり、断面形は方形になる。

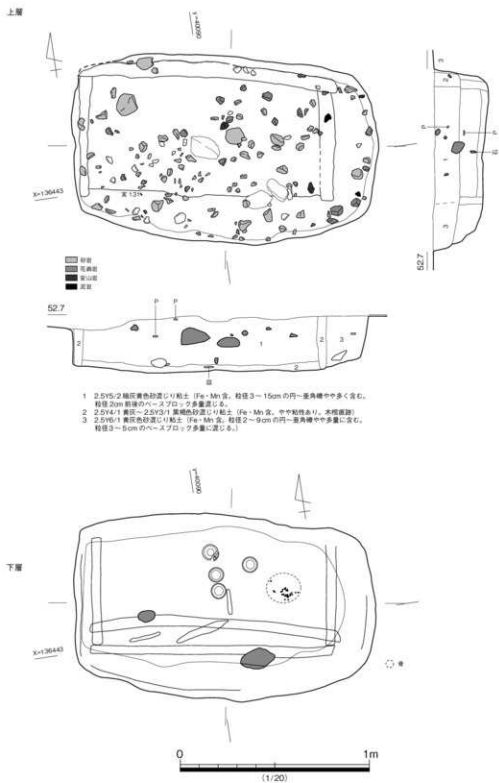
埋土は木棺痕跡の内部の埋土がベース層のブロック土や細礫を多量に含んでいることから墓壙の埋め戻し土と考えられ、蓋板の腐食に伴い陥没し棺内に流入したものである。早い段階で蓋板の腐食による陥没が起こったためか、明瞭な棺内埋土は確認されなかった。その他に棺裏込め土がある。

木棺は内法で長辺 1.22 m、短辺 0.57 m、残存する深さ 0.24 m で、主軸方位は N 82° W と東西主軸になる。木質は残っておらず、腐食して粘土化した痕跡での復元となる。それによると長側板が両小口板を挟む構造になる。木棺の位置は墓壙の北西に押し付けたような配置であり、北西隅は墓壙壁に接しており、北側と西側の側板も墓壙壁と至近距離にある。

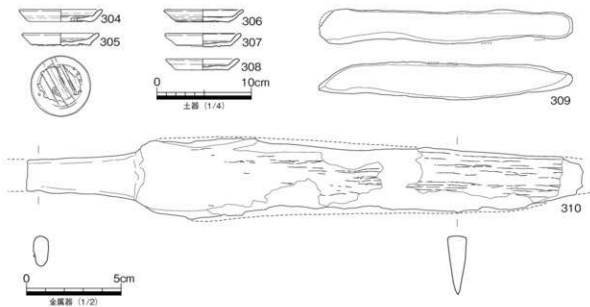
棺内の東小口板から西へ 20cm 前後の場所に骨片が集中していたが、位置的に頭部に相当するもので STj01 と同様に東枕になる。他の骨は痕跡も確認できなかったため埋葬姿勢は不明である。

棺中央部分で遺体の腹部が想定される位置で、土師器小皿 (304・305・307・308) が、その南側で切先を東に向けた鉄製の短刀 (310) と不明鉄製品 (309) が出土した。また東小口板と墓壙壁の間の棺裏込め土からはほぼ完形の土師器小皿 (306) が出土した。木棺の埋納時の遺物である。

出土遺物から、中世 (13 世紀前半) の木棺墓である。



第 117 図 STj03 平・断面図 (1/20)



第118図 STJ03出土遺物 (1/2)

#### 焼成遺構

#### SFj01 (第119図)

14 I グリッド南西隅で検出した。上部は削平されているものの、平面形は隅丸長方形に北側が山状に突出し、南側には溝状の突出が取り付く形状である。北側の突出部を含んだ南北の長さは2.31 m、幅0.90 m、深さは北側で0.17 m、中央部分で0.06 mである。主軸方位はN 9° Wである。床面の北側端部は突出部分に対応するように小土坑状に深く掘り込まれている。北側のこの部分を除けば床面はほぼ平坦で、緩やかに南に向かって上がっている。床面の北側の小土坑部分付近には浅い窪みのような小穴が複数認められる。

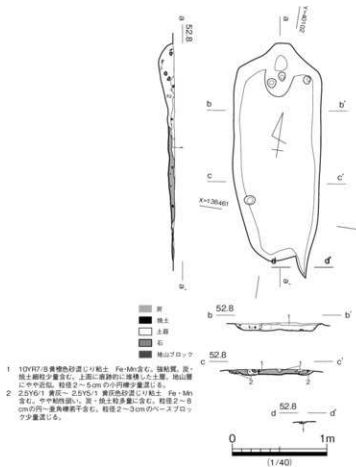
埋土は3層に分層され、上層は黄橙色砂混じり粘土で、薄く上部に堆積している。北側の木口部分を中心に黄灰色砂混じり粘土が堆積しており、炭化材や焼土が多量に含まれている。またベース土のブロックも少量含まれている。また中央から南小口部にかけては炭層で、直径3cm前後の小枝程度の丸太材を少々含み、さらに直径7cm前後の丸太材をみかん割りしたような材も見られた。出土した材はクスギである。

以上の状況から、SFj01は薪炭を生成した炭窯と考えるのが妥当である。遺物は土器の細片が少量出土したのみであるが、中世(13世紀中頃)のものである。

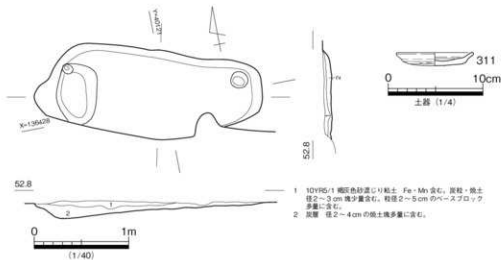
#### SFj02 (第120図)

12 Hグリッドから12 Iグリッドにかけての、調査区南壁部分で検出した。上部は削平されているものの、平面形は隅丸長方形に西側が山状に突出している。西側の突出部を含んだ東西の長さは2.42 m、幅0.92 m、深さは西側で0.18 m、中央部分で0.08 mである。主軸方位はN 80° Wである。床面の西側端部は突出部分に対応するように小土坑状に深く掘り込まれている。西側のこの部分を除けば床面はほぼ平坦で、緩やかに東に向かって上がっている。床面の東西には浅い窪みのような小穴が認められる。埋土は上下2層に分層され、上層は褐灰色砂混じり粘土で、西半部に堆積している。下層は全体に炭層





第119図 SFJ01 平・断面図 (1/40)



第120図 SFJ02 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

で、炭化材とともに焼土も含まれている。

311は土師器小皿で体部を強くナデしており、底部は全体に肥厚している。

SFj02はSFj01と規模や構造、埋土も酷似しており、SFj01と同様に炭窯と考えられ、出土遺物から中世(13世紀中頃)のものである。

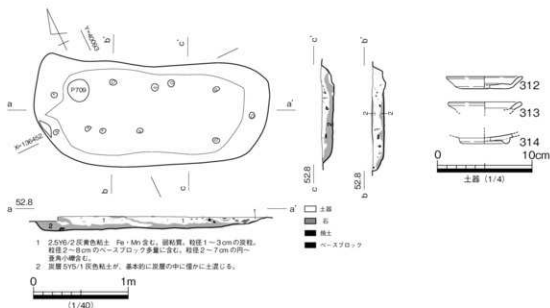
### SFj03 (第121図)

13 J グリッド中央で検出した。上部は削平されているものの、平面形は隅丸長方形に近いが、西隅は湾曲が強く、北東の長辺は内湾している。北西-南東の長さは245 m、幅1.10 m、深さは0.13 mである。主軸方位はN 64° Wである。床面は平坦であるが、北西から南東に向かって緩やかに上がっており、小口部に土坑状の掘り込みは見られない。また床面の小穴は多数認められる。

埋土は上下2層に分層され、上層は灰黄色粘土で、ベース土のブロックを多く含んでいる。下層は全体に炭層であり炭化材や焼土を含み、この炭層は上層に筋状に貫入している。

312-313は土師器小皿で、このうち313は下層の炭層から出土している。314は十瓶山産須恵器碗で、幅広の高台を貼り付けている。

SFj03は床面の小口部の小土坑は認められないものの、SFj01・02と規模や構造、埋土も酷似しており、SFj01・02と同様に炭窯と考えられ、出土遺物から中世(13世紀前半)のものである。



第121図 SFj03平・断面図(1/40)、出土遺物(1/4)

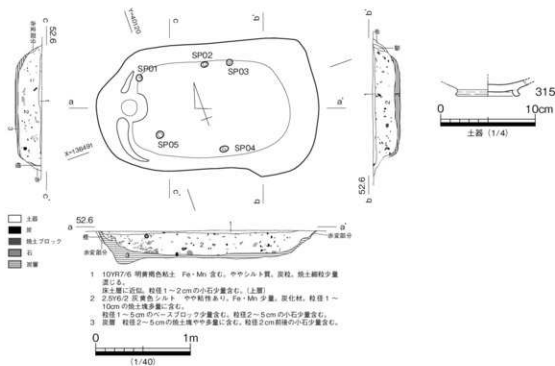
## SFj04 (第122図)

15 Hグリッドから15 Iグリッドにかけての中央部で検出した。平面形は隅丸長方形に近いが、西側部分は全体に丸みを帯びており、南東部分はコーナー付近が突出して幅広になっている。東西の長さは232 m、幅1.30～1.45 m、深さは西側で0.35 m、中央部分で0.30 mで比較的残存状況が良い。主軸方位はN 71° Wである。床面の西端部には西辺の丸みの頂部に対応するように小土坑が深く掘り込まれている。床面は平坦で浅い窪みのような小穴が複数認められる。東西の掘り込みは45°程度であるが、南北の長辺部分に比べて緩やかである。

埋土は3層に分層され、上層は明黄褐色粘土で、薄く全体に堆積している。中層も全体に灰黄色シルトが堆積しており、炭化材や焼土が多量に含まれている。下層は炭層で、床面と西側の土坑状落ち込み全体が覆われている。被熱により赤変した部分が床面の小土坑周辺と床面から13cmほど上部の壁面で認められたが、特に壁面部分で顕著である。

315は中層から出土した土師器碗である。外向きの断面方形の高台を貼り付けている。

SFj04はSFj01～03と規模や構造、埋土も酷似しており、SFj01～03と同様に炭窯と考えられ、出土遺物から中世(13世紀前半)のものである。



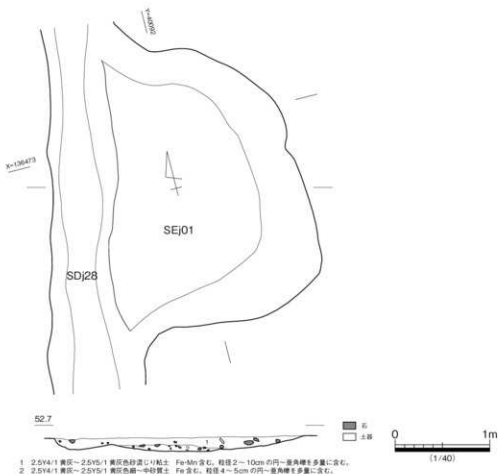
第122図 SFj04平・断面図(1/40)、出土遺物(1/4)

## 井戸状遺構（土坑）

### SEj01（第123図）

14 J グリッド中央で検出した。平面形は方形に近いが北西部分は角がなく、西側部分はSDj28に取り付いている。南北2.94 m、東西はSDj28を除外した部分で2.24 m、深さ0.16 mである。SDj28と合わせた東西方向の断面は、SEj01とSDj28との境に盛り上がりがあることから、同時併存ではなく前後関係があるものである。SDj28の埋土がSEj01を覆っていることと、SDj28の西側が乱れることなく通り、SEj01の西側がSDj28の西側に及ばずSDj28の幅の中で本来は取東していたと考えられることから、SEj01はSDj28に先行するものである。SDj28の流れが溢れてSEj01の窪みに及んだものと考えられる。検出時にはその大きさから深くなり井戸になるものと想定して遺構名を付けたが、上部が削平されているとしても浅い落ち込み状であり、湧水も認められないことから井戸の機能はない。

遺物は土器の細片が少量出土したのみで時期決定は困難であるが、埋土の状況や13世紀前半のSDj28に先行することから、それ以前の中世の遺構とする。



第123図 SEj01 平・断面図 (1/40)

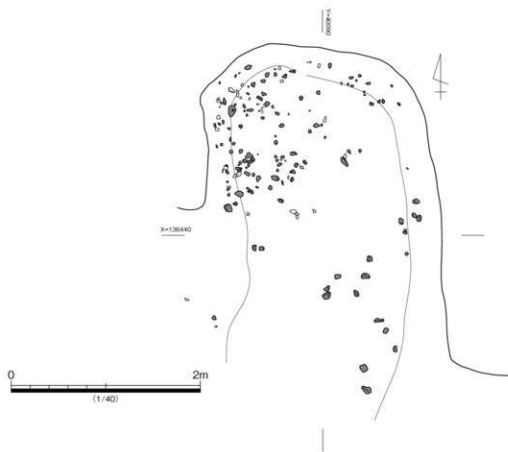
## SEj02 (第124・125図)

12 Jグリッドから13 Jグリッドにかけての調査区南壁際で検出した。南側部分は調査区外なるため全形は不明であるが、隅丸長方形になるものと思われる。また調査区壁際ではSDj32により上部を削平されている。検出部分で長辺3.34 m、調査区南壁部分まで含めると3.90 m、短辺2.45 m、深さ0.42 mである。掘り込みは全体にほぼ同じ角度であり、底面は緩やかに中央に向かって下っている。

埋土は4層に分層され、最下層には0.05～0.10 mほど砂が堆積している。その上の0.30 mほどの厚さの褐灰色砂混じり粘土層中には3～25cmの円礫と角礫が多量に含まれ、全体に敷き詰めてられているがその配置には規則性は認められず、礫を敷き詰めた意図は不明である。この礫層を上部2層で覆っているが、この上部2層には小礫が散見されるが、下部の礫層とは異なり単に混入した状況である。

316・317は下層の礫に混じて出土したもので、316は足釜、317は平瓦で凸面には縄目タキを施しているが、礫とともに古い時期のものが混入したものである。

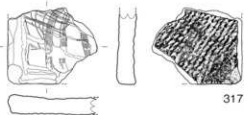
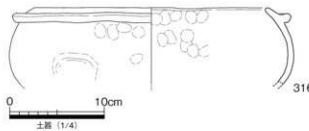
出土遺物のうち316は時期決定が難しいが、13世紀前半のSDj32に先行することから、それ以前の中世の遺構とする。



第124図 SEj02上層平面図(1/40)



- 1 25Y5-2緑灰色粘質土 Fe・Mnを含む。炭粒含む。  
粒径2～7cmの円～五角礫少量含む。
- 2 25Y4/1黄灰色砂質じり粘土 Fe・Mn含む。灰・焼土礫粒若干含む。  
粒径2～5cmの円～スブの礫少量に混じる。
- 3 10YR5/1褐色粘質じり粘土 Fe・Mn含む。やや粘結層。  
粒径3～25cmの円～五角礫多量に含む。少イブライ化。
- 4 10YR7/4濃い黄褐色砂～中砂 Fe含む。粒径2～6cmの円～五角礫少量含む。



第 125 図 SEJ02 下層平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

溝状遺構

SDj01 (第126図)

13 Kグリッドから13 Lグリッドにかけての調査区南西隅で検出した。検出長19 m、幅は確認できる最大幅で約2 m、残存深度は0.15 mを測る。主軸方位は周辺の地割軸とほぼ合致しており、N 73° Wを測る。埋土は概ね2層に分層出来、2層にはベース土をブロック状に含む。

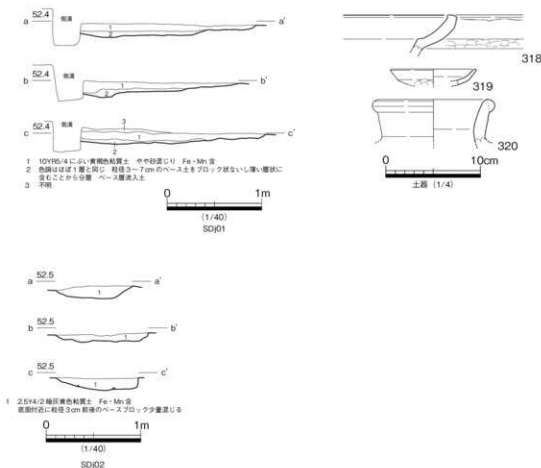
須恵器・土師器の小片と共に、318の土師質鍋、319の瓦器小皿、320の備前焼壺が出土している。320は口縁部端部に粘土を加えて玉縁状にしている。

出土遺物から中世(14世紀中頃)を下限とした溝である。

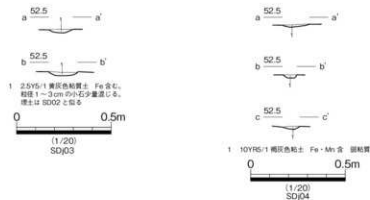
SDj02 (第126図)

13 Kグリッドから13 Lグリッドにかけての調査区南西隅で検出した。検出長17 m、幅は確認できる最大幅で約1 m、残存深度は0.13 mを測る。主軸方位は周辺の地割軸とほぼ合致しており、N 78° Wを測る。埋土は単層で、底面付近で粒径3 cm程度の地山ブロックが少量確認できる。

遺物は出土していないが、東側に隣接して直交するSDj07・08との関係から中世末から近世初頭にかけての溝とする。



第126図 SDj01・02 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第 127 図 SDj03・04 断面図 (1/20)

#### SDj03 (第 127 図)

13 L グリッド北端で検出した。検出長 5.8 m、幅は最大幅で約 0.3 m、残存深度は 0.04 m を測る。主軸方位は周辺の地割軸とはほぼ合致しており、N 78° W を測る。埋土は単層で、SDj02 のものと似る。粒径 1 ~ 3 cm の小礫が若干混じる。

溝の方向や埋土の状況から中世の溝とする。

#### SDj04 (第 127 図)

14 L グリッド南端で検出した。検出長は断片的ながら 6.2 m、幅は最大で約 0.15 m、残存深度は 0.04 m を測る。主軸方位は SDj03 と平行し、N 78° W を測る。埋土は単層である。

溝の方向や埋土の状況から中世の溝とする。

#### SDj05 (第 128 図)

13 K グリッドから 14 K グリッドにかけて検出した。検出長は 12.2 m、幅は最大幅で 0.2 m、残存深度は約 0.04 m を測る。主軸方位は N 78° W を測る。埋土は単層で、炭化物・焼土の細粒を含むほか、粒径 1 ~ 2 cm の地山ブロックを少量含む。

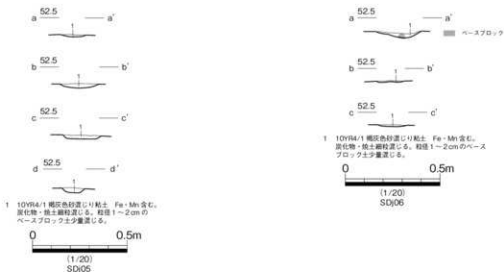
溝の方向や埋土の状況から中世の溝とする。

#### SDj06 (第 128 図)

14 K グリッドで検出した。検出長は 3 m、幅は最大で約 0.25 m、残存深度は約 0.5 m である。主軸方位は SDj05 に直交し、N 78° W を測る。埋土は単層で、炭化物・焼土の細粒を含むほか、粒径 1 ~ 2 センチの地山ブロックを少量含む。

溝の方向や埋土の状況から中世の溝とする。





第 128 図 SDj05・06・断面図 (1/20)

#### SDj07・08 (第 129 図)

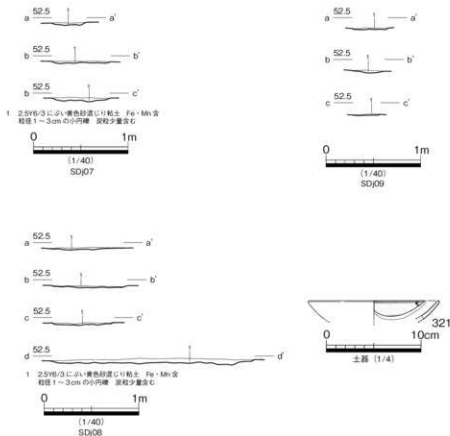
13 K グリッド西半で検出した。検出長は SDj07 が 6.6 m、SDj08 が 8 m を測り、幅は前者が最大で 0.6 m、後者は最大で 0.8 m である。残存深度は前者は約 0.04 m、後者は 0.02 m である。主軸方位は SDj02 と直交し、N 78° W を測る。北端で隣接する SDj08 と接続する。この部分は約 2.2 m 四方の方形の溜り状を呈しており、そこに両溝が接続する形状となる。現状ではここが北限となり、南進する溝として見ることが出来る。

出土遺物は須恵器・土師質土器の小片が主体であるが、321 の染付の皿が出土しており、この遺物の帰属時期から近世の移行期の溝である。

#### SDj09 (第 129 図)

15 K グリッド南西部で検出した。検出長は 6.8 m を測り、幅は最大で 0.36 m である。残存深度は 0.03 m である。主軸方位は N47° E を測る。

遺物は細片しか出土しておらず、溝の方向も周辺遺構と異なることから時期は不明である。



第 129 図 SDj07～09 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

### SDj10 (第 130 図)

14H グリッド西部で検出した。検出長約 16 m を測り、幅は最大で 1.85 m である。残存深度は約 0.14 m である。主軸方位は N7° E を測る。埋土中に地山ブロックが含まれ、人為的な埋め戻しが想定できる。その混入状況は一様ではなく、溝の岸近くであったり底面付近であったりとまちまちである。出土遺物は須恵器・土師質土器などの小片を主体とし、時期を把握できるものは限られる。322 は土錘、323 は和泉型瓦器小皿である。口縁部を強くナデており、体部外面には指押さえが顕著である。324 は平瓦である。

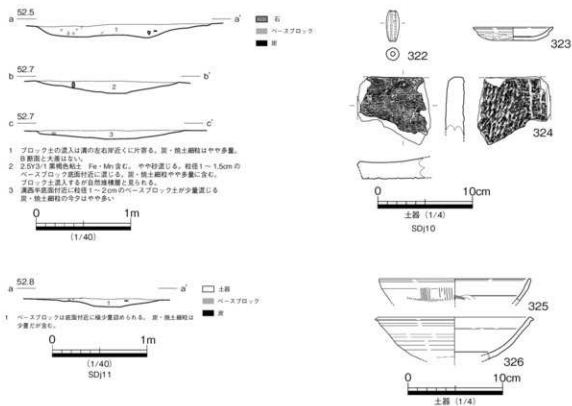
出土遺物から中世 (12 世紀後半頃) の溝である。

### SDj11 (第 130 図)

13 H グリッド北端で検出した。SDj10 との交点から東に向かい約 10 m で不明瞭になる。SDj10 との前後関係は不明瞭であるが、後述するように出土遺物からは後出するものである。幅は最大で 1.29 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は約 0.1 m である。主軸方位は N 80° W を測る。埋土は地山ブロック土を僅かに含むほか、炭化物・焼土の細粒を含む。

325 は青磁碗、326 は白磁碗である。このほかに須恵器・土師器の小片が出土した。

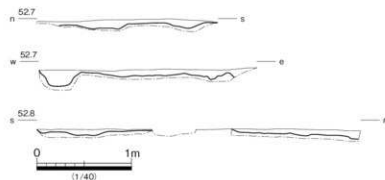
出土遺物から中世 (13 世紀前後) の溝である。



第130図 SDj10・11 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

### SDj12 (第131図)

13 Hグリッド北西部で検出した。検出長約 5.2 m、幅は最大 1.2 m、残存深度は 0.16 m である。主軸方位は N 7° W を測る。時期は不明である。

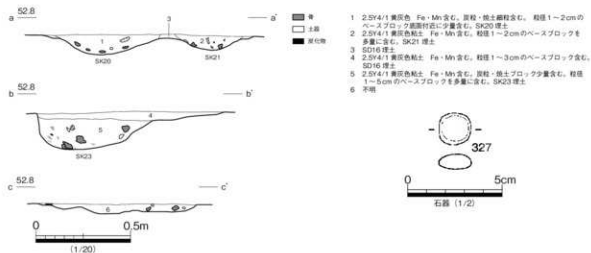


第131図 SDj12 断面図 (1/40)

### SDj16 (第132図)

12 I グリッド北東で検出した。SKj23を削り込んで掘削され、SDj16の埋没後にSKj20～22がその上部から掘り込んでいる。検出長6.8 mを測り、幅は最大で1.2 mを測る。断面形状は不整形な浅い皿状を呈し、残存深度は0.1 mである。主軸方位はN 25° Eを測る。北端でSXj08と接合する。

327は黒色チャート製の基石である。土器は出土していないが、埋土の状況から中世の遺構とする。



第132図 SDj16断面図(1/20)、出土遺物(1/2)

### SDj18 (第133図)

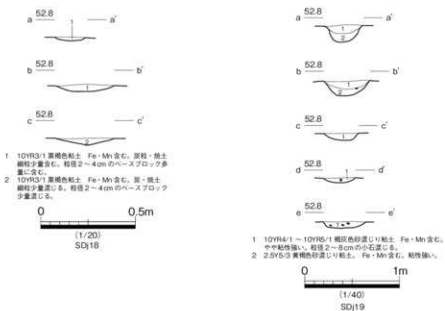
12 I グリッドの北東部で検出した。直線的な溝で、検出長は11.8 mを測り、幅は最大で0.4 mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は0.04 mである。主軸方位はN 18° Eを測る。埋土は黒褐色粘土で、地山ブロック土を含む。SDj16西側に並走して掘削される。底部のレベルは北へ緩やかに下り、北端でSXj06と接合する。相互に切り合い関係を認められず、同時並存の遺構と判断した。

直接時期決定出来る遺物はないが、SXj06の時期から中世(13世紀後半)の溝である。

### SDj19 (第133図)

12 J グリッド、13 I グリッド、14 I グリッドにかけて検出した。直線的な溝で、南側は調査区外に続き、北側は14 I グリッド中央付近でクランク状に屈曲したのち北に向かい収束する。検出長は39.2 mを測り、幅は最大で0.5 mを測る。断面形状は浅い皿状から碗状を呈し、残存深度は0.05～0.18 mである。主軸方位はN 24° Eを測る。埋土は北半と南半で異なっており、前者が単層であるのに対し、後者は2層に分層できる。部分的ながら底部に砂質土の堆積が認められ、流水下の堆積であると判断できる。底部のレベルは北から南へ下がる。

溝の方向や埋土の状況から中世の溝とする。

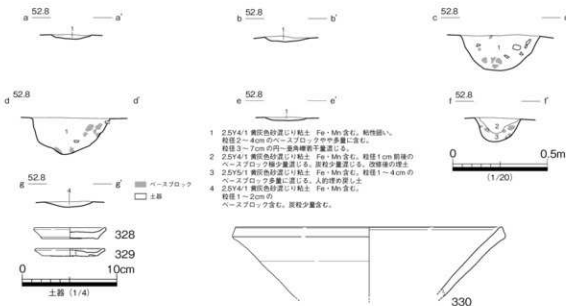


第133図 SDj18・19 断面図 (1/20・1/40)

SDj20 (第134図)

13 I グリッド西半部で検出した。検出長は14.2 mを測り、幅は最大で0.5 mを測る。平面形は東側に向かって開く「コ」の字状を呈する。主軸方位はN 20° Eを測る。断面形状は浅い皿状を呈する部分と碗状を呈する部分が認められ、残存深度は0.02～0.19 mを測る。「コ」の字の角部が浅く、辺の中心が深く掘削される傾向が認められ、排水などの機能よりも、区画施設的な性格が想定できるが、この内側の部分について区画に合う建物は復元出来ない。

328・329は土師器小皿で底部は肥厚している。330は須恵器捏鉢で口縁部端部は外側に平坦な面をもつ。出土遺物から中世(13世紀後半)の溝である。

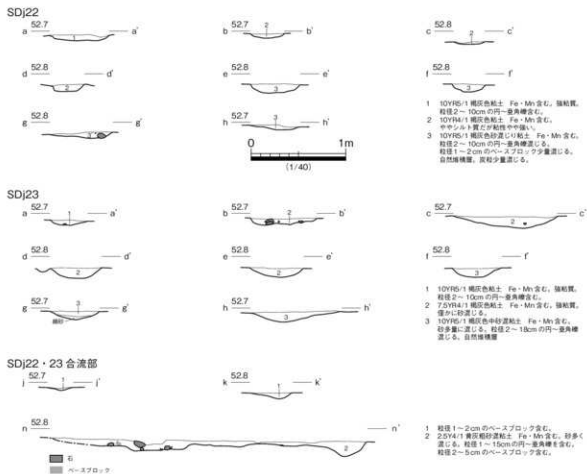


第134図 SDj20 断面図 (1/20)、出土遺物 (1/4)

### SDj22・23 (第135図)

14 I グリッド北西部で検出した。検出長はSDj22が17.1 m、SDj23が20.8 mを測り、幅はそれぞれ最大で0.6 mと1.1 mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度はそれぞれ0.02～0.10 mと0.05～0.10 mを測る。それぞれが概ねN 57° Wの方向に主軸を取る。東端では両者が接合する。後述するSDj27と重複しており、その埋没後に残存した窪地の中を流下した溝と判断できる。

時期決定は困難であり、弥生時代後期後半以降の溝としか言えない。



第135図 SDj22・23 断面図 (1/40)

### SDj27 (第136～139図)

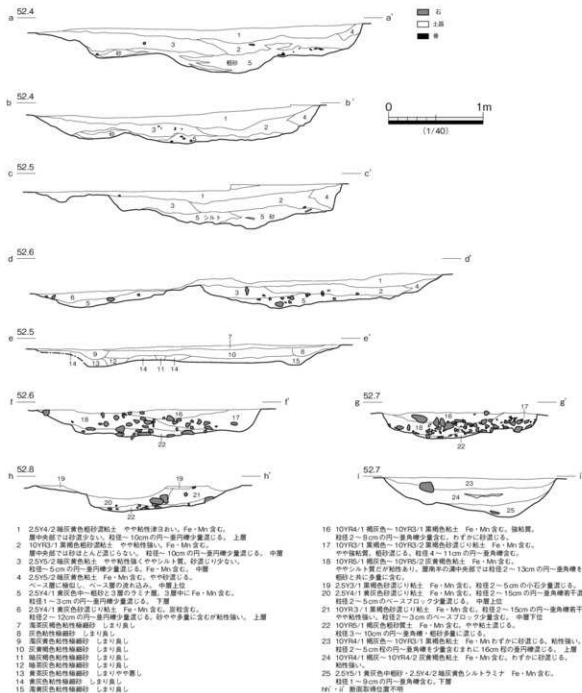
16 K グリッドから13 G グリッドにかけて調査区の西端中央付近から南東部にかけて、ゆるやかに蛇行しながらほぼ東西に調査区を横断する溝である。最大長約107 m、幅は1.5～3.8 mである。断面形状は皿状を呈し、残存深度は0.2～0.45 mを測る。埋土は上層が粘土質を中心に、下層が砂層を中心に堆積する傾向にある。このことから溝機能時は旺盛な流水環境にあったものが、溝底絶に伴い緩やかな堆積環境に変化したものと考えられる。また東側部分には埋土に礫を含む箇所が多くなっている。東から西へ向けて溝の底部レベルが下がっており、この方向へ流下していると考えられる。逆に上流側へ延伸した先には、既往の報告遺構 S R a 02 をはじめとする大型河川跡が存在する。ここから、あるいはさらに南側で取水された水を西側の耕作地へ向けて配水するための基幹水路としての機能が想定でき

る。

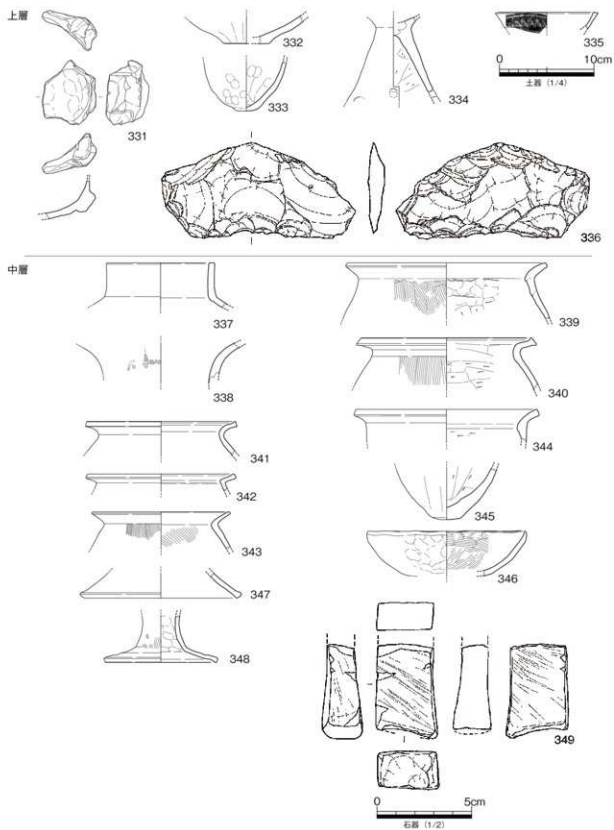
遺物は弥生土器を中心に出土しており、長頭壺・広口壺・甕・鉢・鉢・高坏などが出土している。

331は把手付片口鉢で、断面方形で横長の把手を貼り付けている。335は上層埋土中に混入した須恵器ハソウの口縁部である。

出土遺物から、弥生時代後期後半の溝である。



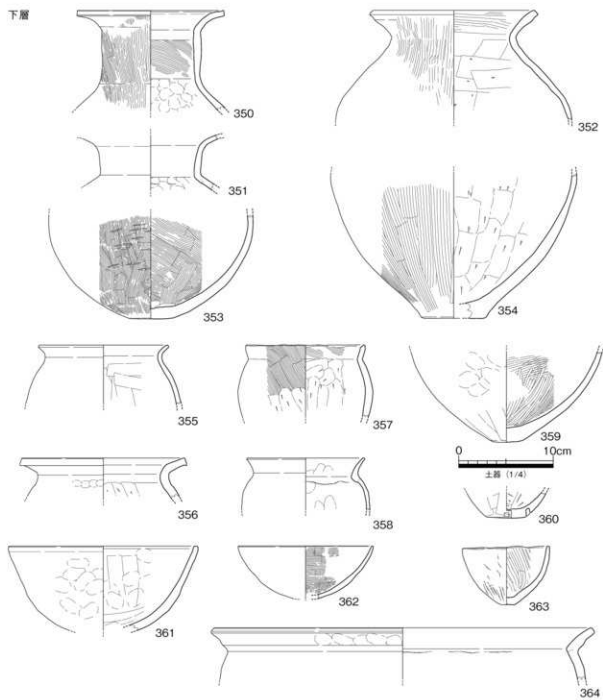
第136図 SDJ27断面図(1/40)



第 137 図 SDJ27 出土遺物 1 (1/4・1/2)

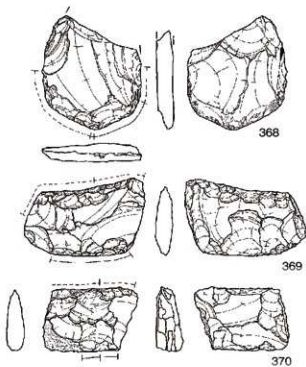
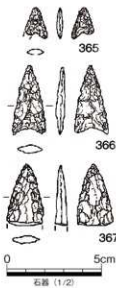


下層



第138圖 SDj27 出土遺物2 (1/4)

下層



最下層



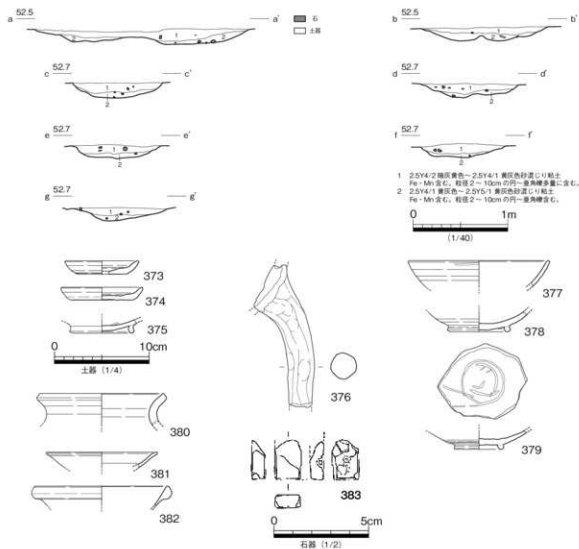
第 139 図 SDj27 出土遺物 3 (1/2)

SDj28 (第140図)

13～15 Jグリッドの調査区中央付近の南半部で検出した。直線的な溝で、検出長は42.2 mを測り、幅は最大で2.3 mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は0.15 mを測る。主軸方位はN 13° Eで、南端付近でSD32が、北端付近でそれぞれ西へ分岐する。この溝を境にして2つの遺構密集帯が形成されており、これが屋敷地を区画するための施設として機能していたと考えられる。西側へ延びる2条の溝も、途中で途切れているがそれぞれ屋敷地の北限・南限を区切る機能を持っていたと見ておきたい。

出土遺物は須恵器・土師質土器などが主に小片で出土しており、これに白磁などの輸入陶磁の小片が加わる。373・374は土師器小皿、375は土師器碗である。376は土師器足釜で溝埋土下層からの出土である。377～378は須恵器碗、381は白磁皿、382は白磁碗で口縁部は玉縁になる。383は石製の巡方でSDj32との合流部付近で出土した。

出土遺物から中世(13世紀前半)の溝である。

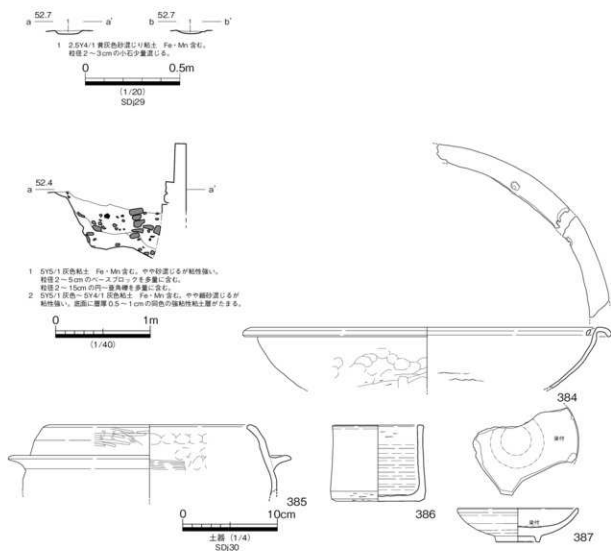


第140図 SDj28断面図(1/40)、出土遺物(1/4・1/2)

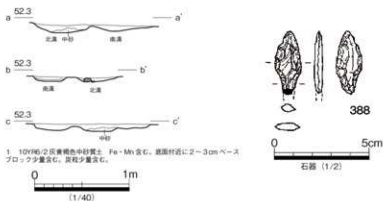
SDj29 (第141図)

13 J グリッド西端部で検出した。検出長は4.6 mを測り、幅は最大で0.12 mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は0.02 mほどと浅い。主軸方位はN 13° Eで、SDj28と同方位である。

溝の方向や埋土の状況から中世の溝とする。



第141図 SDj29・30 断面図 (1/20・1/40)、出土遺物 (1/4)



第 142 図 SDj31 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/2)

### SDj30 (第 141 図)

13 L グリッド中央付近の調査区南西隅で検出した。平面形の東西両端及び南半分が対象地外へ延びており、全容は不明である。検出長 6.6 m、最大幅 0.9 m、主軸方位は N 78° W である。残存深度は約 0.7 m を測り、確認できる範囲では断面形状は箱型を呈する。上層は地山ブロック土及び礫を多量に含み、人為的埋め戻しがなされたことを窺わせる。下層は砂質土を含むものの、緩やかな堆積による埋没を想定させる堆積状況である。

出土遺物は羽釜 (385)・焙烙 (384)・染付皿 (387)・陶器碗 (386) を含み、出土遺物から近世の溝であると判断できる。

### SDj31 (第 142 図)

13 L グリッド中央付近の調査区南西隅で SDj30 の北側に隣接して検出した。検出長は 10.5 m を測り、最大幅は 1.4 m、主軸方位は N 75° W である。溝の西端部付近で北西方向に湾曲している。断面形状は中央部分が盛り上がる浅い皿状を呈しており、両者がそれぞれ別の溝として掘削された可能性もある。それぞれの溝が部位によって下位に砂質土の堆積を認め、共に流水の環境下にあったことを裏付けるといえる。

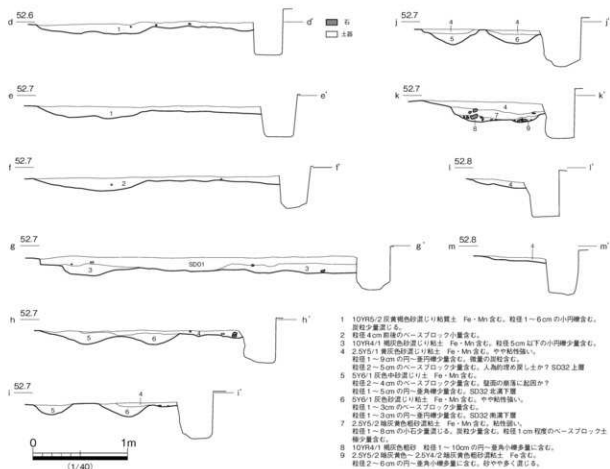
方向や埋土の状況から中世の溝とする。

SDj32 (第143図)

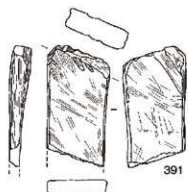
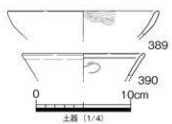
12 J・13 J・13 K グリッドに続き、調査区南壁付近で検出した。検出長は 31.1 m を測り、最大幅は 1.3 m を測る。主軸方位は N 75° W で、SDj28 とは直交し、交点部分の東側でやや湾曲するがその後はまた同じ方位になる。断面形状は浅い皿状を主体とするが、北側に浅い芯を持つ箇所と中州状の盛り上がりを見せるところが認められる。埋土は上層を共通とするが、中州状に区切られた南北に分かれる芯の埋土には差が認められ、掘削の時期に差があったことが想定できる。

389 は黒色土器 A 類椀、390 は青磁碗である。391 は流紋岩製の砥石である。

出土遺物と SDj28 と埋土が共通で同時期であることから、中世 (13 世紀前半) の溝である。



- 1 10YR5/2 黄褐色粘砂じり粘土 Fe・Mn 含有、粒径 1～6 cm の小円礫含む、炭粒少量混じる。
- 2 粒径 4 cm 前後のベースブロック少量含む。
- 3 10YR4/1 褐色粘砂じり粘土 Fe・Mn 含有、粒径 5cm 以下の小円礫少量含む。
- 4 2.5Y5/1 黄褐色粘砂じり粘土 Fe・Mn 含有、やや粘性強い、粒径 1～9 cm の円～多角礫少量含む、炭量の炭粒少量、粒径 2～6 cm のベースブロック少量含む、A 層位の黄しまか? 60332 上層
- 5 5Y6/1 灰赤中粘じり土 Fe・Mn 含有、粒径 2～4 cm のベースブロック少量含む、壁面の崩壊に起因か? 粒径 1～5 cm の円～多角礫少量含む、60332 表下層
- 6 5Y6/1 灰赤粘じり粘土 Fe・Mn 含有、やや粘性強い、粒径 1～3 cm のベースブロック少量含む。
- 7 2.5Y5/2 暗灰黄褐色粘砂土 Fe・Mn 含有、粘性強い、粒径 1～8 cm の小石少量混じる、炭粒少量含む、粒径 1 cm 程度のベースブロック土礫少量含む。
- 8 10YR4/1 褐色粘砂 粒径 1～10 cm の円～多角小礫多量に含む。
- 9 2.5Y5/2 暗灰黄褐色粘砂土 Fe・Mn 含有、粒径 2～6 cm の円～多角小礫多量に含む、砂や中よく混じる。



第143図 SDj32 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

### SDj33 (第144図)

15 Kグリッド北西部の調査区西端部分で検出した。検出長11.8 m、最大幅0.4 mを測る。断面形状は浅い皿状で、残存深度は最深部でも0.06 m程度である。主軸方位はN 67° Wを測る東西方向溝である。

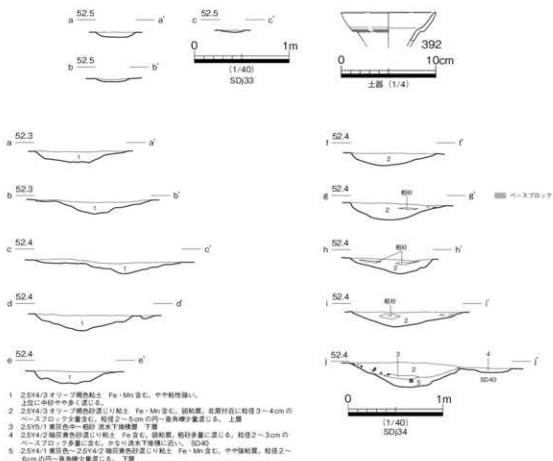
出土遺物はあまり多くなく、図化できたものに須恵器ハソウの口縁部がある。

出土遺物から古墳時代(6世紀後半)の溝である。

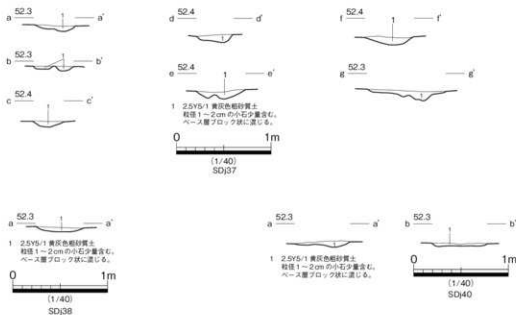
### SDj34・37・38・40 (第144・145図)

15 J・16 J・16 Kグリッドで調査区北西部で検出した。SDj34は検出長約32 m、最大幅は約1.5 mを測る。断面形状は浅い皿状で、残存深度は最深部で0.25 mを測る。埋土は砂質が主体となる部分と粘質が主体となる部分が共に認められ、流・滞水下の環境にあったことが窺える。底部のレベルが概ね標高52.1 m付近で揃うことから、これらの溝がそれぞれ別の溝として機能したというよりも、掘り直しが行われたのち、後世の削平を受けたと考えられる。また、後述するSDj54も底部のレベルは揃うことから、溝の規模から見て、SDj34・37・38・40はSDj54の枝溝としての機能を持っていたと考えられる。

SDj54の時期から弥生時代中期後半～後期後半の溝である。



第144図 SDj33・34 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第 145 図 SDj37・38・40 断面図 (1/40)

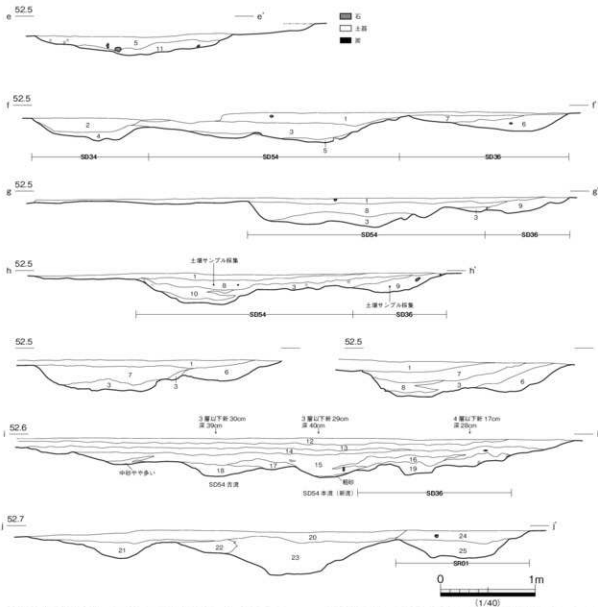
#### SDj36・54 (第 146～148 図)

14G・14 H・15 H・15 I・15 J・16 I・16 J にかけての調査区の北半部で検出した。検出長は約 79 m、最大幅は 5.75 m を測る。東西方向に緩やかに S 字状に蛇行し、西側は SDj27 に合流し、東側は調査区外へ続いてゆく。断面形状はやや深い皿状で、残存深度は最深部で約 0.5 m を測る。埋土は上部に中世以前の面を覆う包含層が被っており、その下に本来の埋土が堆積する。SDj54 は概ね上層に粘質土が、下層で砂質土がそれぞれ堆積する傾向にあるが、SDj36 はほぼ粘質土からなる堆積で占められる。底部で部分的に砂質土の堆積が認められることから、一時は流水環境下にあったと考えられる。堆積環境から見て、この 2 条の溝は SDj36 が先行し、後に SDj54 が掘削されたことがわかる。底部のレベルが前者は標高 522 ～ 523 m 付近であるのに対し、後者が 521 m 付近と若干低い。掘削された位置は極めて近接していることから、本来 SDj36 として掘削された溝が何らかの理由で機能しなくなり、SDj54 が再度掘削されたものと考えられる。

出土遺物はあまり多くないが、弥生土器が若干と石器が出土している。394 ～ 400 は SDj36 から出土したものである。393 はサヌカイト製の石槍、400 は流紋岩製の磨製石砲丁で刃部には擦痕が顕著である。401 ～ 418 は SDj54 から出土したものである。401・405・406 は口縁部外面に凹線文を施している。408 はサヌカイト製の石槍、417 は打製石斧の基部、418 は大型蛤刃石斧である。

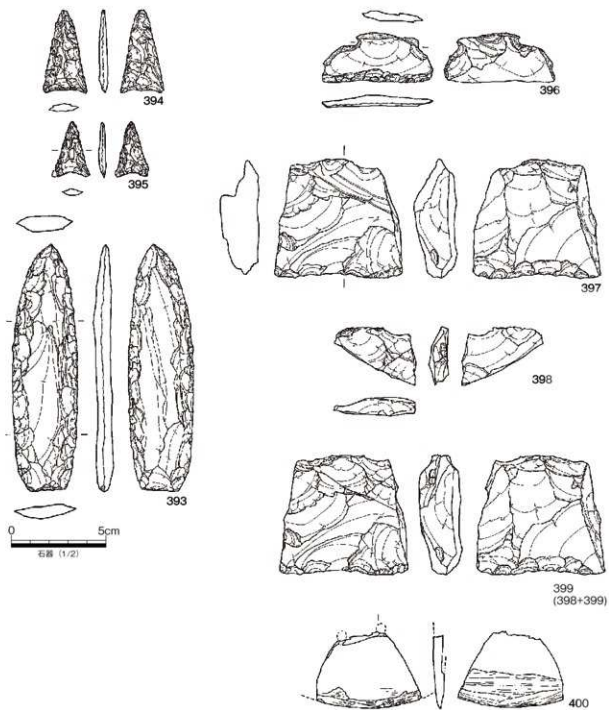
図示した土器は弥生時代中期後半のものであるが、弥生時代後期後半の遺物も含み、西側で弥生時代後期後半の SDj27 と合流することから、弥生時代中期後半に開削され、後期後半まで継続する溝である。



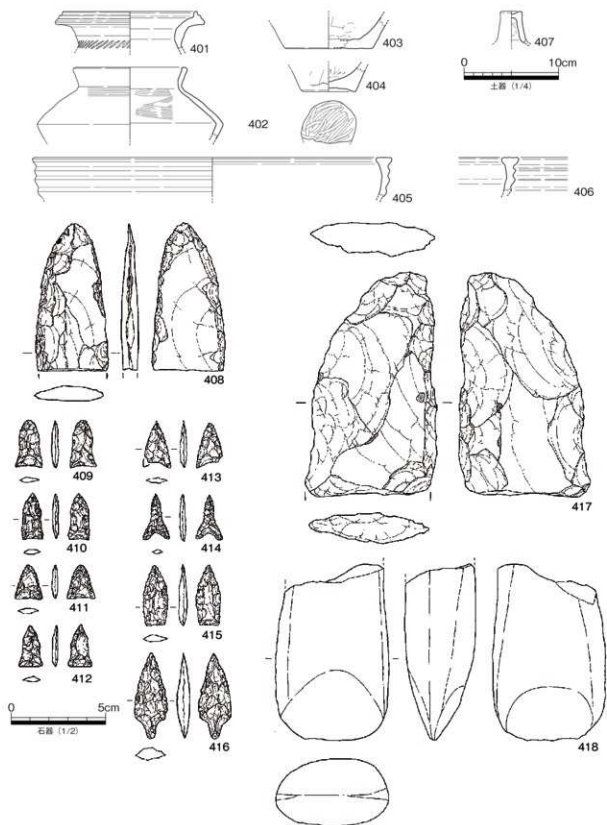


- 1 10YR4/1 褐色色砂質じり粘土 Fe・Mn含有、やや粘結質、粒径2～10cmの同一産角礫少量含む、層2面状産露
- 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色のじり粘土 Fe・Mn含有、やや粘結強い、上面付近に粒径2～3cmのベースブロック状産露する、SD34上層
- 3 10YR7/1 灰白色細～中粒、10YR6/1 褐色色シルト・10YR10/1 灰白色粘り粘土とシルト混在にFe・Mn含有、粒径2～15cmの同一産角礫含む、オリーブ色下層、SD54下層
- 4 10YR4/2 灰黄褐色粘土 Fe・Mn含有、ややシルト質だが粘結強い、わずかに砂層産露する、SD34下層
- 5 10YR3/2 黄褐色粘り 粒径2～5cmの小円礫含む、SD54下層
- 6 10YR4/1 褐色色砂質じり粘土 Fe・Mn含有、やや粘結強い、断面付近に中～粗粒部分的に産する、断面近水溝縁に産露しない、SD36下層
- 7 10YR5/1 褐色色砂質じり粘土 Fe・Mn含有、砂多く産露する粘結強い、粒径2～3cmのベースブロック中赤付近に産露含む、SD36中層
- 8 10YR5/2 灰黄褐色粘り粘土 Fe・Mn含有、ややシルト質、中砂とミナ粒にわずかに産露、層2・7層状産、SD54中層
- 9 10YR4/1 褐色色粘土 Fe・Mn含有、やや砂質じりが粘結質、断面付近に2～3cmベースブロック産露含む、SD36下層
- 10 2.5Y4/2 緑褐色色～2.5Y4/6 緑灰黄色粘りシルト Fe・Mn含有、3層とラミナ産露、SD54下層
- 11 2.5Y5/1 黄褐色中～粗粒状砂質土、粒径2～30cmの同一産角礫や多量に含む
- 12 2.5Y4/1 黄褐色粘土 Fe・Mn含有、やや砂質じり、粘結質、層2面状産露
- 13 2.5Y6/4 濃い黄褐色粘土 Fe・Mn含有、ややシルト質、粘結質、層2面状産露
- 14 2.5Y6/4 濃い黄褐色シルト Fe・Mn含有、やや砂質じり、SD54上層
- 15 2.5Y4/2 緑灰黄色色砂質じり粘土 Fe・Mn含有、中砂多量、粒径1～4cmのベースブロック少量産露する
- 16 2.5Y5/1 黄褐色～2.5Y5/2 緑灰黄色シルト粘り砂 Fe含有、粒径1～2cmのベースブロック少量産露する、粒径2～3cmの小石産露、6層と基本的には同じ層、4層とミナ粒に産露、SD54中層
- 17 2.5Y4/1 黄褐色～2.5Y5/1 黄褐色粘り砂 Fe含有、ややシルト質じり、粒径1～5cmの同一産角礫産露する、底水溝縁、SD54下層
- 18 2.5Y4/1 褐色色粘り砂 粒径1～4cmのベースブロック多く含む、SD54下層
- 19 10YR4/2 灰黄褐色粘土 Fe・Mn含有、粘結質、粒径1～4cmのベースブロック含む、SD36下層
- 20 2.5Y5/4 黄褐色色砂質じり粘土 Fe・Mn含有、粘結強い、自然産露層、SD54上層
- 21 2.5Y4/1 黄褐色粘り質土 Fe・Mn含有、わずかに粘り多量、粒径1cm前後のベースブロック少量産露する、断面付近に10YR6/1 褐色粘り質シルトが産露する、SD54中層
- 22 2.5Y4/1 黄褐色～10YR4/1 褐色色中砂質土 Fe・Mn含有、粒径2～10cmのベースブロック多量に産露する
- 23 2.5Y4/1 黄褐色～10YR4/1 褐色粘り～粘り、シルトとミナ層下部に粒径1～2cmのベースブロック少量産露する、断面付近に10YR6/1 褐色粘り質シルトが産露する、SD54下層
- 24 2.5Y5/4 黄褐色粘り質じり粘土 Fe・Mn含有、粘りやや強い、粒径1～5cmの同一産角礫含む、SD51上層
- 25 2.5Y4/1 黄褐色～2.5Y4/2 緑灰黄色色砂質じり粘土 Fe・Mn含有、粒径1cm前後のベースブロック多量産露する、断面～粗粒や多く産露する、SD51下層

第 146 図 SDj36・54 断面図 (1/40)



第 147 図 SDj36 出土遺物 (1/2)



第 148 图 SDj54 出土遺物 (1/4 · 1/2)



第 149 図 SDj35・39 断面図 (1/20)

#### SDj35 (第 149 図)

13 J・14 J グリッドで検出した。検出長は 226 m、最大幅は 0.4 m を測る。溝の北側は不明瞭になり、また南側も一部不明瞭な部分がある。断面形状は浅い皿状を呈し、深さは最深部で 0.06 m 程度である。主軸方位は N 15° E を測り、周辺の地割軸とほぼ同一である。SEj02・SKj53・SFj03・STj03 により削平されている。

これら後出する遺構の年代から、SDj35 は 13 世紀前半以前の中世段階の溝である。

#### SDj39 (第 149 図)

13 J グリッド南東部で検出した。検出長は 2.8 m、最大幅は 0.22 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さは最深部で 0.04 m 程度である。主軸方位は N 11° E を測り、周辺の地割軸とほぼ同一である。

溝の方向と周辺遺構の関係から中世の溝とする。

#### SDj43 (第 150 図)

15 K グリッドの北西隅で調査区の西壁中央付近で検出した。検出長は 2.2 m、最大幅は 1.0 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さは最深部で 0.2 m を測る。SDj27 南岸から派生して掘削されている。

SDj27 と同じ弥生時代後期後半の溝である。

#### SDj45 (第 150 図)

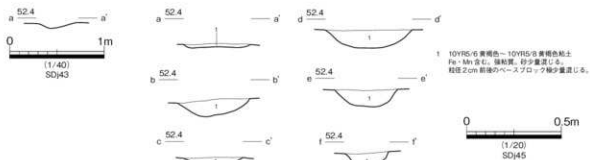
16 J グリッドから 16 K グリッドにかけて SDj34 の北側を併走するように検出した。検出長は 31.6 m、最大幅は 0.45 m を測る。断面形状は皿状ないし碗状を呈し、残存の度合いにより形状は異なる。底部レベルが概ね揃い、標高 52.2 ~ 52.3 m 付近となる。検出状況から SDj34・54 掘削以前のもものと判断できる。直線的に掘削されており、SDj54 東岸でその連続を見ることが出来ないことから、SDj54 に先行して掘削された SDj36 から派生した枝溝の可能性がある。

検出状況から SDj36 と同じ弥生時代中期後半かそれ以前の溝である。

#### SDj47 (第 151 図)

15 G グリッドから 15 H グリッドにかけての調査区北東部で検出した。検出長は 24.4 m、最大幅 0.17 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は 0.02 m である。主軸方位は N 75° W を測る。東へ向けて僅かに傾斜する傾向が認められた。

方向や埋土の状況から中世の溝とする。



第150図 SDj43・45 断面図 (1/40・1/20)



第151図 SDj47 断面図 (1/20)

### SDj49 (第152図)

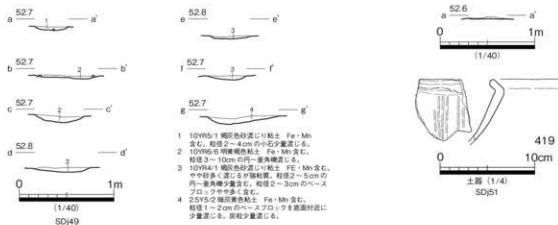
14 I グリッドから 14 J グリッドにかけての調査区中央部で検出した。検出長は 173 m、最大幅 0.7 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は最深部で 0.06 m である。北西側の端部は二股に分かれている。底部のレベルが概ね揃っており、SDj27 と並走する関係から、同溝の上層部が削平を受けた残存か、SDj27 に先行して開削された溝と考える。

検出状況から弥生時代後期後半以前の溝である。

### SDj51 (第152図)

13 J グリッドから 14 J グリッド付近で検出した。幅 0.46 m で深さ 0.01 m 程度と僅かに痕跡が残っている程度である。419 は挿鉢で内面に卸し目が僅かに残る。

出土遺物から中世の溝である。

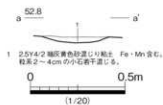


第152図 SDj49・51 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

### SDj52 (第153図)

12 J グリッドの北東部で調査区南壁付近で検出した。検出長は1.9 m、最大幅0.35 mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は0.03 mである。主軸方位はN 64° Wを測る。

方向と埋土の状況から中世の溝とする。

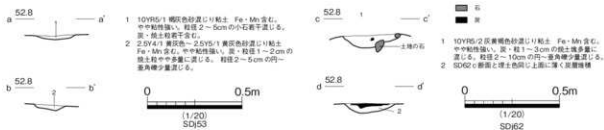


第153図 SDj52 断面図 (1/20)

### SDj53・62 (第154図)

13 I グリッド南西部で検出した。検出長は6.5 m、最大幅は0.18 mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、最深部で0.02 mを測る。主軸方位はN 72° Wを測る。東端で90°屈曲し、SDj62と接合する。SDj62はSDj53と合流したのちに南に2.2 m伸びた後に東に90°屈曲して6 m地点でSDj63に、8 m地点でSDj57に合流する。埋土中に炭化物や焼土粒を含む。これよりも東側に位置するSX 24を始め、周辺遺構の埋土中に焼土塊及び炭化物を多量含んでおり、この近辺で火災があり、その片付けに伴う痕跡と考えられるが、SDj53から出土したものは粒度が小さいことから、片付けに伴う埋め戻し終了後に開削された溝と考えられる。

検出状況から中世(13世紀後半)のSDj20より後出することから、この時期以降の中世の溝である。

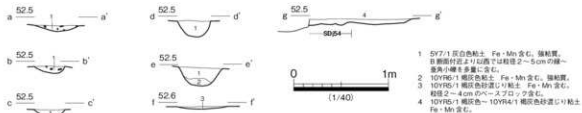


第154図 SDj53・62 断面図 (1/20)

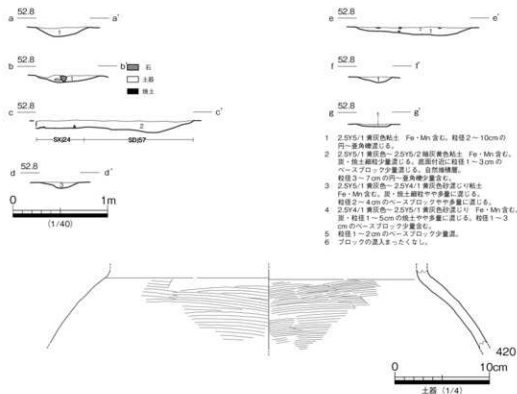
### SDj55 (第155図)

15 H・I・J グリッド中央部で検出した。検出長は35.0 m、最大幅1.0 mを測る。断面形状は両端で浅い皿状、中央付近で椀状を呈する。溝の底部レベルは概ね標高52.3 ~ 52.4 mの間に収まっており、東から西へ流下する傾向にある。SDj54から派生しているように見えるが、溝底部レベルはSDj55のほうが高いことから、SDj55 廃絶後にSDj54が開削された可能性が高い。

弥生時代中期後半以前の溝である。



第155図 SDj55 断面図 (1/40)



第156図 SDj57断面図(1/40)、出土遺物(1/4)

#### SDj57 (第156図)

12 Iグリッド北半部で検出した。検出長は20.6 m、最大幅0.65 m、深さ0.12 mを測る。主軸方位はN 15° Eを測る。北端で西へ屈曲して収束するほか、西側へ部分的に影らむ部位が認められる。また、中ほどでは後述するSDj62もここから西に向かって派生しており、これらは何らかの区画施設として機能していた可能性がある。

西側に派生するSDj53との関係から中世(13世紀後半)以降の溝である。

#### SDj58 (第157図)

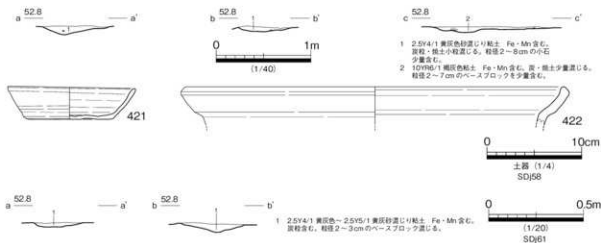
12 Iグリッドから13 Iにかけての東部でSDj57の東側に隣接して検出した。検出長は11.3 m、最大幅0.8 m、残存深度は最深部で0.10 m、主軸方位はN 18° Eを測る。北端はSXj23と接合し、SXj23と比べると若干深くなる。

421は土師器杯、422は土師器鍋である。出土遺物から中世(13世紀後半)の溝である。

#### SDj61 (第158図)

12 Iグリッドから13 Iグリッドにかけて検出した。検出長は2.2 m、最大幅は0.3 m、深さ0.05 mを測る。南端はSDj57に、北端はSDj62にそれぞれ接合する。

中世(13世紀後半)以降の溝である。

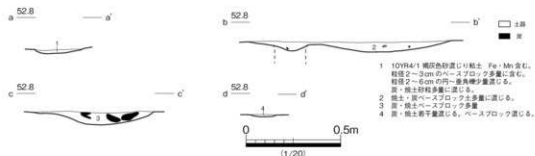


第 157 図 SDj58・61 断面図 (1/20・1/40)、出土遺物 (1/4)

### SDj63 (第 158 図)

13 I グリッド南半部で検出した。検出長は 9.7 m、最大幅 0.7 m、残存深度は 0.06 m、主軸方位は N 15° E を測る。北側端部は先細りになって収束し、中央部分は幅広になるが不明瞭な部分がある。南側は SDj62 に取り付いている。特に中央部分の埋土には炭化物和焼土を多量に含んでいる。

周辺の溝との関係から中世 (13 世紀後半) 以降の溝である。



第 158 図 SDj63 断面図 (1/20)

### SDj64 (第 159 図)

15 H グリッドから 16 H グリッドにかけての調査区北壁付近で検出した。検出長は 5.2 m、最大幅は 0.7 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は最深部で 0.06 m を測る。底部に若干の起伏が認められ、鋤先の痕跡と考えられる。

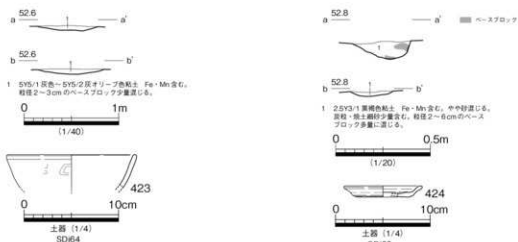
423 は青磁碗である。出土遺物から中世 (15 世紀) の溝である。

### SDj66 (第 159 図)

14 H グリッド北半部で検出した。検出長は 3.5 m、最大幅は 0.3 m を測る。断面形状は浅い皿状から碗状を呈し、西側で深くなる傾向がある。残存深度は最深部で 0.08 m を測る。埋土は黒褐色を基調とする粘土であるが、地山ブロックを多量に含むことから、人為的に埋め戻されたと見られる。

424 は土師器小皿で体部を強くナデている。出土遺物から中世 (13 世紀) の溝である。





第 159 図 SDj64・66 断面図 (1/40・1/20)、出土遺物 (1/4)

### SDj73 (第 160 図)

14 H グリッドから 15 H グリッドにかけての西部で検出した。検出長は 12.0 m、最大幅は 1.5 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は最深部で 0.12 m を測る。南に向かって幅広になって行き、南端部は南東方向に向きを変えて SDj10 の端部に近接する。この溝の延長にあたる可能性がある。

明確な時期を示すものはないが、SDj10 と関係があれば中世 (12 世紀後半頃) の溝である。

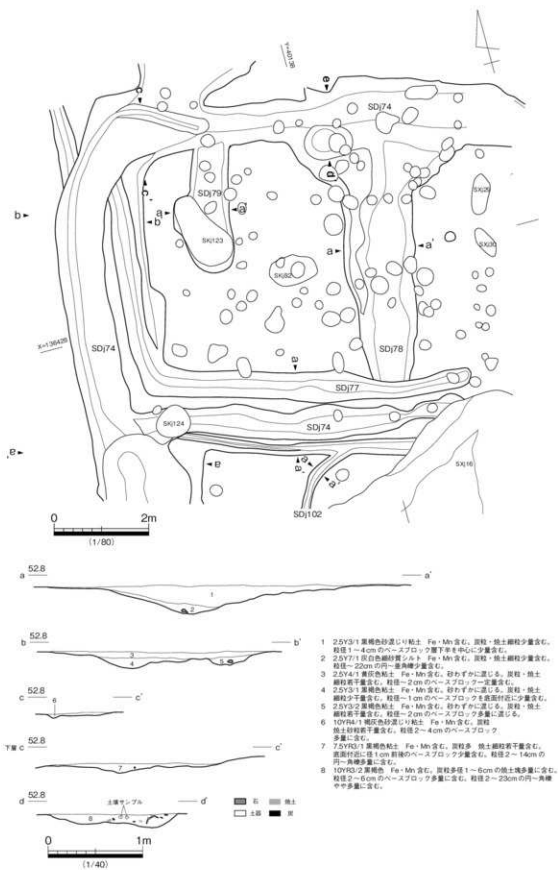


第 160 図 SDj73 断面図 (1/40)

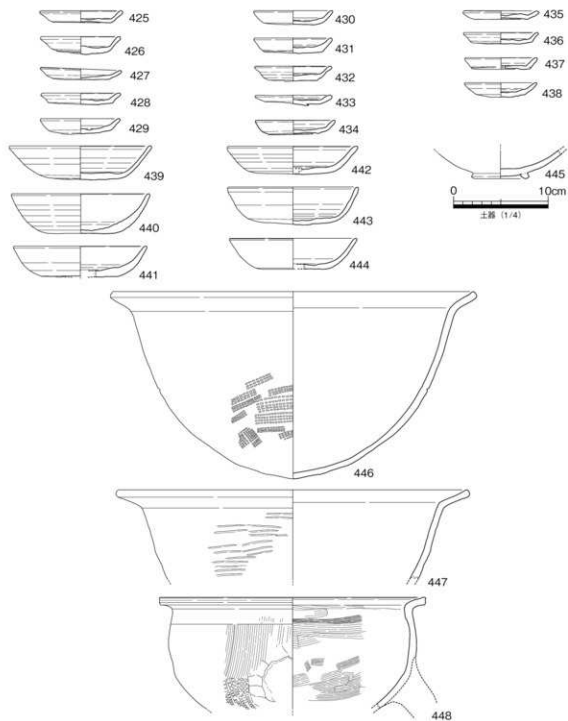
### SDj74 (第 161～163 図)

12 G グリッドから 12 H グリッドにかけての調査区南東隅で検出した。南北方向溝とその北端で直交する東西溝、さらにその東西溝の南 6 m に並行して掘削された東西溝からなる。検出長は南北部 7.1 m、北側東西部 9.15 m、南側東西部 6.85 m を測る。断面形状は中央部が盛り上がった浅い皿状を呈する場所が多く、残存深度は最深部で 0.29 m を測る。東西溝での主軸方位は N 78° W である。

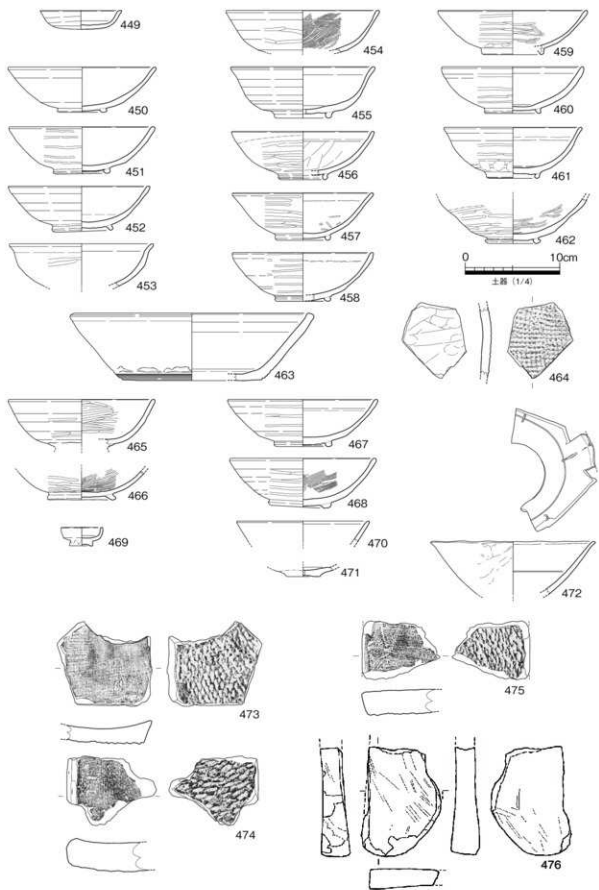
J 地区の中でもまとまった遺物の出土が確認できた遺構であり、残存状況も比較的良好なものが多い。425～438 は土師器小皿、439～444 は土師器杯、445 は土師器碗、448 は足釜である。450～462 は須恵器碗で、底部には断面方形の厚手の高台を貼り付けるものが多い。463 は須恵器捏鉢である。467・468 は黒色土器碗、469 は灰釉陶器と思われる小型の碗 (杯)、470 は青磁碗、471 は白磁皿、472 は白磁碗である。図化出来なかったが、青磁・白磁が 10 個体程度存在する。



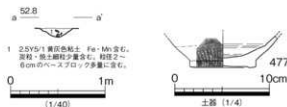
第 161 図 SDJ74 平・断面図 (1/40・1/80)



第 162 図 SDj74 出土遺物 1 (1/4)



第 163 图 SDJ74 出土遺物 2 (1/4)



第164図 SDj75 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

出土遺物から中世 (13世紀前半) の溝である。

#### SDj75 (第164図)

12 Hグリッドの調査区南壁付近で検出した。SDj42 と SDj76 をつなぐ短い溝で僅かに湾曲している。検出長は 1.2 m、最大幅は 0.5 m を測る。断面形状は幅広の U 字形で、残存深度は最深部で 0.10 m を測る。

477 は白磁碗である。出土遺物から中世の溝である。

#### SDj76 (第165図)

12 Hグリッドで検出した。検出長 14.6 m、最大幅 1.8 m を測る。断面形状は浅い皿状から椀状を呈し、残存深度は 0.28 m を測り、北側ほど掘り込みは急で深くなる。主軸方位は N 10° E を測る。482 は須恵器捏鉢、486 は黒色土器 A 類椀、487 ~ 489 は青磁碗、490 は青白磁合子、491 ~ 494 は白磁碗である。495・496 は軒平瓦である。出土遺物には青磁や白磁などの貿易陶磁器が目立ち、少量ながら瓦を伴っている。

出土遺物から中世 (12世紀後半 ~ 13世紀) の溝である。

#### SDj77 (第166図)

12 Hグリッド南東部で検出した。東西方向部分の西端で直角に北側に屈曲して伸びる L 字形の溝である。SDj74 の内側に沿うように掘削されているが、SDj74 に先行するものである。検出長 10.6 m、最大幅 0.7 m、残存深度は 0.1 m、東西部分での主軸方位は N 79° W を測る。

500 は土師器碗、501 は土師器鍋である。出土遺物から中世 (13世紀初頭前後) の溝である。

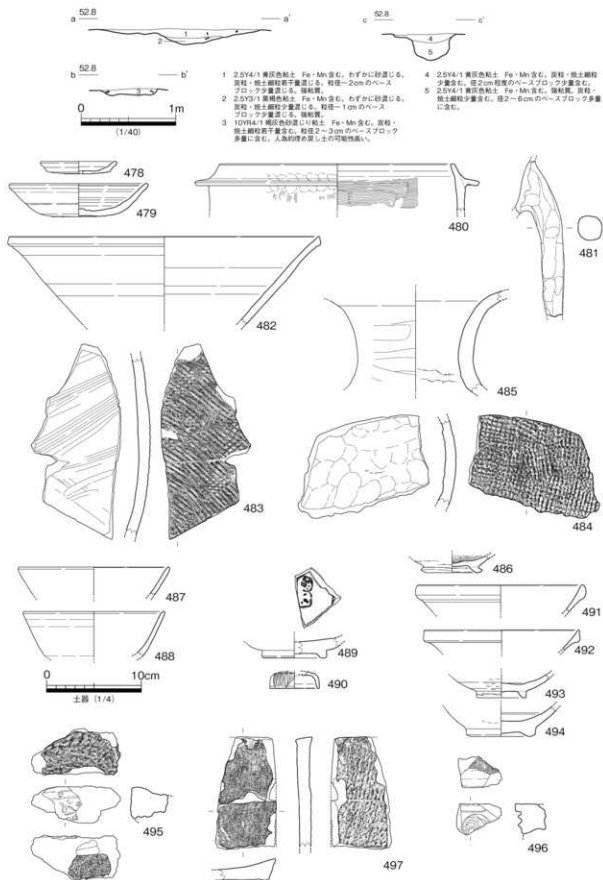
#### SDj78 (第166図)

12 Hグリッド東端で検出した。両端を SDj74 と SDj77 に壊され、北側の SDj74 との交点部分は幅広になっている。検出長 5.12 m、最大幅 3.6 m、中央部分で幅 1.4 m、残存深度は 0.06 m、主軸方位は N 13° E を測る。

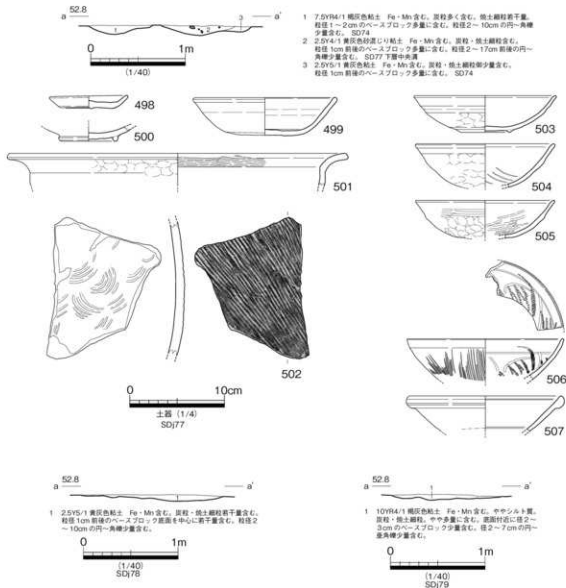
検出状況から中世 (13世紀初頭以前) の溝である。

#### SDj79 (第166図)

12 Hグリッドの東部で検出した。検出長 2.7 m、最大幅 0.9 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、最深部で 0.05 m、主軸方位は N 13° E を測る。北端部は SDj74 と接合するほか、南端付近では SKj123 を削平していることから、SKj123 埋没後に開削され、SDj74 とほぼ同時期に機能していたものである。503 ~ 505 は瓦器碗で、いずれも体部外面には指押さえが顕著である。506 は青磁碗、507 は白磁碗で口縁部は玉縁になる。



第165図 SDj76 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第 166 図 SDJ77～79 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

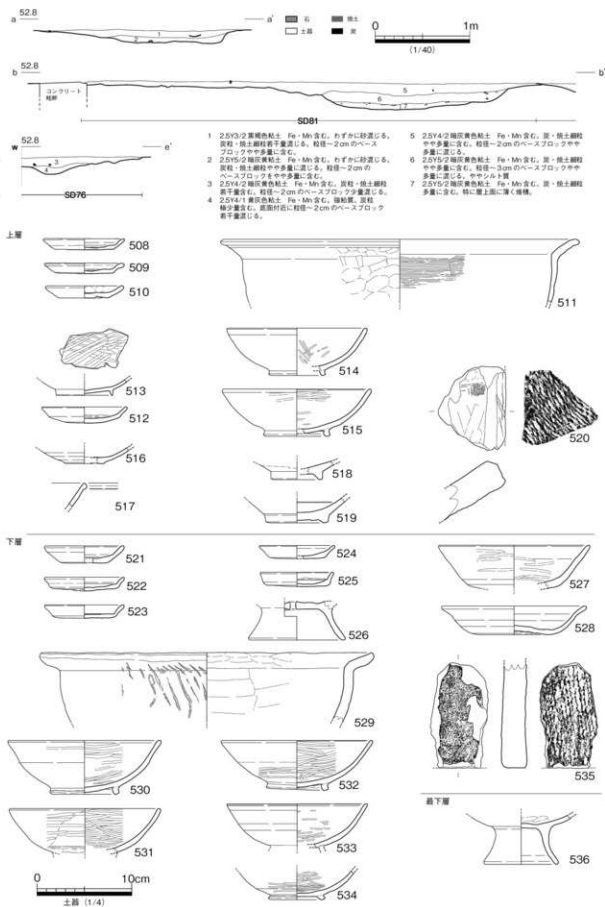
出土遺物から中世 (13 世紀前半) の溝である。

#### SDJ81 (第 167 図)

12 H グリッドの中央で検出した。検出長 14.8 m、最大幅 4.8 m を測る。中央付近は不整形に幅が広がり、西側に向かっては枝溝が派生している。断面形状は浅い皿状で、最深部で 0.25 m、主軸方位は N 17° E を測る。埋土は上下に大別され、全体に炭化物と焼土を多く含んでいる。遺物は比較的多く出土しており、508～520 は上層から、521～536 は下層からそれぞれ出土している。512 は瓦器小皿、513 は瓦器碗、514・515 は黒色土器 A 類碗、516 は灰軸陶器皿、517～519 は白磁碗である。526 は土師器高台付き皿で皿部中央に穿孔が施されている。530～534 は黒色土器 A 類碗である。536 は土師器台付き杯である。

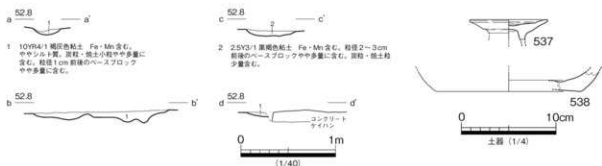
出土遺物から下層は 12 世紀中頃まで、上層は 13 世紀初頭頃には埋没している。

なお SDJ81 の平面位置が不明瞭であるため、断面図等から執筆者が特定したものであるため、位置



第 167 図 SDj81 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)





第168図 SDj82 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

の誤りがある可能性を含んでいる。

#### SDj82 (第168図)

12 Hグリッド西部で検出した。検出長約 25 m、最大幅 0.65 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、最深部で 0.12 m を測る。検出部位の南半と北半で溝の開削状況が異なり、南半部では周辺の地割に合致して掘削されるのに対し、北半では一度東に振れた後に地割方向に戻り、北端で緩やかに西へ湾曲する。南半部の主軸方位は N 13° E を測る。南端部の調査区壁際では屈曲しているとともに、SFj02 により削平されている。また東方向へ直角に派生する部位が数ヶ所認められる。537 は土師器台付皿である。

SFj02 との関係から、中世 (13 世紀中頃以前) の溝である。

#### SDj84 (第169図)

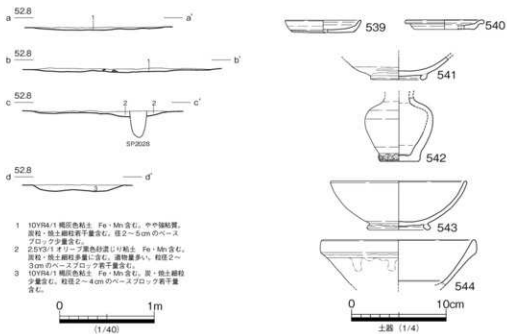
13 Hグリッド東半部で検出した。北端部は先細りになって収束し、南端部は SDj89 により削平されている。また中央部分はテラス状の部分形成して幅広になっている。検出長 18.1 m、最大幅 2.0 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、最深部で 0.06 m を測る。主軸方位は N 14° E であるが、北端部付近はこれより東側に傾いている。

539・540 は土師器小皿、541 は須恵器碗、542 は須恵器壺、543 は黒色土器 A 類碗で、断面方形の高台を外側に向けて貼り付けている。544 は白磁碗で玉縁になっている。

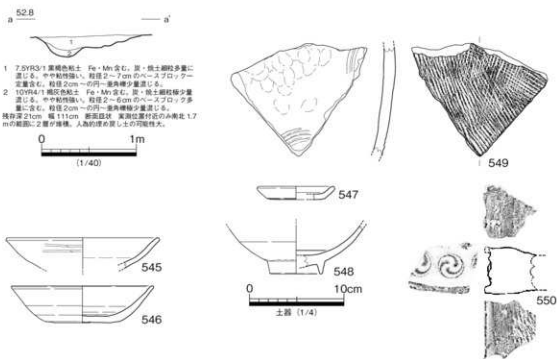
出土遺物から中世 (12 世紀後半) の溝である。

#### SDj87 (第170図)

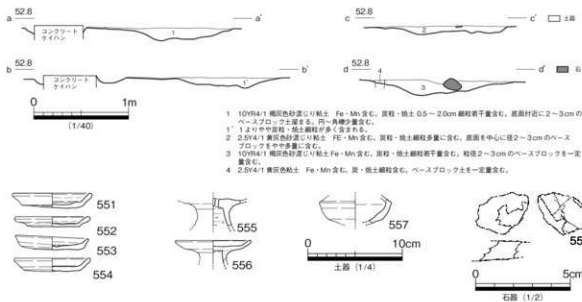
平面位置が不明瞭であるため、断面図によると幅 1.1 m 程度、深さ 0.22 m 程度の溝である。547 は黒色土器小皿、548 は白磁碗で、断面三角形の足高の高台をもつ。550 は軒平瓦で瓦当には連続三つ巴文が認められる。



第 169 図 SDj84 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第 170 図 SDj87 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第171図 SDj88 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4・1/2)

### SDj88 (第171図)

13 Hグリッド中央で検出した。検出長 12.7 m、最大幅 1.54 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は最深部で 0.16 m を測る。主軸方位は N 16° E で、南端は東に直角に屈曲し、SDj89 へ連続する。溝底部の標高は SDj89 との交点付近が若干深く、SDj88 全体としてはやや浅く概ね似たような高さで揃う。

出土遺物は須恵器・土師質土器が認められるが、小片が多い。551～554 は土師器小皿、555・556 は土師器台付き皿で、555 は皿部底部には穿孔が認められる。557 は土師質で体部上半で鋭く屈曲している。器種ははっきりしないが釜類のミニチュアであろうか。558 は滑石製石鍋の底部である。

出土遺物から中世 (12 世紀後半～13 世紀前半) の溝である。

### SDj89 (第172図)

13 Hグリッド南部で検出した。検出長 9.5 m、最大幅 1.2 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は最深部で 0.14 m を測る。主軸方位は N 73° W で、先述の SDj88 から連続するほか、東端で SDj96 へと連続する。

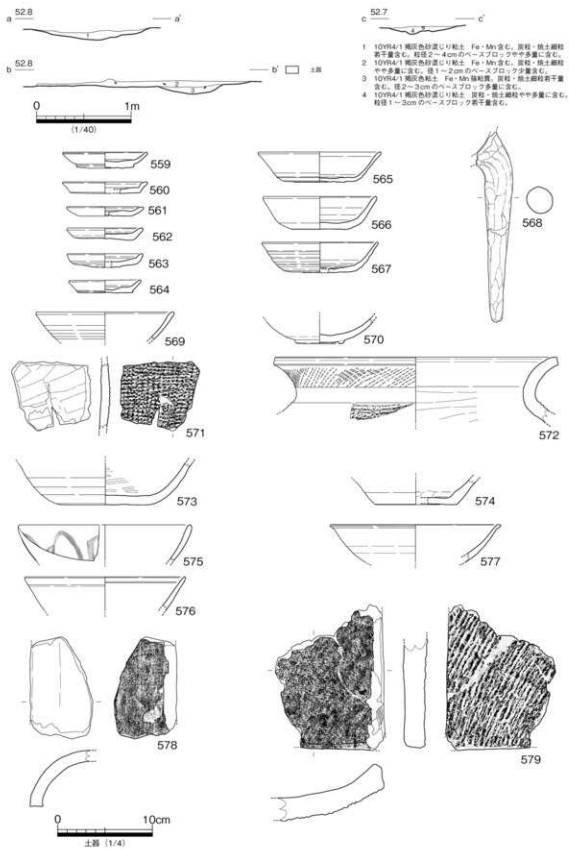
残存状況の良い出土遺物が比較的多くまとまっている。559～564 は土師器小皿、565～567 は土師器杯、569・570 は須恵器碗、573・574 は瓦質土器鉢、575・576 は青磁碗、577 は白磁皿である。

出土遺物から中世 (13 世紀～14 世紀) であるか時期幅をもつ溝である。

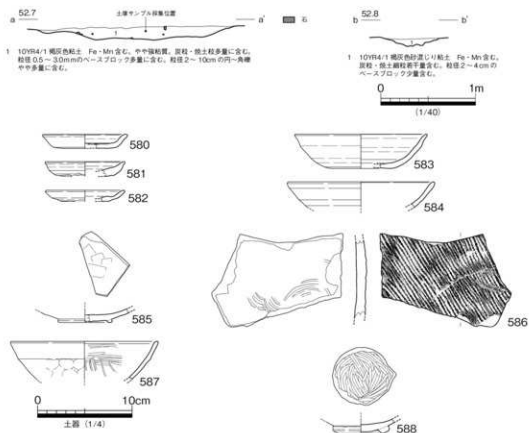
### SDj91 (第173図)

平面位置が不明瞭であるため、断面図によると幅 0.64～2.08 m 程度、深さ 0.14 m 程度の溝である。

580～582 は土師器小皿、583・584 は土師器杯、585 は須恵器碗、587 は和泉型瓦器碗で体部外面には指押さえが顕著である。588 は黒色土器 A 類碗である。



第 172 図 SDj89 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第 173 図 SDj91 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

出土遺物から中世 (13 世紀初頭前後) の溝である。

#### SDj92 (第 174 図)

平面位置が不明瞭であるため、断面図によると幅 1.05 ~ 2.45 m 程度、深さ 0.08 m 程度の溝で、全体に浅いものである。

591 ~ 595 は須恵器碗、597 は瓦器碗で内面に格子状の暗文が見られる。

出土遺物から中世 (13 世紀初頭前後) の溝である。

#### SDj94 (第 175 図)

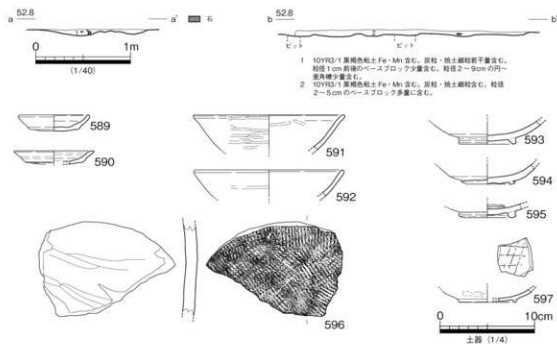
13 H グリッド中央付近で検出した。SDj84 とはは直交して枝状に派生する溝である。検出長 2.2 m、最大幅 0.4 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は最深部で 0.03 m を測る。主軸方位は N 73° W である。SDj84 との先後関係は不明瞭である。

方向と埋土の状況から中世の溝とする。

#### SDj96 (第 176 図)

12 H グリッドから 13 H グリッドにかけて検出した。SDj89 の東端から南に直角に屈曲して始まり、僅かに湾曲しながら SDj76 に合流する。検出長 6.0 m、最大幅 1.2 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は最深部で 0.03 m を測る。主軸方位は N 40 ~ 56° E である。

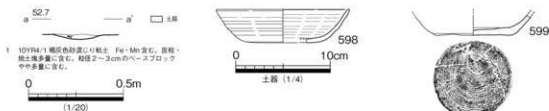
598・599 は土師器杯で、598 の体部は回転ナデが著しく、599 の底部は糸切りになっている。



第 174 図 SDj92 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第 175 図 SDj94 断面図 (1/20)



第 176 図 SDj96 断面図 (1/20)、出土遺物 (1/4)

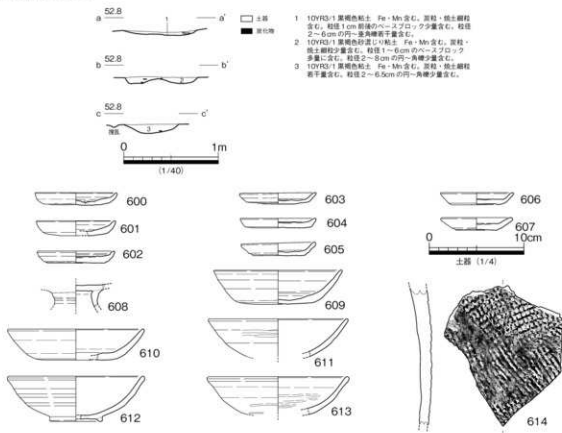
出土遺物と SDj89 と同時期であることから中世 (13 世紀~14 世紀) の溝である。

#### SDj100 (第 177 図)

12 H グリッド・12 G グリッド・13 G グリッドにかけて検出した。北東—南西方向に緩く湾曲しながら 7.5 m 伸びたのちに北向きに方向を変えて直線的に 7.5 m 伸びて収束する。検出長 15.0 m、最大幅 1.3 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は最深部で 0.10 m を測る。主軸方位は北側の直線的

な部分でN 18° Eである。

600～607は土師器小皿、608は土師器台付き皿、609・610は土師器杯、611は土師器椀、612・613は須恵器椀である。

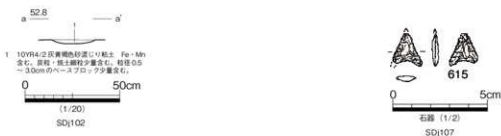


第 177 図 SDj100 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

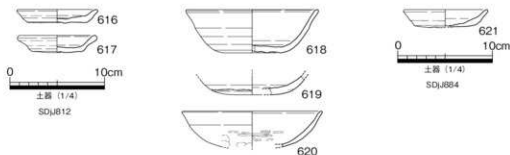
出土遺物から中世 (13 世紀初頭前後) の溝である。

#### SDj102 (第 178 図)

12 H グリッドの調査区南壁際で検出した。全体に湾曲しており、南側は調査区外へ続く。検出長 1.8m、最大幅 0.22m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は最深部で 0.02 m を測る。



第 178 図 SDj102 断面図 (1/20)、SDj107 出土遺物 (1/2)



第179図 SDj812・884出土遺物(1/4)

埋土の状況から中世の溝である。

#### SDj812 (第179図)

14 Gグリッドで調査区東壁際で検出した。東側は調査区外に続き、溝の南側部分は2箇所の不整形な溝状の突出が認められる。検出長は7.5 m、最大幅は1.2 mである。

616・617は土師器小皿、618・619は土師器杯、620は瓦器椀である。

出土遺物から中世(12世紀後半)の溝である。

#### SDj884 (第179図)

13 Hグリッドから14 Hグリッドにかけて検出した。SDj84の北側5.3 m部分に該当し、調査時にSDj J 884と呼称したものである。621はSDj J 884部分から出土した土師器小皿である。詳細はSDj84の部分を参照されたい。

#### 自然河川

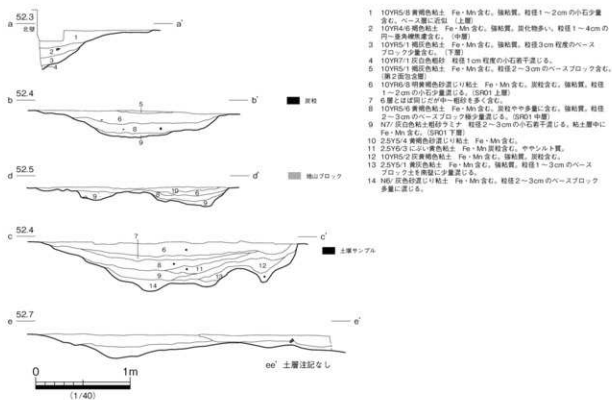
#### SRj01 (第180・181図)

調査区の北東部を北西—南東方向にかけて検出した。幅は30 m前後で、数回の流れが入り混じっており、断面図として図示したのは調査区北側の16 Iグリッド部分の、SDj54の北側の溝状になっている流路部分である。底面付近には粘土と粗砂がラミナ状に堆積したり、砂混じり粘土が堆積している。底面は場所によっては起伏が著しくなっている。流れの度に溝状の底面が形成されたきた名残であろう。このSRj01の埋没後にSDj54が弥生時代中期後半に掘削されている。調査区の北側のH地区(『西末則遺跡Ⅲ』)では、このSRj01の続きは明瞭になっていないが、一帯が自然河川が入り混じる低地であり、この低地部分に続いて行く。これに対し調査区西側のD地区はしっかりとした黄褐色系の地山が展開し、この縁辺に沿って弥生時代の溝が掘削されている。SRj01もおそらくこの地山にぶつかり収束したものである。

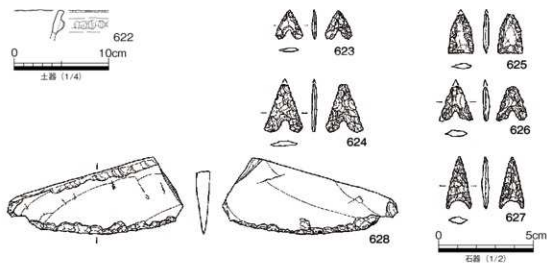
622は15 Gグリッドで出土した縄文土器深鉢で、口縁部のやや下に刻み目突帯が巡っている。623・625は15 Hグリッドで、624・626・628は16 Iグリッドで、627は16 Jグリッドでそれぞれ出土した。

出土遺物と検出状況から縄文時代晩期から弥生時代中期後半までの自然河川である。

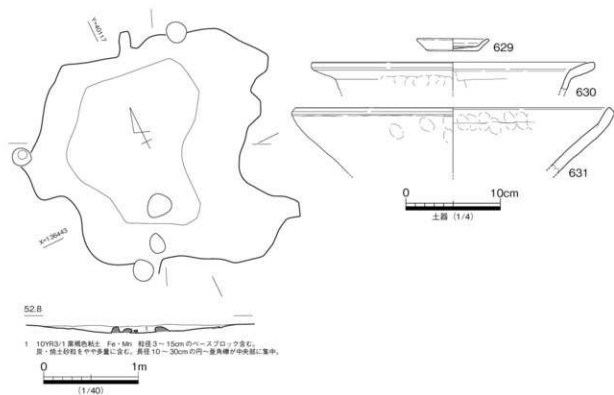




第180図 SRJ01 断面図 (1/40)



第181図 SRJ01 出土遺物 (1/4・1/2)



第182図 SXj06 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

性格不明遺構

#### SXj06 (第182図)

13 I グリッド南東部で検出した。平面形は不整形で南側が突出している。南北2.22～2.58 m、東西1.78～2.62 m、深さ0.07 mである。全体に浅い落ち込みで、底面の中央部には0.1～0.3 m大の礫が集中していた。また南側から同時並存であるSDj18が取り付いている。

629は土師器小皿、630は土師器鍋、631は須恵器鉢である。出土遺物から中世(13世紀後半)の遺構である。

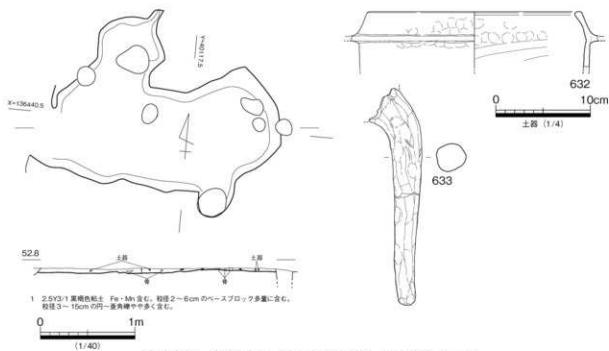
#### SXj07 (第183図)

13 I グリッド南東部でSXj06の南側に隣接して検出した。平面形は不整形で北側の2箇所が突出している。南北1.03～1.75 m、東西2.37～2.65 m、深さ0.06 mである。西側はSDj18により壊されている。全体に浅い落ち込みで、埋土にはベース土ブロックを多量に含んでいる。

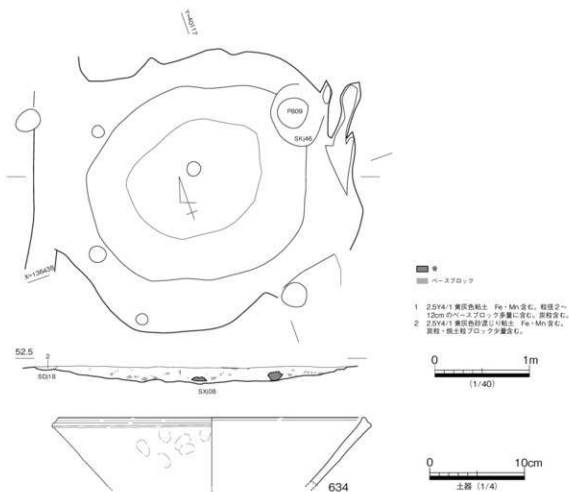
出土遺物とSDj18との関係から、中世(13世紀前半～中頃)の遺構である。

#### SXj08 (第184図)

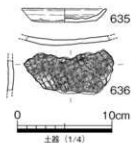
12 I グリッドの北東部で、SXj07の南側に隣接して検出した。平面形は隅丸方形であるが、東側は溝状に突出している部分がある。西側はSDj18に壊され、全体の埋没後にはSBj23の柱穴P 809が掘削されている。南北2.95 m、東西3.20 m、深さ0.16 mである。全体に皿状に浅い落ち込みである。



第 183 図 SXj07 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第 184 図 SXj08 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第185図 SXj15出土遺物 (1/4)

出土遺物とSDj18との関係から、中世(13世紀前半～中頃)の遺構である。

#### SXj15 (第185図)

635と636は調査区南東部のSXj15から出土したもので、636の鍋の体部外面には格子目のタタキが施されている。

#### SXj23 (第186図)

13 I グリッド南東部で検出した。平面形は不整形で、南側が2箇所突出している。また南西部にはSDj58が取り付けられている。突出部を除いた南北2.38m、東西最大幅1.62m、深さ0.06mである。全体に浅い落ち込みである。

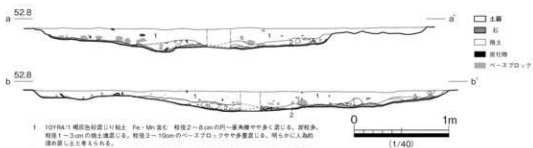
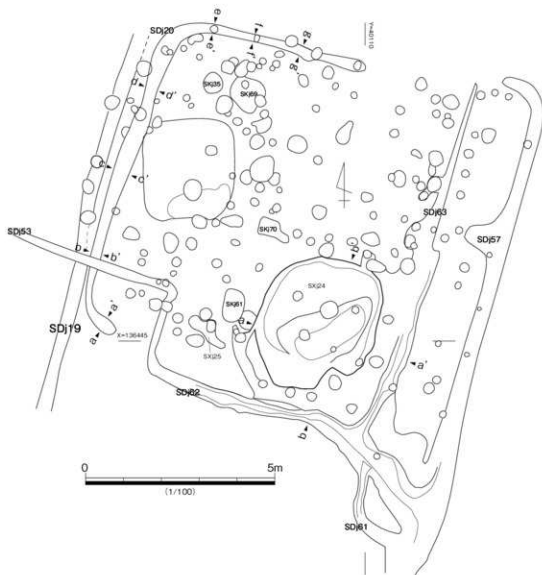
第186図 SXj23平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



637は土師器小皿で、出土遺物とSDj58との関係から中世(13世紀後半)の遺構である。

#### SXj24 (第187図)

13 I グリッド中央やや南寄り検出した。平面形は隅丸方形に近いが、南側は角度を持って屈曲したり内側に入り込んでいる部分がある。南北3.60m、東西3.15m、深さ0.22mである。底面には厚さ0.5～3.5cmほどの炭化物が堆積している。これに加えて焼土塊も多く含んでいる。また埋土の上には灰とともにベース土ブロックが多く含まれ、人為的に埋められていることがわかる。さらに壁土などの建築廃材が多量に出土している。これらのことから建物の廃棄後に部材を焼却処分したか、あるいは火災にあった建物のかたづけに伴う土坑と考えられる。

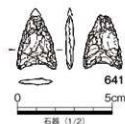


第 187 図 SX24 周辺平・断面図 (1/40・1/100)、出土遺物 (1/4)

638・639は土師器小皿、640は青磁皿である。出土遺物は少ないが、周辺の建物の時期やSXj24の埋没後に建てられている建物もあることを考慮して、中世（12世紀後半～13世紀前半頃）の遺構とする。

#### SXj28 (第188図)

641はSXj28から出土した凹基の石鏡である。



第188図 SXj28出土遺物 (1/2)

#### SXj30 (第189図)

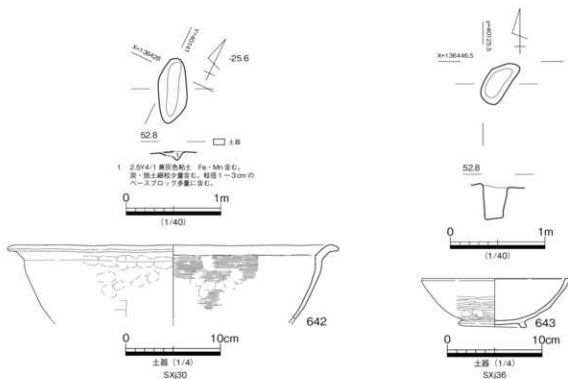
12 G グリッドの調査区東壁際で検出した。平面形は楕円形で、長径0.69 m、短径0.30 m、深さ0.10 mである。断面はV字形になり、埋土にはベース土ブロックを多量に含んでいる。

642は土師器鍋である。出土遺物から中世（13世紀）の遺構である。

#### SXjj36 (第189図)

13H グリッド南西部で検出した。平面形は隅丸長方形の一隅が潰れたような形である。長辺0.50 m、短辺0.26 m、深さ0.36 mである。断面は方形で掘り込みは急で垂直に近く、底面は平坦になっている。

643は土師器椀である。底部には外向きの断面方形の高台を貼り付けている。



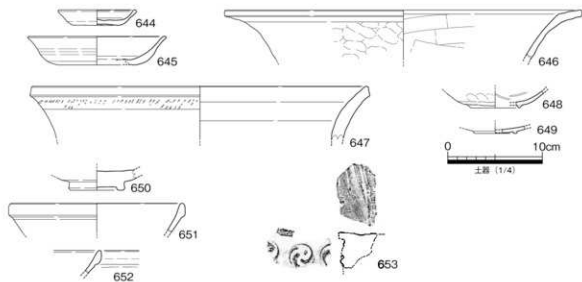
第189図 SXj30・36平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

出土遺物から中世（13世紀前半）の遺構である。

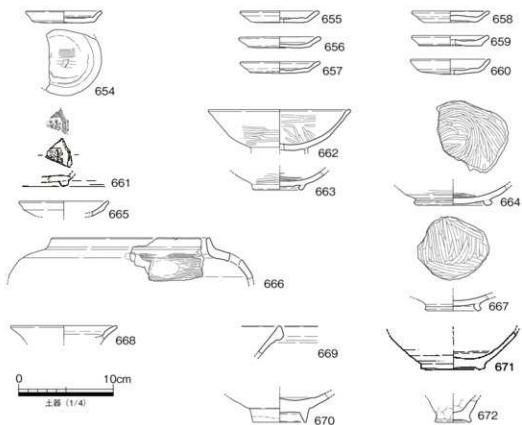
#### 包含層出土遺物 (第190～192図)

644～653は13Hグリッドの溝が密集している部分から出土したものである。648・649は瓦器碗、650は青磁碗、651・652は口縁部が玉縁になる白磁碗、653は連続巴文の軒平瓦である。

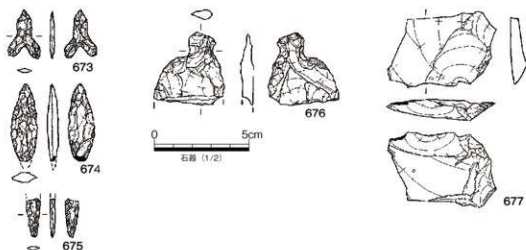
小調査区に分けると、673がJ 1区、668・672がJ 2区、675がJ 3区、655～660・665・667・669・670がJ 4区、661・674・677がJ 5区、676がJ 6区、654・662・664・666・671がJ 8区でそ



第190図 中央溝群出土遺物 (1/4)



第191図 包含層出土遺物1 (1/4)



第192図 包含層出土遺物2 (1/4)

それぞれ出土している。661は須恵器杯であるが、内面の見込み部に刻印を施している。665は瓦器小皿、668は白磁皿、669～671は白磁碗である。

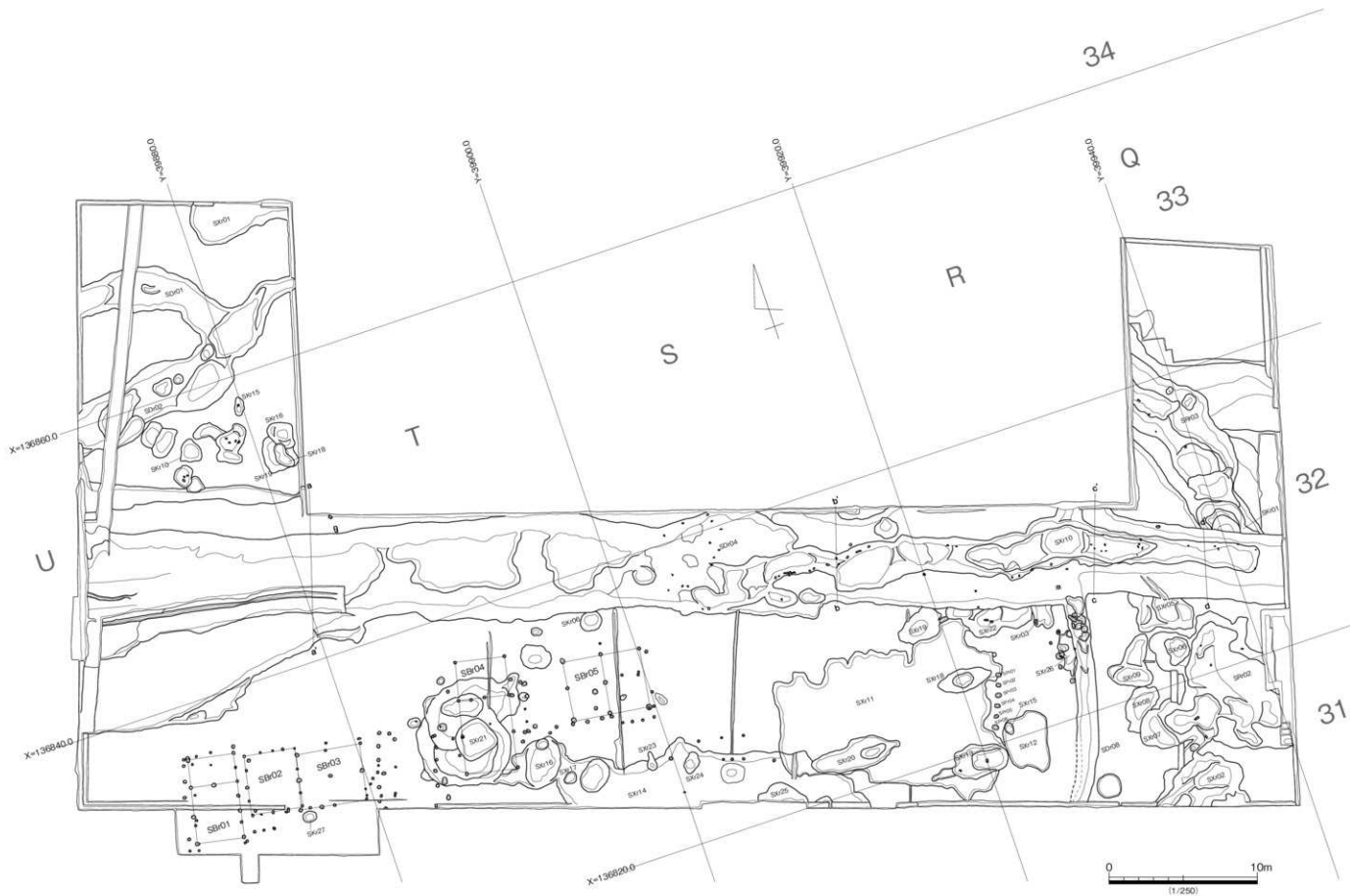
#### 鉄関連 (J4区)

鉄製品(釘など)や鉄滓を伴う遺構が調査区南東部のJ4で多く認められたので表のとおりまとめておく。

第1表 J4区出土鉄製品一覧

SP1301, SP1438, SP1442, SP1444, SP1446,		
SP1522, SP1533, SP1538, SP1539, SP1569,		
SP1871, SP1885, SP2012, SP2046 上面, SP2071, SP2096A, SP2109, SP2116		鉄滓
SP1438 I-1		不明鉄器
SP1515, SP1555, SP2029, SP2143		鉄釘
SK100 南半 (SD)81A-B 間下層が一部説), SK107 南半, SK123 I-1		鉄滓
SK118		鉄釘, 鉄滓
SE02 南西	下層	鉄釘
SD74 P-1, SD74A-B 間	上層	鉄滓
SD74 西溝 A-B 間, B-C 間, D-E 間	中層	鉄滓, 不明鉄器?
SD74 東溝 I-1	下層	不明鉄器
SD74 西溝 (D断面より少し西の土器集中部)	下層	鉄滓, 鉄釘 (I-1)
SD76A-B 間		鉄滓
SD76B-C 間	上層	鉄滓
SD76 東B-C 間	上層	鉄滓
SD77 A以西	上層	鉄滓
SD77 中央溝A以西	下層	鉄釘
SD79 A以南		鉄滓
SD81A 以南, A-B 間, B-C 間	上層	鉄滓
SD81B-C 間	下層	鉄滓
SD84A-B 間, B-C 間, SD88A 以南, A-B 間		鉄釘, 鉄滓
SD87A 以南		不明鉄器
SD89 A以西, A-B 間上位, B-C 間上位,		
C断面・SD)91B断面		鉄滓, 鉄釘?
SD91A-B間, SD100A-B間		鉄滓
中央溝群Jブロック I-1, Hブロック, Iブロック		
Fブロック, Kブロック	上層	鉄滓(鉄釘含む)
中央溝群Eブロック I-2	上層	環状鉄製品
包含層		不明鉄器, 鉄釘, 鉄滓





第193图 F 調査区遺構配置図

## 第Ⅵ章 F 調査区の調査

### 第1節 概要・基本層位

#### 1. 調査区の概要

本調査区は西末則遺跡の調査対象地の北西隅の部分で、宅地を囲うようにコ字状の調査区となっている。試掘調査の結果では、旧流路部分であり遺物も希少であることから、調査対象地には含めなかった。しかし平成13年度の本発掘調査開始後に、当該地が中世の平地城館に多く見られる「ドイ」地名であることと、空中写真や地籍図などの検討の結果、堀を巡らせる中世の平地城館の可能性が指摘されたことから、急速調査対象地に追加された。遺跡全体の調査区割りではR32区に相当し、調査面積は2,186㎡で、平成15年4月～7月に発掘調査を実施した。

### 第2節 F 調査区の遺構・遺物

#### (1) 縄文時代晩期の遺構と遺物

##### SDr01 (第194図)

調査区の北西部の34 Tグリッドから34 Uグリッドにかけて検出した溝状遺構である。調査区西壁部分から東に6 m伸びた後に南東方向に向きを変えてSDr02に合流する。検出長10.3 m、幅2.0～3.1 mである。断面形は流路底が概ね平坦な逆台形で埋土は上下2層に大別出来る。

678・682・683は上層、679～681は下層からの出土で土器はいずれも縄文土器である。678は深鉢で外面はヘラミガキである。679は深鉢で口縁部端部に刻み目を施し、端部直下に扁平な刻目突帯を貼り巡らせている。680は外面には二枚貝による貝殻条痕の後に縦方向に現存で2列の半裁竹管文を施している。681の底部はやや上げ底になっている。682・683は石鏝で平基である。

出土遺物から縄文時代晩期後半の遺構である。

##### SDr02 (第194図)

調査区の北西部の34 Tグリッドから34 Uグリッドにかけて検出した溝状遺構である。北東—南西方向に若干蛇行しながら伸びており、検出長18.0 m、幅1.0～3.5 mである。幅は場所により著しく異なり、SDr01との合流点より西側で幅広になる。断面形は流路底が概ね平坦な逆台形である。しかし底面は場所により起伏に富み、水流により掘り窪められた皿状の落ち込みが随所に認められた。

埋土は上下2層に大別出来る。上層は褐色灰色粘土で流路機能が停止した後の自然堆積層と考えられる。本層は調査部分の大半で下層とは明確な境界を示して堆積していた。しかし西端付近では下層と接する部分がラミナ状堆積になり上下層の境界が不明瞭となっていた。このことは単純に流路機能が停止したのではなく、旺盛な水流による堆積が停止し上層の堆積が開始された後も、一定量の水流があったことを示している。

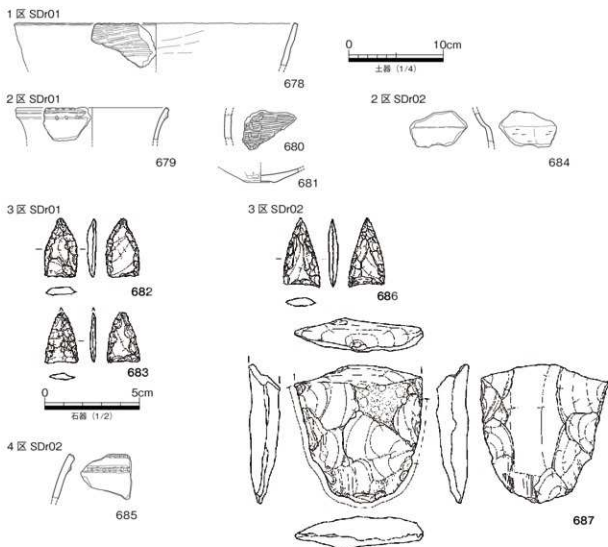
遺物は縄文土器の細片が多数を占めている。684・686は上層から、685・687は下層から出土している。685は深鉢である。口縁部端部に刻み目を施し、端部から1 cmほど下に刻目突帯を貼り巡らせている。686は石鏝であるが基部は不揃いである。687は打製石斧で、刃部には使用痕である擦痕が認めら

れる。また図化出来なかったが、上層から弥生時代中期後半の甕の細片が若干出土している。  
弥生土器は埋没後の混入と考えられ、他の出土遺物から縄文時代晩期後半の遺構である。

#### SR02 (第195図)

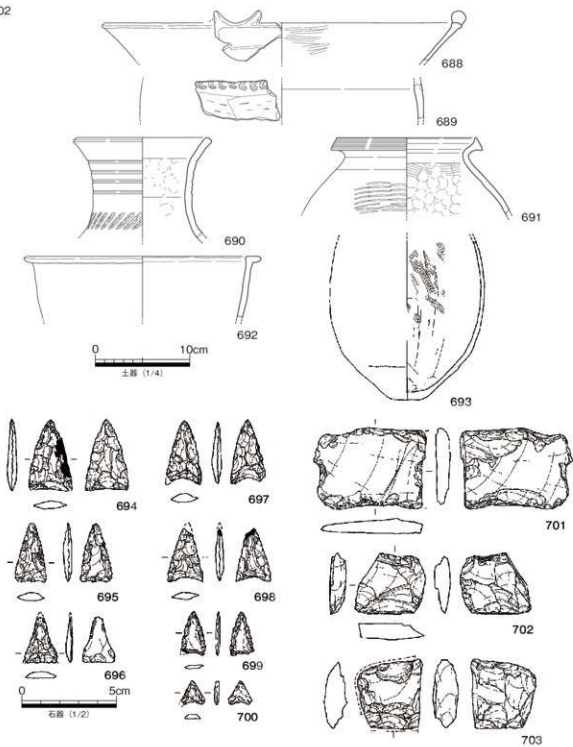
調査区の南東部の32 Qグリッドから32 Rグリッドにかけて検出した自然河川である。調査区東壁部分から7.5 m東進して取東する。東壁部分で北岸部分が不明瞭であるが幅約6.5 mである。北岸は調査区東壁から東へ3.4 m地点から広がり、最大幅8.8 mになる。取東部分は大型の土坑状のSXR06とSXR07に壊されている。

埋土は3層に大別され、23が最上層から、690・692～699・701・703が上層から、689・691が中層から、688・702が下層からそれぞれ出土している。688は縄文土器浅鉢で、口縁部の一部に粘土で二又の突起状に加飾している。689は縄文土器深鉢で、外面にヘラケズリの後に横方向に爪形文を巡らせている。690は弥生土器壺で頸部外面に凹線文と板小口による圧痕文を巡らせている。691～693は弥生土器甕で、691は口縁部端部を拡張して外面に凹線文を巡らせ、体部外面にはタタキを施している。692は逆し口縁である。694～700は石鏃で、694～696は平基、697～700は凹基である。696は片面



第194図 SDr01・02出土遺物

SrR02



第 195 図 SrR02 出土遺物

の調整が終わった段階の未製品である。701 は打製石産丁で側縁に挟りがある。702・703 は楔形石器で、703 の外周には敲打痕が顕著である。

出土遺物から縄文時代晩期後半に開削され、弥生時代中期末に埋没した自然河川である。

### SRr03 (第 196 図)

調査区の南東部の 32 Q～R グリッド、33 Q～R グリッドにかけて検出した自然河川である。調査区東部の北東に向けて突出した箇所、北西—南東方向で検出長は幅の中央部分で 12.5 m、幅 3.6～5.8 m で南側が狭くなっている。本流部分はほぼ直線的であるが、東側はオーバーフローしたように湿地状に窪みが不定形に広がっている。また調査区東壁付近で SDr04 に重なり調査区内で見られなくなることから、SDr04 と同じ東向きに屈曲して調査区外に続いてゆくものと考えられる。

埋土は 3 層に大別され、大多数の遺物は下層から出土している。40・47 が中層から出土している以外はすべて下層からの出土である。

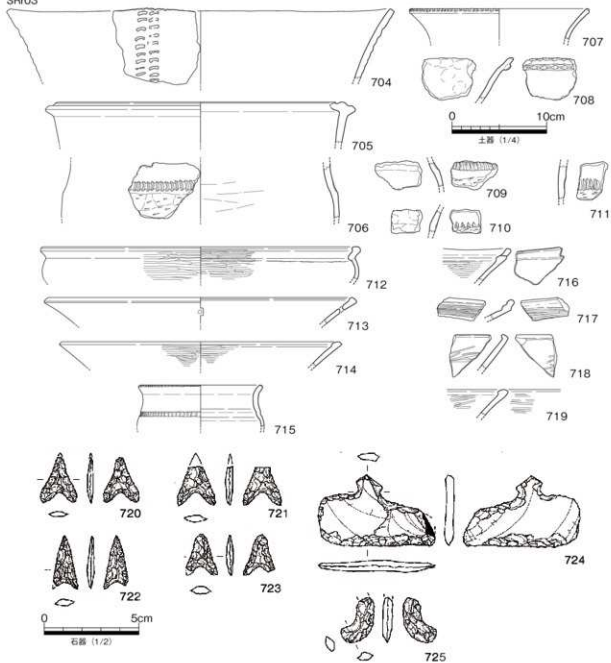
704～711 は縄文土器深鉢である。704 は口縁部外面に縦方向に 2 列の爪形文を施している。705 は口縁部端部を肥厚させ外面に凹線を巡らせている。706 は口縁部と体部の境の屈曲部に横方向に爪形文を巡らせている。体部外面はヘラケズリである。708 は口縁部端部に刻目を施し、口縁部の下部に刻目突帯を貼り巡らせる。

712～719 は縄文土器浅鉢である。712 の口縁部は体部に比べて肥厚しており、短く屈曲している。713・714・717～719 は口縁部端部は内側に肥厚している。

720～723 は凹基の石鏃、724 は石匙である。725 は片側の端部は欠損しており全体形は不明である。湾曲しており両面とも細かい剥離により整形しているが、内湾部の片面は粗い調整である。用途は不明である。

出土遺物は縄文時代後期の遺物を若干含むものの、後期の遺物が出土した下層には晩期の遺物も多く含まれることから、晩期の自然河川といえる。

SRr03



第 196 図 SRr03 出土遺物

SXr01



第197図 SXr01 出土遺物

#### SXr01 (第197図)

調査区の北西部の34 Tグリッドから34 Uグリッドにかけて検出した落ち込み状の遺構である。北側と東側が調査区外となるため全体形は不明である。調査区内で長軸にあたる東西方向で6.8m、南北方向の幅10～29mである。

埋土の堆積状況は南側に隣接するSDr01・02に酷似していることと時期も同じ縄文時代晩期であること、さらに遺構の位置としても同様の遺構が形成されやすい低地であることから、本遺構は蛇行する溝状遺構あるいは流路の一部と考えた方がよさそうである。

726は縄文土器深鉢で埋土の下層から出土している。口縁部外面に沈線を巡らせ、沈線部分と端部の間に縄文を施している。727は縄文土器浅鉢で埋土の上層からの出土で、口縁部端部内面に沈線が1条巡っている。

縄文時代後期に開削され、縄文時代晩期に埋没した溝状遺構あるいは流路である。

#### (2) 弥生時代の遺構と遺物

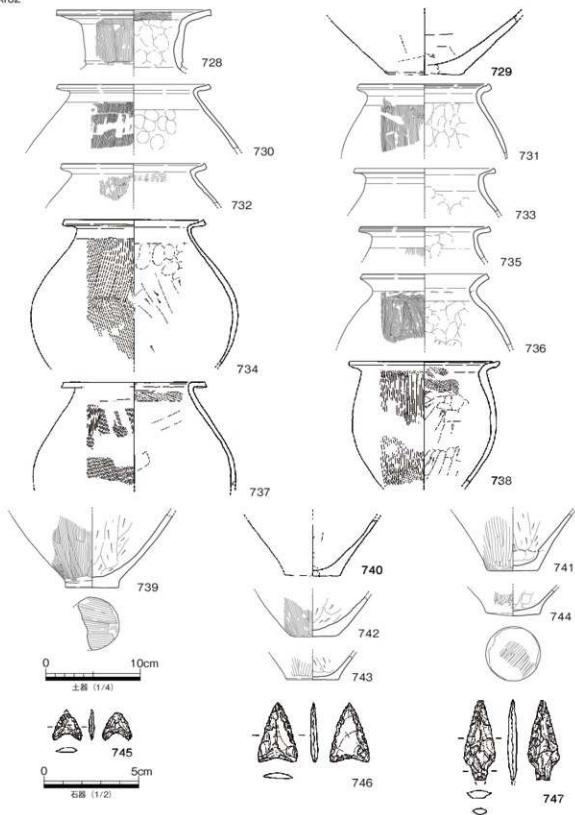
##### SXr02 (第198図)

調査区南東隅の31 Qグリッドから31 Rグリッドにまたがって検出した。検出した部分では平面形は方形に近いが、北側は直線に近いものの東西は凹凸が目立ち不整形である。南側は調査区外に広がるため全体形は不明である。検出した部分では東西6.3m、南北は調査区南壁から3.7mの規模である。底部は一段溝状に深くなっている部分がある。底部付近では湧水が見られ、自然河川SRr02に隣接している。湧水が見込まれる箇所に掘削しており、また全体形が不明であるが底部の一部が溝状になっていることから、取水を目的として、水を外部に流すような役目をもった井戸や出水状の遺構と考えておく。

埋土は上下2層に大別される。遺物の出土量は多く、特に下層からの出土が多くなっている。731・732・744・746が上層、734・737・739・747が底部付近の最下層、これ以外は下層からの出土である。728・729は壺で、728の頸部は若干外傾している。口縁部と頸部の外面にはハケ目を施している。730～744は甕である。730～735の口縁部は短く斜め上方に屈曲する。体部外面にハケ目を施している。734の体部内面のヘラケズリは上半にまで及ぶ。737の口縁部は真横に屈曲している。体部最上部の内面にハケ目を施した後下半に板ナデを加えている。738は体部上半が肥厚しており、口縁部端部付近を強くナデている。体部は外面に粗いハケ目を施し、内面はヘラケズリが上半まで及んでいる。739は底部外面にハケ目、744はヘラミガキを施している。745・746は凹基、747は凸基有蓋式の石甕である。

出土遺物から層位的な時期差はなく、弥生時代後期後半の遺構である。

SXr02



第198図 SXr02 出土遺物



#### SXr05 (第199図)

調査区南東部の32 Rグリッドで検出した土坑である。北側をSDr04に壊されており、残存する南側の平面形は方形に近い不整形である。残存部分で東西3.5 m、南北1.9～2.4 mである。西から東に向かって段を形成しながら下がり、東側が最も深くなっている。

748は壺で、底部は若干平底を残す。体部内・外面共にハケ目を施している。749・750は甕で、ともに体部最大径は中央部にある。749は体部外面はタタキの後にハケ目を施すが、底部付近にはタタキが顕著に残っており丸底に近い。750は体部内面は全体にヘラケズリを施すが、上部と底部付近にはハケ目を加えて調整し、底部は傾斜している。751は鉢で、口縁部端部を強くナデており、部分的に歪んでいる。口縁部内面にもハケ目を施している。752は凹基の石罫である。

出土遺物から弥生時代終末期の遺構である。

#### SXr06 (第199図)

調査区南東部の32 RグリッドでSXr05の南側に隣接して検出した土坑である。また東側は不明瞭であったが後述する遺物から考えて、SRr02の埋没後に掘削されている。西側が途中で屈曲しており東側は調査時に不明瞭であったが、概ね方形に近くなるものである。東西3.0 m前後、南北2.6 mで、掘り込みは西側が全体に緩やかで、下部で傾斜が急になり底部に至る。

遺物は弥生土器の細片が少量出土したのみである。753は壺で複合口縁の上側の部分で、端部は平坦で上面に2個1組の竹管文を巡らせている。また外面には櫛描波状文を重ねている。754は凸基有茎式の石罫である。

出土遺物が細片で判断し難いが、概ね弥生時代終末期の遺構である。

#### SXr07 (第199図)

調査区南東部の31 Rグリッドから32 Rグリッドにまたがり、SXr02とSXr06の間で検出した土坑である。SXr06と同様に東側は不明瞭であったが後述する遺物から考えて、SRr02の埋没後に掘削されている。北側は途中で屈曲しており東側は調査時に不明瞭であったが、概ね長方形に近くなるものである。南北は2.9～3.2 m、東西はSRr02と重なっている部分の一段深くなっている部分までをSXr07とすると5.7 mになる。西側の掘り込みは緩やかで、幅0.7 mほどのテラス面を形成した後に東側に向かい急激に落ちる。

755～758は石罫で756が凸基有茎式である以外は凹基である。土器は弥生土器の細片が出土したのみで図化は出来なかった。

周辺遺構との関係から、弥生時代後期～終末期頃と想定する。

#### SXr08

調査区南東部の32 RグリッドでSXr07の北側に重なっている土坑である。南東側をSXr07に壊されているため全体形は不明であるが、方形に近い。検出部分で南北3.4 m、東西1.7 mで、南端部付近で急激に幅が狭くなっている。掘り込みは全体に緩やかである。

弥生土器の細片が出土したのみであるが、周辺の遺構の状況や前後関係からSXr07よりは古い弥生時代後期～終末期頃と想定する。

SXr09 (第199図)

調査区南東部の32 RグリッドでSXr05とSXr08の間で検出した土坑である。平面形は凸形で北側に向かって突出している。南北方向で3.6 m、東西方向は突出部分で最大幅1.7 m、南側部分で3.1 mである。東西方向に幅広になっている南側部分が一段深くなっており、西側部分が二段に掘り込まれている。南北方向のもと東西方向の遺構が重なっているように見えるが、前後関係は認められなかった。

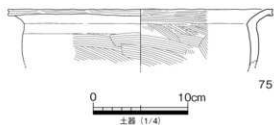
759・760は弥生土器甕である。両者とも口縁部は大きく屈曲しており、体部外面にはハケ目を施している。

出土遺物から弥生時代後期前半の遺構である。

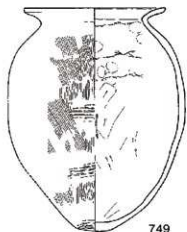
SXr05



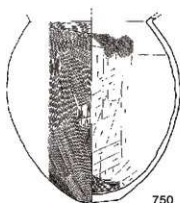
748



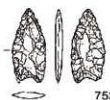
751



749

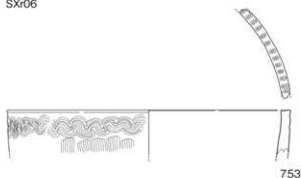


750



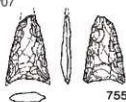
752

SXr06

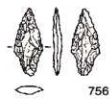


753

SXr07



755



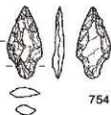
756



757

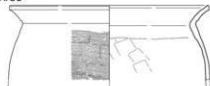


758



754

SXr09



759



760

第199図 SXr05・06・07・09 出土遺物

#### SXr14 (第200図)

調査区南壁際の32 Sグリッドから32 Tグリッドにかけて検出した遺構である。SXr21の南東隅から派生して南側と先端部は調査区外へと延び、調査区内で延長25.6 mを検出した。緩やかに掘り込まれており、平面形は埋土堆積時の侵食や遺構上面の削平によるためか波状になって安定していない。場所により幅は0.77～4.7 m以上と差が大きい。深さは0.2～0.3 m、底部の標高は西端のSXr21との台流部付近で50.59 m、中央部分で50.40 mと緩やかに東に向かって傾斜する。断面は逆台形ないしは皿状で、底部は僅かな起伏が認められる程度ではほぼ平坦である。

埋土は基本的に3層に分けられる。上層は黒褐色砂混じり粘質土で遺構廃絶後の自然堆積層と考えられる。遺構中央付近の窪地部分を中心にレンズ状に堆積する。中層は灰黄褐色粘質土で、灰白色細砂の薄いラミナ状堆積が認められ、少量の流水下での堆積が想定される。下層は底面付近に灰白色細～中砂のラミナ状堆積を伴う黄灰色粘土で、旺盛な水流による砂の堆積とその後の静水下での堆積を示している。基本的な遺構の機能時の堆積は下層のみである。

埋土の堆積状況などからこの遺構は、出水遺構であるSXr21から水を外部へ流出させる用水路の役割を持っていたと考えられる。

遺物は上層・中層で若干出土している。761は弥生土器甕の底部である。762・763は石鏃である。762は凸基で基部は片面のみの調整である。763は平基であるが基部の幅は狭い。

土器は細片であり判断し難いが、弥生時代後期～終末期の遺構と考えられる。

#### SXr16

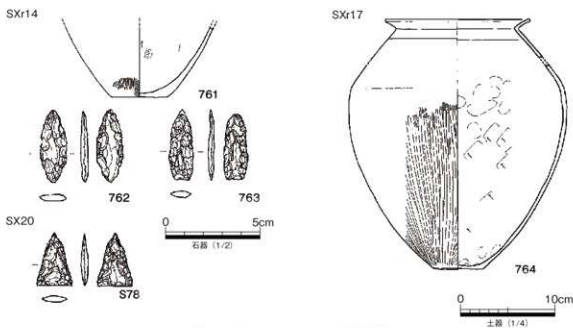
調査区中央部の32 Tグリッドの南壁近くで検出した遺構である。SXr21の南東部に隣接し、SXr14と重なっている。SXr14の底面でSXr14の埋土下で検出していることからSXr14より先行する遺構である。平面形は北側部分が直線的であるが楕円形で、南北方向3.7 m、東西方向2.4 mである。残存する深さは0.56 mで、最深部の標高は50.04 m、断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。北から東側にかけては緩やかに掘り込まれ、南から器の細片が僅かに出土しただけであり、時期を特定することは困難であるが、周辺遺構との関係からSXr14より古い時期の弥生時代後期後半頃を想定しておく。

#### SXr17 (第200図)

調査区中央部の32 Tグリッドの南壁近くで検出した土坑である。SXr16の東側に隣接し、SXr14と重なっている。SXr14の底面でSXr14の埋土下で検出していることからSXr14より先行する遺構である。平面形はやや歪んだ楕円形で、長径0.9 m、短径0.75 m、残存する深さは0.3 mである。最深部の標高は50.1 mで、断面形は方形に近く、底部はほぼ平坦である。南東部分がやや緩やかである以外は垂直に近く掘り込まれている。

埋土は灰白色砂混じり粘土の単一層であり均質でよく締まっている。基本的には遺構廃絶後の自然堆積層である。

底面の中央部のやや上位で弥生土器甕(764)が破砕された状態で出土した。その他には弥生土器広口壺の口縁部の細片などがある。底面から出土した細片もある。764の口縁部は鋭く屈曲している。体部は最大径は上半にあり、外面の下半にはハケ目の後にヘラミガキを加えている。内面の下半にはヘラケズリを施している。



第200図 SXr14・17 出土遺物

SXr14 より古い時期で、出土遺物からは弥生時代後期後半から終末期の遺構である。

#### SXr21 (第201図)

調査区中央やや西寄りの32 Tグリッドで検出した遺構である。平面形は不整形であり、南側は円形に近いが、北東部分が突出している。最長部分は突出部分からの北東-南西方向で9.1 m、南側の円形部分は径6.2～7.0 mの規模である。深さは0.85 mで、底面は平坦である。掘り込みは全体に緩やかで、ある程度の埋没後に再掘削を繰り返している。南東隅には幅0.8 mの開口部がありそのまま溝状になりSXr14につながる。SXr14とは同時併存しており、SXr21で湧水した水をそのままSXr14に流している。このことからSXr21は出水状遺構と考えられる。

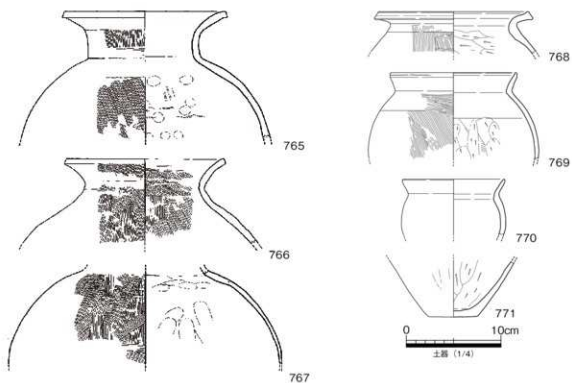
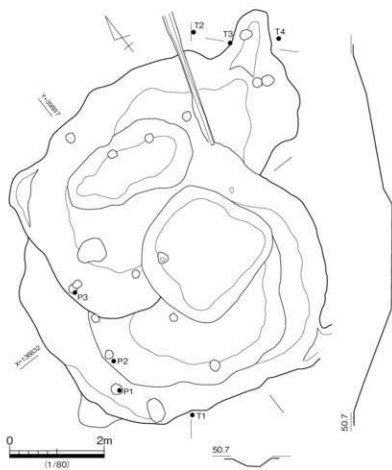
埋土は3層に大別され、上層は黒褐色粘土が、中層は灰色粘土を主体としている。下層は砂混じり粘土で湧水を伴っている。

遺物は上層～下層でそれぞれ出土している。767が中層、768が下層で出土している以外は上層での出土である。765～767は弥生土器壺、768～771は弥生土器甕である。765・767の体部外面はタタキの後にハケ目を施している。766は頸部は不明瞭で、口縁部から体部にかけての内・外面全体にハケ目を施している。768の口縁部は厚手で端部には幅広の面をもつ。体部内面のヘラケズリは口縁部直下まで及ぶ。769の口縁部は直線的に斜め上方に立ち上がり、端部は強いナデにより細くなっている。体部内面のヘラケズリは上半にまで及ぶ。

出土遺物から弥生時代後期中葉～後半の遺構である。

#### SXr25

調査区中央の32 Sグリッドの南壁部分で検出した遺構である。SXr14の底面よりSXr14の埋土下で検出していることからSXr14より先行する遺構である。調査区内では東西3.3 m、南北1.3 m程度を検出したにとどまり、遺構は調査区外へ続いている。平面形は径4.0 m程度の楕円形もしくは方形が想定出



第201図 SXr21平・断面図、出土遺物

来る。残存する深さは0.55 m、最深部の底面の標高は50.14 m、断面形は東側がやや急になっているものの概ね逆台形状である。

埋土は3層に分かれる。上層は黄灰色砂混じり粘土層で、灰黄色細砂がブロックおよびラミナ状に混じることから、緩やかな流水下での堆積が想定される。中層は黄灰色粘土層で粘性が強くよく締まっており、滞水層での堆積が考えられる。下層は灰白色細～中砂層で明らかな流水下での堆積層で、底面には0.5～1.0cm程度の鉄分の沈着した粗砂層が堆積している。なお上層の下部は平坦な面の上に堆積しており、中層堆積後に人為的な改修を行っていると思われる。

透水層を掘り込んでおらず積極的な根拠に乏しいが、埋土の状況や周辺遺構との類似性からSXr25も出水遺構とする。

遺物は下層から弥生土器の細片が僅かに出土したのみである。出土遺物から弥生時代後期の遺構である。

### (3) 古墳時代の遺構と遺物

#### SXr20

調査区中央南寄りの32 Sグリッドで検出した土坑状の落ち込みである。SXr11とSXr14の両者と重なって検出されたが、遺構の前後関係から後述する古代のSXr11より古く、弥生時代のSXr14より新しいものである。平面形は長楕円形に近いが、北側から東側部分が不整形で、特に東側は細長く突出している。長径にあたる東西は6.0 m、短径にあたる南北は1.5～2.1 mである。上部はSXr11により削られているため残存する深さは0.36 mと浅い。最深部の標高は50.30 m、断面形は皿状である。底面は若干起伏しており、東側がやや深くなっている。遺構の主軸はE-3°-Sでほぼ正方位である。

埋土は黒褐色粘土の単一層で、上面に鉄分の沈着が認められ、底面近くで2～5cm大のベース層ブロック土が混じる。また東半部の底面部分には灰白色細砂がラミナ状に堆積しており、埋没の初期段階で流水が及んだことを示している。

遺物は少量の弥生土器細片と須恵器杯身の細片及び平基土織を含む石器が少量出土したのみである。出土した須恵器杯身細片は、後述する古代の遺構SXr11から出土した須恵器杯身(772)と同一個体とみられ、772は本来はSXr20に帰属していたものと思われる。

出土遺物から、6世紀後半に埋没した遺構と考えられる。

### (4) 古代の遺構と遺物

#### SPr01～06

調査区東部の32 Rグリッドで検出した小穴群である。北端のものは後述するSXr11より先行する。小穴は6基検出した。小穴間の距離は0.44～0.50 mと一定である。平面形はそれぞれ東西に長い隅丸方形または楕円形で、長径0.3～0.4 m、短径0.2～0.28 mである。深さは0.04～0.1 mで断面形はいずれも皿状である。小穴群の主軸方向はN-22°-Eで周辺の遺構で似た方位のものはない。

埋土はすべて褐灰色砂混じり粘土の単一層である。埋土には柱痕、根石、詰石などは認められず、周囲には建物などの生活痕跡も検出されなかったことや断面形状から欄列とは考え難く、溝跡の底面に見られるような鋤先の痕跡に近い。

遺物は出土していないため、時期を特定することは困難であるが、埋土の状況からSXr11より先行

する古代の時期とする。

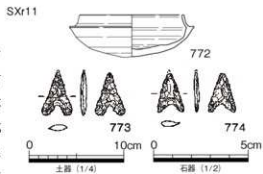
#### SXr11 (第202図)

調査区の中央やや東寄りの32 Rグリッドから32 Sグリッドにかけて検出した浅い落ち込みである。西側と南側は直線的であるが、北側と東側部分は凹凸が激しく不整形であるが、大局的に見れば方形に近い。最も広い部分で東西14.1 m、南北11.4 mで、直線的な南側と西側は概ね現状の条里型地割りの方向に合致する。断面形は浅い皿状で、深さは0.2 mである。底面は最大0.1 mの起伏が顕著に認められる。

埋土は褐灰色砂混じり粘土の単一層で、埋土には0.5～3.0cmのベース土ブロックが多量に含まれる。埋土の状況と底面の顕著な起伏が足の踏み込みによるものとするれば、SXr11は水田耕作地と考えることが出来る。

遺物は弥生土器、土師器、須恵器の細片と須恵器杯身(772)、石鏃(773・774)が出土したのみである。図化できた772～774は混入したもので、特に772は重複した古墳時代の遺構であるSXr20からの混入である。

出土遺物が細片のため時期の特定は困難であるが、遺構は須恵器細片から9世紀に埋没したものと想定する。



第202図 SXr11 出土遺物

#### SXr12

調査区東部の32 Rグリッドで、SXr11の東側に隣接して検出した浅い落ち込みである。上面の一部を後出するSXr15に壊されている。平面形は南北が内湾する台形状で、南北方向4.2 m、東西方向2.9 mである。断面形は浅い皿状で、深さは0.16 mと浅く、最深部の底面の標高は50.54 mである。底面には細かな起伏が顕著で、西端部分で一部土坑状に掘り窪められた部分があるが、埋土に違いは認められず同一の遺構と判断した。

埋土は褐灰色砂混じり粘土の単一層で、埋土には2.0～3.0cmのベース土ブロックを一定量含み、SXr11の埋土と酷似している。

遺物は弥生土器、土師器、須恵器の細片が出土したのみで遺物量は少ない。時期の特定は困難であるが、埋土の状況からSXr11と同時期の9世紀のものとする。

#### SXr13

調査区東部の32 Rグリッドから32 Sグリッドにかけて検出した土坑である。SXr11の底面で検出し、SXr11の形成時に壊されており、下部のみが残存していたものである。平面形は隅丸の長方形で東西方向の長辺が3.5 m、南北方向の短辺が2.13 mで、西辺に幅0.5 m前後、長さ1.85 mの小溝が取り付いている。残存する深さは0.34 mで、断面は逆台形状になる。二段に掘り込まれており、西側部分に平坦面を形成し、東側半分が全体に一段深くなっている。上半部の掘り込みは下半に比べて緩やかになっている。底面は東側に向かって緩やかに傾斜している。

埋土は3層に分層され、上・中の2層は褐灰色粘土層で、中層は粘性が強い。下層はベース層に似ている。

遺物は混入した弥生土器の細片が数点出土したのみである。SXr11より先行する時期であるが、埋土等の類似性からSXr11に近い古代の時期とする。

#### SXr15

調査区東部の32 Rグリッドで検出し、SXr12の埋没後にその北西部分に掘り込まれた土坑である。平面形は楕円形で、長径0.85 m、短径0.48 m、深さは0.32 mで断面形は方形である。掘り込みは垂直に近く、底面は平坦である。

埋土は2層に分層され、上層は褐灰色砂混じり粘土で、埋土には3cm程度のベースブロックを若干含み、層下半を中心に灰白色細砂がラミナ状に堆積している。下層は黄褐色細砂で下部に鉄分が沈着している。上下の層界は平坦で、上層の一部が下層を削るように堆積している。

遺物は混入した弥生土器の細片が数点出土したのみである。SXr12より後の時期であるが、埋土等の類似性からSXr12に近い古代の時期とする。

#### SXr18

調査区東部の32 Rグリッドで検出した土坑である。SXr11の北東部分の底面で検出し、SXr11の形成時に壊されており、下部のみが残存していたものである。平面形は楕円形で、長径3.65 m、短径1.50 m、深さ0.24 mで断面形は逆台形である。底面には起伏が顕著である。

埋土は2層に分層されるが、両者とも褐灰色粘土であるが上層には砂が多く混じり、下層は粘性がより強いことから分層した。

遺物は混入した弥生土器と須恵器の細片が数点出土したのみである。SXr11より先行する時期であり、SXr13と埋土が酷似していることからSXr13と同様にSXr11に近い古代の時期とする。

#### SXr19

調査区東部の32 Rグリッドから32 Sグリッドにまたがって検出した土坑である。北側をSDr04に、南側をSXr11にそれぞれ削平されている。平面形は楕円形に近いが直線的な部分が目立つ。長径に相当する東西方向は3.2 m、短径に相当する南北方向は1.9 mが残存している。東端部は幅0.3 m、長さ0.6 mの小規模な溝SDr11が取り付き、SXr22に接続している。深さは0.4 m、底面の標高は50.22 mで、断面形は丸みを帯びた逆台形である。

埋土は2層に分層されるが、両者とも褐灰色粘土で下層は粘性が強い。埋土の特徴はSXr13・18と酷似している。

遺物は出土していないが、埋土の状況からSXr13・18と同様にSXr11に近い古代の時期とする。

#### SXr22

調査区東部の32 Rグリッドで検出した土坑状の落ち込みである。西端でSDr11を介してSXr19と接続している。北側をSDr04により大きく壊されているとともに南西部をSXr11により壊されているため全体形は不明である。検出部分は東西に長い方形の南辺中央部が突出している。東西で5.8 m、南



北の検出幅は0.9 ～ 1.3 mで、中央の突出部分の幅は1.9 mになる。なお西端の東西1.75 m部分については土坑状の落ち込みになっていたが埋土に前後関係は認められなかったことから同一の遺構と判断した。深さは0.64 mと深く、底面最深部の標高は50.10 mまで下がり、多量の湧水を伴った。断面形は逆台形状で、底面は鋸歯状と見られる小さな起伏が顕著である。なお底面には20cm程度の小礫が数個出土している。

埋土は3層に分層され、いずれも灰色系粘土と細～粗砂のラミナ状堆積である。下層は粘土の堆積は薄く、圧倒的に砂の堆積が多く北から南に傾斜して堆積している。これに対し中層は砂の堆積が薄く、南側に厚く粘土が堆積していた。この傾向は上層でも認められ、砂のラミナ状堆積は減少し、粘土質の堆積層となる。少ないものの砂のラミナ状堆積が認められることは、引き続き流水状態はあるものの、中層以上では滞水状態での穏やかな環境下での堆積が主となっていたと考えられる。なお層界は一部不明瞭な部分があり、比較的短期間に埋没したのであろう。

遺物は各層から弥生土器や土師器の細片が少量出土したのみで、詳細な時期の特定は困難である。SXr11より先行する時期であり、SXr13・18と埋土が酷似していることからこれらと同様にSXr11に近い古代の時期とする。

#### SXr23

調査区中央部や南寄りの32 Tグリッドで検出した土坑で、弥生時代後期のSXr14の埋没後に形成されている。平面形は北側が先細りになった楕円形で、長径1.25 m、短径は中央部分で0.65 mである。深さは中央部分で0.5 m、北側の先細りになった部分で0.18 m、底面の最深部の標高は50.16 mである。断面は方形で、掘り込みは緩やかである。

埋土は褐灰色粘土の単一層である。中央から南側にかけて下部に灰白色細砂がラミナ状に堆積しており上部とやや異なるが、層界が不明瞭であるため分層していない。基本的には滞水状態での穏やかな環境下での堆積である。なお底面には3～4cm大の小石が少々認められたが、これはベース土からの混入である。

遺物は出土していないが、埋土の状況からSXr11に近い古代の時期とする。

#### SXr24

調査区中央部や南寄りの32 Sグリッドで検出した土坑で、SXr23の2 m東側に隣接しており同様に弥生時代後期のSXr14の埋没後に形成されている。平面形は楕円形であるが北側が緩やかに内湾している。長径1.45 m、短径0.88 m、深さ0.34 mで最深部の標高は50.24 mである。断面形は逆台形で、掘り込みは南北が緩やかで東西は急になっている。

埋土は2層に分層される。下層は中～粗砂が多く混じる粘土層で、滞水下での自然堆積層である。

遺物はSXr14からの混入である弥生土器の細片が少量出土したのみで、遺構の時期は特定し難いが、埋土の特徴から古代とする。

## (5) 中世の遺構と遺物

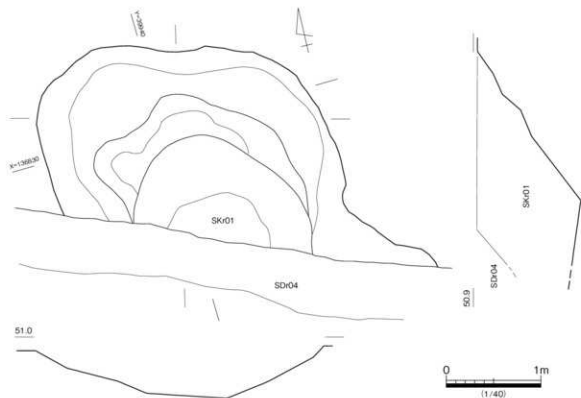
### SKr01 (第203図)

調査区東端部の32 Qグリッドで検出した井戸状の遺構である。埋没後の自然河川SR r03の上に掘削されている。また南側部分はSDr04により壊されているため、全体形は不明であるが、残存部分は東側が内側に窪む長楕円形で、長径の北西-南東が4.32 m以上、短径の北東-南西が2.6 m以上となっている。北西から東側にかけては段状に掘り込まれており不整形なテラスを形成している。そして中央部分には一辺1.6 mの隅丸方形の土坑状となって下がっている。深さは1.24 m、底面の最深部は標高49.68 mで、断面形は概ね逆台形ある。透水層である灰色砂礫層を0.4 mほど掘り抜いており、調査時には湧水が顕著に認められた。

埋土は10層に分層され、遺構廃絶後の人為的埋め戻し土である上層(1~7層)と、遺構機能時の堆積層などの下層(8~10層)に大別される。上層は20cm程度の地山及びベース層のブロック土を多量に含む粘土ないし砂層であり、南西に傾斜して堆積している。北東側から投入された人為的な埋め戻し土である。上層はさらに灰白色中砂~粗砂と粘土のラミナ堆積層(5層)を境に上下(1~4層と6・7層)に細分される。5層はブロック土が認められず水平堆積になっていることから、滞水下での自然堆積層と考えられ、埋め戻しが一時中断したことを示している。これに対し下層は中央部分の隅丸方形の土坑状の掘り込み部分に堆積した土層で3層に細分される。掘り込み部の中央には植物遺体を多量に含む粘性の強い黄灰色粘土(9層)が掘り込み上端付近まで堆積している。滞水下での堆積層であり、層の外縁部が垂直に立ち上がることで、層上面で径0.6 m程度の円形の部分が認められたことから、9層が有機質の容器内に堆積した土層、つまり曲物あるいは桶が据え付けられていたことが想定される。9層の周囲には容器の裏込め土と考えられる砂や粘土の堆積があり、15cm以下の多量の小礫を含んでいた。

上記の有機質層(9層)の上位には井筒や石組などの構築物やその痕跡は確認されなかった。上層は人為的な埋め戻し土であり井筒の裏込め土に相当するものは認められなかった。井筒を転用・再利用するために周囲を大きく掘り下げたのかもしれない。さらに旧河川という湧水が見込まれる箇所構築されていることから、SKr01は井戸と考えるのが妥当である。

遺物は上層から縄文土器や須恵器杯蓋の細片のほかに、土師器杯や播鉢などの細片が出土している。後者の遺物は16世紀後半のものであり、この時期は後述するSDr04の時期と同じか直前である。SDr04を設置するためにSKr01は廃絶され埋め戻されたのである。



第 203 図 SKr01 平・断面図

### SKr03

調査区東部の 32 R グリッドで検出した浅い落ち込みである。北側を SDr04 に埋されているため全体形は不明である。検出部分は南側が内側に向いて蛇行するもの、概ね方形である。東西 1.2 ～ 1.4 m、南北 1.6 m 以上である。深さは 0.15 m と浅く、断面形は皿状である。底面は緩やかに北に向かって傾斜している。底面には直径 0.2 ～ 0.3 m、深さ 0.1 m 前後の円形の小穴が不規則に穿たれていた。

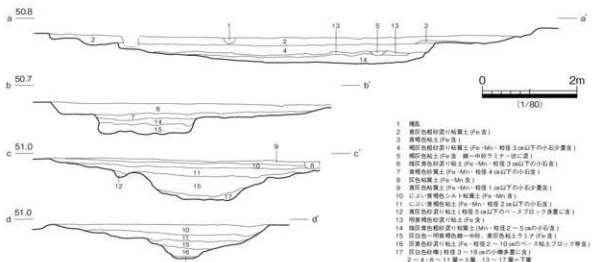
埋土は褐灰色シルト質粘土の単一層で、灰黄色細砂のラミナ状堆積が顕著である。また底面の小穴には灰色粗砂が堆積していた。

遺物は土師器小皿と見られる細片と十瓶山産須恵器碗の口縁部の細片がそれぞれ少量出土したのみである。遺物から 13 世紀代の時期である。

SDr04 (第 204・205・206 図)

中央の 32 Q グリッドから 33 U グリッドにかけて東西に貫く大型幹線水路である。東西の両端は調査区外に至り、調査区内で延長 81.3 m を検出した。幅 4.5 ～ 10.0 m、深さ 0.6 ～ 0.9 m で、底面の標高は東端で 50.66 m、西端で 49.64 m となり、底面の標高差は 1.02 m で緩やかに東から西に向かって下っている。調査区西端から E - 16° - S の方向で直進した後に、C - C' 断面付近で僅かであるが南側に屈曲して、E - 24° - S の方向をとって調査区東端に至る。断面形状も東端から 38 m 部分を境にして東側と西側で大きく異なっている。東側は上部 0.3 m ほどは南北両岸に幅 0.5 ～ 2.8 m のテラスを形成して緩やかに落ち込み、それより下部はやや強く掘り込まれ断面は上面幅が 2.0 ～ 2.8 m の逆台形の二段掘りになる。底面は溝の清掃や湧水確保のための基底礫層の掘り込みなどによる若干の凹凸を除けば、断面図のように概ね平坦である。東端から 38 m 部分より西側では、東側で見られた二段の掘り込みは認められず、両岸が緩やかに掘り込まれ、断面は幅広の逆台形になり、底面も平坦面が連続している。

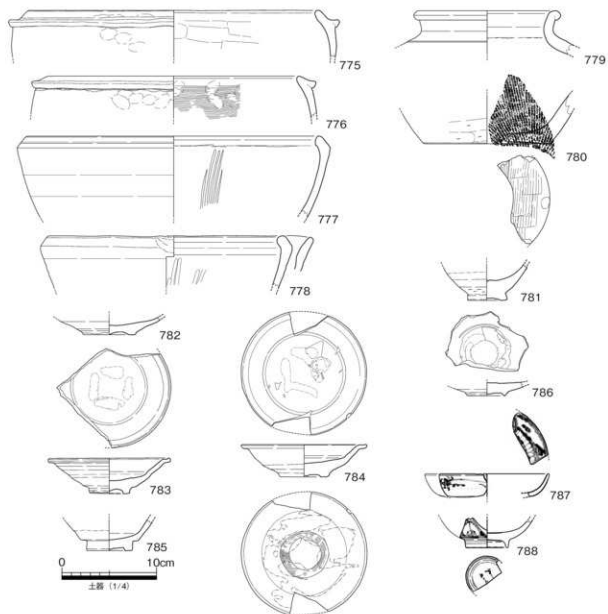
埋土は上記の断面形状の差と関連して東側と西側で大きく異なる。東側では埋土は 4 ～ 5 層に分層され、基本的にテラス部分に水平堆積した上位 2 ～ 3 層 (上層) と、逆台形状の掘り込み部分に堆積した下位 2 ～ 3 層 (下層) に大別される。上層は層界は微細な起伏があるものの概ね水平堆積する黄灰・黄褐～灰黄色系粘質シルト～粘土層である。埋土中には 3 cm 以下の小石と 7 cm ほどの下層のブロック土を少量含むのみで、流水下での堆積の可能性のない均質な内容となっている。下層は最上位に灰～黄褐色系粘土と細～粗砂のラミナ層が堆積している。層厚は 0.15 ～ 0.4 m で、C - C' 断面付近に厚く堆積し東西に薄く広がっている。0.15 m 以下の小礫を一定量含み、顕著なラミナ堆積を示すことから旺盛な水流を裏付ける。A - A' 断面を中心とする西側部分の下層は 2 層に分かれ、このうちの上部には明黄褐色砂混じり粘土が、下部には暗灰黄色粗砂混じり粘質土が堆積している。東側の底面直上には 3 ～ 18 cm の円・亜角礫を多量に含む灰白色砂礫層が堆積しているが、調査区東端部では確認されず、東端部より 2 m 西から徐々に厚みを増しながら確認された。礫は砂岩を主体として花崗岩や安山岩が認められ、基盤となる礫層の礫の種類と共通することから、侵食により巻き上げられた基盤層の再堆積と考えられる。東端部でこの層が認められないのは、この部分では底面が浅く基盤礫層まで掘削が及んでいないためである。これに対して西側の底面直上である暗灰黄色粗砂混じり粘質土層には 5 cm 以下の小石が一定量含まれる。東側の底面直上の層との明確な前後関係は認められず漸移している。礫の混



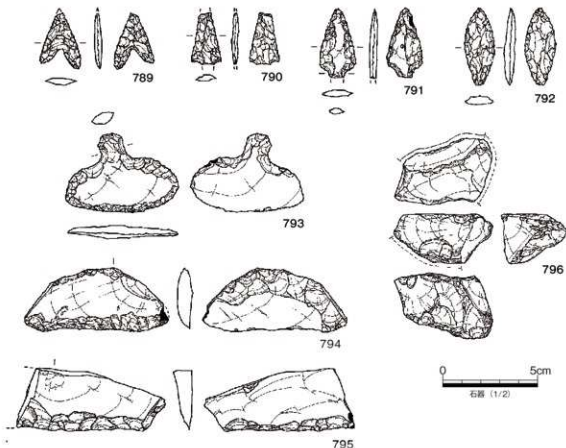
第 204 図 SDr04 断面図

入が少ないことはこの部分の底面が基盤礫層に及んでいないため、底面には顕著な鉄分の沈着が認められた。

遺物は肥前系磁器・陶器、瀬戸美濃系陶器、備前焼、堺・明石系陶器、瓦などの近世遺物が中心に出土しており、これに青磁、備前焼、瓦器、土師器、足釜、播鉢、須恵器、弥生土器、縄文土器、サヌカイト製石器などの中世以前の遺物も出土している。特に下層では17世紀前半までの遺物が主体となっている。これらのうち775～796が図化出来たものである。775・776は土師質の足釜、777・778は土師質の播鉢である。779は備前焼の壺で口縁部は玉縁になっている。780は備前焼の播鉢である。782～785は肥前系陶器で、783と784の見込み部分には砂目積みの痕跡が残る。786の見込み部分は蛇の目軸割りになっている。787・788は肥前系磁器である。793は石匙でつまみ部以外は主に片面からの調



第205図 SDR04 出土遺物(1)



第 206 図 SDr04 出土遺物 (2)

整になる。794・795はスクレイパーで刃部は794が片面から、795が両面からの調整で作り出している。796はサヌカイト製の火打ち石で敲打痕が認められる。

出土遺物から下層は16世紀後半に開削され17世紀前半には埋没しており、下層部分については幹線水路として機能していた。これに対し上層は18世紀前半までは継続している。下層が埋没してから上層が埋没するまで1世紀近くの時間が開いているが、上層部分が下層部分と埋土の様相が異なることと、幅や断面形状も異なることから、上層部分は整地層や耕作地といった水路以外の機能を考慮する必要がある。

#### SXr10

調査区東部の32 Rグリッドで、SDr04の底面で検出したSDr04に先行する土坑である。SDr04の調査区東端から西へ9.0 mの箇所にあり、平面形は長楕円形で長径12.8 m、短径2.8 mで、SDr04の底面の中央部分で同じ東西方向に溝状に形成されている。そしてSXr10の中央部分は楕円形に0.1～0.2 mほど深く掘り込まれている。縦断面は皿状、横断面は逆台形になる。底面は基盤礫層を0.4～0.7 m掘り抜いており、顕著な湧水が認められた。

埋土はグライ化した灰色系粘土と灰色系細～粗砂のラミナ状堆積を基本としている。また埋土の上層には鉄分の沈着が認められる。埋土や調査の状況から一定量の湧水が見込まれることから出水状の遺構とする。

遺物は須恵器・土師器の細片や出土しているのみである。出土遺物やSDr04に先行するがSDr04の掘削を契機として廃絶されたとするなら16世紀後半の時期である。

#### SXr26

調査区東部の32Rグリッドで検出した浅い落ち込みである。東側を近世のSDr08により壊されているため全体形は不明である。検出部分の平面形は不整形で、外縁部は凹凸が著しい。南北3.15m、東西1.15m以上、深さは0.1mと浅い。断面形は皿状である。底面には直径0.3～0.5m、深さ0.1m前後の小穴状の窪みが顕著に認められる。

埋土は褐灰色砂混じり粘質土の単一層で、灰黄色細砂のラミナ状堆積が顕著である。窪み部分には中砂が堆積しており、全体として北西に隣接するSKr03と似ている。

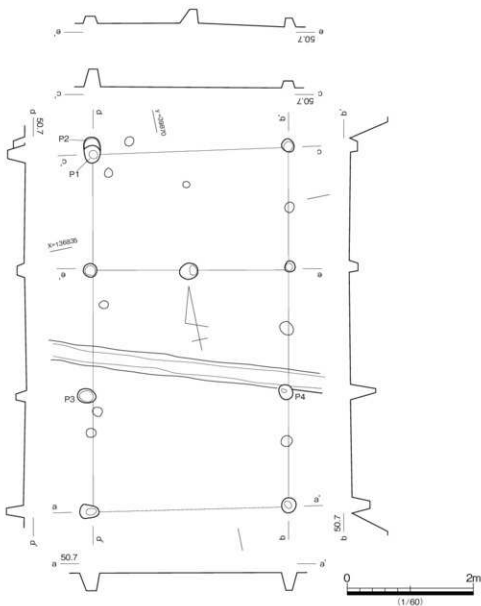
遺物は須恵器や土師器の細片が少量出土したのみであるが、遺物や埋土の特徴からSKr03と似た時期の13世紀代とする。

(6) 近世の遺構と遺物

SBr01 (第207図)

調査区の南東部の南壁部分の32 Uグリッドで検出した掘立柱建物跡である。梁間3.13 m (2間) × 桁行5.67 m (2間)で、床面積17.75㎡で、建物の主軸方位はN 11.6° Eの南北棟となる。梁間の北から2列目の中央には東柱があることと柱間の長さから、北端と南端の梁間は現状では1間であるが、本来は中央に柱穴がある2間に復元できる。

柱穴から遺物は出土していない。柱穴が包含層の上面から掘り込まれていることから18世紀前後の時期とする。



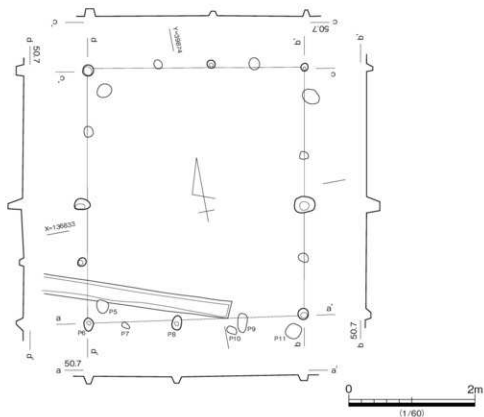
第207図 SBr01 平・断面図



### SBr02 (第208図)

調査区の南東部の南壁部分の32 Uグリッドで検出した掘立柱建物跡でSBr01の東側に隣接する。梁間3.43 m (2間) × 桁行3.90 m (4間)で、床面積13.38㎡で、建物の主軸方位はN 10.5° Eの南北棟となる。梁間の北端と南端の柱列の中央の柱穴は不揃いである。また東側の桁行列の北から2穴目を欠いている。

柱穴から遺物は出土していない。柱穴が包含層の上面から掘り込まれていることから18世紀前後の時期とする。

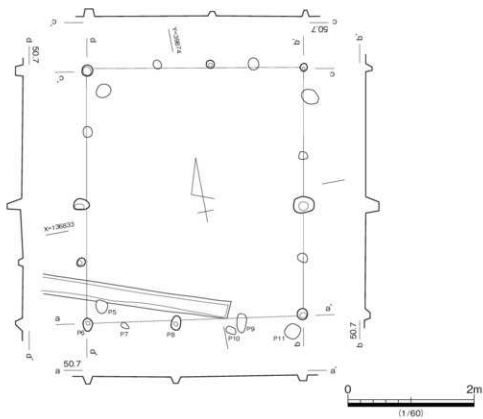


第208図 SBr02平・断面図

### SBr03 (第209図)

調査区の南東部の南壁部分の32 Tグリッドから32 Uグリッドで検出した掘立柱建物跡でSBr02の東側に隣接する。梁間3.75 m (2間) × 桁行4.36 ~ 4.50 m (2間)で、床面積16.88㎡の総柱建物で、建物の主軸方位はE 89° Sの東西棟となる。西側の梁間列は斜めになっており、建物全体が整った方形にはならない。

柱穴から遺物は出土していない。柱穴が包含層の上面から掘り込まれていることから18世紀前後の時期とする。

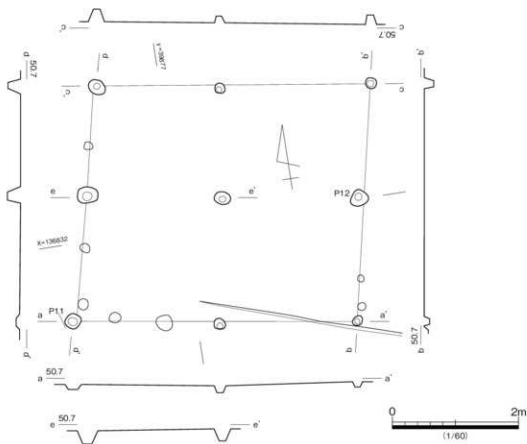


第209図 SBr03 平・断面図

SBr04 (第210図)

調査区の中央やや西寄りの32 Tグリッドで検出した掘立柱建物跡である。弥生時代のSXR21と同じ位置にある。梁間3.43 m (2間) × 桁行7.55 m (3間)で、床面積25.90㎡で、建物の主軸方位はN 11.3° Eの南北棟となる。梁間の北から2列目の中央には束柱があることと柱間の長さから、北端と南端の梁間は現状では1間であるが、本来は中央に柱穴がある2間に復元できる。また梁間は北側に比べて南側のほうが若干広くなっている。

西桁行列の南から2つめの柱穴から土師器の細片が1点出土したのみである。柱穴の掘り込みの位置や遺物の大まかな年代観から、他の掘立柱建物跡と同様の18世紀前後とする。

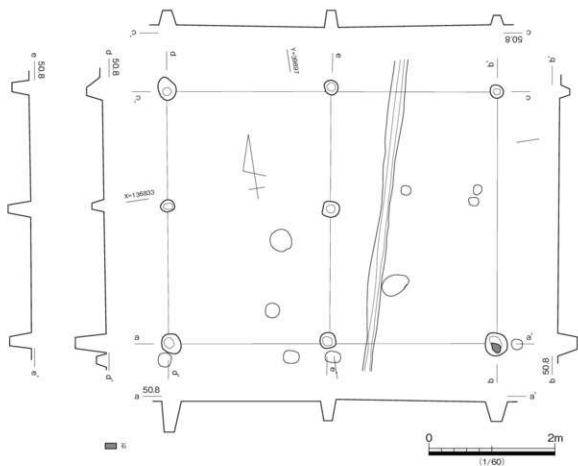


第210図 SBr04 平・断面図

**SBr05 (第211図)**

調査区中央部の32 Sグリッドから32 Tグリッドにかけて検出した掘立柱建物跡である。梁間4.00 m (2間) × 桁行5.25 m (2間)で、床面積21.00㎡で、建物の主軸方位はE 8.7° Sの東西棟となる。東側の梁間列の中央の柱穴に欠いているものの、本来は総柱建物になる。南東隅の柱穴には根石を確認した。

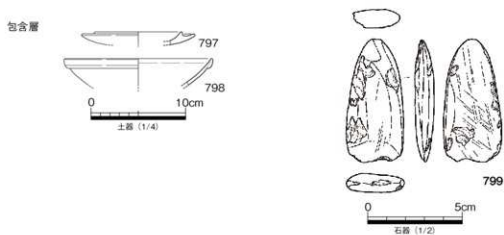
柱穴から遺物は出土していない。柱穴の本来の掘り込み面も不明であるが、周辺遺構の埋土との比較から18世紀前後の時期とする。



第211図 SBr05平・断面図

(7) 包含層出土の遺物 (第212図)

797・798はそれぞれ調査区西側の包含層から出土している。797は土師器の灯明皿で、内面に口縁部より高い突起が巡る。798は白磁碗で口縁部は玉縁になっている。799は調査区北西部のSDr02とSDr04との間の包含層で出土した磨製の小型片刃石斧である。基部は丸みを帯びて先細りになる。蛇紋石と思われる石材を使用している。



第212図 包含層出土遺物

## 第Ⅷ章 まとめ

### 第1節 C調査区の歴史の変遷

#### 1. 弥生時代

丘陵裾部を北流する大規模な溝状遺構（SDb01）が掘削されている。この溝状遺構は、古代、中世の溝状遺構および現代の用水路と同じ経路である点から、丘陵西側の平坦面（段丘面）を灌漑する目的で掘削されたものと判断できる。過年度に整理報告済みの知見を合わせると弥生時代後期末頃の利用・埋没の年代が考えられるが、この時期の土地開発が後代と同じものである点で注目される遺構である。

#### 2. 古墳時代

丘陵裾部に古墳時代後期（TK209 型式並行期）の堅穴住居跡が数棟建てられている。また、SDb01を再掘削する溝状遺構がある。

遺跡周辺に視野を広げると、南東に500mほど離れた山田下吉田遺跡でも丘陵裾部に同時期の堅穴住居跡が複数検出されており、数棟の建物からなる集落が点在するようである。

#### 3. 古代

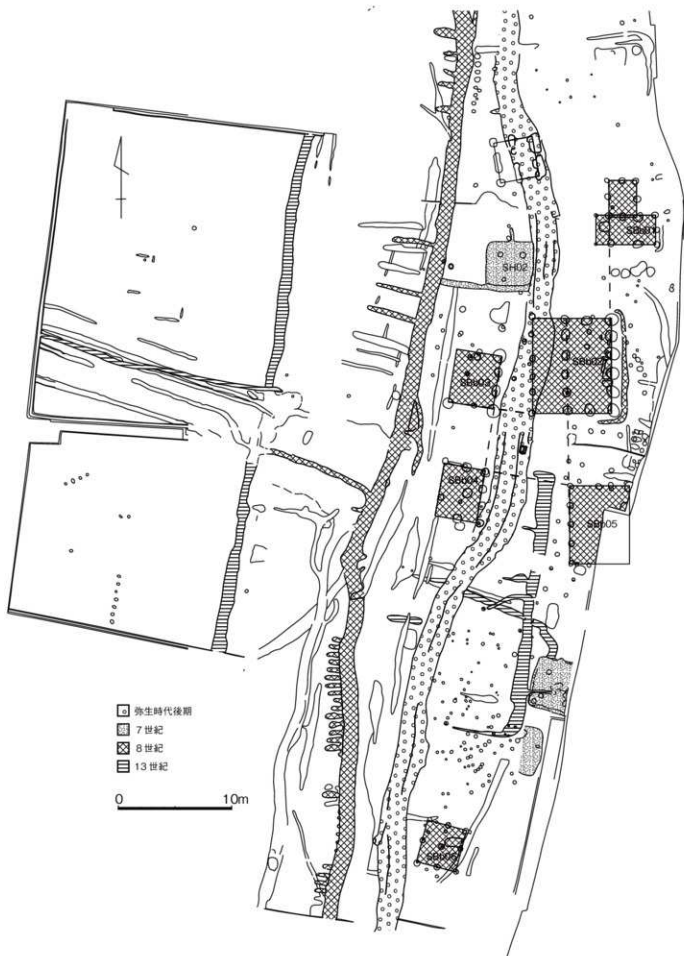
計画的に配置された掘立柱建物からなる集落が営まれる。これは2×5間の身舎の西側に庇をつけた建物を主屋に、2棟の付属棟、3棟の倉からなる。

福山敏男氏は、奈良時代の庄園について、天平19年（747）の法隆寺、大安寺の伽藍縁起并流記資料帳の記載から、平均すると1庄に倉2棟、屋3棟があったと指摘している（註1）。宮本長二郎氏は、墨書土器等の出土により庄園の庄所であることが判明した高瀬遺跡（富山県）、じょうべのま遺跡（富山県）、横江庄遺跡（石川県）の検出遺構を検討し、主屋を中心にその左右に付属建物を配し、これに倉を加えた4～5棟で構成されていたこと、主屋はいずれも5間で庇をもち、その規模や形式は類似したものであることを指摘している（註2）。さらに小口雅史氏も、その後の発掘資料を加えて宮本氏の見解を追認している（註3）。

西末則遺跡の掘立柱建物群のなかで主屋と考えられるSBb02は、梁行2間（4.0m）、桁行5間（8.0m）で西側に庇をもつ建物である。これは先述の高瀬遺跡ほかで指摘されている庄所の規模よりも一回り小さいものであるが、香川県内の遺跡では、これと類似する規模の建物が中心的な位置を占めると考えられる遺跡が散見される。例えば、東かがわ市引田の川北遺跡では、7世紀後半から8世紀前半の掘立柱建物12棟他が検出されている（註4）。建物は数時期に分かれるが、2間（4.2m）×4間（8.4m）の7尺等間で同一規模の建物4棟のほか、3棟の倉等からなる。丸亀市の津森位遺跡も掘立柱建物群が検出されているが、中心的な位置を占める建物（I区SB04）は、2間（4.1m）×5間（8.5m）の規模である（註5）。津森位遺跡のI区SB04は西末則遺跡SBb02の身舎部分と同形同大である。これらは西末則遺跡のSBb02と酷似する規模といえる。

以上のことから、西末則遺跡の古代の掘立柱建物群は、初期庄園の庄所に類する性格を持つ可能性が考えられる。ただし、庄園であることを示す資料は出土していない。

西末則遺跡の掘立柱建物群の西側では、古代の溝状遺構（SDb06～08）が検出されている。弥生時代のSDb01と同様に、丘陵西側に広がる平坦面（段丘面）の開発に伴うものと評価できるが、さらには条里地割の造成とも関連している可能性が指摘できる。



第213図 年代別配置図

西末則遺跡の調査で条里地割に係わる遺構のうち、確実に年代が押さえられる遺構は中世の溝状遺構であるが、間接的な傍証としてSB b 06の建物方向が条里地割の方向と合うこと等があげられる。西末則遺跡周辺の綾川流域には、異なる方向をもった条里地割が小範囲に複数分布している。これは、綾川の河道によって分断された平地ごとに条里が施工された結果と考えられるが、西末則遺跡の掘立柱建物群は、丘陵西側に広がる条里地域の開発もしくは経営の拠点としての性格があったのではなかろうか。なお、綾川の南岸の宗戸泉谷遺跡でも古代の掘立柱建物が複数見つかっているが、同様の性格をもつ集落の可能性が考えられる。つまり、西末則遺跡の掘立柱建物群は、初期庄園の庄所と類似する様相をもつことから、庄所であるかどうか不明であるものの、地域開発もしくは経営の拠点としての性格を持つもので、類似する規模・形式の建物が県内他遺跡でも見られることから、律令国家による規格もしくは規制が窺えることが指摘できる。

#### 4. 中世

丘陵裾部に柱穴が散漫に検出され、柱穴配置から数棟の掘立柱建物が復原される。丘陵西側の平坦面(段丘面)は生産域として土地利用されていたものと考えられる。

#### 註

- 1 福山敏男「建築」児玉幸多編『図説日本文化史大系 第3巻』小学館、1956年
- 2 宮本長二郎「建築よりみた二つの遺跡」高島忠平・阿部義平ほか『井波町高瀬遺跡・入善町じょうべのま遺跡発掘調査報告書 富山県埋蔵文化財調査報告書3』富山県教育委員会、1974年
- 3 小口雅史「荘所の形態と在地支配をめぐる諸問題」佐藤信・五味文彦編『土地と在地の世界をさぐる—古代から中世へ—』山川出版社、1996年
- 4 香川県教育委員会ほか『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第五十一冊 川北遺跡三股出口遺跡』2004年
- 5 香川県教育委員会ほか『国道丸亀詫間豊浜線(観音寺工区)及び国道多度津丸亀線(丸亀工区)緊急地方道路整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 高屋条里遺跡津森位遺跡』2009年



## 第2節 D・E 調査区の歴史の変遷

### 1. 概要

D 調査区の末則丘陵斜面部～裾部にかけての地域では、先述した C 調査区同様、斜面の等高線に沿うように、弥生時代後期後半～末・古代・中世の多数の溝状遺構を確認し、弥生時代～中世に至る灌漑水路の変遷を捉えるうえで良資料になった。丘陵裾部から段丘面上の E14 区以南の E13・F12 区からは、中世後半～近世初頭頃の堀状の大溝で画された居住域を検出した。

E 調査区の段丘面上には綾川から派生する弥生時代後期後半～古代以降の複数の小流路と、末則丘陵方面から流下する谷状の小流路が交差しており、それらの流路の周辺や上面に古代・中世前半・中世後半～近世の小規模な集落が広がる。次に主要な遺構を①弥生時代 ②古代 ③中世前半 ④中世後半～近世初頭の4時期に区分し大まかな歴史の変遷についてまとめる。

### 2. 弥生時代

#### D 調査区の状況

集落に直接係わる遺構は確認できていないが、溝等の遺構及び自然河川、包含層中から遺物が出土しており、この時期の集落が隣接地に推定できるものと考えられる。調査区から外れるが、調査区東辺に隣接する末則丘陵上には、弥生時代中期末～後期前半の遺構を確認している(註1)。これらの点から弥生時代の集落は、末則丘陵の現在民家が密集している南斜面部周辺に広がる可能性が考えられる。

丘陵西斜面裾部の C13 区周辺で確認した SDe01・02 は、丘陵裾部を巡るように配された弥生時代後期末～古墳前期初頭頃の大溝で、規模的な点で灌漑用の幹線水路と考えられる。取水箇所については、末則丘陵東斜面部の綾川氾濫原付近の可能性はあるが、今後の課題になる点が多い。なお、「報告 I」(註2)で紹介した、南方の A 調査区 SDa07・08 等の SDe01 (SDa06) より分岐する溝跡は、幹線水路より段丘面上面に導水するための支線水路と考えられる。この時期の水田域については、具体的なデータは見当たらず今後の課題になるが、対象地内で確認できる自然河川中で設けられた小規模な水田域が、対象地の北西に広がる綾川氾濫原付近が候補地としてあげられる。

F12 区で検出した SRe01・02 は、トレンチで確認した河川である。全掘していないため不明点が多いが、F12 区南東端から E14 区の SDe20・21 周辺に続き、北村用水を越え J・H 調査区の自然河川に至る。南方では E 調査区の E10 区 SDe23 あたりに連続する可能性がある。

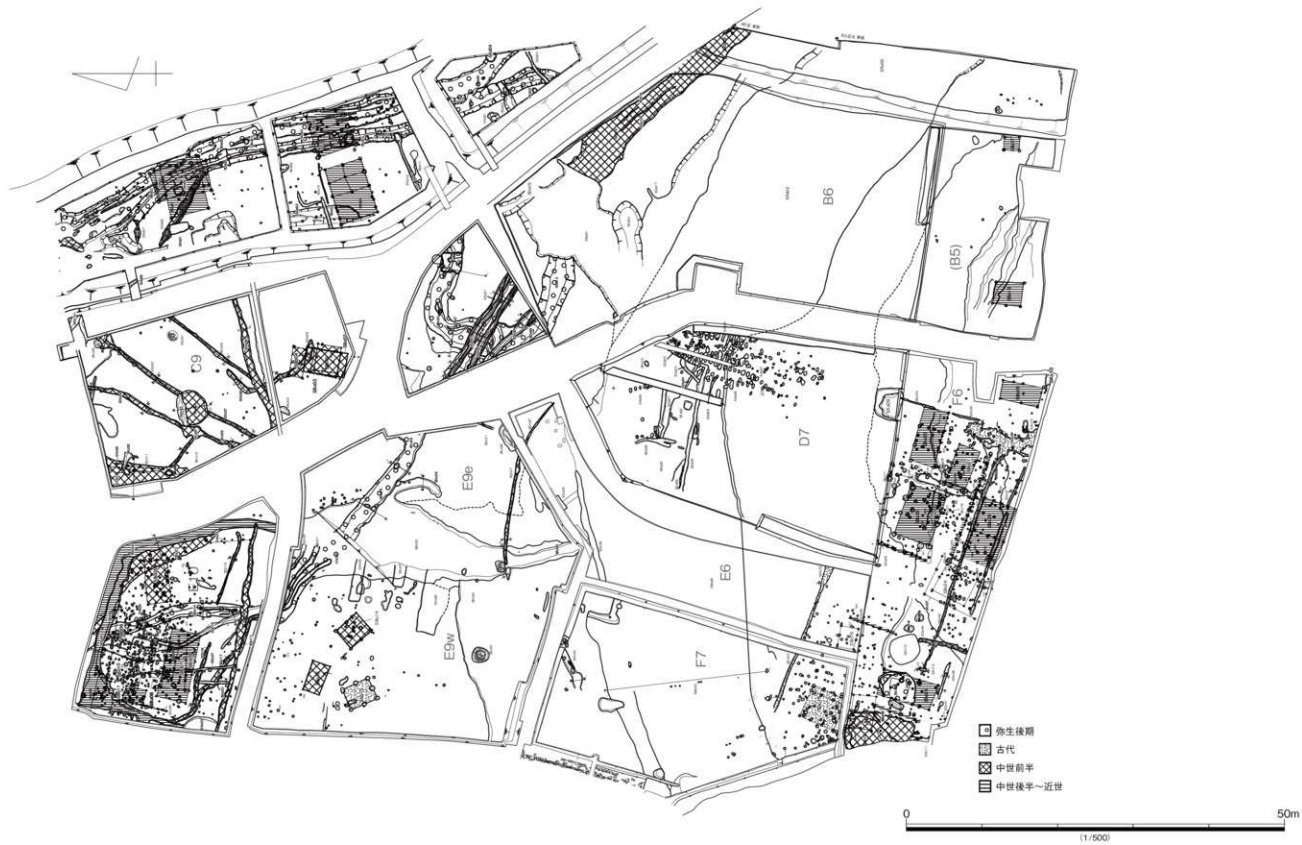
#### E 調査区の状況

D 調査区同様、集落に直接係わる遺構は確認できていないが、溝等の遺構及び自然河川、包含層中からこの時期の遺物が比較的多量に出土しており、先述したようにこの時期の集落は、末則丘陵の現在民家が密集している丘陵南辺地域に広がる可能性が高い。

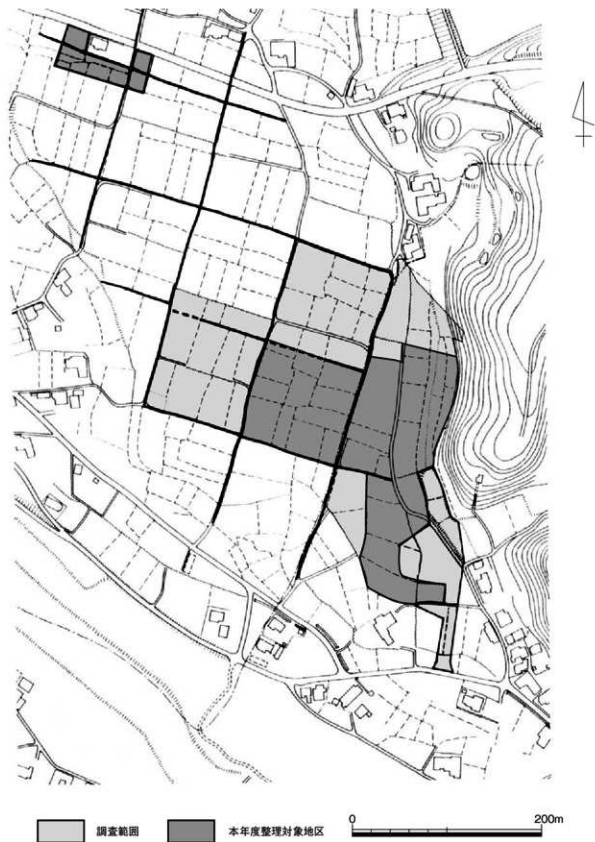
E 調査区の代表的な遺構としては、弥生時代後期後半新相以降と考えられる大型の土坑状の遺構と溝跡等があげられる。E9e 区の SKo06、F6 区の SXo09 は、弥生時代後期後半新相以降に埋没した大型の土坑状の遺構である。溝状遺構としては、北半部の C9・E9e・E10 区からは、弥生時代後期以降の



第214図 年代別配置図



第 215 図 年代別配置図



第 216 図 西末則遺跡周辺条里型地割復元図

SDo00～03・14・29等の溝跡があげられる。これらの溝跡は配置等から推定して北西方向へ延びる一連の溝状遺構で、D調査区のSDe35へ繋がる溝跡である。

E調査区では弥生時代の複数の自然河川が確認されているが、部分調査で調査を終えている所が多々あり、河川網の把握には問題を残すところがある。SRo01・03・05（SRa02）・07～10は弥生時代後期後半以降に埋没を開始した河川である。流路方向から段丘面を東西に横断する、SRo03・05・07～10等と、末則丘陵方面から流下してくる小流路SRo01等に分けられる。SRo05（SRa02）は調査区を東西に横断する幅広い河川である。弥生時代後期後半新相頃の弥生土器と7～9世紀頃の土器が混在しており、弥生後期後半頃から埋没を開始し古代前半以降に埋没が完了した河川と考えられる。なお、SRo05（SRa02）は、先の「報告Ⅰ」の際にはプラントオパール分析を行ない、河川がある程度埋没した段階で水田化されていた状況が推定できる（註3）。

### 3. 古代

#### D調査区の状況

北に隣接するC調査区の末則丘陵西斜面では、7～8世紀の堅穴建物や掘立柱建物からなる、集落跡を確認したが、D調査区ではC・A調査区から続く多数の溝跡を確認した。

丘陵裾部のC13区で確認したSDe11は、C13区北半部に位置し南北方向に延びる溝跡で、C調査区のSDb07に続く、7世紀初頭以降に埋没した溝跡である。SDe11の東側に隣接するSDe06は、C13区中央部を南北方向に延びて、途中西方へ「ク」の字状に屈曲する溝で、この溝跡はC調査区のSDb06に繋がる8世紀前半以降に埋没した溝跡である。C調査区のSDb06では、西岸部に道路状遺構と考えられる波板状圧痕が顕著にみえることから、SDb06・SDe06の西岸部には道路状遺構が敷設され、この溝跡は道路状遺構に伴う側溝の可能性が高い。また、SDb06は東西方向の条里地割溝と考えられるSDb30やSDd44と直交することから条里地割に係わる可能性もあるが、これらの溝は若干の時期差が認められることから今後の課題になる。

SDe11の西側に隣接するSDe13は古代後半（9～10世紀）頃の遺物が主体を占めるが、SDe13の北半部にあたるC調査区SDb29では13世紀頃の遺物を少量含むため、埋没期は13世紀以降の可能性があるが、開削期は古代後半の可能性も考えられる。また、SDe13はC・H調査区の条里地割溝と考えられる東西方向のSDb30、SDd44等と直交するため、条里地割方向に規制された南北溝の可能性が考えられる。

#### E調査区の状況

古代の主要な遺構としては、建物・土坑・溝跡等が少数分布す。また、段丘を東西に横断する幅広い河川SRo05（SRa02）からは古代の遺物が多量に出土している。

古代の建物跡は数地点に分かれて分布している。先の報告Ⅳで紹介している、調査区西端部のG8・10区からは、平安時代頃の建物跡8棟を確認している。今回報告するE9w区のSBo13やF7区のSBo15は、形状や配置等からこの時期の可能性が高い。特に、F7区のSBo15周辺からF6区にかけての地域には、SDo33・36等の条里地割方向に向く複数の区画溝や多数の柱穴が分布し、遺構の集中地点の一つになっている。主要な遺構としてF6・F7・E6区周辺のSBo15、SDo33・35～39・41、SKo07・14等の遺構がこの時期に属する可能性が高い。また、先述したSDo33・36～38・42等の条里

第2表 西末則遺跡 C・D・E区掘立柱建物跡一覧

調査区	検出遺構名	報告遺構名	配置	主軸方位	主軸方位 (角度調整)	構造・規模	面積 (㎡)	柱間寸法		付属施設
								梁間 (m)	桁行 (m)	
C調査地区	B17	SB b 01		0°		1間(2.6)×3間(5.4)	14.00	2.6	1.3~2.4	
	B17	SB b 02		N20° W		2間(4.0)×5間(8.0)	32.00	2.0	1.4~1.7	
	B17	SB b 03		N80° E		2間(4.0)×3間(4.9)	19.60	1.7~2.3	1.6	
	B16	SB b 04		N100° W		2間(3.7)×3間(4.7)	17.40	1.8	1.5~1.8	
	B16	SB b 05		0°		2間(5.2)×4間(6.8)	35.40	1.0~2.4	1.8	
	B16	SB b 06		N190° E		2間(3.4)×2間(4.0)	13.60	1.8	1.9~2.1	
	B16	SB b 11		N180° E		1間(2.7)×1間(3.7)	9.90	2.7	3.7	
	B16	SB b 12		N30° W		1間(2.0)×1間(2.5)	5.00	2.0	2.5	
	B16	SB b 13		N20° W		1間(1.9)×1間(2.9)	5.50	1.9	2.9	
	B16	SB b 09		N180° E		2間(3.0)×2間(3.0)	9.0以上	1.1~1.8	1.4~1.9	
						以上				
	B16	SB b 10		N300° E		1間(3.8)×1間(2.8)	10.60	3.8	2.8	
	B17	SB b 07		N120° E		2間(2.7)×1間(3.5)	9.50	1.3	3.5	
	B16・17	SB b 08		N110° E		1間(3.0)×3間(4.0)	12.00	3.0	1.1~1.5	
D調査地区	E13	SBe01		N18° E		2間(4.0)×4間(7.5)	30.00	2.0	1.5~2.2	
	E13	SBe02		N14° E		4間(7.3)×4間(8.9)	64.70	1.4~2.1	1.8~2.5	欄あり
	E13	SBe03		N76° W	N14° E	3間(6.0)×8間(13.0)	78.00	1.9~2.2	1.4~2.0	
	F12	SBe04		N205° E		4間(8.6)×6間(14.0)	120.40	1.8~2.5	2.0~2.3	
	F12	SBe05		N25° E		2間(3.5)×4間(10.2)	35.70	1.5~2.0	2.5~2.7	
	F12	SBe06		N22° E		2間(5.2)×5間(11.0)	57.20	2.5~2.7	2.0~2.4	
	E13	SBe07		N05° W		1間(2.7)×3間(5.7)	15.39	2.7	1.7~2.0	
	F12	SBe08		N10° E		2間(3.7)×6間(7.1)	26.27	1.4~2.0	1.0~1.6	
	F12	SBe09		N10° E		1間以上(1.4以上)	9.1以上	1.4	2.0~2.4	
						×3間(6.5)				
	F12	SBe10		N10° E		2間以上(3.2以上)	25.6以上	1.4~1.8	1.3~2.3	
					×4間(8.0)					
E調査地区	EPW	SBe13		N235° W	N66.5° E	2間(3.0)×2間(3.9)	11.70	1.4~1.6	1.9~2.0	
	EPW	SBe14		N405° W	N49.5° E	1間(3.1)×2間(3.6)	11.16	3.0~3.1	1.8	
	C9	SBe01		N80° E		1間(3.2)×2間(3.4)	10.88	3.2	1.6	
	C9	SBe02		N100° E		1間(3.3)×3間(5.5)	18.15	3.3	1.8~2.0	
	C9	SBe03		N100° E		1間(3.3)×2間(3.4)	11.22	3.3	1.4~2.0	
	C9	SBe04		N100° E		1間(1.8)×1間(3.9)	7.02	1.8	3.9	
	E10	SBe05		N860° E	N40° W	2間(3.2)×4間(5.8)	18.56	1.4~1.6	1.4~1.6	
	E10	SBe06		N210° E		2間(2.4)×4間(3.9)	9.36	1.2	0.8~1.2	
	E10	SBe07		N850° W	N50° E	1間(3.0)×4間(7.3)	21.90	2.8~3.2	1.2~3.2	
	E10	SBe08		N740° W	N160° E	2間(2.8)×3間(5.0)	14.00	1.2~1.6	1.4~1.8	
	E10	SBe09		N770° W	N130° E	2間(4.0)×3間(9.5)	38.00	1.9~2.1	1.4~2.4	
	E10	SBe10		N150° E		2間(3.4)×3間(4.4)	14.96	1.6~1.8	1.4~1.6	
	E10	SBe11		N150° E		2間(2.1)×2間(2.7)	5.67	1.0~1.1	1.2~1.5	
	EPW	SBe12		N680° W	N220° E	1間(2.4)×1間(4.1)	9.84	2.3~2.4	4.1	
	F7	SBe15		N240° E		1間(3.7)×3間(4.8)	17.76	3.7	1.4~1.8	
	E6	SBe16		N100° E		1間(2.2)×2間(2.8)	6.16	2.2	1.2~1.4	
	B5	SBe17		N0°		1間(1.8)×1間(2.1)	3.78	1.8	2.1	
	B5	SBe18		N50° E		1間(3.0)×2間(3.6)	10.80	3.0	1.90	
	F6	SBe19		N100° E		1間(2.6)×3間(5.3)	13.78	2.6	1.2~3.8	
	F6	SBe20		N750° W	N150° E	1間(3.4)×3間(7.6)	25.84	3.2~3.4	2.1~2.8	
F6	SBe21		N700° W	N200° E	1間(2.9)×3間(5.8)	16.82	2.8	5.8		
F6	SBe22		N700° W	N200° E	2間(5.0)×3間(7.3)	36.50	2.2~2.8	1.0~3.0		
F6	SBe23		N700° E	N200° W	2間(4.2)×4間(8.4)	35.28	2.0~2.2	2.0~2.6		
F6	SBe24		N270° E		2間(4.6)×2間(4.8)	22.08	2.0~2.2	2.2~2.4		
F6	SBe25		N170° E		1間(3.6)×3間(7.5)	27.00	3.6	2.2~2.8		
F6	SBe26		N725° E		2間(3.1)×2間(4.5)	13.90	3.1	2.0~2.4		

地割方向に向く溝跡は糸里地割の施行時期を示唆する溝跡でもある。

#### 古代の土地開発と西末則遺跡

D・E調査区からは、7~8世紀頃の集落に係わる遺構は少ないが、自然河川や包含層から8世紀前後の遺物が多量に出土している。末則丘陵の西斜面部に当る、C調査区からは7世紀初頭~8世紀の集落の中心地を確認しているが、現在の民家が密集している末則丘陵南斜面部周辺も集落の候補地として考えられる。注目できるのは末則丘陵西斜面部のC・D調査区から、古代の灌漑水路の可能性をもつ8世紀頃の溝を検出している点で、8世紀頃より段丘面上面の開発が本格化したことを示唆する重要な溝

跡と考えられる。

弥生時代後期後半より埋没を開始したSRa02、SRo05・08～10等の自然河川は、古代にはおおむね埋没を完了する。平坦化した河川上面及び周辺には土坑・溝跡等の遺構が散漫に広がる。注目できる遺構では、先の「報告Ⅰ」で紹介したA調査区のSTa01は、8世紀中葉頃の火葬墓と考えられる蔵骨器である。この墓の造営主体は在地の首長階層が推定できる。地理的な点で末則丘陵上の末則古墳群が、吉田古墳群を築造した首長層の可能性が高いものと考えられる。また、その造営者を推定する補強資料として「報告Ⅰ」で紹介しているが、周辺の自然河川や包含層から水滴や円面硯等が出土しており、少なくとも識字層の存在が指摘できる資料であり、STa01の造営者の具体像を推定するうえで貴重な資料になっている。これらの状況より8世紀頃の西末則遺跡は、古墳時代前期以降、荒廃していた当該地の段丘面上の開発を本格的に開始した時期に当るものと考えられる。その開発主体は末則丘陵上の末則古墳群や、吉田古墳群等を築造した在地の首長層の可能性が高い。

9～11世紀頃の遺構は今年度の整理対象地区では少ない。この時期の集落は、「報告Ⅳ」で紹介したE調査区のG8・10区を中心とした地域で確認している。集落が隣接するためか、SRa02等の自然河川及び包含層では、この時期の遺物が比較的多量に出土している。G8・10区集落の建物軸は、周辺の条里型地割の方位に類似しており、少なくともこの頃には条里型地割を基準とした、段丘面上の開発が開始されていることは確実であろうが、その上限期については今後の課題となる。なお、注目できる遺物としてE6区の包含層出土の陶印（1761）や、先の報告で紹介したG8・10区集落の溝から出土した帯金具等があげられる。陶印は奈良時代から平安時代の地方豪族が、役所の公印である銅印を模倣した一種の私印であり県下でも事例はあるが希少な資料である。先述した8世紀の蔵骨器等の資料を含め、西末則周辺を拠点とする地方豪族を推測する上で重要な資料になる。

開発が及んでいない荒地に、古墳時代後期末～古代前半頃、新たな集落が開始される事例は県下でも数多く確認できる現象で、これらの集落は在地の有力な豪族層の主導による、新たな農地開発を意図した集落の可能性が考えられており（註4）、西末則遺跡の古代集落も同様の性格が考えられる。

## 二つの用水と条里地割

調査地内には地元で末則用水と北村用水と呼ばれる二つの灌漑水路がある。発掘調査の結果、末則用水は7～8世紀後半以降に丘陵裾部に開削され、13世紀以降に現在の位置に配された可能性が高い。検出状況から末則用水の前身と考えられる古代の灌漑水路としては、弥生時代のSDe01の西側に並走する、SDe06・11等の溝跡が考えられる。また、13世紀頃の末則用水としては、現在の末則用水と重複しているSDe24・51等の溝跡が考えられる。

北村用水は中世後半には所在していたことは確かであるが、どこまで遡るか問題としてのこる。この用水は条里地割の基準線と一部合致しており、条里地割との関係が問題となる。西末則遺跡の条里地割に係わる溝跡として先の報告で紹介しているSDd44や、C調査区の溝跡の状況等をみれば、この地域に条里地割が施行されたのは、少なくとも10世紀頃には施行されていたことは確実であるが、C調査区の7～8世紀の集落の状況等を考慮すれば更に遡る可能性は高いのであるが、北村用水の施工時期と条里地割の施工時期を直接結びつけるには無理がある。

なお、この二つの用水については、周辺の水利調査をもとにした柏氏の研究が次第で紹介しているので参照して頂きたい（註5）。

#### 4. 中世前半

##### D 調査区の状況

中世前半の確実な建物は見出せない。ただ、詳細な時期判断ができない中世の建物が数棟あり、これらの中にこの時期に含まれるものが、何種かはあるものと考えられる。中世前半の集落の中心は、概刊している先の報告をもとにすれば、当地より西方のJ・K・I調査区で確認できる。今回報告するD・E調査区では土坑・炭焼窯・溝跡等が確認できる。

D調査区の丘陵裾部のC13区では、12世紀後半頃に廃絶したSFe01・02、段丘面上のE15区・F12区からはSFe03～07等の炭焼窯跡7基を検出している。何れも2～3基単位で3地点に分かれて分布している。共通する点では、天上部は消失し、室内には壁体・焼土・炭片等を多量に含んだおり、不要になった窯を意図的に壊して埋め戻している状況が窺える。また、配置上で互いに接近しているため、最初の窯が壊れた後に同一地点で再構築したものと考えられる。

中世前半の溝跡としては、12～13世紀頃のSDe08・10・13・16等や、13世紀以降のSDe24・25・51等があげられる。SDe24・51は現在の末則用水沿いに配された溝跡で、C調査区に続く溝跡でもある。SDe24・51はC調査区のE16区で、東西方向の条里地割溝SDd41・42と交わるため、条里地割に係わる南北方向の溝跡と考えられる。なお、溝跡以外ではF12・E13区のSEe01、SKe08・10・13等の遺構があげられる。

##### E 調査区の状況

建物跡としては不明瞭ながら、C9区のSB01～04、E10区SB05、E9w区のSB02・14等の建物の可能性が考えられる。いずれもE調査区北半部に分布する建物である。南半部にも中世の建物が分布しており、この時期に含まれる可能性もあるが、詳細な時期判断ができない建物が多い。

建物以外の遺構としてはE9w区のSEo01や、北半部のC9・E10・E9e・E9w区に所在するSDo05・09・10・17・20・22・23・27・30～32、南半部のF6区SDo40等があげられる。傾向としてこの時期の諸遺構は、SRo05より北側の微高地上に所在する傾向がある。

#### 5. 中世後半～近世前半

##### D 調査区の状況

E14区以南のE13・F12区からは、中世後半～近世初頭頃の堀状の大溝で画された屋敷地を確認した。屋敷地の北辺はSDe24a、南辺はSDe43、東辺はSDe24b・SDe51、西辺はSDe42周辺にあたり、南北約48.0m、東西約53.0mの約半町四方の面積を測る。なお、南辺と西辺については、現有の北村用水がこの時期まで遡り、屋敷地の二辺を画している可能性が高い。また、そう考えないと理解できない点が多い。例えば、屋敷地の北辺を画するSDe24aは堀状の大溝で、直線状に東西に延びており、西端部と北村用水の合流部は未掘のため不明瞭ではあるが、検出状況から推定してSDe24aと北村用水は合流しているものと考えられる。なお、屋敷地の南西隅の角地は北村用水が、東西方向と南北方向の二方向に分岐する地点にあたり、水利を管理する上での重要地点である。この屋敷地の集団が水利管理を行っていた可能性が高く、この集団が当地の水利権を掌握していた有力な集団とみる捉え方が妥当であろう。

約半町四方を測る屋敷地内からは、数条の雨落溝や小型の柱穴約2,500基等を確認した。この柱穴群



から中世末～近世初頭頃の大型建物を含む10棟の建物跡(SBe01～10)や、5基の櫓列(SAe02～06)を復元した。これらの建物は区画溝や雨落溝を含めた検出状況から数時期の変遷が考えられるが詳細な点は今後の課題にしたい。

## E 調査区の状況

北端部のE10区と南端部のF6区からは、この時期の屋敷地を南北二地点で確認した。E10区からはSD04～26等の区画溝等の範囲内には多数の柱穴が確認され、その柱穴群からSB08・09等の建物を復元することができる。この屋敷地はD調査区E13・F12区周辺の屋敷地の南辺に位置する北村用水の対岸に位置する。時期的にも類似するため、先述したE13・F12区周辺の屋敷地と同一系譜上の集団の可能性が考えられる。

F6区周辺は弥生時代後期後半以降の複数の自然河川が錯綜して流れる地域で、その河川が埋没し平坦化した後に古代以降の遺構が分布する。中世後半以降にはSB018～26、SA06～10等の建物や櫓列が確認できる。これらの中でSB020～23・25・26、SA06・08・09等の建物や櫓列は主軸を揃えて規格的に配置されており、同一時期の屋敷地内に建てられた建物群と考えられる。なお、時期的にはSB022の出土遺物から17世紀前半頃の可能性が高い。これらの屋敷地は周辺の自然河川が埋没し、従来湿地状の地形であった地域を本格的に開発するために新たに設置された、開発集団の屋敷地の一つと考えられる。

## 註

1. 香川県教育委員会 1976『末周古墳調査概要』
2. 西末周遺跡の報告書としては下記の報告が概刊しており、以下「西末周遺跡Ⅰ」のことを「報告Ⅰ」、「西末周遺跡Ⅱ」のことを「報告Ⅱ」等と略称する。  
香川県教育委員会 2005『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 西末周遺跡Ⅰ』  
香川県教育委員会 2007『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 西末周遺跡Ⅱ』  
香川県教育委員会 2012『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊 西末周遺跡Ⅲ』  
香川県教育委員会 2014『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊 西末周遺跡Ⅳ』
3. 鈴木茂 2005「第IV章自然科学分析結果 第1節西末周遺跡の植物珪酸体」香川県教育委員会 2005『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 西末周遺跡Ⅰ』香川県教育委員会
4. 広瀬和雄 1986『中世への胎動』『岩波講座 日本考古学6』
5. 西末周遺跡周辺に所在する末周用水や北村用水等の水利開発については、柏氏等の研究がある。柏氏は下記の文献で、末周用水の開削の背景には、古代末頃に起きた可能性が高い完新世段丘の形成による川の河床面の低下により、既存の水路網の修正を余儀なくされたことによるものと指摘している。また、北村用水については中世後半に末周用水から分離した用水と述べられている。  
柏 徹哉・川原和生 2003『VI周辺の水利調査』『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 西末周遺跡』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター  
柏 徹哉 2005『西末周遺跡周辺の水利開発とSD04(出水遺構)』『香川県埋蔵文化財センター年報—平成15年度—』香川県埋蔵文化財センター

## 参考文献

- 菅原康夫 1991『遺物をもたない遺構—伏焼木炭窯に関する予察—』『徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol. 2』財団法人徳島県埋蔵文化財センター
- 松本和彦 2001「第4節炭焼き窯について」『国道193号改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2002『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 西末周遺跡』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2003『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 西末周遺跡』
- 香川県教育委員会 2005『西末周遺跡』『香川県埋蔵文化財センター年報 平成15年度』
- 香川県教育委員会 2005『西末周遺跡』『香川県埋蔵文化財センター年報 平成16年度』
- 香川県教育委員会 2006『西末周遺跡』『香川県埋蔵文化財センター年報 平成17年度』

### 第3節 周辺水利調査と西末則遺跡検出中世居館について

高松市立川添小学校 柏 徹哉

#### 1. はじめに

筆者は、香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に先立って、調査地区及び周辺の水利調査を行った。水利調査結果の詳細については、すでに報告をしているので参照をして頂きたい(註1)。

さて、現在の景観を、過去の開発の結果として地表空間と考えるとき、その景観には、各時代の開発の結果が刻印されているものとする。今回の周辺水利調査の結果から2つの疑問が生じた。その解について発掘結果から若干の考察を加えたい。

#### 2. 末則用水と北村用水の2系統の用水はいつ開発されたのか。

##### (1) 水利調査から

地形から考えて、この地域は1つの灌漑用水で、灌漑を行うのが自然である。しかし、山田下村側の末則用水と北村側の北村用水の2系統で灌漑されている。(第217図) もちろん行政境が灌漑範囲を決定していると考えると理解できるのだが、条里型地割の東端1丁分のみが山田下村になっているのは不自然と言えよう。

##### (2) 仮説

水利調査を終え筆者は、以下の仮説を立てた。

北村と山田下村、綾川を挟んで、羽床上村と牛川村、西分村がほぼ直線に分けられている。(第218図) このことから下地中分が行われた結果ではないかと仮説を立てた。その時期は、鎌倉時代中期から南北朝時代の14世紀ではないか(註2)。

下地中分の結果、つまりもともとあった末則用水を、開発主であろうと想定される羽床氏が再開発し、北村用水と末則用水の2系統に分けたのではないか。北村用水の水源、北村出水と綾川南側を灌漑する羽床氏が開発したと考えられる羽床用水の水源、神水鼻出水は、ほぼ同じ位置にあり、水路で接続されているのも仮説の根拠である。(第218図)

##### (3) 発掘調査結果から

発掘調査結果から14世紀前の灌漑用水は、3系統検出されている。弥生時代後期(第219図)と古代(おそらく8世紀から10世紀)(第220図)、中世前半(12世紀から13世紀)(第221図)の3つである。いずれも、位置から末則用水の前進であると理解できる。水路が西に移動しているのは、綾川の河床面が低下した結果、水源が低下したために移動したと考えられる。古代・中世前半の灌漑用水とともに、北村用水を条里型地割を東西に横断する。これは、中世前半には北村用水は開発されていなかったことを示している。ところが16世紀に想定される集落(中世居館)に検出された大型堀状遺構には、北村用水が導水されており、16世紀にはすでに北村用水があったことを示している。(第222図)

これらのことから、仮説で想定したように、14世紀から15世紀に北村用水が開発されたことを示していると考えている。

### 3. 北村用水を越えて末則用水がのびていたのはなぜか。

#### (1) 水利調査から

水利調査の結果をみると、北村用水を樋を使って、西に横断する用水が存在している。行政境が各用水の灌漑範囲と一致していると考えたと不自然である。

#### (2) 仮説から

北村用水と末則用水の2系統に分かれた後、何らかの理由により、北村用水樋の水田への灌漑を補強するために設置された用水ではないかと仮説を立てた。17世紀に入り、皿池がつくられ、末則用水にも導水されるようになったのでこれらの用水がつくられたと考えていた。

#### (3) 発掘調査から

北村用水を樋で横断する末則用水の灌漑範囲からは、16世紀の集落が検出された。このことから16世紀集落であった所が、何らかの理由で廃絶され、その範囲を水田化するために末則用水を枝分かれたことを示している。

### 4. 16世紀中世居館の開発範囲について

#### (1) 水利調査から

中世後期の方形の水堀をもつ居館は、その水堀が灌漑機能を持っていたことが広く認識されている(註3)。西末則遺跡で検出された中世居館もその機能を持っていたと考えている。

周辺部その例を探すと、西の北村に常善寺、東の法導寺がある。いずれも方形の水堀跡をもつ方形をした居館である。おもしろいことに巨視的にみると3つの居館は、1本の用水路で結ばれている。東の法導寺からでた水路は、北村用水の水源、北村出水に接続され、北村用水は、今回の中世居館の水堀を経て、西の常善寺に水堀跡に導水されている。(第218図)

#### (2) 本中世居館の灌漑範囲

本中世居館の水堀は、「イチノマタ」用水と「ニノマタ」用水とよばれる北村用水の支線に導水されている。このことから、この2つの用水と末則用水の灌漑範囲が、本中世居館が支配していた範囲と考えている。

この支配(開発)範囲は、先述の常善寺と本中世居館を結んだ直線に対して垂直二等分線を引いた線の東側と法導寺と本中世居館を結んだ直線に対して垂直二等分線の西側の範囲と一致する。現在その東側は、小字の末則と法導寺の境とも一致している(註4)。(第218図)

「蓮井家文書」による永正17(1520)年の北村の住民と末則弥六・弥七親子との水争いに対して、常善寺と法導寺が仲裁にあたったとの記述を信頼するならば、常善寺・本中世居館・法導寺の3者が中世後半のこの地域の開発主体であり、本中世居館の主は、末則氏であることが想定される。

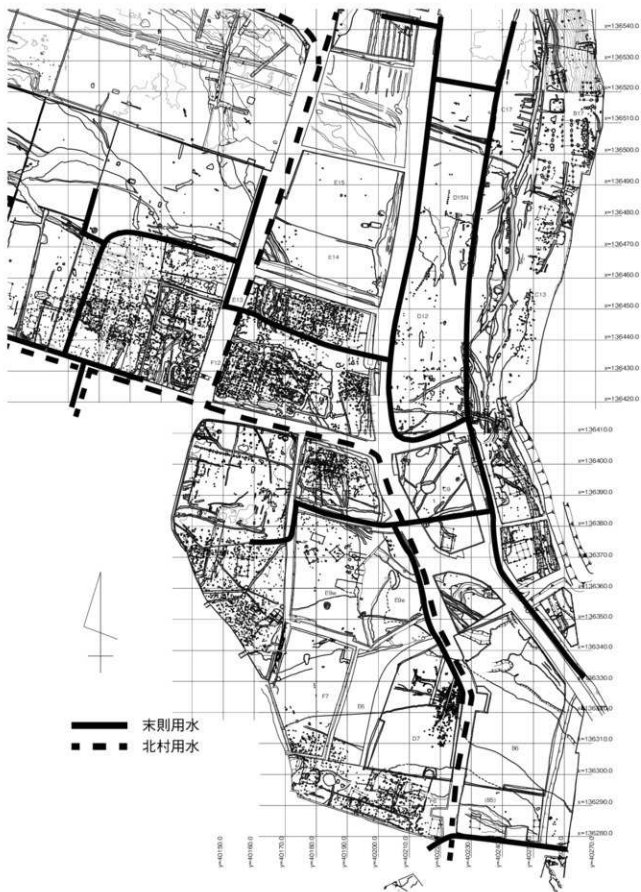
### 3. おわりに

水利調査の結果について、近世、近現代の開発を取り除くことで、中世後半までの環境を復原できることを示し、それを発掘調査に証明した好例であることを示した。

#### 註

1. 柏 徹哉・川原和生 2003 「VI周辺の水利調査」『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 西末則遺跡』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- 柏 徹哉 2005 「西末則遺跡周辺の水利開発とSD04(出水遺構)」『香川県埋蔵文化財センター年報—平成15年度—』香川県埋蔵文化財センター
2. 柏徹哉 御山八幡神社の氏子圏の成立とその変遷 香川地理学会会報(2002)

3. 佐野静代 平野部における中世居館と灌溉水利 - 在地領主と中世村落 - 人文地理第51巻第4号 (1999)
4. この手法は、ボロノイ分割とよばれ、ある距離空間上の任意の位置に配置された複数個の点(母点)に対して、同一距離空間上の他の点がどの母点に近いかによって領域分けする手法である。地理学では、分布を理解する上でよく利用される方法で、焦点の高圏や集落の業に究の空間的分類に利用される。中世居館を母点として、このボロノイ分割を適応すると、理論上のボロノイ図と近世の村境が一致して例を筆者は多く検出している。



第 217 図 発掘調査前の用水配置 (筆者の調査による)



第218図 周辺水利



第 219 図 弥生時代後期の用水

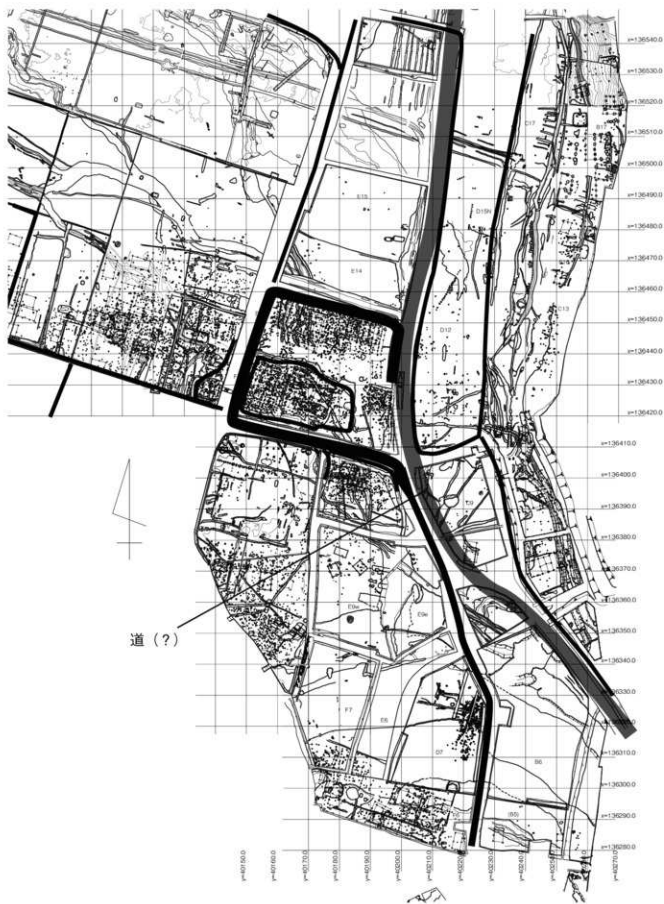


第 220 図 古代の用水





第 221 図 中世前半の用水



第 222 図 中世後半の用水

第3表 西木則遺跡V出土土器観察表(1)

器名 番号	報告遺構名	地区	層位	種類	器種	外周	内面	裏面	色澤	内部	石室・赤色化粧石	輪土	口縁 (c.m.)	器高 (c.m.)	底径・その幅 (c.m.)	残存 率
1	SB03	J1区	土師器	小皿	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ後不定方 高ナテ	同輪ナテ 高ナテ	25Y8/2 灰白	25Y8/3 赤黄			中・多 (78)	1.4 (58)	—	3/8
2	SB03	J1区	黒色土師器	瓶	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ後ハミガキ ナテ後ハミガキ	同輪ナテ 高ナテ	25Y8/2 灰白 25Y8/2 灰白	N3 黒灰 25Y8/1 灰白			中・少 (130)	—	—	1/8
3	SB04	J1区	土師器	小皿	同輪ナテ 板付底	同輪ナテ 板付底	同輪ナテ 板付底	同輪ナテ	10Y8/3 浅黄緑	10Y8/3 浅黄緑			中・少 (84)	1.3 (61)	—	5/8
4	SB04	J1区	土師器	小皿	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ	同輪ナテ	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白			中・少 (79)	1.3 (60)	—	2/8
5	SB04	J1区	土師器	皿	同輪ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白			中・少 (147)	—	—	破片
6	SB04	J1区	土師器	杯	同輪ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	10Y8/3 浅黄緑	10Y8/3 浅黄緑			中・少 (128)	—	—	2/8
7	SB04	J1区	土師器	杯	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ ヘウミガキ	75Y8/7 6 橙	75Y8/7 6 橙			中・少	—	—	5/8
8	SB04	J1区	須恵器	瓶	同輪ナテ 付底	同輪ナテ 付底	同輪ナテ 付底	同輪ナテ 付底	10Y8/2 灰黄緑	10Y8/2 灰黄緑			中・少 (143)	—	—	3/8
9	SB06	J1区	土師器	小皿	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ	25Y7/1 灰白	25Y8/2 灰白			中・少 (84)	1.1 (72)	—	2/8
10	SB07	J1区	須恵器	瓶	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白			中・少	—	—	破片
11	SB08	J1区	土師器	小皿	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白			中・少	7.8 (12)	6.0 (—)	5/8
12	SB08	J1区	土師器	杯	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ	75Y8/4 浅黄緑	75Y8/2 灰白			中・少 (142)	3.7 (81)	—	2/8
13	SB08	J1区	土師器	杯	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ	10Y8/2 灰白	10Y8/2 灰白			中・少 (154)	—	—	1/8
14	SB08	J1区	須恵器	鉢	同輪ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	N4 灰	N4 灰			中・少	—	—	破片
15	SB08	J1区	黒色土師器	瓶	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ ヘウミガキ	N2 黒	N2 黒			中・少 (149)	—	—	1/8
17	SB09	J1区	土師器	小皿	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白			中・少	9.0 (138)	6.8 (—)	7/8
18	SB09	J1区	土師器	杯	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ	10Y8/3 浅黄緑	10Y8/2 灰白			中・少 (138)	2.8 (91)	—	3/8
19	SB11	J1区	土師器	小皿	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ	75Y8/7/4 に赤い い帯	75Y8/7/4 に赤い い帯			中・少 (74)	—	6.1 (—)	1/8
20	SB11	J1区	土師器	小皿	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ	10Y8/2 灰白	10Y8/2 灰白			中・少 (88)	1.1 (68)	—	1/8
21	SB13	J2区	土師器	小皿	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ	10Y8/2 灰白	10Y8/3 浅黄緑			中・少 (91)	—	—	1/8
22	SB13	J2区	土師器	小皿	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ	10Y8/3 浅黄緑	10Y8/3 浅黄緑			中・少 (88)	1.3 (36)	—	2/8
23	SB13	J2区	土師器	土師器	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ 後不定方 高ナテ	10Y8/3 浅黄緑	10Y8/3 浅黄緑			中・少 (84)	1.3 (64)	—	3/8
24	SB13	J2区	須恵器	壺	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ 青緑黄文後ナテ	N6 灰	N6 灰			中・少	—	—	破片
25	SB15	J2区	土師器	小皿	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ	75Y8/7/4 に赤い い帯	75Y8/7/4 に赤い い帯			中・少	7.4 (57)	1.2 (57)	7/8
26	SB15	J2区	土師器	小皿	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ	10Y8/3 浅黄緑	10Y8/3 浅黄緑			中・少 (74)	1.4 (47)	—	3/8
27	SB16	J2区	土師器	小皿	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ 後不定方 高ナテ	75Y8/7 6 橙	75Y8/6 橙			中・多	8.3 (18)	5.2 (—)	8/8
28	SB19	J3区	土師器	小皿	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ フ切り	同輪ナテ ヘウミガキ 付底	25Y8/2 灰白	25Y8/3 赤黄			中・多	9.3 (15)	7.5 (—)	5/8

第3表 西木則遺跡V出土土器観察表(2)

第2分冊

器文番号	所在遺構名	地区	層位	種類	器種	黒炭		色澤		胎土		法製(cm)			残存率	備考	
						外面	内面	外部	内部	石葉・赤色配石	物四石	雲母	粒砂	口径(c.m.)			器高(c.m.)
29	SB19	B3区		土師器	同転ナデ フ切り	同転ナデ フ切り	同転ナデ	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白			中・少	9.2	26	7.6	—	8・8
30	SB19	B3区		土師器	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ	10YR8/3浅黄緑	10YR8/3浅黄緑			中・少	(8.9)	12	(6.5)	—	1・8
31	SB19	B3区		土師器	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ	7.5YR8.6浅黄緑	7.5YR8.6浅黄緑			中・少	(8.7)	16	(5.8)	—	1・8
32	SB19	B3区		土師器	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ	2.5YR.2灰白	2.5YR.2灰白			中・並	8.5	1.5	7.2	—	7・8
33	SB19	B3区		土師器	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ	10YR8/4浅黄緑	10YR8/2灰白			中・多	(8.3)	12	(6.4)	—	2・8
34	SB19	B3区		土師器	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ	10YR8/3浅黄緑	10YR8/3浅黄緑			中・少	(8.4)	—	—	—	3・8
35	SB19	B3区		土師器	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ	10YR7/4にぶい 黄緑	10YR7/4にぶい 黄緑			中・少	(8.0)	1.6	(5.4)	—	2・8
36	SB19	B3区		土師器	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ	2.5YR.2灰白	2.5YR.2灰白			中・小	8.3	2.9	4.2	—	8・8
37	SB19	B3区		土師器	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ	10YR4/1刷灰	5YR6.6黄			中・少	—	—	(6.1)	—	2・8
38	SB19	B3区		須臾器	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ	N6/灰	N7/灰白			中・少	14.6	5.1	5.4	—	8・8
39	SB19	B3区		瓦器	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ	N5/灰	N5/灰			中・少	15.5	5.3	5.3	—	7・8
40	SB19	B3区		瓦器	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ	5Y7/1灰白	7.5Y6.1灰			中・少	(15.8)	4.5	4.1	—	3・8
41	SB19	B3区		黒色土師器	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ	10YR7/3にぶい 黄緑	10YR7/3にぶい 黄緑			中・少	—	—	(6.9)	—	2・8
43	SB20	B3区		土師器	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ	7.5YR4/1刷灰	7.5YR6.2灰褐			中・少	—	—	—	—	破片
44	SB20	B3区		土師器	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ	10YR8/3浅黄緑	10YR8/3浅黄緑			中・少	(7.6)	1.0	(5.9)	—	1・8
45	SB20	B3区		土師器	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ	10YR8/3浅黄緑	10YR7/3にぶい 黄緑			中・少	(10.0)	2.4	(5.2)	—	1・8
46	SB20	B3区		須臾器	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ	2.5YR.1灰白	2.5YR.2灰白			中・多	(27.6)	11.9	(10.6)	—	2・8
47	SB25	B3区		土師器	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白			中・少	7.2	0.9	4.9	—	8・8
48	SB25	B3区		青磁	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ	軸:10Y6.2オ 白	軸:10Y8.1 灰白			中・少	(18.6)	—	(4.7)	—	2・8
50	SB28	B3区		土師器	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ	5YR7.6黄	10YR8/3浅黄緑			中・少	(8.4)	1.6	(4.7)	—	2・8
52	SB29	B3区		土師器	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ フ切り後ナデ	同転ナデ	10YR8/3浅黄緑	10YR8/4浅黄緑			中・少	(8.8)	1.4	(6.2)	—	2・8

器底全面が受熱  
変質している

第3表 西木則遺跡V出土土器観察表(3)

第2分冊

原支 番号	原支 番号	原支 遺跡名	地区	層位	種類	器種	黒炭		色澤		粘土		法量(cm)			残存 率	備考
							外面	内面	外部	内部	石莖・ 赤色配 長石	物四 石	雲母	絞粒	口径 (cm)		
53	SB29	J3区		壺土	一	瓶ナデ	瓶ナデ	瓶ナデ	10YR5/1 黒灰	10YR7/2 に近い 黄緑			中・並	66	77	45	破片 壺中にスチ多 量に含む。縦溝 正位不明な分厚 6mm程度。土 質の骨材は灰白
54	SB29	J3区		壺土	一	瓶ナデ	瓶ナデ	瓶ナデ	10YR6/2 灰黄緑 い、黄	25YR7/4 にぶ い、黄			中・少	58	47	31	破片
55	SB31	J3区		土師器	小皿	同輪ナデ フ切り後ナデ	同輪ナデ	同輪ナデ	10YR7/3 に近い 黄緑	25YR8/2 灰白			中・少	(11.0)	(7.6)	(2.8)	
56	SB31	J3区		土師器	杯	同輪ナデ フ切り後瓶ナデ 灰土付直	同輪ナデ	同輪ナデ	25Y6/1 黒灰	25Y4/1 黒灰			中・並	101	29	60	
57	SB32	J3区		土師器	鉢	同ナ ハク後コゴ ナデ	同ナ ハク後コゴ ナデ	同ナ ハク後ナデ	5YR5.2 暗赤褐 い、黄	10YR6/4 に近い い、黄			中・多	(30.6)	—	—	破片
58	SB33	J3区		須恵器	同輪ナデ 横リ後高台形付後 輪ナデ	同輪ナデ 横リ後高台形付後 輪ナデ	同輪ナデ 横リ後高台形付後 輪ナデ	同輪ナデ 横リ後高台形付後 輪ナデ	10YR7/4 に近い い、黄	7.5Y6/1 灰 白			中・多	(14.0)	55	(5.4)	3.8
59	SB34	J3区		土師器	杯	同輪ナデ	同輪ナデ	同輪ナデ	10YR8/3 黄黄緑	10YR8/3 黄黄緑			細・少	(11.2)	30	(6.0)	3.8
60	SB34	J3区		須恵器	茶	同輪ナデ	同輪ナデ	同輪ナデ	N6. 灰	2.5Y6/1 黄灰 い、黄			中・少	—	—	—	1.8
61	SB38	J3区		土師器	小皿	同輪ナデ フ切り	同輪ナデ	同輪ナデ	10YR8/2 灰白	7.5YR7/4 にぶ い、黄			細・少	(7.4)	10	(6.1)	3.8
62	SB38	J3区		土師器	小皿	同輪ナデ フ切り	同輪ナデ	同輪ナデ	10YR8/4 黄黄緑	10YR8/2 灰白			細・小	72	10	53	8.8
63	SB38	J3区		土師器	小皿	同輪ナデ フ切り	同輪ナデ	同輪ナデ	10YR7/4 に近い い、黄	10YR8/2 灰白			細・少	(7.2)	12	(6.2)	3.8
64	SB38	J3区		土師器	小皿	同輪ナデ フ切り	同輪ナデ	同輪ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白			中・少	(7.0)	12	(5.1)	3.8
65	SB38	J3区		土師器	杯	同輪ナデ フ切り	同輪ナデ	同輪ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白			中・少	(6.7)	11	(5.2)	3.8
66	SB38	J3区		土師器	杯	同輪ナデ フ切り	同輪ナデ	同輪ナデ	10YR8/3 黄黄緑	10YR8/2 灰白			細・少	(11.8)	33	(6.6)	2.8
67	SB40	J3区		土師器	小皿	同輪ナデ フ切り	同輪ナデ	同輪ナデ	10YR8/2 灰白	2.5Y8/1 灰 白			中・多	85	13	42	8.8
68	SB40	J3区		土師器	小皿	同輪ナデ フ切り	同輪ナデ	同輪ナデ	10YR7/3 に近い い、黄	10YR7/3 に近い い、黄			細・少	(16.1)	—	—	2.8
69	SB40	J3区		白磁	横溝	同輪ナデ フ切り	同輪ナデ	同輪ナデ	7.5Y7/1 灰 白	前土: 5Y8/1 灰 白			細・少	(16.7)	—	—	1.8
70	SB41	J4区		黒色土師	同輪ナデ フ切り	同輪ナデ フ切り	同輪ナデ フ切り	同輪ナデ フ切り	10 Y R 3/1 黒 い、黄緑	10 Y R 3/1 黒 い、黄緑			細・少	—	—	(6.0)	3.8
71	SB42	J4区		須恵器	同輪ナデ フ切り	同輪ナデ フ切り	同輪ナデ フ切り	同輪ナデ フ切り	N6/ 灰	2.5Y7/2 灰 黄			細・少	(15.0)	—	—	1.8
72	SB43	J4区		須恵器	同輪ナデ フ切り	同輪ナデ フ切り	同輪ナデ フ切り	同輪ナデ フ切り	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白			細・少	(15.8)	—	—	1.8
73	SB43	J4区		須恵器	同輪ナデ フ切り	同輪ナデ フ切り	同輪ナデ フ切り	同輪ナデ フ切り	5Y7/1 灰白	5Y6/1 灰 白			細・少	—	—	5.9	8.8
74	SB44	J3区		土師器	杯	同輪ナデ フ切り	同輪ナデ	同輪ナデ	7.5YR6/4 黄黄緑 い、黄	2.5YR6/4 黄黄 緑			中・少	(13.7)	32	(6.1)	2.8

第3表 西木則遺跡V出土土器観察表(4)

第2分冊

標本番号	標本通称	地区	層位	種類	器種	形状	内面	外面	裏面	色澤	内部	石葉・赤色配 長石	胎土	胎粒	口縁 (c.m.)	器高 (c.m.)	口径 (c.m.)	法長(cm)	底径(その他) (c.m.)	残存 率	備考
75	SP45	J1区	土師器	小皿	同輪ナテ ツクリ後ナテ	同輪ナテ ツクリ後ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	25Y8/1 灰白	25Y8/1 灰白			細・少	(88)	14	(78)	—	—	2.8	
76	SP93	J8区	土師器	杯	同輪ナテ ツクリ後ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	7.5Y8/4 浅黄褐色	7.5Y8/4 浅黄褐色			中・少	(145)	36	(92)	—	—	4.8	
77	SP106	J8区	瓦器	横 土師器	指オウ工後同輪ナテ 土師へウミガキ 高台配付後同輪ナテ	指オウ工後ナテ 土師へウミガキ	指オウ工後ナテ	指オウ工後ナテ	指オウ工後ナテ	N3/黄灰	N3/黄灰			細・少	(138)	—	—	—	—	1.8	遺構位置不明
78	SP132	J8区	土師器	横 土師器	指オウ工後同輪ナテ 高台配付後同輪ナテ	指オウ工後ナテ 土師へウミガキ	指オウ工後ナテ	指オウ工後ナテ	指オウ工後ナテ	2.5Y8/6 黄	2.5 Y 6.1 黄灰			細・多	(146)	—	—	—	—	1.8	
79	SP194	J8区	須恵器	横 土師器	同輪ナテ後へウミガキ	同輪ナテ後へウミガキ	同輪ナテ後へウミガキ	同輪ナテ後へウミガキ	同輪ナテ後へウミガキ	10 Y R 8.2 灰白	10 Y R 8.2 灰白			中・少	(138)	—	—	—	—	1.8	
80	SP214	J1区	黒色土器	横 土師器	同輪ナテ後へウミガキ ツクリ後高台配付後同輪ナテ	同輪ナテ後へウミガキ ツクリ後高台配付後同輪ナテ	同輪ナテ後へウミガキ	同輪ナテ後へウミガキ	同輪ナテ後へウミガキ	2.5Y8/3 赤黄	2.5Y3/1 黒褐			細・少	—	—	(52)	—	—	5.8	
81	SP242	J3区	土師器	杯	同輪ナテ 高台配付後同輪ナテ	同輪ナテ 高台配付後同輪ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y7/2 灰黄			細・多	(136)	37	79	—	—	5.8	
82	SP254	J3区	土師器	杯	同輪ナテ 高台配付後同輪ナテ	同輪ナテ 高台配付後同輪ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	10Y8/4 浅黄褐色	2.5Y8/3 赤黄			細・少	(108)	30	(70)	—	—	4.8	
83	SP290	J3区	須恵器	横 土師器	同輪ナテ 高台配付後同輪ナテ	同輪ナテ 高台配付後同輪ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	5Y7/1 灰白	5Y8/1 灰白			細・多	—	—	5.3	—	7.8		
84	SP292	J3区	須恵器	横 土師器	同輪ナテ 高台配付後同輪ナテ	同輪ナテ 高台配付後同輪ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	N4/灰	N4/灰			細・少	—	—	(58)	—	2.8		
85	SP332	J3区	瓦質土器	小皿	へウミガキ (Vマ ツ)	へウミガキ (Vマ ツ)	へウミガキ (Vマ ツ)	へウミガキ (Vマ ツ)	へウミガキ (Vマ ツ)	N5/灰	N5/灰			中・並	(88)	19	(49)	—	—	3.8	
86	SP336	J3区	土師器	横 土師器	指オウ工 高台配付後同輪ナテ	指オウ工 高台配付後同輪ナテ	指オウ工 高台配付後同輪ナテ	指オウ工 高台配付後同輪ナテ	指オウ工 高台配付後同輪ナテ	10Y8/3 に近い 黄褐色	5Y8/6 黄			中・多	(322)	—	—	—	—	—	破片
87	SP336	J3区	瓦器	横 土師器	指オウ工 高台配付後同輪ナテ	指オウ工 高台配付後同輪ナテ	指オウ工 高台配付後同輪ナテ	指オウ工 高台配付後同輪ナテ	指オウ工 高台配付後同輪ナテ	5Y8/7 6 黄	5Y8/4 黄褐色			中・少	(144)	4.3	(45)	—	—	2.8	標本による 劣り損壊
88	SP339	J3区	土師器	小皿	同輪ナテ ツクリ	同輪ナテ ツクリ	同輪ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白			中・少	85	15	72	—	—	8.8	底面：剥離面に モミ圧痕有
89	SP339	J3区	黒色土器	横 土師器	同輪ナテ ツクリ	同輪ナテ ツクリ	同輪ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	10Y8/3 浅黄褐色	10Y8/3 浅黄褐色			細・少	(150)	—	—	—	—	2.8	
90	SP325	J2区	須恵器	横 土師器	同輪ナテ ツクリ	同輪ナテ ツクリ	同輪ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	5Y8/1 灰白	5Y8/2 灰白			中・少	(127)	4.1	39	—	—	2.8	
91	SP349	J2区	土師器	小皿	同輪ナテ ツクリ	同輪ナテ ツクリ	同輪ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	10Y8/3 浅黄褐色	10Y8/3 浅黄褐色			中・少	(84)	—	(64)	—	—	1.8	
92	SP466	J4区	瓦器	横 土師器	指オウ工 高台配付後同輪ナテ	指オウ工 高台配付後同輪ナテ	指オウ工 高台配付後同輪ナテ	指オウ工 高台配付後同輪ナテ	指オウ工 高台配付後同輪ナテ	N5/灰	N4/灰			細・少	—	—	(46)	—	—	2.8	
93	SP468	J4区	瓦器	小皿	同輪ナテ ツクリ	同輪ナテ ツクリ	同輪ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	N4/灰	2.5Y7/2 灰黄			細・少	(78)	—	—	—	—	1.8	
94	SP672	J4区	土師器	杯	同輪ナテ ツクリ	同輪ナテ ツクリ	同輪ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ	10Y8/7/4 に近い 黄褐色	10Y8/7/4 に近い 黄褐色			細・少	(131)	3.6	56	—	—	6.8	

第3表 西木則達跡V出土土器観察表(5)

第2分冊

原文番号	考古番号	地区	層位	種類	器種	蓋	内面	外面	色澤	石室・赤色粘土	胎土	口縁	器高	底径	底径(その軸)	残存率
												(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	
95	SP760	J3区	土師器	杯	同軸ナブ ツクリ後ナブ	同軸ナブ 同軸ナブ	同軸ナブ 同軸ナブ	同軸ナブ 同軸ナブ	25X78.2灰白	25X78.2灰白		口縁 (146)	30	(88)	—	2.8
96	SP846	J3区	土師器	小皿	同軸ナブ ツクリ後ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	25Y7.3黄灰	25Y7.3黄灰		口縁 (81)	1.4	5.5	—	5.8
97	SP846	J3区	土師器	小皿	同軸ナブ ツクリ後ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	25X8.2灰白	25X8.2灰白		口縁 (77)	1.2	6.3	—	6.8
98	SP952	J3区	黒色土器	碗	ナブ後ハウミガキ ツクリ後ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	75Z2.1黒	75Z2.1黒		口縁 (150)	—	—	—	1.8
99	SP980	J3区	土師器	小皿	同軸ナブ ツクリ後ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	10Y86.2灰白	10Y86.2灰白		口縁 (92)	1.5	(6.3)	—	5.8
100	SP980	J3区	土師器	小皿	同軸ナブ ツクリ後ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	75Y87.6黄	75Y87.6黄		口縁 (84)	1.6	(6.0)	—	3.8
101	SP1051	J3区	土師器	杯	同軸ナブ ツクリ後ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	10Y86.4に赤い 黄	10Y86.4に赤い 黄		口縁 (12.8)	3.9	6.8	—	7.8
102	SP1115	J3区	土師器	杯	同軸ナブ ツクリ後ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	10Y87.3に赤い 黄	10Y87.3に赤い 黄		口縁 (11.8)	3.2	6.5	—	8.8
103	SP1115	J3区	土師器	杯	同軸ナブ ツクリ後ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	10Y88.3に赤い 黄	10Y88.3に赤い 黄		口縁 (11.4)	3.0	(5.9)	—	3.8
104	SP1115	J3区	土師器	杯	同軸ナブ ツクリ後ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	10Y87.3に赤い 黄	10Y87.3に赤い 黄		口縁 (11.3)	2.8	6.7	—	8.8
105	SP1115	J3区	土師器	杯	同軸ナブ ツクリ後ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	25Y8.2灰白	25Y8.2灰白		口縁 (11.0)	3.1	7.1	—	6.8
106	SP1115	J3区	土師器	杯	同軸ナブ ツクリ後ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	10Y86.2灰白	10Y86.2灰白		口縁 (10.9)	2.7	6.8	—	6.8
107	SP1115	J3区	土師器	杯	同軸ナブ ツクリ後ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	10Y88.3黄	10Y88.3黄		口縁 (10.9)	2.7	7.9	—	8.8
108	SP1115	J3区	土師器	杯	同軸ナブ ツクリ後ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	25X8.2灰白	25X8.2灰白		口縁 (10.8)	3.0	4.7	—	5.8
109	SP1115	J3区	土師器	杯	同軸ナブ ツクリ後ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	75Y86.3黄	75Y86.3黄		口縁 (10.8)	2.7	6.4	—	7.8
110	SP1115	J3区	土師器	杯	同軸ナブ ツクリ後ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	10Y88.2灰白	10Y88.2灰白		口縁 (10.6)	2.9	5.2	—	5.8
111	SP1115	J3区	土師器	杯	同軸ナブ ツクリ後ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	25X8.1灰白	25X8.1灰白		口縁 (11.1)	3.0	6.5	—	6.8
112	SP1115	J3区	土師器	杯	同軸ナブ ツクリ後ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	25X8.2灰白	25X8.2灰白		口縁 (10.3)	3.0	6.3	—	7.8
113	SP1115	J3区	土師器	杯	同軸ナブ ツクリ後ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	10Y86.4黄	10Y86.4黄		口縁 (10.3)	3.3	(6.0)	—	3.8
114	SP1115	J3区	土師器	杯	同軸ナブ ツクリ後ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	25Y7.4黄	25Y7.4黄		口縁 (10.0)	3.0	(5.9)	—	2.8
115	SP1115	J3区	土師器	杯	同軸ナブ ツクリ後ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	10Y88.3黄	10Y88.3黄		口縁 (10.4)	2.8	7.7	—	7.8
116	SP1115	J3区	土師器	杯	同軸ナブ ツクリ後ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	75Y88.4黄	75Y88.4黄		口縁 (4.8)	2.7	6.0	—	8.8
117	SP1115	J3区	土師器	杯	同軸ナブ ツクリ後ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	同軸ナブ	10Y88.3黄	10Y88.3黄		口縁 (10.0)	2.7	6.4	—	8.8

第3表 西木則遺跡V出土器観表(6)

第2分冊

器名・番号	所在遺構	地区	種類	器種	黒色		色澤		石蓋・赤色泥・灰石	粘土		法量(cm)			残存 率
					外面	内面	外部	内部		口径	口縁	器高	底径	その他	
118	SP115	J3区	土師器	足袋	ヨコナテハテ 指	ヨコナテハテ 指	10YR4.2灰青緑	10YR6.3淡黄緑		中・並	(20.8)	—	—	—	1/8
119	SP149	J3区	土師器	足袋	ヨコナテハテ 指	ヨコナテハテ 指	7.5YR6.4にぶい	2.5Y7.1灰白		細・少	(23.8)	—	—	—	1/8
121	SP175	J3区	土師器	小皿	同軸ナテ フ切り後ナテ	同軸ナテ フ切り後不定形	10YR8.2灰白	2.5Y8.1灰白		細・少	(7.6)	1.1	(6.0)	—	2/8
122	SP124	J3区	土師器	杯	同軸ナテ フ切り後ナテ	同軸ナテ フ切り後ナテ	10YR7.2にぶい	10YR4.1薄灰青緑		細・少	(13.8)	3.8	(8.4)	—	2/8
123	SP126	J7区	瓦器	椀	ヨコナテハテ 指	ヘラミガキ	2.5Y3.1黒黒	2.5Y6.1黒灰		中・少	(14.6)	—	—	—	1/8
134	SP1274B	J4区	土師器	小皿	同軸ナテ フ切り後ナテ	同軸ナテ フ切り後ナテ	7.5YR8.4淡黄緑	2.5YR8.4淡黄緑		中・並	(8.2)	1.7	(6.6)	—	3/8
135	SP1274A	J4区	土師器	小皿	同軸ナテ フ切り後ナテ	同軸ナテ フ切り後ナテ	10YR4.2灰青緑	10YR6.3にぶい		中・多	(33.0)	—	—	—	破片
136	SP1276	J4区	土師器	小皿	同軸ナテ フ切り後ナテ	同軸ナテ フ切り後ナテ	10YR4.2灰青緑	10YR6.2灰青緑		中・多	(32.2)	—	—	—	1/8
137	SP1282	J4区	埴器	椀	同軸ナテ フ切り後ナテ	同軸ナテ フ切り後ナテ	5Y7.1灰白	5Y7.1灰白		細・少	—	—	(5.0)	—	3/8
138	SP1285	J4区	土師器	小皿	同軸ナテ フ切り後ナテ	同軸ナテ フ切り後ナテ	7.5YR8.4淡黄緑	2.5YR8.4淡黄緑		細・少	(9.6)	1.3	(6.8)	—	3/8
139	SP1286	J4区	埴器	椀	同軸ナテ フ切り後ナテ	同軸ナテ フ切り後ナテ	N8、薄灰	N8、灰白		細・少	(14.8)	—	—	—	1/8
130	SP1290	J4区	土師器	小皿	同軸ナテ フ切り後ナテ	同軸ナテ フ切り後ナテ	10YR3.2黒黒	10YR6.3にぶい		中・多	(37.2)	—	—	—	破片
131	SP1299	J4区	埴器	椀	同軸ナテ フ切り後ナテ	同軸ナテ フ切り後ナテ	N5、灰	N5、灰		細・少	(14.8)	4.7	(5.2)	—	3/8
132	SP1299	J4区	埴器	裏	同軸ナテ フ切り後ナテ	同軸ナテ フ切り後ナテ	2.5Y6.2灰黄	2.5Y6.2灰黄		細・少	(36.8)	—	—	—	2/8
133	SP1317	J3区	土師器	小皿	同軸ナテ フ切り後ナテ	同軸ナテ フ切り後不定形	10YR8.2灰白	10YR8.2灰白		細・多	(8.8)	1.6	(5.4)	—	2/8
134	SP1328	J4区	黒色土器	椀	ヘラミガキ	ヘラミガキ	10YR8.4淡黄緑	N2、黒		細・少	(14.0)	—	—	—	2/8
135	SP1337	J4区	土師器	杯	同軸ナテ フ切り後ナテ	同軸ナテ フ切り後ナテ	2.5Y8.2灰白	2.5Y8.2灰白		中・少	(13.9)	—	—	—	1/8
136	SP1350	J4区	黒色土器	皿	ヘラミガキ	ヘラミガキ	N2、黒	N2、黒		細・少	(8.8)	1.2	(6.0)	—	1/8
137	SP1364	J4区	土師器	小皿	同軸ナテ フ切り後ナテ	同軸ナテ フ切り後不定形	10YR8.2灰白	7.5YR7.6橙		細・少	7.7	1.5	(6.0)	—	8/8
138	SP1385	J4区	土師器	小皿	同軸ナテ フ切り後ナテ	同軸ナテ フ切り後ナテ	2.5Y8.2灰白	2.5Y8.2灰白		細・少	(8.0)	1.3	(6.4)	—	3/8
139	SP1387	J4区	土師器	杯	同軸ナテ フ切り後ナテ	同軸ナテ フ切り後ナテ	10YR8.3淡黄緑	7.5YR8.4淡黄		中・少	(14.5)	3.4	(6.0)	—	2/8
140	SP1387	J4区	瓦器	椀	同軸ナテ フ切り後ナテ	同軸ナテ フ切り後ナテ	5Y4.1灰	5Y6.1灰		中・少	—	—	(4.6)	—	3/8



第3表 西木則遺跡V出土土器観察表(7)

第2分冊

器名・番号	所在遺構名	層位	種類	器種	黒色		色澤		粘土		法量(cm)			残存率		
					外面	内面	外面	内面	石莖・赤色配	物四石	雲母	粒径	口径		器高	底径(その軸心)
141	SP1391	J4区	土師器	小皿	同輪ナテ 同輪へ 少切刃後輪ナテ後 板状庄重	同輪ナテ(マメツ)	7.5YR8/3浅黄	25YR8/3浅黄				(8.3)	1.0	(5.1)	—	4/8
143	SP1438	J4区	白磁	皿	施釉		軸上: 5Y7.2灰白	N3/暗灰				(15.6)	—	—	—	1/8
144	SP1442	J4区	黒色土器	椀	指オコ子後ナテ後 板状庄重	へウミガキ	N5/灰	軸上: 7.5YR7.4 白	軸上: 7.5YR7.4 白			(15.7)	—	—	—	1/8
145	SP1445	J4区	施釉陶器	蓋	ナテ後施釉	—	軸上: 7.5Y7.1灰	白	軸上: 7.5YR7.4 白			—	—	—	—	8/8
146	SP1450	J4区	土師器	小皿	同輪ナテ 同輪へ 少切刃後ナテ	同輪ナテ	10YR8/3浅黄	10YR8/3浅黄				(8.2)	1.4	(6.0)	—	4/8
147	SP1450	J4区	土師器	杯	同輪ナテ 同輪へ 少切刃後ナテ	同輪ナテ	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白				(13.9)	—	(8.3)	—	1/8
148	SP1450	J4区	須恵器	鉢	指オコ子後ヨコナ	ヨコナテ	N4/灰	N6/灰				(26.0)	—	—	—	1/8
150	SP1492	J4区	土師器	小皿	同輪ナテ 同輪へ 少切刃後ナテ	同輪ナテ(マメツ)	10YR8.4浅黄	10YR8.4浅黄				(7.6)	1.2	(5.0)	—	2/8
151	SP1500	J4区	土師器	杯	同輪ナテ	同輪ナテ	5YR8/6黄	7.5YR7.4に赤				(13.4)	—	—	—	1/8
152	SP1500	J4区	須恵器	椀	同輪ナテ 高小輪 付後同輪ナテ	ナテ後ハク	2.5YR8.1灰白	2.5Y7.1灰白				(14.9)	4.8	(5.0)	—	3/8
153	SP1500	J4区	須恵器	椀	同輪ナテ 高小輪 付後同輪ナテ	ナテ後ハク	2.5Y7.2灰黄	2.5Y7.1灰白				(14.0)	—	—	—	1/8
154	SP1517	J4区	土師器	小皿	有付 同輪ナテ 接合後 1号所	同輪ナテ 尊丸	7.5YR7.6黄	7.5YR8.4浅黄				8.5	4.4	6.4	—	8/8
155	SP1520	J4区	土師器	小皿	同輪ナテ 同輪へ 板状庄重	同輪ナテ	7.5YR8.4浅黄	10YR8/3浅黄				(8.4)	1.5	(6.2)	—	2/8
156	SP1520	J4区	土師器	有付 小皿	同輪ナテ 同輪へ 少切刃後同輪ナテ	同輪ナテ	2.5Y7.3浅黄	2.5Y6.2灰黄				(8.8)	2.1	—	—	3/8
157	SP1520	J4区	土師器	杯	同輪ナテ 高小輪 付後同輪ナテ	同輪ナテ	10YR8.4浅黄	10YR8.2灰白				(12.2)	3.8	7.5	—	5/8
158	SP1522	J4区	土師器	小皿	同輪ナテ 同輪へ 少切刃後ナテ	同輪ナテ	7.5YR8.4浅黄	7.5YR8.4浅黄				(7.5)	1.0	5.1	—	4/8
159	SP1523	J4区	土師器	小皿	同輪ナテ 同輪へ 少切刃後ナテ	同輪ナテ	7.5YR7.6黄	7.5YR8.6黄				(8.0)	—	—	—	3/8
160	SP1523	J4区	土師器	小皿	同輪ナテ 同輪へ 少切刃後同輪ナテ後 板状庄重	同輪ナテ	7.5YR8.4浅黄	7.5YR8.6浅黄				(8.0)	1.2	(5.2)	—	6/8
161	SP1523	J4区	土師器	小皿	同輪ナテ 同輪へ 少切刃後ナテ	同輪ナテ	2.5Y7.2灰黄	2.5Y7.2灰黄				(7.4)	1.3	(4.3)	—	2/8
162	SP1531	J4区	土師器	有付 小皿	同輪ナテ 同輪へ 少切刃後ナテ	—	10YR8/3に灰	—				現在長 8.2	幅1.3	—	—	6/8 厚さ1.2
163	SP1533	J4区	土師器	小皿	同輪ナテ 同輪へ	同輪ナテ	5Y5/1灰	5Y5/1灰				(8.2)	1.2	(6.2)	—	2/8
164	SP1532	J4区	土師器	小皿	同輪ナテ 同輪へ 少切刃後ナテ	同輪ナテ 同輪へ 高ナテ	10YR8/3浅黄	10YR8/3浅黄				(7.8)	1.3	(5.8)	—	3/8
165	SP1555	J4区	土師器	小皿	同輪ナテ 同輪へ 少切刃後ナテ	同輪ナテ	7.5YR8.4浅黄	10YR8.3浅黄				(8.4)	1.6	(5.7)	—	3/8
166	SP1568	J4区	土師器	杯	同輪ナテ 同輪へ 少切刃後ナテ	同輪ナテ	7.5YR7.6黄	7.5YR7.6黄				(12.4)	3.4	(5.3)	—	5/8

第3表 西木則遺跡V出土土器観察表(8)

第2分冊

器名・番号	器名・通称	高さ	部位	種類	面		色		胎土	口縁 (c.m.)	法量(cm)		残存 率		
					外面	内面	外部	内部			口径 (c.m.)	器高 (c.m.)		残存率の幅 (c.m.)	
167	SP1549	J4区	土師器	小皿	同軸ナズ フ切り後同軸ナズ後 板状圧痕	同軸ナズ	10YR8.2灰白	10YR8.2灰白		中・少	(7.6)	1.5	5.1	—	5.8
168	SP1589	J4区	須恵器	甗	同軸ナズ後へラミ ミガキ 同軸ナズ後へラミ ミガキ 同軸ナズ後へラミ ミガキ	へラミミガキ	5Y8.1灰白	5Y8.1灰白		細・少	(13.1)	5.0	(5.0)	—	3.8
169	SP1598	J4区	土師器	杯	同軸ナズ 板状圧痕	同軸ナズ	5YR7.6黄	5YR7.6黄		中・少	(13.5)	—	(8.7)	—	1.8
170	SP1600	J4区	土師器	小皿	同軸ナズ フ切り後同軸ナズ後 板状圧痕	同軸ナズ後不定方 同ナズ	7.5YR8.3淡黄	7.5YR8.3淡黄		中・並	(8.3)	1.6	(5.4)	—	4.8
171	SP1600	J4区	土師器	小皿	同軸ナズ フ切り後同軸ナズ後 板状圧痕	同軸ナズ	10YR8.4淡黄	7.5YR7.6黄		細・少	(7.8)	1.3	(5.6)	—	2.8
172	SP1600	J4区	土師器	耳皿	同軸ナズ フ切り後同軸ナズ後 板状圧痕	同軸ナズ	10YR6.4に灰 黄	10YR5.3に灰 黄		細・少	—	—	—	—	3.8
173	SP1601	J4区	瓦器	同軸ナズ	同軸ナズ フ切り後同軸ナズ後 板状圧痕	同軸ナズ フ切り後へラミガキ ナズ後へラミガキ	N4.灰	N3.黄灰		細・少	(13.2)	3.8	(5.0)	—	1.8
174	SP1637	J4区	土師器	小皿	同軸ナズ フ切り後同軸ナズ後 板状圧痕	同軸ナズ後不定方 同ナズ	10YR8.4淡黄	10YR7.4に灰 黄		細・少	7.4	1.0	5.7	—	7.8
175	SP1652	J4区	陶磁器	皿	同軸ナズ	同軸ナズ	黄	黄		無	(12.2)	—	—	—	破片
176	SP1661	J4区	土師器	小皿	同軸ナズ フ切り後同軸ナズ後 板状圧痕	同軸ナズ	10YR8.3淡黄	10YR8.3淡黄		細・多	(8.0)	1.3	(6.0)	—	3.8
177	SP1669	J4区	土師器	杯	同軸ナズ フ切り後同軸ナズ後 板状圧痕	同軸ナズ	2.5Y8.2灰白	2.5Y8.2灰白		中・並	(15.1)	2.7	(8.8)	—	1.8
178	SP1669	J4区	黒色土器	同軸ナズ	同軸ナズ フ切り後同軸ナズ後 板状圧痕	同軸ナズ フ切り後へラミガキ	10YR8.2灰白	10YR2.1黒		細・少	(14.2)	—	—	—	3.8
179	SP1704	J4区	土師器	小皿	同軸ナズ フ切り後同軸ナズ後 板状圧痕	同軸ナズ後不定方 同ナズ	2.5Y8.2灰白	2.5Y8.3淡黄		細・少	8.1	1.4	6.2	—	5.8
180	SP1754	J4区	土師器	小皿	同軸ナズ フ切り後同軸ナズ後 板状圧痕	同軸ナズ	2.5Y8.2灰白	2.5Y8.2灰白		中・少	8.4	1.6	6.6	—	8.8
181	SP1754	J4区	土師器	小皿	同軸ナズ フ切り後同軸ナズ後 板状圧痕	同軸ナズ	2.5Y8.3淡黄	2.5Y8.3淡黄		細・少	8.0	1.5	6.4	—	7.8
182	SP1784	J4区	土師器	小皿	同軸ナズ フ切り後同軸ナズ後 板状圧痕	同軸ナズ	7.5YR7.6黄	7.5YR7.6黄		細・少	(7.8)	1.5	(5.8)	—	4.8
183	SP1784	J4区	須恵器	甗	同軸ナズ フ切り後同軸ナズ後 板状圧痕	同軸ナズ	2.5Y8.1灰白	2.5Y8.1灰白		細・少	(14.8)	—	—	—	1.8
185	SP1791	J4区	白磁	甗	同軸ナズ フ切り後同軸ナズ後 板状圧痕	同軸ナズ後へラミガキ 同ナズ	黄	黄		細・少	(15.3)	—	—	—	1.8
186	SP1799	J4区	須恵器	甗	同軸ナズ フ切り後同軸ナズ後 板状圧痕	同軸ナズ フ切り後へラミガキ 同ナズ	黄	黄		細・少	(14.4)	—	—	—	1.8
187	SP1816	J4区	土師器	杯	同軸ナズ フ切り後同軸ナズ後 板状圧痕	同軸ナズ後不定方 同ナズ	7.5YR8.3淡黄	7.5YR8.3淡黄		中・少	(14.0)	3.3	3.7	—	7.8
188	SP1826	J4区	土師器	小皿	同軸ナズ フ切り後同軸ナズ後 板状圧痕	同軸ナズ	10YR8.2灰白	10YR8.2灰白		中・少	(8.0)	1.4	(6.7)	—	3.8
190	SP182	J4区	陶器	小皿	同軸ナズ	同軸ナズ	2.5YR6.2灰赤	2.5YR5.1赤灰		細・少	(9.9)	—	—	—	1.8

第3表 西木川遺跡V出土土器観察表(9)

第2分冊

調査番号	報告書番号	地区	層位	種類	器種	外周	内面	色澤	石室・赤色配 長石	胎土	胎土 物四石	絞粒	口縁 (c.m.)	器高 (c.m.)	底径(その軸) (c.m.)	残存 率	備考	
191	SP2013	J4区		瓦器	小皿	同軸ナズ 土灰ナズ 指ナズ	ナズ	外周 5Y3/4オリーブ 黒 内面 5Y3/4オリーブ 黒				中・少 (85)	15 (36)	—	4.8			
192	SP2020	J4区		土師器	小皿	同軸ナズ 2切り長板ナズ後 板瓦片	同軸ナズ	7.5YR7/6黄				細・少	12	5.3	—	7.8		
193	SP2020	J4区		土師器	杯	同軸ナズ	同軸ナズ	10YR8/3浅黄 N8/灰白				細・少 (125)	—	—	—	1.8		
194	SP2020	J4区		須恵器	瓶	同軸ナズ後へラミガキ 同軸ナズ後へラミガキ 同軸ナズ後へラミガキ 同軸ナズ後へラミガキ	ナズ	N8/灰白				細・少	—	(5.9)	—	4.8		
195	SP2022	J4区		土師器	小皿	同軸ナズ 同軸へ 2切り長板ナズ	同軸ナズ後不定方 高ナズ	7.5YR8/4浅黄 N3/灰灰				中・少	(85)	1.4	6.5	—	4.8	
196	SP2024	J4区		瓦器	鉢	ヨコナズ タタキ後ナズ	同軸ナズ 瓶ナズ	N3/灰灰				中・多 (304)	—	—	—	1.8	受熱に伴う膨 張による微細割傷 多数	
197	SP2028	J4区		白磁	瓶	同軸ナズ	同軸ナズ	釉-2.5Y8/3淡 黄				細・少 (186)	—	—	—	1.8		
198	SP2030	J4区		土師器	小皿	同軸ナズ 同軸へ 2切り長板ナズ	同軸ナズ	10YR8/3浅黄 N7/灰白				中・並	8.9	1.6	7.4	—	7.8	
199	SP2043	J4区		土師器	小皿	同軸ナズ 同軸へ 2切り長板ナズ	同軸ナズ	10YR8/2灰白				中・少 (86)	1.4	(6.4)	—	2.8		
200	SP2043	J4区		白磁	瓶	同軸ナズ	同軸ナズ	釉-7.5Y8/1 N3/灰灰				細・少 (179)	—	—	—	2.8		
201	SP2048	J4区		黒色土師	瓶	同軸ナズ後へラミガキ	へラミガキ	N3/灰灰				細・少 (156)	—	—	—	2.8		
202	SP2078	J4区		土師器	小皿	同軸ナズ 同軸へ 2切り長板ナズ後 板瓦片	同軸ナズ後不定方 高ナズ	10YR8/3浅黄 N3/灰灰				中・少	7.9	1.4	5.9	—	7.8	
203	SP2096C	J4区		土師器	小皿	同軸ナズ 同軸へ 2切り長板ナズ後 板瓦片	同軸ナズ	10YR7/4にふい 黄				細・少	7.4	1.4	5.1	—	8.8	
204	SP2096	J4区	上層	土師器	杯	同軸ナズ 同軸へ 2切り長板ナズ後 板瓦片	同軸ナズ	10YR7/4にふい 黄				中・少 (142)	3.2	(7.2)	—	3.8		
205	SP2096B	J4区		黒色土師	瓶	同軸ナズ後へラミガキ	へラミガキ	2.5Y7/2灰黄				細・少 (160)	—	—	—	2.8		
206	SP2102	J4区		瓦質土師	瓶	同軸へ2切り長板ナズ 同軸ナズ後へラミガキ	同軸ナズ	7.5Y7/1灰白				中・少	—	(6.0)	—	2.8		
207	SP2106	J4区		土師器	瓶	同軸ナズ後へラミガキ	同軸ナズ	10YR7/3にふい 黄				細・少 (140)	—	—	—	3.8		
208	SP2111	J4区		土師器	小皿	同軸ナズ	同軸ナズ	5YR7/8黄				中・少	7.8	6.4	7.3	—	7.8	
209	SP2111	J4区		埴土	—	—	—	7.5YR7/6黄				細・少	現存軸 径(寸)	現存軸 径(寸)	現存軸 径(寸)	—	スチキ多量に含 む、正面各種裂 傷、底面割傷 、底面割傷 、底面割傷 、底面割傷	
210	SP2142	J4区		土師器	杯	同軸ナズ 同軸へ 2切り長板ナズ	同軸ナズ	10YR8/4浅黄 N7/灰白				中・並	(14.2)	3.3	(6.0)	—	3.8	
211	SP2143	J4区		土師器	杯	同軸ナズ	同軸ナズ	7.5YR7/6黄				中・多 (14.3)	—	—	—	2.8		
212	SP2156	J4区		須恵器	瓶	同軸ナズ 高板 付後同軸ナズ	同軸ナズ後板ナズ	N7/灰白				細・少 (15.4)	4.6	(5.4)	—	1.8		





第3表 西木則遺跡V出土石器観察表(12)

第2分冊

番号 器名	所在 場所	層位	種類	器種	面	裏	色	形状	長さ	幅	厚	口縁	口縁	底高	底径	その他	保存 率	備考
					内面	外面	内面	外面	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	口縁 (cm)	口縁 (cm)	底高 (cm)	底径 (cm)			
257	SKJ12	J4区	土師器	土師器 小皿	同転ナデ 同転ナデ	同転ナデ	10YR8/3浅黄褐色	10YR8/3浅黄褐色	25YR7/6	25YR6/6	同・少	縦・少	6.7	37	(5.4)	—	4.8	
258	SKJ12	J4区	黒色土器	付付 小皿	同転ナデ 同転へ 小切り後彫削付 同転ナデ	同転ナデ	10YR8/3浅黄褐色	25YR7/6	25YR6/6	同転ナデ	同・少	中・少	(7.7)	42	(7.0)	—	4.8	内面黒色彫削 外面赤色彫削 断面はほぼ均 等な酸化層の付 着が強い。
259	SKJ14	J4区	土師器	土師器 小皿	同転ナデ 同転へ 小切り後転ナデ後 板状圧痕	同転ナデ	10YR8/3浅黄褐色	10YR7/4にぶい	25YR7/4にぶ	同転ナデ	同・少	縦・少	(8.2)	1.4	(6.3)	—	4.8	
260	SKJ14	J4区	土師器	土師器 杯	同転ナデ 同転へ 小切り後転ナデ後 板状圧痕	同転ナデ	10YR8/3浅黄褐色	10YR8/3浅黄褐色	10YR8/3浅黄褐色	同転ナデ	同・少	中・少	—	—	(7.0)	—	4.8	
261	SKJ18	J4区	土師器	土師器 小皿	同転ナデ 同転へ 小切り後転ナデ後	同転ナデ	10YR8/3浅黄褐色	10YR8/3浅黄褐色	10YR8/3浅黄褐色	同転ナデ	同・少	中・少	8.0	1.1	6.2	—	7.8	
262	SKJ18	J4区	土師器	土師器 小皿	同転ナデ 同転へ 小切り後転ナデ後	同転ナデ	7.5YR7/6	7.5YR8/4浅黄褐色	7.5YR8/4浅黄褐色	同転ナデ	同・少	縦・少	(8.0)	1.4	(6.0)	—	2.8	
263	SKJ18	J4区	土師器	土師器 小皿	同転ナデ 同転へ 小切り後転ナデ後	同転ナデ	7.5YR7/6	7.5YR8/4浅黄褐色	7.5YR8/4浅黄褐色	同転ナデ	同・多	中・多	(35.0)	—	—	—	—	破片
264	SKJ18	J4区	土師器	土師器 小皿	同転ナデ 同転へ 小切り後転ナデ後	同転ナデ	7.5YR4/2灰褐色	10YR7/2にぶい	10YR7/2にぶい	同転ナデ	同・多	中・多	—	—	—	—	—	破片
265	SKJ18	J4区	須恵器	須恵器 小皿	同転ナデ 同転へ 小切り後転ナデ後	同転ナデ	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	同転ナデ	同・少	縦・少	(14.6)	4.4	(6.0)	—	3.8	
266	SKJ23	J4区	土師器	土師器 小皿	同転ナデ 同転へ 小切り後転ナデ後	同転ナデ	7.5YR7/4にぶい	7.5YR7/4にぶい	7.5YR7/4にぶい	同転ナデ	同・少	縦・少	(7.6)	1.8	(5.3)	—	3.8	
267	SKJ23	J4区	土師器	土師器 杯	同転ナデ 同転へ 小切り後転ナデ後	同転ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR7/6	同転ナデ	同・少	縦・少	13.8	—	—	—	6.8	
268	SKJ23	J4区	須恵器	須恵器 小皿	同転ナデ 同転へ 小切り後転ナデ後	同転ナデ	2.5Y8/1灰白	2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	同転ナデ	同・少	縦・少	(15.0)	4.9	(5.0)	—	2.8	
269	SKJ23	J4区	須恵器	須恵器 小皿	同転ナデ 同転へ 小切り後転ナデ後	同転ナデ	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	同転ナデ	同・少	中・少	(15.0)	—	—	—	5.8	2.8
270	SKJ23	J4区	須恵器	須恵器 小皿	同転ナデ 同転へ 小切り後転ナデ後	同転ナデ	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	同転ナデ	同・少	縦・少	(15.0)	—	—	—	2.8	
271	SKJ23	J4区	須恵器	須恵器 小皿	同転ナデ 同転へ 小切り後転ナデ後	同転ナデ	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/3黄褐色	2.5Y8/3黄褐色	同転ナデ	同・少	縦・少	—	—	5.8	—	5.8	
272	SKJ24	J4区	土師器	土師器 小皿	同転ナデ 同転へ 小切り後転ナデ後	同転ナデ	5YR7/6	—	5YR7/6	—	同・少	縦・少	径2.6	—	—	—	8.8	
273	SKJ29	J4区	土師器	土師器 杯	同転ナデ 同転へ 小切り後転ナデ後	同転ナデ	10YR7/4にぶい	10YR8/1灰白	10YR8/1灰白	同転ナデ	同・多	中・多	(13.8)	3.6	(3.8)	—	2.8	
274	SKJ29	J4区	瓦器	瓦器 小皿	同転ナデ 同転へ 小切り後転ナデ後	同転ナデ	N4/灰	N4/灰	N4/灰	同転ナデ	同・少	縦・少	(9.6)	1.6	(6.0)	—	2.8	
275	SKJ30	J4区	土師器	土師器 小皿	同転ナデ 同転へ 小切り後転ナデ後	同転ナデ	10YR7/3にぶい	7.5YR6/6	7.5YR6/6	同転ナデ	同・少	縦・少	(7.5)	1.5	(6.2)	—	2.8	

第3表 西木則遺跡V出土土器観察表 (13)

第2分冊

標本番号	標名・遺跡名	地区	層位	種類	器種	蓋		色澤		胎土			法量(cm)			残存率	備考	
						外面	内面	外部	内部	石葉・長石	物四石	雲母	粒径	口径	器高			底径
276	SK3130	J4区		黒色土器	小皿	外周へ少切 り後敷子後敷状 圧縮ナマ 同敷ナマ	ナマ後へウエガキ	2578/3 黒黄	2578/3 黒黄			中・少	—	—	(51)	—	3/8	
277	ST01	J7区		土師器	小皿	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	同敷ナマ	2578/3 黒黄	2578/3 黒黄			中・少	87	16	70	—	8/8	
278	ST01	J7区		土師器	小皿	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	75YR6/4 に近い 黄褐色	75YR6/6 黄			細・多	84	11	66	—	8/8	
279	ST01	J7区		土師器	小皿	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	10YR7/3 に近い 黄褐色	10YR7/3 に近い 黄褐色			細・少	43	13	58	—	8/8	
280	ST01	J7区		土師器	小皿	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	10YR7/4 に近い 黄褐色	10YR7/4 に近い 黄褐色			中・多	83	14	73	—	7/8	
281	ST01	J7区		土師器	小皿	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	10YR7/3 に近い 黄褐色	10YR7/3 に近い 黄褐色			中・多	79	16	58	—	8/8	
282	ST01	J7区		白磁	皿	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	75Y7/1 灰白	75Y7/1 灰白			細・少	98	23	45	—	8/8	
302	ST02	J7区	上層	土師器	小皿	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	75YR7/4 に近い 黄褐色	75YR7/4 に近い 黄褐色			中・少	70	09	54	—	7/8	
303	ST02	J7区	上層	土師器	小皿	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	10YR3/1 黒褐	5YR6/6 黄			細・少	90	16	65	—	1/8	
304	ST03	J2区	上層	土師器	小皿	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	75YR7/4 に近い 黄褐色	75YR7/6 黄			中・少	87	13	67	—	1/8	
305	ST03	J2区		土師器	小皿	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	10YR7/3 に近い 黄褐色	10YR7/3 に近い 黄褐色			細・少	78	14	61	—	8/8	
306	ST03	J2区	灰土	土師器	小皿	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	10YR8/3 黄褐色	10YR8/3 黄褐色			細・少	81	13	54	—	7/8	
307	ST03	J2区		土師器	小皿	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	5YR8/4 赤褐	5YR8/4 赤褐			中・少	77	14	58	—	7/8	
308	ST03	J2区		土師器	小皿	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	10YR8/3 黄褐色	10YR8/3 黄褐色			中・少	77	12	56	—	8/8	
311	SE02	J4区		土師器	小皿	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	75YR7/4 に近い 黄褐色	75YR7/4 に近い 黄褐色			細・少	79	14	57	—	6/8	
312	SE03	J2区	上層	土師器	小皿	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	10YR6/4 に近い 黄褐色	10YR6/4 に近い 黄褐色			中・少	80	13	46	—	2/8	
313	SE03	J2区	成層	土師器	小皿	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	10YR7/3 に近い 黄褐色	10YR7/3 に近い 黄褐色			細・少	74	—	—	—	1/8	
314	SE03	J2区	成層	黒磁器	瓶	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白			細・少	—	—	—	(48)	—	2/8
315	SE04	J7区	中層	土師器	瓶	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	10YR8/4 黄褐色	10YR8/4 黄褐色			細・少	—	—	—	(58)	—	4/8
316	SE02	J2区	下層	土師器	足袋	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	75YR7/4 に近い 黄褐色	75YR7/4 に近い 黄褐色			細・多	—	—	—	(244)	—	3/8
318	SD01	J1区	上層	土師器	瓶	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	同敷ナマ 少切り後敷子後 敷状圧縮	10YR 3/1 黒灰	10YR4/1 黒灰			中・少	—	—	—	—	—	破片

第3表 西木則遺跡V出土土器観察表 (14)

第2分冊

原支 番号	原支 番号	地区 名	層位	種類	器種	外面	内面	色澤	胎土	口縁 (cm)	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	底厚 (cm)	残存 率
319	SD91	J1区 下層	瓦器	小皿	指オナ 工	同転ナテ	ナテ	N3, 陶灰	石垂・赤色 長石	細・少	(88)	細・少	—	—	1/8
320	SD91	J1区 上層	陶器	茶	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	7.5YR5.3に 近い 陶	—	中・少	(112)	中・少	—	—	破片 備前
321	SD98	J1区	磁器	皿	染付表施輪	染付表施輪	—	黒・5Y3Y1灰 白	—	無	(138)	—	—	—	1/8
322	SD10・ SD11・ SD72合 部	J3区	土師器	土師	ナテ	ナテ	—	2.5Y7.2灰黄	—	細・少	現存残 3.3	細・少	厚さ 1.3	—	8/8
323	SD10	J3区	瓦器	小皿	ナテ	ナテ	ナテ	2.5Y3.1黒陶	—	中・少	(84)	中・少	1.4	(4.3)	1/8
325	SD11	J3区	青磁	椀	施輪	施輪	施輪	黒・7.5YR2灰 オリーブ	—	中・少	(159)	—	—	—	1/8
326	SD11	J3区	白磁	椀	施輪	施輪	施輪	黒・5Y7.2灰白	—	細・少	(159)	—	—	—	1/8
328	SD20	J3区	土師器	小皿	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	7.5YR6.4浅黄 黒	—	細・少	(74)	1.2	(6.0)	—	3/8
329	SD20	J3区	土師器	小皿	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	10YR8.2灰白	—	中・少	(72)	0.8	(4.9)	—	3/8
330	SD20	J3区	瓦器	鉢	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	N4, 灰	—	細・少	(28.0)	—	—	—	2/8
331	SD27	J6区	上層	養生土器	指オナ	同転ナテ	ナテ	5YR4.8 陶灰	中・並	中・少	—	—	—	—	破片
332	SD27	J2区	上層	養生土器	鉢	同転ナテ	同転ナテ	10YR6.6 明黄黒	中・多	中・並	—	—	—	(4.9)	1/8
333	SD27	J5区	上層	養生土器	鉢	同転ナテ	同転ナテ	10YR7.2に 近い 灰黄	中・並	—	—	—	—	2.6	6/8
334	SD27	J2区	上層	養生土器	高杯	ナテ	ナテ	10YR7.3に 近い 黄赤	中・並	—	—	—	—	—	2/8
335	SD27	J2区	中層	須恵器	ハコ	同転ナテ	同転ナテ	N6, 灰	—	細・少	(99)	—	—	—	1/8
337	SD27	J6区	中層	養生土器	皿	同転ナテ	同転ナテ	10YR6.3に 近い 黄赤	中・多	細・少	(112)	—	—	—	2/8
338	SD27	J5区	中層	養生土器	皿	ハテ	ナテ	5YR6.6 陶	中・多	細・少	—	—	—	—	6/8
339	SD27	J5区	中層	養生土器	皿	同転ナテ	同転ナテ	10YR5.4に 近い 黄赤	中・多	細・少	(108)	—	—	—	1/8
340	SD27	J2区	中層	養生土器	皿	ハテ	同転ナテ	10YR6.4に 近い 黄赤	中・並	細・少	(179)	—	—	—	1/8
341	SD27	J2区	中層	養生土器	皿	同転ナテ	同転ナテ	10YR6.3に 近い 黄赤	中・多	細・少	(156)	—	—	—	2/8
342	SD27	J3区	中層	養生土器	皿	同転ナテ	同転ナテ	10YR4.6 陶	中・並	細・少	(153)	—	—	—	1/8
343	SD27	J5区	中層	養生土器	皿	同転ナテ	同転ナテ	10YR7.3に 近い 黄赤	中・並	細・少	(144)	—	—	—	2/8
344	SD27	J2区	中層	養生土器	皿	同転ナテ	同転ナテ	10YR6.3に 近い 黄赤	中・多	中・多	(191)	—	—	—	1/8
345	SD27	J2区	中層	養生土器	皿	同転ナテ	同転ナテ	10YR7.6 明黄黒	中・並	中・多	—	—	—	3.0	8/8



第3表 西木則遺跡V出土器観表 (15)

第2分冊

器名 番号	器名 番号	地区	層位	種類	器種	外面	内面	裏面	色澤	内部	石室・ 彩色地 長石	胎土	口縁 (c.m.)	器高 (c.m.)	口径 (c.m.)	底径 (c.m.)	底厚 (c.m.)	残存 率	備考	
346	SD27	J2区	中層	弥生土器	鉢 ココナデ 指オサ エ後ナデ ヘウ開 り	ココナデ 指オサ エ後ナデ ヘウ開 り	ハケ	ココナデ 指オサ エ後ナデ ヘウ開 り	10YR6/4に多い 黄褐色	10YR6/4に多い 黄褐色	粗・多	細・少	(166)	—	—	—	—	1/8		
347	SD27	J3区	中層	弥生土器	酒杯 マメツ	マメツ	マメツ	マメツ	7.5YR5.6明褐色	7.5YR5.6明褐色	細・少	細・少	—	(160)	—	—	—	1/8		
348	SD27	J6区	上層	弥生土器	高杯 ココナデ	ココナデ	ココナデ	ココナデ	2.5YR5.4に多い 黄褐色	2.5YR5.4に多い 黄褐色	中・多	中・少	—	(116)	—	—	—	2/8		
350	SD27	J5区	下層	弥生土器	帯 ココナデ (マメツ) 指オサエ 後ナデ	ココナデ (マメツ) 指オサエ 後ナデ	ココナデ (マメツ) 指オサエ 後ナデ	ココナデ (マメツ) 指オサエ 後ナデ	10YR7/3に多い 黄褐色	10YR7/3に多い 黄褐色	中・多	中・少	(155)	—	—	—	—	5/8		
351	SD27	J3区	下層	弥生土器	鉢 ココナデ (マメツ) 指オサエ 後ナデ	ココナデ (マメツ) 指オサエ 後ナデ	ココナデ (マメツ) 指オサエ 後ナデ	ココナデ (マメツ) 指オサエ 後ナデ	10YR7/3に多い 黄褐色	10YR7/3に多い 黄褐色	細・多	細・多	—	—	—	—	—	2/8		
352	SD27	J5区	中層	弥生土器	鉢 ココナデ 指オサ エ後ナデ	ココナデ 指オサ エ後ナデ	ココナデ 指オサ エ後ナデ	ココナデ 指オサ エ後ナデ	10YR6/2灰青褐色	10YR6/3に多い 黄褐色	粗・多	粗・少	(170)	—	—	—	—	4/8		
353	SD27	J5区	下層	弥生土器	鉢 ココナデ 指オサ エ後ナデ	ココナデ 指オサ エ後ナデ	ココナデ 指オサ エ後ナデ	ココナデ 指オサ エ後ナデ	2.5Y5.3 黄褐色	2.5Y5.3に多い 黄褐色	粗・多	粗・少	—	46	—	—	—	5/8		
354	SD27	J3区	中層	弥生土器	帯 ココナデ ナデ	ココナデ ナデ	ココナデ ナデ	ココナデ ナデ	7.5YR5.4浅黄褐色	5YR6.6 黄褐色	中・多	中・少	—	(69)	—	—	—	3/8		
355	SD27	J2区	下層	弥生土器	羹 ココナデ ナデ	ココナデ ナデ	ココナデ ナデ	ココナデ ナデ	10YR5/3に多い 黄褐色	10YR5/2灰青褐色	中・多	中・少	(134)	—	—	—	—	1/8		
356	SD27	J5区	下層	弥生土器	羹 ココナデ ナデ	ココナデ ナデ	ココナデ ナデ	ココナデ ナデ	10YR6/3に多い 黄褐色	2.5Y6.1 黄褐色	粗・多	粗・少	(170)	—	—	—	—	1/8		
357	SD27	J6区	下層	弥生土器	羹 ココナデ ナデ	ココナデ ナデ	ココナデ ナデ	ココナデ ナデ	10YR5/2灰青褐色	10YR5.4に多い 黄褐色	中・多	中・少	(124)	—	—	—	—	2/8		
358	SD27	J2区	下層	弥生土器	羹 ココナデ ナデ	ココナデ ナデ	ココナデ ナデ	ココナデ ナデ	7.5YR7.6 黄褐色	5YR6.6 黄褐色	中・多	中・少	(124)	—	—	—	—	1/8		
359	SD27	J3区	下層	弥生土器	羹 ココナデ ナデ	ココナデ ナデ	ココナデ ナデ	ココナデ ナデ	10YR7/3に多い 黄褐色	10YR8.2灰白	中・多	中・少	—	—	—	—	—	8/8	外面底部と体取の 部分に法土層の 層の可能性がある。	
360	SD27	J2区	下層	弥生土器	羹 ココナデ ナデ	ココナデ ナデ	ココナデ ナデ	ココナデ ナデ	10YR3/1 黒褐色	7.5YR5.8明褐色	中・多	中・少	—	—	—	—	—	8/8	外面底部と体取の 部分に法土層の 層の可能性がある。	
361	SD27	J3区	下層	弥生土器	鉢 ココナデ 指オサ エ後ナデ	ココナデ 指オサ エ後ナデ	ココナデ 指オサ エ後ナデ	ココナデ 指オサ エ後ナデ	10YR6/4に多い 黄褐色	10YR3.2 黒褐色	粗・多	粗・多	(198)	—	—	—	—	1/8		
362	SD27	J3区	下層	弥生土器	鉢 ココナデ (マメツ) 指オサエ後ナデ	ココナデ (マメツ) 指オサエ後ナデ	ココナデ (マメツ) 指オサエ後ナデ	ココナデ (マメツ) 指オサエ後ナデ	10YR7.3に多い 黄褐色	2.5Y3.1 黒褐色	粗・多	粗・多	(141)	—	—	—	—	2/8		
363	SD27	J3区	下層	弥生土器	鉢 ココナデ (マメツ) 指オサエ後ナデ	ココナデ (マメツ) 指オサエ後ナデ	ココナデ (マメツ) 指オサエ後ナデ	ココナデ (マメツ) 指オサエ後ナデ	10YR6/4に多い 黄褐色	7.5YR5.4に多い 黄褐色	粗・多	粗・多	88	6.1	14	—	—	7/8		
364	SD27	J3区	下層	土師器	羹 ココナデ マメツ	ココナデ マメツ	ココナデ マメツ	ココナデ マメツ	10YR7/3に多い 黄褐色	2.5Y7.2 黄褐色	中・少	中・少	(397)	—	—	—	—	破片		
373	SD28	J2区	上層	土師器	小皿 ココナデ (マメツ) 指オサエ後ナデ	ココナデ (マメツ) 指オサエ後ナデ	ココナデ (マメツ) 指オサエ後ナデ	ココナデ (マメツ) 指オサエ後ナデ	2.5Y8.2 灰白	2.5Y8.2 灰白	粗・多	粗・多	(76)	1.4	(50)	—	—	1/8		
374	SD28	J2区	下層	土師器	小皿 ココナデ (マメツ) 指オサエ後ナデ	ココナデ (マメツ) 指オサエ後ナデ	ココナデ (マメツ) 指オサエ後ナデ	ココナデ (マメツ) 指オサエ後ナデ	10YR8.4 浅黄褐色	10YR8.4 浅黄褐色	粗・多	粗・多	(84)	1.4	(50)	—	—	2/8		
375	SD28	J2区	上層	土師器	鉢 ココナデ (マメツ) 指オサエ後ナデ	ココナデ (マメツ) 指オサエ後ナデ	ココナデ (マメツ) 指オサエ後ナデ	ココナデ (マメツ) 指オサエ後ナデ	5YR6.4 黄褐色	5YR6.4 黄褐色	中・多	中・多	—	—	—	—	—	4/8		
376	SD28	J2区	下層	土師器	足盤 ココナデ	ココナデ	ココナデ	ココナデ	10YR7/3に多い 黄褐色	10YR7.2に多い 黄褐色	中・多	中・多	長さ 15.0	—	—	—	—	—	長さ 4.0	



第3表 西木則遺跡V出土土器観察表(17)

第2分冊

調査番号	報告書番号	地区名	層位	種類	器種	外面	内面	底面	色澤	胎土	口縁	器高	口径	底径	底径(その軸心)	残存率
423	SD64	J4区		青磁	鉢	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	輪・10YR6/2オ 灰白・10YR8/1	内面 灰白・10YR8/1	口縁 (13.5)	器高 (52)	口径 (13.5)	底径 (52)	—	破片
424	SD66	J4区		土師器	小皿	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	7.5YR7/3に多い 黄褐色	同軸子 10YR8/3浅黄褐色	中・少	8.0	8.0	12	(52)	—
425	SD74	J4区		土師器	小皿	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	7.5YR7/4に多い 黄褐色	同軸子 7.5YR7/3に多い 黄褐色	中・少	8.3	8.3	13	6.2	—
426	SD74	J4区	下層	土師器	小皿	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	10YR8/2灰白	同軸子 10YR8/3浅黄褐色	中・少	8.3	8.3	19	6.0	—
427	SD74	J4区	下層	土師器	小皿	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	7.5YR8/4浅黄褐色	同軸子 10YR8/2灰白	中・少	8.2	8.2	13	6.0	—
428	SD74	J4区		土師器	小皿	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	10YR8/3浅黄褐色	同軸子 7.5YR7/6橙	中・少	8.1	8.1	12	6.8	—
429	SD74	J4区	下層	土師器	小皿	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	10YR8/3浅黄褐色	同軸子 7.5YR8/6浅黄褐色	中・並	8.3	8.3	17	6.6	—
430	SD74	J4区		土師器	小皿	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	7.5YR8/4浅黄褐色	同軸子 7.5YR8/6浅黄褐色	中・少	8.2	8.2	15	6.1	—
431	SD74	J4区		土師器	小皿	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	10YR8/2灰白	同軸子 10YR8/2灰白	中・並	8.0	8.0	16	6.3	—
432	SD74	J4区		土師器	小皿	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	10YR8/4浅黄褐色	同軸子 10YR8/4浅黄褐色	中・少	7.9	7.9	20	5.2	—
433	SD74	J4区	下層	土師器	小皿	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	5YR7/6橙	同軸子 10YR7/3に多い 黄褐色	中・少	(7.7)	11	5.8	—	7.8
434	SD74	J4区	上層	土師器	小皿	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	10YR8/4浅黄褐色	同軸子 10YR8/3浅黄褐色	中・少	8.3	8.3	15	5.2	—
435	SD74	J4区	下層	土師器	小皿	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	10YR8/4浅黄褐色	同軸子 10YR8/4浅黄褐色	中・少	7.5	7.5	9.9	5.6	—
436	SD74	J4区		土師器	小皿	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	10YR8/4浅黄褐色	同軸子 10YR8/4浅黄褐色	中・少	7.8	7.8	12	6.6	—
437	SD74	J4区	上層	土師器	小皿	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	7.5YR8/4浅黄褐色	同軸子 7.5YR8/4浅黄褐色	中・少	(7.5)	12	6.2	—	2.8
438	SD74	J4区		土師器	小皿	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	2.5YR8/2灰白	同軸子 7.5YR8/4浅黄褐色	中・少	(7.6)	15	6.2	—	3.8
439	SD74	J4区	下層	土師器	杯	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	7.5YR7/4に多い 黄褐色	同軸子 7.5YR6/1褐色	中・並	(14.9)	36	9.2	—	5.8
440	SD74	J4区		土師器	杯	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	10YR8/3浅黄褐色	同軸子 3YR7/6橙	中・並	(14.4)	42	9.0	—	2.8
441	SD74	J4区		土師器	杯	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	10YR7/2に多い 黄褐色	同軸子 7.5YR8/4浅黄褐色	中・少	(14.0)	—	8.4	—	2.8
442	SD74	J4区		土師器	杯	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	5YR8/4黄褐色	同軸子 10YR6/1褐色	中・少	13.5	3.0	9.1	—	5.8
443	SD74	J4区	下層	土師器	杯	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	10YR8/3浅黄褐色	同軸子 10YR8/2灰白	中・少	(13.7)	4.0	9.4	—	4.8
444	SD74	J4区	上層	土師器	杯	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	10YR8/3浅黄褐色	同軸子 10YR8/3浅黄褐色	中・並	(13.1)	3.2	7.8	—	2.8
445	SD74	J4区		土師器	碗	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	同軸子 フタ付後子	5YR8/4黄褐色	同軸子 10YR8/3浅黄褐色	中・並	—	—	6.0	—	3.8

胎土内外面に赤褐色の付着

第3表 西木別遺跡V出土土器観察表 (18)

第2分冊

原文番号	報告番号	地区名	層位	種類	器種	形状		土質		胎土		法量 (cm)			残存率	備考			
						内面	外面	内面	外面	石葉・赤色配 長石	物四石	雲母	砂粒	口径 (cm)			器高 (cm)	底径 (cm)	口径 (cm)
446	SD74	J4区 下層	土師器	罎	ヨコナデ 格子目 タテキレナデ	内面 ヨコナデ (ワメツ)	外面 ヨコナデ (ワメツ)	色澤 10YR7/3に赤い、 10YR5/2灰黄褐色	内部 10YR5/2灰黄褐色	胎土	石葉・赤色配 長石	物四石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm) <td>残存率</td> <td></td>	残存率	
447	SD74	J4区 下層	土師器	罎	ナデ タテキレナデ	内面 ナデ	外面 ナデ	色澤 2.5YR8/4 浅黄褐色	内部 10YR8/4 浅黄褐色	胎土					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm) <td>残存率</td> <td></td>	残存率	
448	SD74	J4区 上層	土師器	小皿	ヨコナデ ハテ 高子目タテキレナデ	内面 ヨコナデ ハテ	外面 ヨコナデ ハテ	色澤 10YR7/2に赤い	内部 10YR7/2に赤い	胎土					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm) <td>残存率</td> <td></td>	残存率	
449	SD74	J4区 上層	須恵器	小皿	同転ナデ 同転へ 少切り後ナデ	内面 同転ナデ	外面 同転ナデ	色澤 N6 灰	内部 N7 灰白	胎土					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm) <td>残存率</td> <td></td>	残存率	
450	SD74	J4区	須恵器	罎	ナデ (ワメツ) 同 転へラ削り (ワメツ) 高子目タテキレナデ	内面 ナデ (ワメツ) 同 転へラ削り (ワメツ) 高子目タテキレナデ	外面 ナデ (ワメツ) 同 転へラ削り (ワメツ) 高子目タテキレナデ	色澤 7.5YR/1 灰白	内部 2.5Y7/2 灰黄	胎土					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm) <td>残存率</td> <td>内面全縁と体取 上半部を共に 土質と見らるる 器と云ふ 器と云ふ</td>	残存率	内面全縁と体取 上半部を共に 土質と見らるる 器と云ふ 器と云ふ
451	SD74	J4区 下層	須恵器	罎	同転ナデ後へラミ ガキ 同転へラ切 り後高台筋付後周 転ナデ	内面 ナデ	外面 同転ナデ	色澤 5YR/1 灰白	内部 5YR/1 灰白	胎土					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm) <td>残存率</td> <td></td>	残存率	
452	SD74	J4区 下層	須恵器	罎	同転ナデ 同転へ 切り後高台筋付 後周転ナデ	内面 ナデ	外面 同転ナデ	色澤 N6 灰	内部 N6 灰	胎土					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm) <td>残存率</td> <td></td>	残存率	
453	SD74	J4区	須恵器	罎	同転ナデ後へラミ ガキ	内面 同転ナデ後へラミ ガキ	外面 同転ナデ後へラミ ガキ (ワメツ)	色澤 N5 灰	内部 N5 灰	胎土					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm) <td>残存率</td> <td></td>	残存率	
454	SD74	J4区 上層	須恵器	罎	同転ナデ後二段の へラ削り (ワメツ) 高子目タテキレ ナデ	内面 同転ナデ後二段の へラ削り (ワメツ) 高子目タテキレ ナデ	外面 同転ナデ後二段の へラ削り (ワメツ) 高子目タテキレ ナデ	色澤 5YR/1 灰白	内部 5YR/1 灰白	胎土					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm) <td>残存率</td> <td></td>	残存率	
455	SD74	J4区 下層	須恵器	罎	同転ナデ 同転へ 切り後高台筋付 後周転ナデ	内面 同転ナデ	外面 同転ナデ	色澤 N8 灰白	内部 N8 灰白	胎土					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm) <td>残存率</td> <td></td>	残存率	
456	SD74	J4区 下層	須恵器	罎	同転ナデ後へラミ ガキ 同転へラ切 り後高台筋付後周 転ナデ	内面 ナデ	外面 同転ナデ	色澤 5Y7/1 灰白	内部 5Y7/1 灰白	胎土					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm) <td>残存率</td> <td></td>	残存率	
457	SD74	J4区 下層	須恵器	罎	同転ナデ後へラミ ガキ 同転へラ切 り後高台筋付後周 転ナデ	内面 同転ナデ後へラミ ガキ	外面 同転ナデ後へラミ ガキ	色澤 5Y7/1 灰白	内部 5Y7/1 灰白	胎土					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm) <td>残存率</td> <td></td>	残存率	
458	SD74	J4区 下層	須恵器	罎	同転ナデ後へラミ ガキ 同転へラ切 り後高台筋付後周 転ナデ	内面 ナデ	外面 同転ナデ	色澤 N6 灰	内部 N6 灰	胎土					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm) <td>残存率</td> <td></td>	残存率	
459	SD74	J4区 下層	須恵器	罎	同転ナデ後へラミ ガキ 同転へラ切 り後高台筋付後周 転ナデ	内面 同転ナデ後へラミ ガキ	外面 同転ナデ後へラミ ガキ	色澤 N5 灰	内部 N5 灰	胎土					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm) <td>残存率</td> <td></td>	残存率	
460	SD74	J4区	須恵器	罎	同転ナデ後へラミ ガキ 同転へラ切 り後高台筋付後周 転ナデ	内面 ナデ	外面 同転ナデ	色澤 7.5Y7/1 灰白	内部 7.5Y7/1 灰白	胎土					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm) <td>残存率</td> <td></td>	残存率	
461	SD74	J4区	須恵器	罎	同転ナデ後へラミ ガキ 同転へラ切 り後高台筋付後周 転ナデ	内面 ナデ	外面 同転ナデ	色澤 5Y6/1 灰	内部 5Y7/1 灰白	胎土					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm) <td>残存率</td> <td></td>	残存率	
462	SD74	J4区 上層	須恵器	罎	同転ナデ後へラミ ガキ 同転へラ切 り後高台筋付後周 転ナデ	内面 同転ナデ後へラミ ガキ	外面 同転ナデ後へラミ ガキ	色澤 5Y7/1 灰白	内部 5Y7/1 灰白	胎土					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm) <td>残存率</td> <td></td>	残存率	

第3表 西木則遺跡V出土土器観察表 (19)

第2分冊

器名 番号	器名 番号	地区	部位	種類	器種	黒色		色澤		胎土		法量(cm)				残存 率	備考
						外面	内面	外面	内面	石葉・ 赤色泥 長石	物四 石	雲母	砂粒	口径 (c.m.)	器高 (c.m.)		
463	SD74	J4区	下層	須恵器	控鉢	同胎ナテ 同ナテ	不定形	N5/灰	5Y7/1灰白				7.1	(14.8)	—	2.8	
464	SD74	J4区	下層	須恵器	葉	胎ナテ後ナテ ナテ後ナテ	不定形	5Y7/1灰白	N7/灰白				—	—	—	—	破片
465	SD74	J4区	上層	瓦葺土器	筒	胎ナテ後ナテ ナテ後ナテ	筒	N5/灰	N5/灰				—	—	—	1.8	
466	SD74	J4区	上層	瓦葺土器	筒	胎ナテ後ナテ ナテ後ナテ	筒	5Y6/1灰	5Y6/1灰				—	—	—	4.8	
467	SD74	J4区		黒色土器	筒	同胎ナテ後ナテ ナテ	筒	N3/黒灰	2.5Y7.2灰				5.0	5.3	—	4.8	
468	SD74	J4区		黒色土器	筒	同胎ナテ後ナテ ナテ	筒	10YR8.3浅黄緑	5YR7.6黄				5.2	6.6	—	7.8	
469	SD74	J4区	下層	灰胎陶器	小杯	胎ナテ後ナテ ナテ	筒	胎ナテ後ナテ ナテ	胎ナテ後ナテ ナテ				2.0	2.4	—	5.8	
470	SD74	J4区	上層	青磁	筒	胎ナテ後ナテ ナテ	筒	胎ナテ後ナテ ナテ	胎ナテ後ナテ ナテ				—	—	—	—	破片
471	SD74	J4区	上層	白磁	皿	胎ナテ後ナテ ナテ	筒	胎ナテ後ナテ ナテ	胎ナテ後ナテ ナテ				—	—	—	3.8	
472	SD74	J4区		白磁	筒	胎ナテ後ナテ ナテ	筒	胎ナテ後ナテ ナテ	胎ナテ後ナテ ナテ				—	—	—	3.8	
477	SD75	J4区		白磁	筒	胎ナテ後ナテ ナテ	筒	胎ナテ後ナテ ナテ	胎ナテ後ナテ ナテ				—	—	—	5.8	
478	SD76	J4区	上層	土師器	小皿	胎ナテ後ナテ ナテ	筒	胎ナテ後ナテ ナテ	胎ナテ後ナテ ナテ				1.3	(6.5)	—	2.8	
479	SD76	J4区	上層	土師器	杯	胎ナテ後ナテ ナテ	筒	胎ナテ後ナテ ナテ	胎ナテ後ナテ ナテ				3.5	5.8	—	7.8	
480	SD76	J4区	上層	土師器	羽釜	胎ナテ後ナテ ナテ	筒	胎ナテ後ナテ ナテ	胎ナテ後ナテ ナテ				—	—	—	1.8	
481	SD76	J4区	上層	土師器	足釜	胎ナテ後ナテ ナテ	筒	胎ナテ後ナテ ナテ	胎ナテ後ナテ ナテ				—	—	—	—	外側から割るつ かみ、内側ごと で重い要素を 外側のみナテ 内側は飛行痕 (使用痕?)
482	SD76	J4区	上層	須恵器	鉢	胎ナテ後ナテ ナテ	筒	胎ナテ後ナテ ナテ	胎ナテ後ナテ ナテ				—	—	—	1.8	
483	SD76	J4区	上層	須恵器	葉	胎ナテ後ナテ ナテ	筒	胎ナテ後ナテ ナテ	胎ナテ後ナテ ナテ				—	—	—	—	破片
484	SD76	J4区	上層	須恵器	葉	胎ナテ後ナテ ナテ	筒	胎ナテ後ナテ ナテ	胎ナテ後ナテ ナテ				—	—	—	—	破片

第3表 西木則遺跡V出土土器観察表(20)

第2分冊

器名 番号	器名 番号	地区	層位	種類	器種	外周	内面	裏面	色澤	胎土	口縁 (c.m.)	器高 (c.m.)	口径 (c.m.)	底径 (c.m.)	残存 率
485	SD76	J4区	上層	須恵器	器種 コノナデ	コノナデ	コノナデ	コノナデ	N5. 灰	中・少	—	—	—	—	1/8
486	SD76	J4区	上層	須恵器	須恵器	指オサエ後高台胎 付灰土器	指オサエ後高台胎 付灰土器	指オサエ後高台胎 付灰土器	10YR7/2に多い 黄緑	中・少	—	—	5.3	—	8/8
487	SD76	J4区	上層	青磁	須恵器	須恵器	須恵器	須恵器	胎土:5Y5.3灰土 白	中・少 (15.8)	—	—	—	—	1/8
488	SD76	J4区	上層	青磁	須恵器	須恵器	須恵器	須恵器	胎土:5Y6.2灰土 白	無 (14.8)	—	—	—	—	2/8
489	SD76	J4区	上層	青磁	須恵器	須恵器	須恵器	須恵器	胎土:5Y6.2灰土 白	中・少	—	—	(6.4)	—	3/8
490	SD76	J4区	上層	青白磁	合子	合子	合子	合子	胎土:7.5GY7/1明 緑灰	中・少 (5.0)	—	—	—	—	1/8
491	SD76	J4区	上層	白磁	須恵器	須恵器	須恵器	須恵器	胎土:5Y7.2灰白 白	無 (17.3)	—	—	—	—	1/8
492	SD76	J4区	上層	白磁	須恵器	須恵器	須恵器	須恵器	胎土:2.5GY8/1灰 白	中・少 (16.3)	—	—	—	—	1/8
493	SD76	J4区	上層	白磁	須恵器	須恵器	須恵器	須恵器	胎土:2.5Y7/3浅 灰白	中・少	—	—	5.2	—	6/8
494	SD76	J4区	下層 層位 不明	白磁	須恵器	須恵器	須恵器	須恵器	胎土:5Y7/4灰白 白	中・少	—	—	6.1	—	5/8
498	SD77	J4区	上層	土師器	小皿	同転ナデ 少取り後ナデ	同転ナデ	同転ナデ	7.5YR6.6 黄	中・少 (8.0)	1.3	4.9	—	—	6/8
499	SD77	J4区	下層	土師器	杯	同転ナデ 少取り後ナデ	同転ナデ	同転ナデ	10YR8/4 黄	中・少	14.8	4.0	4.9	—	7/8
500	SD77	J4区	下層	土師器	須恵器	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	10YR8.2 灰白	中・少	—	—	6.2	—	8/8
501	SD77	J4区	下層	土師器	須恵器	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	7.5YR6.2 灰黄	中・少 (35.4)	—	—	—	—	1/8
502	SD77	J4区	下層	須恵器	要	平打タタキ	平打タタキ	平打タタキ	2.5Y6.2 灰黄	中・少	—	—	—	—	破片
503	SD77	J4区	下層	瓦器	瓦器	ナデ	ナデ	ナデ	N4. 灰	中・少 (14.8)	3.9	(5.0)	—	—	5/8
504	SD77	J4区	下層	瓦器	瓦器	ナデ	ナデ	ナデ	2.5Y6.2 灰黄	中・少 (14.4)	—	—	—	—	1/8
505	SD77	J4区	下層	瓦器	瓦器	ナデ	ナデ	ナデ	10YR7/2に多い 黄	中・少 (14.5)	—	—	—	—	2/8
506	SD77	J4区	下層	青磁	須恵器	須恵器	須恵器	須恵器	胎土:5Y6.3オリー ブ黄	無 (16.4)	—	—	—	—	2/8
507	SD77	J4区	下層	白磁	須恵器	須恵器	須恵器	須恵器	胎土:5Y7.2灰白 白	無 (15.8)	—	—	—	—	1/8
508	SD81	J4区	上層	土師器	小皿	同転ナデ 少取り後ナデ	同転ナデ	同転ナデ	2.5Y7/3 黄	中・少	8.4	1.2	6.1	—	5/8

第3表 西木則遺跡V出土土器観察表(21)

第2分冊

番号 器名	所在地	高さ	器位	種類	器種	外周	内面	色澤	石葉・ 赤色泥 灰石	胎土	口縁 (c.m.)	器高 (c.m.)	口径 (c.m.)	底径 (c.m.)	底厚 (c.m.)	備考
509	SD81	J4区	上層	土師器	小皿	同輪ナデ 同輪へ つ切り後ナデ	同輪ナデ	外周 2.5YR7/6 黄 内面 2.5YR7/6 黄		胎土 砂粒 中・少	7.9	1.1	6.3	—	5.8	
510	SD81	J4区	上層	土師器	小皿	同輪ナデ 同輪へ つ切り後ナデ	同輪ナデ	外周 10YR8/2 灰白 内面 10YR8/2 灰白		胎土 細・少	8.0	1.3	5.1	—	6.8	
511	SD81	J4区	上層	土師器	小皿	同輪ナデ 同輪へ つ切り後ナデ	同輪ナデ	外周 10YR5/3 に近い 内面 10YR5/2 灰黄		胎土 中・多	37.1	—	—	—	破片	
512	SD81	J4区	上層	瓦器	瓦器	同輪ナデ ナデ	同輪ナデ	外周 N3 黄灰 内面 N3 黄灰		胎土 細・少	9.0	1.7	4.2	—	3.8	
513	SD81	J4区	上層	瓦器	瓦器	同輪ナデ ナデ	同輪ナデ	外周 2.5Y8/3 黄灰 内面 2.5Y8/3 黄灰		胎土 細・少	—	—	(5.8)	—	3.8	
514	SD81	J4区	上層	黒色土器	小皿	同輪ナデ 同輪へ つ切り後ナデ	同輪ナデ	外周 10YR8/2 灰白 内面 5Y2/1 黒		胎土 細・少	14.6	5.0	(6.0)	—	4.8	
515	SD81	J4区	上層	黒色土器	小皿	同輪ナデ 同輪へ つ切り後ナデ	同輪ナデ	外周 2.5Y6/3 に 近い黄 内面 N2/黒		胎土 中・多	15.5	5.0	(6.6)	—	4.8	
516	SD81	J4区	上層	灰輪陶器	皿	同輪ナデ 同輪へ つ切り後ナデ	同輪ナデ	外周 輪・2.5Y6/3 に 近い黄 内面 胎土・5Y7/1 灰 白		胎土 細・少	—	—	(4.0)	—	2.8	白磁か青磁の受 焼したもので 胎土が厚く もろく 性もある
517	SD81	J4区	上層	白磁	碗	同輪ナデ	同輪ナデ	外周 輪・5Y7/2 灰白 内面 輪・5Y8/2 灰 白		胎土 細・少	—	—	—	—	破片	
518	SD81	J4区	上層	白磁	碗	同輪ナデ	同輪ナデ	外周 輪・2.5Y7/2 灰 白 内面 胎土・2.5Y8/1 灰白		胎土 黒	—	—	(4.7)	—	2.8	
519	SD81	J4区	上層	白磁	碗	同輪ナデ	同輪ナデ	外周 輪・2.5Y7/2 灰 白 内面 胎土・2.5Y8/2 黄		胎土 細・少	—	—	5.7	—	4.8	
521	SD81	J4区	下層	土師器	小皿	同輪ナデ 同輪へ つ切り後ナデ	同輪ナデ	外周 10YR7/4 に近い 黄 内面 10YR8/3 或黄 灰		胎土 中・多	8.2	1.9	(3.5)	—	2.8	
522	SD81	J4区	下層	土師器	小皿	同輪ナデ 同輪へ つ切り後不定方向 ナデ	同輪ナデ	外周 10YR8/3 或黄 灰 内面 10YR8/3 或黄 灰		胎土 中・少	8.3	1.5	(6.4)	—	3.8	
523	SD81	J4区	下層	土師器	小皿	同輪ナデ 同輪へ つ切り後不定方向 ナデ	同輪ナデ	外周 10YR8/1 灰白 内面 10YR8/1 灰白		胎土 細・少	4.2	1.4	6.7	—	6.8	
524	SD81	J4区	下層	土師器	小皿	同輪ナデ 同輪へ つ切り後ナデ	同輪ナデ	外周 5YR7/4 に近い 黄 内面 10YR7/4 に近い 黄		胎土 細・多	(7.8)	1.4	(5.7)	—	3.8	
525	SD81	J4区	下層	土師器	小皿	同輪ナデ 同輪へ つ切り後ナデ	同輪ナデ	外周 2.5Y7/2 黄 内面 10YR8/2 灰黄		胎土 中・少	7.6	1.5	6.3	—	7.8	
526	SD81	J4区	下層	土師器	高台 付皿	同輪ナデ 同輪へ つ切り後不定方向 ナデ	同輪ナデ	外周 10YR8/2 灰白 内面 10YR8/2 灰白		胎土 細・少	—	—	(10.0)	—	3.8	破片か
527	SD81	J4区	下層	土師器	杯	同輪ナデ 同輪へ つ切り後ナデ	同輪ナデ	外周 2.5Y8/2 灰白 内面 2.5Y8/2 灰白		胎土 中・並	(15.8)	—	(9.9)	—	2.8	
528	SD81	J4区	下層	土師器	杯	同輪ナデ 同輪へ つ切り後ナデ	同輪ナデ	外周 10YR7/3 に近い 黄 内面 10YR7/3 に近い 黄		胎土 中・少	(15.1)	3.0	(7.2)	—	2.8	
529	SD81	J4区	下層	土師器	罎	同輪ナデ 同輪へ つ切り後ナデ	同輪ナデ	外周 10YR6/4 に近い 黄 内面 10YR6/4 に近い 黄		胎土 中・多	(34.8)	—	—	—	破片	
530	SD81	J4区	下層	黒色土器	罎	同輪ナデ 同輪へ つ切り後ナデ	同輪ナデ	外周 10YR8/2 灰白 内面 N2/黒		胎土 中・少	(16.0)	5.7	(6.6)	—	2.8	

第3表 西木則遺跡V出土土器観察表(22)

第2分冊

標本番号	標名	地区	層位	種類	器種	蓋	内面	外面	底	色澤	胎土	口縁	器高	口径	底径	底面形状	備考
531	SD81	J4区	下層	黒色土器	柄	ナデ後へウミガキ ナデ後へウミガキ ナデ後へウミガキ 高台粘付後同 粘ナデ	ナデ後へウミガキ 25Y8/2 灰白	N2/黒	内面		石葉・赤色泥 灰石	砂粒	中・少 (15.7)	—	—	—	1/8
532	SD81	J4区	下層	黒色土器	柄	ナデ後へウミガキ ナデ後へウミガキ 高台粘付後同 粘ナデ	ナデ後へウミガキ 10YR8/2 灰白	25Y3/1 黒褐				中・少 (15.8)	5.3	5.7	—	—	3/8
533	SD81	J4区	下層	黒色土器	柄	ナデ後へウミガキ ナデ後へウミガキ 高台粘付後同 粘ナデ	ナデ後へウミガキ 25Y8/1 灰白	N3/黒灰				細・少 (14.6)	—	—	—	—	2/8
534	SD81	J4区	下層	黒色土器	柄	ナデ後へウミガキ ナデ後へウミガキ 高台粘付後同 粘ナデ	ナデ後へウミガキ 25Y8/2 灰白	N2/黒				細・少	—	—	3.1	—	6/8
536	SD81	J4区	下層	土器	付付	同粘ナデ後不 定方	10YR7/3 に灰 黄緑	10YR7/3 に灰 黄緑				中・少	—	(7.6)	—	—	1/8
537	SD82	J4区	土器	小皿	付付	同粘ナデ後不 定方	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白				中・少	8.0	—	—	—	5/8
538	SD82	J4区	瓦質土器	鉢	同粘ナデ	同粘ナデ	N4/灰	N4/灰				細・少	—	(15.4)	—	—	2/8
539	SD84	J4区	土器	小皿	同粘ナデ	同粘ナデ	10YR7/4 に灰 黄緑	10YR8/6 或黄 緑				細・少 (7.9)	1.4	(8.6)	—	—	4/8
540	SD84	J4区	土器	小皿	同粘ナデ	同粘ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白				中・少 (8.0)	1.0	(6.3)	—	—	1/8
541	SD84上 (面1)	J4区	須恵器	柄	同粘ナデ	同粘ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白				中・少	—	—	5.2	—	8/8
542	SD84	J4区	須恵器	帯	同粘ナデ	同粘ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白				細・多	—	—	4.1	—	7/8
543	SD84	J4区	黒色土器	柄	ナデ後へウミガキ 高台粘付後同 粘ナデ	ナデ後へウミガキ 高台粘付後同 粘ナデ	10YR8/2 灰白	N2/黒				中・少 (14.2)	5.2	(6.1)	—	—	4/8
544	SD84上 (面1)	J4区	白磁	柄	同粘ナデ	同粘ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白				細・少 (16.0)	—	—	—	—	1/8
545	SD87	J4区	土器	皿	同粘ナデ	同粘ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白				細・少 (15.8)	—	—	—	—	1/8
546	SD87	J4区	土器	杯	同粘ナデ	同粘ナデ	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白				細・少 (14.8)	3.9	(7.8)	—	—	3/8
547	SD87	J4区	黒色土器	小皿	同粘ナデ	同粘ナデ	5Y4/1 灰	5Y4/1 灰				細・少 (7.7)	1.4	(5.6)	—	—	1/8
548	SD87	J4区	白磁	柄	同粘ナデ	同粘ナデ	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰				細・少	—	—	(5.6)	—	1/8
549	SD87	J4区	須恵器	葉	同粘ナデ	同粘ナデ	10YR7/2 に灰 黄緑	10YR7/2 に灰 黄緑				中・少	—	—	—	—	破片
551	SD88	J4区	土器	小皿	同粘ナデ	同粘ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白				中・少 (8.3)	1.6	6.5	—	—	6/8
552	SD88	J4区	土器	小皿	同粘ナデ	同粘ナデ	5YR7/6 黄	5YR7/6 黄				中・少	7.5	1.1	4.7	—	5/8
553	SD88	J4区	土器	小皿	同粘ナデ	同粘ナデ	7.5YR7/4 に灰 黄緑	7.5YR7/4 に灰 黄緑				細・少	7.6	1.5	5.6	—	7/8



第3表 西木則遺跡V出土器観察表 (23)

第2分冊

器名番号	報告遺構名	地区	層位	種類	器種	形状	内面	外面	裏面	色澤	石莖・赤色配	胎土	口縁	器高	口径	法量(cm)	底径・その他	底径	備考		
																	(cm)	(cm)			
554	SD888	J4区	土師器	小皿	同輪ナテ つ切り後ナテ	同輪ナテ つ切り後ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ 後不定形 同ナテ	5YR6/6 黄 10YR8/2 灰白	5YR7/8 黄	10YR8/2 灰白	中・少 (78)	14	(55)	—	—	—	—	—	
555	SD888	J4区	土師器	小皿	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ つ切り後ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ 後不定形 同ナテ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	中・少 (78)	—	—	—	—	—	—	—	
556	SD888	J4区	土師器	小皿	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ つ切り後ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ 後不定形 同ナテ	10YR7/2 に近い 黄緑	10YR7/2 に近い 黄緑	25Y8/1 黄灰	中・少	—	—	—	—	—	—	—	
557	SD888	J4区	土師器	小皿	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ つ切り後ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ 後不定形 同ナテ	7.5YR8/2 灰白	7.5YR8/2 灰白	7.5YR8/2 灰白	中・少	8.8	17	60	—	—	—	—	
560	SD889	J4区	土師器	小皿	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ つ切り後ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ 後不定形 同ナテ	10YR7/2 に近い 黄緑	10YR7/2 に近い 黄緑	10YR7/1 黄緑	中・少	(88)	12	(74)	—	—	—	—	
561	SD889	J4区	土師器	小皿	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ つ切り後ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ 後不定形 同ナテ	7.5YR6/6 黄	7.5YR6/6 黄	7.5YR6/6 黄	中・少	7.9	10	56	—	—	—	—	
562	SD889A	J4区	土師器	小皿	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ つ切り後ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ 後不定形 同ナテ	7.5YR7/4 に近い 黄	7.5YR7/4 に近い 黄	7.5YR7/3 に近い 黄	中・少	7.8	13	62	—	—	—	—	
563	SD889C	J4区	土師器	小皿	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ つ切り後ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ 後不定形 同ナテ	10YR8/3 黄緑	10YR8/3 黄緑	10YR8/2 灰白	中・少	(78)	15	(69)	—	—	—	—	
564	SD889C	J4区	土師器	小皿	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ つ切り後ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ 後不定形 同ナテ	7.5YR7/4 に近い 黄	7.5YR7/4 に近い 黄	7.5YR8/4 黄	中・少	7.4	13	56	—	—	—	—	
565	SD889C	J4区	土師器	杯	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ つ切り後ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ 後不定形 同ナテ	2.5YR8/1 灰白	2.5YR8/1 灰白	2.5YR8/1 灰白	中・少	(12.9)	32	(59)	—	—	—	—	
566	SD889C	J4区	土師器	杯	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ つ切り後ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ 後不定形 同ナテ	10YR4/1 黄灰	10YR4/1 黄灰	10YR4/1 黄灰	中・少	(5.8)	4.5	(59)	—	—	—	—	
567	SD890C	J4区	土師器	杯	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ つ切り後ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ 後不定形 同ナテ	10YR7/4 に近い 黄	10YR7/4 に近い 黄	10YR8/3 黄緑	中・少	(12.1)	32	(76)	—	—	—	—	
568	SD890C	J4区	土師器	足車	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ つ切り後ナテ	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ 後不定形 同ナテ	10YR7/2 黄黄緑	—	—	中・少	長さ 30.2	—	—	—	—	—	—	
569	SD890A	J4区	陶器	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ 後不定形 同ナテ	2.5YR8/1 灰白	2.5YR8/1 灰白	2.5YR8/1 灰白	中・少	(14.4)	—	—	—	—	—	—	
570	SD889	J4区	須恵器	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ 後不定形 同ナテ	10YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白	中・少	—	(4.1)	—	—	—	—	—	
571	SD889	J4区	須恵器	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ 後不定形 同ナテ	N7/灰白	N6/灰白	N6/灰白	中・少	—	—	—	—	—	—	—	
572	SD889	J4区	須恵器	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ 後不定形 同ナテ	N7/灰白	N7/灰白	N7/灰白	中・少	(29.8)	—	—	—	—	—	—	—
573	SD889	J4区	瓦質土器	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ 後不定形 同ナテ	N4/灰	N4/灰	N4/灰	中・少	—	(10.4)	—	—	—	—	—	
574	SD889	J4区	瓦質土器	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ 後不定形 同ナテ	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	中・少	—	(8.7)	—	—	—	—	—	
575	SD889	J4区	青磁	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ 後不定形 同ナテ	釉	釉	釉	無	(18.0)	—	—	—	—	—	—	—
576	SD889	J4区	青磁	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ 後不定形 同ナテ	釉	釉	釉	無	(16.8)	—	—	—	—	—	—	—
577	SD889	J4区	白磁	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ へろ附 小皿 彩色絵具込 み中央部に穿孔	同輪ナテ 後不定形 同ナテ	釉	釉	釉	無	(18.0)	—	—	—	—	—	—	—

第3表 西木則遺跡V出土器観表(24)

第2分冊

器名 番号	報告書 番号	地区	層位	種類	器種	外周	内面	裏面	色澤	内部	石莖・ 長石	胎土	胎料	口径 (c.m.)	器高 (c.m.)	底径 (c.m.)	法長(c.m.)	残存 率	備考
580	SD91	J4区	土師器	小皿	同転ナ字 ラ切り後ナ字	同転ナ字 ラ切り後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	75YR6/4 浅黄褐色	10YR8/2 灰白			細・少	(88)	15	(66)	—	2.8	
581	SD91	J4区	土師器	小皿	同転ナ字 ラ切り後ナ字	同転ナ字 ラ切り後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	75YR7/4 に近い い。橙	25YR7/4 に近い い。橙			細・少	(82)	—	(66)	—	2.8	
582	SD91	J4区	土師器	小皿	同転ナ字 ラ切り後ナ字	同転ナ字 ラ切り後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	25Y6/1 黄灰	25Y5/1 黄灰			中・少	(82)	—	(53)	—	2.8	
583	SD91	J4区	土師器	杯	同転ナ字 ラ切り後ナ字	同転ナ字 ラ切り後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/2 灰白			中・少	(138)	3.5	(61)	—	2.8	
584	SD91	J4区	須恵器	杯	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰白			細・多	(154)	—	—	—	1.8	
585	SD91	J4区	須恵器	甕	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	N6/灰	N6/灰			細・多	(154)	—	(55)	—	4.8	
586	SD91	J4区	須恵器	甕	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	25Y6/2 灰黄褐色	25Y7/3 浅黄褐色			中・少	—	—	—	—	—	—
587	SD91	J4区	瓦器	瓦	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	N4/灰	N4/灰			細・少	(154)	—	—	—	1.8	
588	SD91	J4区	黑色土師器	小皿	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	N2/黒	N2/黒			中・少	—	—	46	—	8.8	
589	SD92	J4区	土師器	小皿	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	75YR7/6 橙	75YR7/6 橙			細・少	(72)	2.7	(46)	—	2.8	
590	SD92	J4区	土師器	小皿	同転ナ字 ラ切り後ナ字	同転ナ字 ラ切り後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白			細・少	(84)	—	(62)	—	1.8	
591	SD92	J4区	土師器	小皿	同転ナ字 ラ切り後ナ字	同転ナ字 ラ切り後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	25Y8/1 灰白	25Y8/1 灰白			細・少	(158)	—	—	—	1.8	
592	SD92	J4区	須恵器	杯	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	N4/灰	25Y8/1 灰白			細・少	(156)	—	—	—	1.8	
593	SD92	J4区	須恵器	杯	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	N7/灰白	25Y8/1 灰白			細・少	—	—	—	—	5.8	
594	SD92	J4区	須恵器	杯	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白			細・少	—	—	(46)	—	4.8	
595	SD92	J4区	土師器	小皿	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	25Y8/1 灰白	25Y8/1 灰白			細・少	—	—	5.2	—	8.8	
596	SD92	J4区	土師器	小皿	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	N5/灰	5Y6/1 灰			細・少	—	—	—	—	—	—
597	SD92	J4区	土師器	小皿	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	N5/灰	5Y7/1 灰白			細・少	—	—	(60)	—	1.8	
598	SD96	J4区	土師器	杯	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	75YR8/3 浅黄褐色	10YR7/4 に近い い。橙			中・少	(140)	4.5	(78)	—	—	—
599	SD96	J4区	土師器	杯	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	10YR8/2 灰白	10YR7/4 に近い い。橙			細・少	—	—	85	—	8.8	
600	SD100	J4区	土師器	小皿	同転ナ字 ラ切り後ナ字	同転ナ字 ラ切り後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白			中・並	86	13	69	—	5.8	
601	SD100	J4区	土師器	小皿	同転ナ字 ラ切り後ナ字	同転ナ字 ラ切り後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	10YR8/3 浅黄褐色	10YR7/4 に近い い。橙			細・少	(82)	1.6	(70)	—	3.8	
602	SD100	J4区	土師器	小皿	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	10YR6/6 明黄褐色	10YR7/3 に近い い。橙			細・多	(80)	1.3	(59)	—	3.8	
603	SD100	J4区	土師器	小皿	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字 ラ切り後高台付後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	75YR7/4 に近い い。橙	75YR7/4 に近い い。橙			細・少	79	1.2	66	—	4.8	
604	SD100	J4区	土師器	小皿	同転ナ字 ラ切り後ナ字	同転ナ字 ラ切り後ナ字	同転ナ字	同転ナ字	10YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄褐色			細・少	(38)	1.0	(70)	—	2.8	

底台はやや彫削  
化し全周しない

第3表 西木則遺跡V出土土器観察表(25)

第2分冊

器名・番号	器文番号	形状・通体	部位	種類	器種	黒炭		色澤		胎土		法量(cm)			残存 率		
						外面	内面	外面	内面	石莖・ 赤色配 長石	物四 石	雲母	粒砂	口径 (cm)		器高 (cm)	底径 (cm)
605	SD100	J4区	土師器	小皿	同軸ナブ ツクリ後ナブ 後同軸ナブ 板状圧痕	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	10YR8.4/4黄褐色	10YR8.4/4黄褐色	細・少	7.6	1.4	5.4	—	7.8	
606	SD100	J4区	土師器	小皿	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	7.5YR8.4/4黄褐色	7.5YR8.4/4黄褐色	中・少	(7.3)	1.3	(5.2)	—	4.8	
607	SD100	J4区	土師器	小皿	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	2.5Y7.1/黄	2.5Y7.2/黄	細・多	(7.2)	1.4	(4.1)	—	5.8	
608	SD100	J4区	土師器	小皿	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	10YR7.4に多い 黄褐色	10YR8.4に多い 黄褐色	細・少	—	—	—	—	8.8	
609	SD100	J4区	土師器	杯	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	10YR8.4に多い 黄褐色	10YR7.4に多い 黄褐色	中・少	13.4	3.6	7.7	—	7.8	
610	SD100	J4区	土師器	杯	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	7.5YR7.4に多い 黄褐色	7.5YR7.4に多い 黄褐色	中・少	(14.2)	3.3	(8.0)	—	2.8	
611	SD100	J4区	土師器	杯	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	8N・灰白	7.5R8.1/灰白	細・少	(14.6)	—	—	—	2.8	
612	SD100	J4区	須恵器	椀	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	2.5Y8.1/灰白	2.5Y8.1/灰白	細・少	(14.2)	4.8	(5.4)	—	3.8	
613	SD100	J4区	須恵器	椀	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	N5・灰	N5・灰	中・少	(14.8)	—	—	—	1.8	
614	SD100	J4区	須恵器	腰	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	5Y6.1/灰	5Y7.1/灰白	細・少	—	—	—	—	破片	
616	SD1812	J8区	土師器	小皿	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	2.5Y8.2/灰	2.5Y7.2/灰	細・少	(8.2)	1.5	6.1	—	5.8	
617	SD1812	J8区	土師器	小皿	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	7.5YR7.4に多い 黄褐色	2.5Y7.2/灰	細・少	(7.9)	1.8	(5.4)	—	3.8	
618	SD1812	J8区	土師器	杯	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	5 Y 7/6 黄	5 Y 7/6 黄	中・少	(1.38)	4.6	(4.6)	—	3.8	
619	SD1812	J8区	土師器	杯	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	10YR8.3/黄褐色	10YR8.3/黄褐色	細・少	—	—	(5.4)	—	2.8	
620	SD1812	J8区	瓦器	椀	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	N3/暗灰	N3/暗灰	細・少	(14.6)	—	—	—	2.8	
621	SD1884	J8区	土師器	小皿	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	10YR8.2/灰白	10YR8.2/灰白	中・多	8.8	1.9	6.5	—	7.8	
622	SR91	J8区	縄文土器	漆鉢	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	7.5Y2.1/黒	7.5Y3.1/黄- 灰	粗・多	—	—	—	—	破片	
629	SX06	J3区	土師器	小皿	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	10YR8.3/黄褐色	10YR8.3/黄褐色	細・少	7.3	1.3	5.1	—	6.8	
630	SX06	J3区	須恵器	鉢	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	2.5Y8.2/灰白	2.5Y8.2/灰白	中・多	(2.96)	—	—	—	破片	
631	SX06	J3区	須恵器	鉢	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	5Y8.1/灰白	5Y8.1/灰白	中・多	(3.31)	—	—	—	破片	
632	SX07	J3区	土師器	足菜	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	10YR4.1/黄	10YR5.2/黄褐色	中・多	(21.7)	—	—	—	2.8	
633	SX07	J3区	土師器	足菜	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	10YR4.2/黄褐色	10YR7.2に多い 黄褐色	細・多	長.3 短.5 2.9	—	—	—	—	丸.3.1
634	SX08	J3区	土師器	鉢	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	2.5Y8.1/灰白	10YR7.2に多い 黄褐色	中・少	(3.22)	—	—	—	1.8	
635	SX15	J4区	下層 土師器	小皿	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	2.5Y8.2/灰白	10YR8.3/黄褐色	細・少	8.8	1.4	6.9	—	7.8	
636	SX15	J4区	上層 土師器	鍋	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	同軸ナブ ツクリ後同軸ナブ 後同軸ナブ	10YR5.2/黄褐色	10YR5.2/黄褐色	中・多	—	—	—	—	破片	

第3表 西末別遺跡V出土土器観察表(26)

第2分冊

標本番号	標名	地区	層位	種類	器種	窯変		色澤		胎土		法量(cm)			残存率	備考	
						外面	内面	外部	内部	石葉・長石	物四石	雲母	砂粒	口径			器高
637	SX23	J3区	0	土師器	同転ナテ ツクリ	同転ナテ	同転ナテ	75YR6/2灰白	75YR6/4浅黄	細・少	68	11	56	—	7.8		
638	SX24	J3区	上層	土師器	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	75YR7/6橙	10YR8/2灰白	細・少	(93)	19	(49)	—	3.8		
639	SX24	J3区	上層	土師器	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	75YR7/4に多い 灰白	10YR7/3に多い 灰白	細・少	(58)	24	(66)	—	1.8		
640	SX24	J3区	上層	青磁	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	75YR7/3に多い 灰白	10YR7/3に多い 灰白	細・少	(116)	—	—	—	1.8		
642	SX30	J4区	土師器	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	75YR6/3浅黄橙	10YR6/2灰黄橙	中・多	(32.0)	—	—	—	—	破片		
643	SX36	J4区	土師器	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	75YR6/3浅黄橙	10YR6/2灰黄橙	中・少	15.3	5.2	6.1	—	5.8			
644	包含層	J4区	上層	土師器	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	中・少	8.1	1.6	4.7	—	7.8		
645	包含層	J4区	上層	土師器	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	75YR6/3浅黄橙	75YR6/3浅黄橙	中・並	(14.5)	4.0	(8.2)	—	2.8		
646	包含層	J4区	上層	土師器	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	10YR4/2灰黄橙	10YR7/2に多い 黄橙	細・少	(37.5)	—	—	—	破片		
647	包含層	J4区	上層	須恵器	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	N6.灰	N6.灰	細・少	(33.4)	—	—	—	1.8		
648	包含層	J4区	上層	瓦器	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	N4.灰	N4.灰	細・少	—	—	(5.0)	—	2.8		
649	包含層	J4区	上層	瓦器	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	N3.灰	N3.灰	細・少	—	—	(4.4)	—	3.8		
650	包含層	J4区	上層	青磁	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	75YR6/2灰白	75YR6/2灰白	中・少	—	—	(5.6)	—	4.8		
651	包含層	J4区	上層	白磁	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	75Y7/1灰白	75Y7/1灰白	無	(18.0)	—	—	—	破片		
652	包含層	J4区	上層	白磁	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	75Y8/1灰白	75Y8/1灰	細・少	—	—	—	—	破片		
654	SX180	J4区	土師器	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	75YR7/4に多い 黄橙	10YR7/2に多い 黄橙	75YR7/4(7.8)	細・少	(7.8)	1.4	(6.2)	—	3.8		
655	SX41	J4区	土師器	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	75YR7/4に多い 黄橙	75YR7/6橙	75YR7/4(8.1)	細・少	(8.1)	1.2	(3.2)	—	3.8		
656	包含層	J4区	土師器	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	75YR7/4に多い 黄橙	75YR7/6橙	75YR7/6(8.3)	細・少	8.3	1.2	6.4	—	7.8		
657	包含層	J4区	土師器	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	75YR7/4に多い 黄橙	10YR7/4に多い 黄橙	10YR7/4(8.1)	細・少	8.1	1.3	6.1	—	7.8		
658	包含層	J4区	土師器	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	中・並	(8.0)	1.2	(5.5)	—	3.8			
659	包含層	J4区	土師器	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	5YR6.6橙	5YR6.6橙	細・少	(7.9)	1.1	(6.6)	—	3.8			
660	包含層	J4区	土師器	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	75YR7/6橙	75YR7/6橙	中・少	(8.2)	1.6	(6.2)	—	3.8			
661	包含層	J5区	須恵器	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	N6.灰	N6.灰	細・少	—	—	—	—	—	破片		

遺構位置不明

見込みに期待

第3表 西木則達遺V出土器観察表(27)

第2分冊

器名・番号	形状・通称	地区	層位	種類	器種	内面	外面	色澤	胎土	口縁	器高	口径	底径	底径(その他)	底径(その他)	備考
											(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	
662	包含層	J8区		須臾器	陶	同軸ナデ 同軸へうろ切り後高台付 体同軸ナデ	同軸ナデ 同軸へうろ切り後高台付 体同軸ナデ	10 Y R 7.2 に よる黄褐色	10 Y R 7.2 に よる黄褐色	口縁 (14.9)	—	—	—	—	—	2.8
663	包含層	J1区		須臾器	陶	同軸ナデ 同軸へうろ切り後高台付 体同軸ナデ	同軸ナデ 同軸へうろ切り後高台付 体同軸ナデ	5 Y 7.1 灰白	5 Y 7.1 灰白	—	—	—	4.8	—	—	8.8
664	包含層	J8区		須臾器	陶	同軸ナデ 同軸へうろ切り後高台付 体同軸ナデ	同軸ナデ 同軸へうろ切り後高台付 体同軸ナデ	2.5 Y 7.2 灰黄	2.5 Y 7.2 灰黄	—	—	—	(7.0)	—	—	5.8
665	包含層	J4区		瓦器	小皿	同軸ナデ	同軸ナデ	N4 灰	N4 灰	口縁 (9.3)	—	—	—	—	—	2.8
666	包含層	J8区		瓦質土器	外ナデ	同軸ナデ	同軸ナデ	N2 黒	N2 黒	—	—	—	—	—	—	1.8
667	包含層	J4区		黒色土器	陶	同軸へうろ切り後高台付 体同軸ナデ	同軸へうろ切り後高台付 体同軸ナデ	10 Y R 7.3 に よる黄褐色	10 Y R 7.3 に よる黄褐色	—	—	—	—	—	—	8.8
668	包含層	J2区		白磁	皿	同軸	同軸	胎土: 7.5 Y 7.2 灰白	胎土: 7.5 Y 7.2 灰白	—	—	—	—	—	—	1.8
669	包含層	J4区		白磁	陶	同軸	同軸	胎土: 5 Y 7.2 灰白	胎土: 5 Y 7.2 灰白	—	—	—	—	—	—	破片
670	包含層	J4区		白磁	陶	同軸 高台付 体同軸ナデ	同軸 高台付 体同軸ナデ	胎土: 5 Y 7.2 灰白	胎土: 5 Y 7.2 灰白	—	—	—	(5.6)	—	—	4.8
671	包含層	J8区		白磁	陶	同軸へうろ切り後高台付 体同軸ナデ	同軸へうろ切り後高台付 体同軸ナデ	胎土: 10 Y 8.1 灰白	胎土: 10 Y 8.1 灰白	—	—	—	—	—	—	5.8
672	包含層	J2区		赤土器	鉢	同軸ナデ	同軸ナデ	7.5 Y R 6.6 橙	7.5 Y R 7.4 に よる黄褐色	—	—	—	—	—	—	6.8
678	SD-01	K22	上層	縄文土器	漆鉢	同軸ナデ	同軸ナデ	2.5 Y 7.1 灰白	2.5 Y 7.1 灰白	—	—	—	—	—	—	破片
679	SD-01	K22	下層	縄文土器	漆鉢	同軸ナデ	同軸ナデ	10 Y R 5.3 に よる黄褐色	10 Y R 4.2 灰黄褐色	—	—	—	—	—	—	1.8
680	SD-01	K32	下層	縄文土器	漆鉢	同軸ナデ	同軸ナデ	10 Y R 5.2 灰黄褐色	10 Y R 5.2 灰黄褐色	—	—	—	—	—	—	破片
681	SD-01	K32	下層	縄文土器	漆鉢	同軸ナデ	同軸ナデ	10 Y R 7.2 に よる黄褐色	10 Y R 5.2 灰黄褐色	—	—	—	—	—	—	8.8
684	SD-01	K32	上層	縄文土器	漆鉢	同軸ナデ	同軸ナデ	10 Y R 6.2 灰黄褐色	10 Y R 5.2 灰黄褐色	—	—	—	—	—	—	破片
685	SD-01	K32	下層	縄文土器	漆鉢	同軸ナデ	同軸ナデ	10 Y R 7.2 に よる黄褐色	10 Y R 5.2 灰黄褐色	—	—	—	—	—	—	破片
688	SR-02	K32	下層	縄文土器	漆鉢	同軸ナデ	同軸ナデ	2.5 Y 7.1 灰白	2.5 Y 4.1 黄灰	—	—	—	—	—	—	破片
689	SR-02	K32	中層	縄文土器	漆鉢	同軸ナデ	同軸ナデ	2.5 Y 7.1 灰白	2.5 Y 3.2 黒褐色	—	—	—	—	—	—	破片
690	SR-02	K32	上層	赤土器	鉢	同軸ナデ	同軸ナデ	2.5 Y 6.3 に よる黄褐色	10 Y R 4.4 黄褐色	—	—	—	—	—	—	2.8
691	SR-02	K32	中層	赤土器	鉢	同軸ナデ	同軸ナデ	10 Y R 6.2 灰黄褐色	10 Y R 6.2 灰黄褐色	—	—	—	—	—	—	3.8

第3表 西木則遺跡V出土器観表(28)

第2分冊

器名 番号	器名 番号	形状	器種	外周 寸法	高		色澤		胎土		法量(cm)		残存 率	備考	
					内面	外面	内部	外部	石葉・ 赤色粘 土	胎土 色	口径 (cm)	器高 (cm)			底径 (cm)
692	SR-02	K22 ③	上層 卵生土器 要	ナデ ハタ(マメツ)	瓶ナデ(マメツ)	2577.2底黄	2577.2底黄	2577.2底黄	2577.2底黄	中・多 中・少	-242	-	-	破片	
693	SR-02	K22 ③	上層 卵生土器 要	ナデ	ハタ後へう割片 へう割り後遺オナ エ	10YR6/3にぶい 黄緑	10YR6/3にぶい 黄緑	2577.2底黄	2577.2底黄	中・多 中・少	-	-	63.0	-	1.8
704	SR-03	K22 ③	下層 ① 縄文土器 漆鉢	ナデ	ナデ後瓜形文	2577.2底黄	2577.2底黄	2577.2底黄	2577.2底黄	細・多 細・少	-	-	-	-	破片
705	SR-03	K22 ③	下層 ① 縄文土器 漆鉢	ナデ	2条の凹線 ナデ	2576.2底黄	2576.2底黄	2574.1黄灰	2574.1黄灰	中・多 中・少	-	-	-	-	破片
706	SR-03	K22 ③	下層 ① 縄文土器 漆鉢	ナデ	ナデ後瓜形文 へ	10YR6/2底黄緑	10YR6/2底黄緑	2575.2底黄	2575.2底黄	中・多 中・少	-	-	-	-	破片
707	SR-03	K22 ③	下層 ① 縄文土器 漆鉢	ナデ	細点目 ナデ	2575.2底黄	2575.2底黄	2578.2灰白	2578.2灰白	細・多 細・少	-	-	-	-	破片
708	SR-03	K22 ③	下層 ① 縄文土器 漆鉢	ナデ	細点目 ナデ後 遺オナ	2575.4にぶい 黄緑	2575.4にぶい 黄緑	2578.4黄灰	2578.4黄灰	中・多 中・少	-	-	-	-	破片
709	SR-03	K22 ③	下層 ① 縄文土器 漆鉢	ナデ	ナデ後押引文 へ	10YR6/3にぶい 黄緑	10YR6/3にぶい 黄緑	2574.1黄灰	2574.1黄灰	中・多 中・少	-	-	-	-	破片
710	SR-03	K22 ③	下層 ① 縄文土器 漆鉢	ナデ	ナデ後刺突文 へ	2576.2底黄	2576.2底黄	N3/黄灰	N3/黄灰	中・多 中・少	-	-	-	-	破片
711	SR-03	K22 ③	下層 ① 縄文土器 漆鉢	ナデ	ナデ後瓜形文 へ	2577.2底黄	2577.2底黄	2574.1黄灰	2574.1黄灰	中・多 中・少	-	-	-	-	破片
712	SR-03	K22 ③	下層 ① 縄文土器 漆鉢	ナデ	ナデ後瓜形文 へ	10YR6/2底黄	10YR6/2底黄	2575.1黄灰	2575.1黄灰	中・多 中・少	-	-	-	-	破片
713	SR-03	K22 ③	下層 ① 縄文土器 漆鉢	ナデ	ナデ後瓜形文 へ	2576.2底黄	2576.2底黄	2575.1黄灰	2575.1黄灰	中・多 中・少	-	-	-	-	破片
714	SR-03	K22 ③	下層 ① 縄文土器 漆鉢	ナデ	ナデ後瓜形文 へ	10YR4/2底黄緑	10YR4/2底黄緑	2576.2底黄	2576.2底黄	中・多 中・少	-	-	-	-	破片
715	SR-03	K22 ③	下層 ① 縄文土器 漆鉢	ナデ	細点目 二枚目 底後ヨコナデ 引文	2576.2底黄	2576.2底黄	2575.1黄灰	2575.1黄灰	中・多 中・少	-	-	-	-	破片
716	SR-03	K22 ③	下層 ① 縄文土器 漆鉢	ナデ	ヨコナデ ナデ	2575.4底黄	2575.4底黄	2573.1黄灰	2573.1黄灰	中・多 中・少	-	-	-	-	破片
717	SR-03	K22 ③	下層 ① 縄文土器 漆鉢	ナデ	ナデ後 ミガキ	2574.1黄灰	2574.1黄灰	2573.2黄緑	2573.2黄緑	中・多 中・少	-	-	-	-	破片
718	SR-03	K22 ③	下層 ① 縄文土器 漆鉢	ナデ	ナデ後 ミガキ	10YR4/1黄灰	10YR4/1黄灰	10YR4/1黄灰	10YR4/1黄灰	細・少 細・多	-	-	-	-	破片
719	SR-03	K22 ③	下層 ① 縄文土器 漆鉢	ナデ	ナデ後 ミガキ	2575.0底黄	2575.0底黄	2573.1黄灰	2573.1黄灰	中・多 中・少	-	-	-	-	破片
726	SX-01	K22 ①	下層 ① 縄文土器 漆鉢	ナデ	ヨコナデ後横一 条の凹線 ナデ	2577.1灰白	2577.1灰白	2577.2底黄	2577.2底黄	中・多 中・少	-	-	-	-	破片
727	SX-01	K22 ①	上層 ① 縄文土器 漆鉢	ナデ	ナデ後枕籠一 条	10YR6/2底黄緑	10YR6/2底黄緑	10YR6/2底黄緑	10YR6/2底黄緑	中・多 中・少	-	-	-	-	破片

第3表 西木則遺跡V出土器観表(29)

器名・番号	器名	種別	器種	外周	内面	裏面	色澤	石・赤色長石	胎土	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率
728	SN-02	R22	下層 (砂層) Ⅰ	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ コナデ 指オケ	ヨコナデ コナデ 指オケ	10YR6/3に近い黄緑	粗・並	細・少	46	—	—	1/8
729	SN-02	R32	下層 (砂層) Ⅱ	板ナデ ナデ	板ナデ	板ナデ	2.5Y7/3黄質	粗・並	細・少	—	—	(7.6)	4/8
730	SN-02	R22	下層 Ⅰ	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ 指オケ	ヨコナデ 指オケ	10YR6/3に近い黄緑	粗・多	細・少	15.8	—	—	2/8
731	SN-02	R32	下層 Ⅱ	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ 指オケ	ヨコナデ 指オケ	10YR5/2灰黄緑	粗・並	細・多	13.6	—	—	1/8
732	SN-02	R32	上層 Ⅰ	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ ハケ	10YR5/2灰黄緑	粗・少	細・少	15	—	—	2/8
733	SN-02	R32	下層 Ⅱ	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ 指オケ	ヨコナデ 指オケ	10YR5/2灰黄緑	粗・並	細・少	14.5	—	—	1/8
734	SN-02	R32	下層 Ⅲ	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ ハケ	2.5Y4/2暗灰黄	粗・並	細・多	(14.8)	—	—	2/8
735	SN-02	R32	下層 Ⅳ	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ ハケ	10YR3/3暗黄	粗・並	細・多	13.4	—	—	2/8
736	SN-02	R32	下層 Ⅴ	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ ハケ	2.5Y6/3に近い黄	粗・並	細・多	13	—	—	1/8
737	SN-02	R32	下層 Ⅵ	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ ハケ	10YR7/3に近い黄緑	粗・少	細・少	(15.0)	—	—	2/8
738	SN-02	R32	下層 Ⅶ	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ ハケ	2.5Y7/2灰白	粗・並	細・少	(17.0)	—	—	2/8
739	SN-02	R32	下層 Ⅷ	ハケ	ハケ	ハケ	10YR5/4に近い黄緑	粗・多	細・少	—	—	5.4	4/8
740	SN-02	R32	下層 Ⅸ	ハケ	ハケ	ハケ	2.5Y5/2暗灰黄	粗・並	細・多	—	—	4.8	8/8
741	SN-02	R32	Ⅹ	ハケ	ハケ	ハケ	2.5Y6/3に近い黄	粗・多	細・多	—	—	5.2	8/8
742	SN-02	R32	下層 Ⅺ	ハケ	ハケ	ハケ	2.5Y7/2灰黄	粗・多	細・多	—	—	4.4	8/8
743	SN-02	R32	下層 Ⅻ	ハケ	ハケ	ハケ	10YR5/3に近い黄	粗・並	細・並	—	—	5.4	5/8
744	SN-02	R32	上層 Ⅼ	ハケ	ハケ	ハケ	10YR3/1黄	粗・並	細・少	—	—	5.6	8/8
748	SN-09	R32	上層 Ⅽ	ハケ	ハケ	ハケ	7.5YR2/6橙	粗・並	細・少	—	—	5.0	8/8
749	SN-09	R32	Ⅾ	ハケ	ハケ	ハケ	10YR7/4に近い黄緑	粗・並	細・少	(15.0)	23.7	4.0	5/8
750	SN-09	R32	Ⅿ	ハケ	ハケ	ハケ	10YR7/3に近い黄	粗・並	細・並	—	—	(4.2)	5/8
751	SN-05	R32	ⅰ	ハケ	ハケ	ハケ	2.5Y7/2灰黄	粗・並	細・少	2.8	—	—	1/8

第3表 西木則遺跡V出土石器観察表(30)

番号 器名	標号	形状	器種	用途	面	色澤	石質	加工	重量	口径	口縁	器高	法長	底径	底厚	備考		
753	SX-06	R32 ⑤	弥生土器	器 ハケ	内面 ヨコナデ ヨコナデ後部 ヨコナデ後部 ヨコナデ後部	外面 ヨコナデ後部 ヨコナデ後部 ヨコナデ後部	内面 ヨコナデ ヨコナデ ヨコナデ ヨコナデ	外部 75YR6/3に 近い 10YR7/3に 近い 10YR7/3に 近い 10YR7/3に 近い	内部 10YR7/3に 近い 10YR7/3に 近い 10YR7/3に 近い	石質 赤色 長石	形状 中・並 中・少 中・少 中・少	重量 298 308 157	口径 — — —	器高 — — —	法長 — — —	底径 — — —	底厚 — — —	備考 1.8 2.8 1.8
759	SX-09	R32 ③	弥生土器	器 ハケ	内面 ヨコナデ	外面 10YR6/2に 近い	内面 ヨコナデ	外部 10YR6/2に 近い	内部 10YR7/2に 近い	石質 中・並	形状 中・並	重量 —	口径 —	器高 —	法長 —	底径 —	底厚 —	備考 4.8
760	SX-09	R32 ③	弥生土器	器 ハケ	内面 ヨコナデ	外面 10YR6/4に 近い	内面 ヨコナデ	外部 10YR6/4に 近い	内部 25Y7/2に 近い	石質 中・並	形状 中・並	重量 —	口径 —	器高 —	法長 —	底径 —	底厚 —	備考 4.8
761	SX-14	R32 ②	土師器	器 ハケ	内面 ヨコナデ	外面 10YR6/4に 近い	内面 ヨコナデ	外部 10YR6/4に 近い	内部 5Y7.1に 近い	石質 中・並	形状 中・並	重量 —	口径 —	器高 —	法長 —	底径 —	底厚 —	備考 5.0
764	SX-17	R32 ②	弥生土器	器 ハケ	内面 ヨコナデ	外面 10YR6/4に 近い	内面 ヨコナデ	外部 10YR6/4に 近い	内部 10YR6/4に 近い	石質 中・並	形状 中・並	重量 —	口径 —	器高 —	法長 —	底径 —	底厚 —	備考 4.8
765	SX-21	R32 ②	弥生土器	器 ハケ	内面 ヨコナデ	外面 10YR6/4に 近い	内面 ヨコナデ	外部 10YR6/4に 近い	内部 25Y8.2に 近い	石質 中・並	形状 中・並	重量 —	口径 —	器高 —	法長 —	底径 —	底厚 —	備考 4.8
766	SX-21	R32 ②	弥生土器	器 ハケ	内面 ヨコナデ	外面 10YR6/4に 近い	内面 ヨコナデ	外部 10YR6/4に 近い	内部 25Y8.2に 近い	石質 中・並	形状 中・並	重量 —	口径 —	器高 —	法長 —	底径 —	底厚 —	備考 4.8
767	SX-21	R32 ②	弥生土器	器 ハケ	内面 ヨコナデ	外面 10YR6/4に 近い	内面 ヨコナデ	外部 10YR6/4に 近い	内部 25Y7.2に 近い	石質 中・並	形状 中・並	重量 —	口径 —	器高 —	法長 —	底径 —	底厚 —	備考 2.8
768	SX-21	R32 ②	弥生土器	器 ハケ	内面 ヨコナデ	外面 10YR6/4に 近い	内面 ヨコナデ	外部 10YR6/4に 近い	内部 25Y7.2に 近い	石質 中・並	形状 中・並	重量 —	口径 —	器高 —	法長 —	底径 —	底厚 —	備考 1.8
769	SX-21	R32 ②	弥生土器	器 ハケ	内面 ヨコナデ	外面 10YR6/4に 近い	内面 ヨコナデ	外部 10YR6/4に 近い	内部 10YR7/3に 近い	石質 中・並	形状 中・並	重量 —	口径 —	器高 —	法長 —	底径 —	底厚 —	備考 2.8
770	SX-21	R32 ②	弥生土器	器 ハケ	内面 ヨコナデ	外面 10YR6/4に 近い	内面 ヨコナデ	外部 10YR6/4に 近い	内部 5Y7.1に 近い	石質 中・並	形状 中・並	重量 —	口径 —	器高 —	法長 —	底径 —	底厚 —	備考 2.8
771	SX-21	R32 ②	弥生土器	器 ハケ	内面 ヨコナデ	外面 10YR6/4に 近い	内面 ヨコナデ	外部 10YR6/4に 近い	内部 25Y7.2に 近い	石質 中・並	形状 中・並	重量 —	口径 —	器高 —	法長 —	底径 —	底厚 —	備考 5.1
772	SX-11	R32 ②	弥生土器	器 ハケ	内面 ヨコナデ	外面 10YR6/4に 近い	内面 ヨコナデ	外部 10YR6/4に 近い	内部 N7/灰	石質 中・並	形状 中・並	重量 —	口径 —	器高 —	法長 —	底径 —	底厚 —	備考 2.8
775	SD-04	R32 ②	土師器	器 ハケ	内面 ヨコナデ	外面 10YR6/2に 近い	内面 ヨコナデ	外部 10YR6/2に 近い	内部 10YR6/2に 近い	石質 中・並	形状 中・並	重量 —	口径 —	器高 —	法長 —	底径 —	底厚 —	備考 —
776	SD-04	R32 ②	土師器	器 ハケ	内面 ヨコナデ	外面 10YR6/2に 近い	内面 ヨコナデ	外部 10YR6/2に 近い	内部 25Y8.2に 近い	石質 中・並	形状 中・並	重量 —	口径 —	器高 —	法長 —	底径 —	底厚 —	備考 —
777	SD-04	R32 ②	土師器	器 ハケ	内面 ヨコナデ	外面 10YR6/2に 近い	内面 ヨコナデ	外部 10YR6/2に 近い	内部 25Y8.2に 近い	石質 中・並	形状 中・並	重量 —	口径 —	器高 —	法長 —	底径 —	底厚 —	備考 —
778	SD-04	R32 ②	土師器	器 ハケ	内面 ヨコナデ	外面 10YR6/2に 近い	内面 ヨコナデ	外部 10YR6/2に 近い	内部 25Y8.2に 近い	石質 中・並	形状 中・並	重量 —	口径 —	器高 —	法長 —	底径 —	底厚 —	備考 —
779	SD-04	R32 ②	土師器	器 ハケ	内面 ヨコナデ	外面 10YR6/2に 近い	内面 ヨコナデ	外部 10YR6/2に 近い	内部 25Y8.2に 近い	石質 中・並	形状 中・並	重量 —	口径 —	器高 —	法長 —	底径 —	底厚 —	備考 —
780	SD-04	R32 ②	土師器	器 ハケ	内面 ヨコナデ	外面 10YR6/2に 近い	内面 ヨコナデ	外部 10YR6/2に 近い	内部 25Y8.2に 近い	石質 中・並	形状 中・並	重量 —	口径 —	器高 —	法長 —	底径 —	底厚 —	備考 —



第3表 西木則遺跡V出土器観察表(31)

第2分冊

器名 番号	器名 通称	形式 名	部位	種類	土質		色澤		胎土			法量(cm)			残存 率	備考		
					外面	内面	外面	内面	石葉・ 赤色泥 長石	物四 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)			底径(その他) (cm)	
781	SD-04	K32 ①	上層	陶器	外底 同軸ナ字後縁軸 同軸へつ前り 高古前り出し・袋付 内面 内面腹托石縦着	内面 施釉	外面 釉: N2/黒	内面 胎土: 25YR3.2 黒赤釉							—	8.8	遺跡	
782	SD-04	K32 ①	下層	陶器	外面 同軸ナ字後縁軸 同軸へつ前り 高古前り出し・袋付 内面 同軸ナ字後縁軸 同軸へつ前り 高古前り出し	内面 施釉	外面 胎: 10YR6/4に 赤い濃緑	内面 胎土: 10YR6/1 75Y6.2灰ナリ							—	4.8		
783	SD-04	K32 ①	中層	陶器	外面 同軸ナ字後縁軸 同軸へつ前り 高古前り出し	内面 同軸ナ字後縁軸 砂目着	外面 胎: 10YR6/4に 赤い濃緑	内面 胎土: 10YR6/1 75Y6.2灰ナリ								—	4.1	
784	SD-04	K32 ①	中層	陶器	外面 同軸ナ字後縁軸 同軸へつ前り 高古前り出し	内面 同軸ナ字後縁軸 砂目着	外面 胎: 10YR6/4に 赤い濃緑	内面 胎土: 10YR6/1 75Y6.2灰ナリ								—	3.8	
785	SD-04	K32 ②	上層	陶器	外面 同軸ナ字後縁軸 同軸へつ前り 高古前り出し	内面 同軸ナ字後縁軸 砂目着	外面 胎: 10YR6/4に 赤い濃緑	内面 胎土: 10YR6/1 75Y6.2灰ナリ								—	3.4	
786	SD-04	K32 ①	上層	陶器	外面 同軸ナ字後縁軸 同軸へつ前り 高古前り出し	内面 同軸ナ字後縁軸 砂目着	外面 胎: 10YR6/4に 赤い濃緑	内面 胎土: 25YR6/2 灰白								—	4.7	
787	SD-04	K32 ①	上層	磁器	外面 袋付後縁軸	内面 施釉	外面 胎: 10YR6/4に 赤い濃緑	内面 胎土: 25YR6/2 灰白								—	3.9	
788	SD-04	K32 ①	上層	磁器	外面 袋付後縁軸	内面 施釉	外面 胎: 10YR6/4に 赤い濃緑	内面 胎土: 10YR8/1 灰白								—	1.8	
797	東明遺存 磁器層	K32 ①		土師器	外面 同軸ナ字	内面 同軸ナ字	外面 胎: 10YR8/1灰白 灰白	内面 胎土: 10YR8/1 灰白								—	4.3	
798	西側溝北 土層	K32 ①		白磁	外面 施釉	内面 施釉	外面 胎: 10YR8/2灰白 灰白	内面 胎土: 5YR8/4灰 白								—	1.55	

第4表 西木副遺跡V出土石器観察表(1)

第2分冊

順文番号	調査遺構名	地区名	層位	器種	法量			材質	備考
					長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)		
49	SD27	13区		打製石斧	57.0	54.0	16.0	44.0	オスガイト
51	SD28	13区		砥石	52.0	35.0	22.0	66.15	砥石
120	SP138	13区		楕形石斧	34.5	54.0	11.0	27.42	オスガイト
142	SP1406	14区		砥石	86.0	62.0	27.0	142.03	砥石
184	SP1784	14区		砥石	79.0	37.0	18.0	94.78	砥石
219	SP2188	14区		石錐	—	—	底径 13.8	132.54	滑石
327	SD16	13区		赤石	17.0	17.0	8.0	3.59	黒色子ヤマト
336	SD27	15区	上層	楕形石杖	51.0	102.0	9.0	60.87	オスガイト
349	SD10	11区		砥石	50.0	32.0	20.0	44.78	オスガイト
365	SD27	15区	下層	石錐	17.0	12.0	3.0	0.46	オスガイト
366	SD27	15区	下層	石錐	36.0	18.0	4.5	2.25	オスガイト
397	SD27	15区	下層	石錐	32.5	19.0	6.5	3.15	オスガイト
398	SD27	15区	下層	楕形石斧	60.0	52.5	10.0	33.8	オスガイト
399	SD27	15区	下層	楕形石斧	41.0	65.0	9.3	32.05	オスガイト
370	SD27	15区	下層	楕形石斧	34.0	50.0	9.0	24.23	オスガイト
371	SD27	12区	最下層	石錐	18.0	13.5	2.5	0.39	オスガイト
372	SD27	12区	最下層	石錐	30.5	13.5	3.0	1.01	オスガイト
383	SP1406	14区		石室造方	21.0	14.0	7.0	3.39	船板
388	SD33	11区		石錐	33.0	14.0	4.0	2.15	オスガイト
391	SD32	12区	上層	砥石	64.5	33.0	10.1	32.14	砥石
393	SD36	16区	中層	石錐	130.5	35.0	9.5	49.89	オスガイト
394	SD36	16区	中層	石錐	43.5	23.0	4.0	3.37	オスガイト
394	SD36	15区	下層	石錐	29.0	18.0	3.0	1.36	オスガイト
396	SD36	17区	下層	石錠	26.4	58.0	5.0	8.75	オスガイト
397	SD36	16区	下層	楕形石斧	63.0	68.0	21.0	112.64	オスガイト
398	SD36	16区	中層	磨片	31.0	43.0	10.0	11.01	オスガイト
399	SD36	16区	下層	楕形石斧	63.0	68.0	21.0	123.65	オスガイト
400	SD36	17区	下層	楕形石造丁	39.0	47.0	5.0	12.41	砥石
408	SD54	17区	下層	石錐	29.5	38.0	10.0	32.98	オスガイト
409	SD54	17区	中層	石錐	25.0	14.0	4.0	0.89	オスガイト
410	SD54	17区	下層	石錐	24.5	11.5	2.3	0.83	オスガイト
411	SD54	17区	下層	石錐	18.0	15.0	3.0	0.58	オスガイト
412	SD54	17区	下層	石錐	22.0	12.5	3.0	0.70	オスガイト
413	SD54	16区	中層	石錐	23.5	13.5	4.0	0.74	オスガイト
414	SD54	17区	下層	石錐	24.0	14.0	2.6	0.48	オスガイト
415	SD54	17区	上層	石錐	32.0	13.0	4.0	1.57	オスガイト
416	SD54	16区	下層	石錐	45.0	17.0	7.0	3.35	オスガイト
417	SD54	17区	下層	打製石斧	119.0	66.0	18.0	174.5	砥石
418	SD54	17区	下層	磨片石斧	93.0	60.0	28.0	329.05	輝緑岩
476	SD74	14区		砥石	58.0	42.5	15.0	38.79	砥石
558	SD88	14区		石錐	—	—	—	54.07	滑石
615	SD107	14区		石錐	17.0	15.0	3.0	0.49	オスガイト
623	SR01	17区	上層	石錐	15.5	9.5	2.0	0.28	オスガイト

第4表 西木副遺跡V出土石器観察表(2)

第2分冊

順文番号	調査遺跡名	地区名	部位	器種	法量			材質	備考
					長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)		
624	SR01	J6区	下層	石鏃	25.0	19.5	2.5	0.81	ウツカイト
625	SR01	J7区	下層	石鏃	21.0	13.5	2.8	0.70	ウツカイト
626	SR01	J6区	下層	石鏃	18.0	16.0	3.0	0.73	ウツカイト
627	SR01	J5区	上層	石鏃	27.0	12.5	4.0	0.77	ウツカイト
628	SR01(棟3面包含層)	J6区	上層?	石鏃?	40.0	93.0	7.0	29.28	ウツカイト
641	SX228	J3区		石鏃	28.5	21.0	4.5	2.32	ウツカイト
673	包含層	J1区西段東区		石鏃	26.0	17.0	2.5	0.61	ウツカイト
674	包含層	J5区		石鏃	40.0	14.0	5.5	2.77	ウツカイト
675	包含層	J3区		石鏃	20.3	6.7	2.0	0.41	ウツカイト
676	包含層	J6区		石鏃	38.0	37.0	7.0	9.48	ウツカイト
677	包含層	J5区		石鏃	4.0	5.7	1.0	22.49	ウツカイト
682	SD400	R22①	上層	石鏃	31.0	17.5	4.0	2.53	ウツカイト
683	SD401	R22①	上層	石鏃	27.0	17.3	3.5	1.07	ウツカイト
686	SD402	R22①	上層(粘土)	石鏃	37.0	19.0	5.0	3.72	ウツカイト
687	SD402	R22①	下層(砂層)	打製石斧	73.0	68.0	18.0	83.32	ウツカイト
694	SR402	R22③	上層(砂層・レンテ)	石鏃	38.0	23.0	4.0	3.66	ウツカイト
695	SR402	R22③	上層	石鏃	31.0	16.5	4.0	1.84	ウツカイト
696	SR402	R22③	上層	石鏃未製品	21.0	16.5	3.5	1.12	ウツカイト
697	SR402	R22③	上層	石鏃	33.5	18.0	4.5	1.92	ウツカイト
698	SR402	R22③	上層	石鏃	29.0	18.0	3.7	1.79	ウツカイト
699	SR402	R22③	上層	石鏃	25.0	12.4	2.0	0.56	ウツカイト
700	SR402	R22③	最上層	石鏃	12.2	12.5	2.4	0.29	ウツカイト
701	SR402	R22③	上層	石鏃?	43.0	59.5	8.0	29.9	ウツカイト
702	SR402	R22③	下層	楔形石鏃	32.0	37.0	8.0	13.38	ウツカイト
703	SR402	R22③	上層	楔形石鏃	37.0	33.0	11.8	20.79	ウツカイト
720	SR403	R22③	下層(砂)	石鏃	24.0	18.8	2.6	0.87	ウツカイト
721	SR403	R22③	下層	石鏃	20.2	20.0	3.8	0.97	ウツカイト
722	SR403	R22③	下層	石鏃	28.0	13.0	3.5	0.85	ウツカイト
723	SR403	R22③	下層	石鏃	22.0	17.0	4.0	0.94	ウツカイト
724	SR403	R22③	中層	石鏃	62.0	30.0	5.0	12.76	ウツカイト
725	SR403	R22③	下層(土流)	楔形石鏃	24.0	17.0	4.0	1.54	ウツカイト
745	SX402	R22③	0	石鏃	19.5	15.0	2.0	0.41	ウツカイト
746	SX402	R22③	上層	石鏃	31.3	21.0	3.0	1.87	ウツカイト
747	SX402	R22③	最下層砂層	石鏃	42.0	16.0	4.0	2.71	ウツカイト
752	SX405	R22③	0	石鏃	39.0	17.5	3.5	2.34	ウツカイト
754	SX406	R22③	0	石鏃	38.0	18.5	5.0	3.47	ウツカイト
755	SX407	R22③	0	石鏃	41.5	22.5	5.5	3.66	ウツカイト
756	SX407	R22③	0	石鏃	35.5	15.0	4.0	2.10	ウツカイト
757	SX407	R22③	0	石鏃	30.0	19.0	4.5	1.71	ウツカイト
758	SX407	R22③	0	石鏃	25.0	20.2	4.0	1.27	ウツカイト
762	SX414	R22③	最上層	石鏃	38.0	14.0	3.5	1.90	ウツカイト
763	SX414	R22③	最上層	石鏃	29.5	13.0	3.5	1.47	ウツカイト
773	SX411	R22③	0	石鏃	22.5	16.0	3.0	0.76	ウツカイト

打製石斧抽出

第4表 西末剛遺跡V出土石器観察表(3)

順文番号	報告遺跡名	地区名	層位	器種	法線			材質	備考
					長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)		
774	SK211	R22②	0	石鏃	20.5	14.0	3.0	0.53	ヤスガイト
789	SD04	R22③	上層②	石鏃	29.2	21.0	3.0	1.40	ヤスガイト
790	SD04	R22③	下層	石鏃	27.0	16.0	3.0	1.25	ヤスガイト
791	SD08・SD04合流部	R22③	0	石鏃	36.9	19.3	3.5	2.73	ヤスガイト
792	SD04	R22③	上層②	石鏃	40.5	15.5	4.5	3.0	ヤスガイト
793	SD04	R22③	下層	石鏃	42.0	9.0	7.0	1.90	ヤスガイト
794	SD04	R22①	下層	削片	33.5	7.60	8.5	2.23	ヤスガイト
795	SD04	R22②	上層③	削片	33.0	7.90	10.0	2.68	ヤスガイト
796	SD04	R22③	上層②	火打石	35.0	5.20	19.5	4.968	ヤスガイト
799	SK214	R22①	上層	打撃片	65.0	30.5	10.0	33.48	彫成石?

第2分冊

第5表 西末剛遺跡V出土石器観察表

順文番号	報告遺跡名	地区名	層位	器種	法線			材質	
					長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)		
42	SD19	13区 I3	底層	刀	61.0	11.0	6.0	10.43	鉄
301	ST40	17区 H15	刀	不明	31.0	32.0	7.0	9.58	鉄
309	ST40	12区 H3	不明	不明	134.0	20.0	—	96.42	鉄
310	ST40	12区 H3	刀	不明	283.0	43.0	10.0	27.482	鉄

第2分冊

第6表 西末剛遺跡V出土玉観察表

順文番号	報告遺跡名	地区名	層位	種類・形状	法線			材質	備考
					長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)		
283	ST01	17区 H15	Ⅱ	玉	3.2	5.0	1.8	0.15	ガラス
284	ST01	17区 H15	Ⅱ	玉	4.0	5.0	1.8	0.18	ガラス
285	ST01	17区 H15	Ⅱ	玉	3.0	5.2	1.5	0.14	ガラス
286	ST01	17区 H15	Ⅱ	玉	3.8	5.0	1.5	0.13	ガラス
287	ST01	17区 H15	Ⅱ	玉	3.1	5.2	1.9	0.11	ガラス
288	ST01	17区 H15	Ⅱ	玉	6.5	5.3	1.5	0.22	ガラス
289	ST01	17区 H15	Ⅱ	玉	4.0	6.0	2.0	0.12	ガラス
290	ST01	17区 H15	Ⅱ	玉	4.0	6.5	2.0	0.23	ガラス
291	ST01	17区 H15	Ⅱ	玉	5.0	6.0	1.5	0.15	ガラス
292	ST01	17区 H15	Ⅱ	玉	4.0	6.0	1.5	0.22	ガラス
293	ST01	17区 H15	Ⅱ	玉	4.0	6.5	2.0	0.23	ガラス
294	ST01	17区 H15	Ⅱ	玉	6.0	—	(1.2)	0.05	ガラス
295	ST01	17区 H15	Ⅱ	玉	5.0	4.2	1.2	0.16	ガラス
296	ST01	17区 H15	Ⅱ	玉	4.0	5.5	1.8	0.20	ガラス
297	ST01	17区 H15	Ⅱ	玉	4.0	5.5	2.0	0.20	ガラス
298	ST01	17区 H15	Ⅱ	玉	7.0	7.0	2.0	0.27	ガラス
299	ST01	17区 H15	Ⅱ	玉	5.5	6.0	2.0	0.30	ガラス
300	ST01	17区 H15	Ⅱ	玉	4.0	4.5	1.5	0.15	ガラス

第2分冊

各付けの図紙あり  
各付けの図紙あり  
各付けの図紙あり  
各付けの図紙あり

第7表 西木則遺跡V出土瓦観察表

第2分冊

観文 番号	観文 通称名	地区名	部位	形種	調整		色異		胎土		注法 (cm)		残存率				
					凸面	凹面	その他	凸面	凹面	白色砂泥	灰色砂泥	灰色砂泥		粘土層 (残存層)	粘土層 (残存層)	厚さ	
16	SD38	1区	丸瓦	板ナゲ後ナゲ	凸面 布目正直 (赤目 10本/cm程度)	凹面 —	その他 端部：ヘラ切り	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	細・少	細・少	(23.1)	(10.2)	(10.2)	—	1.7	破片
149	SP466	4区	軒平瓦	板ナゲカタ	布目	—	—	N5/灰	N5/灰	中・多	中・多	(24)	(5.1)	(5.1)	—	5.2	破片
189	SP1842	4区	軒平瓦	板ナゲカタ	布目	—	—	2.5Y8.2灰白	5Y8/1灰白	中・並	中・並	(5.3)	(6.4)	(6.4)	—	4.2	破片
317	SE102	2区	平瓦	太さ4mm程 底の面による 凸面正直目	布目	—	—	7.5Y7/1灰白	7.5Y7/1灰白	細・少	細・少	(8.1)	(9.6)	(9.6)	—	1.5	破片
324	SD10A	2区	平瓦	調整形体によ るタタキ目	布目正直	—	端部：ヘラ切り	N6/灰	N4/灰	中・少	中・少	(7.2)	(7.7)	(7.7)	—	2	破片
473	SD74	4区	平瓦	太さ5mm程 底の面による 凸面正直目	12本/cmの赤 目	—	端部及び側面： 板ナゲ	N7/灰白	N6/灰	中・少	中・少	(8.9)	(9.8)	(9.8)	—	2.1	破片
474	SD74	4区	平瓦	太さ5mm程 底の面による 凸面正直目	10本/cmの赤 目	—	端部：ヘラ切り 後側面との境 との境：ヘラ割	10Y6/1灰	10Y6/1灰	中・少	中・少	(7.3)	(9.4)	(9.4)	—	3.1	破片
475	SD74	4区	平瓦	太さ5mm程 底の面による 凸面正直目	10本/cmの赤 目	—	端部：ヘラ切り 後側面との境 との境：ヘラ割	7.5Y6/1灰	10Y7/1灰白	中・少	中・少	(6.2)	(8.2)	(8.2)	—	2.6	破片
485	SD76	4区	上層	調整形体によ るタタキ目	布目	—	瓦先：編文不明 (軒草かり)	N5/灰	N6/灰	中・少	中・少	(4.9)	(9.4)	(9.4)	—	3.3	破片
496	SD76	4区	上層	調整形体によ るタタキ目	布目	—	瓦先：巴文	N7/灰白	—	細・並	細・並	(3.3)	(4.8)	(4.8)	—	3.2	破片
497	SD76	4区	上層	調整形体によ るタタキ目	布目 (6本/ cm)	—	瓦先：巴文	N4/灰	N4/灰	中・少	中・少	(11.9)	(6.4)	(6.4)	—	1.9	破片
520	SD81	4区	上層	調整形体によ るタタキ目	布目正直 全体 後未調整 全体 マメツ運行	—	調整：ヘラ切り 後未調整 全体 マメツ運行	2.5Y7/3塊黄	2.5Y7/2灰黄	中・少	中・少	(8.9)	(7.1)	(7.1)	—	3.1	破片
535	SD81	4区	下層	調整形体によ るタタキ目	布目正直	—	端部：ヘラ切り	N7/灰白	N7/灰白	細・少	細・少	(11.2)	(6.2)	(6.2)	—	2.7	破片
550	SD87	4区	軒平瓦	板ナゲカタ	布目	—	—	7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	細・少	細・少	(5.4)	(7.2)	(7.2)	—	3.7	破片
578	SD89	4区	丸瓦	板ナゲ	布目正直	—	端部：ヘラ切り	N3/灰白	N3/灰白	細・少	細・少	(10.9)	(6.6)	(6.6)	—	1.3	破片
579	SD89	4区	平瓦	調整形体によ るタタキ目	布目正直	—	調整：ヘラ切り	N6/灰	7.5Y6/1灰	中・多	中・多	(5.4)	(11.6)	(11.6)	—	2.6	破片
653	急灰燻	4区	上層	軒平瓦	布目	—	端部：ヘラ切り	N6/灰	—	細・少	細・少	(4.5)	(6.8)	(6.8)	—	—	破片



J2区全景 南から



J3区・J7区全景 南から



J3区・J7区全景 西から



J3区・J7区全景 西から



J4区全景 南から

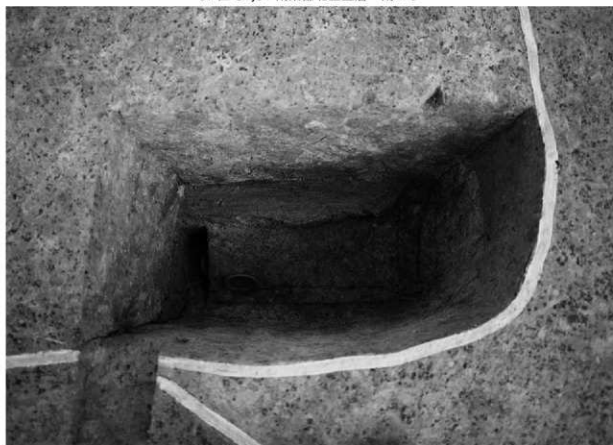


J7区 STj01 南東部土層 東から





J7区 STJ01 南東部北壁土層 南から



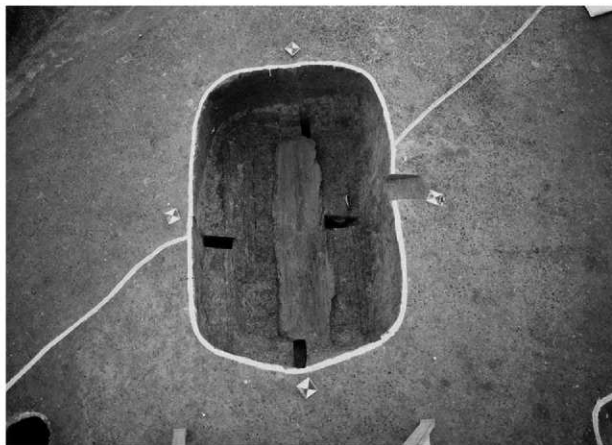
J7区 STJ01 南東部北壁土層 南から



J7区 STj01 西北部東壁土層 西から



J7区 STj01 西北部南壁土層 北から



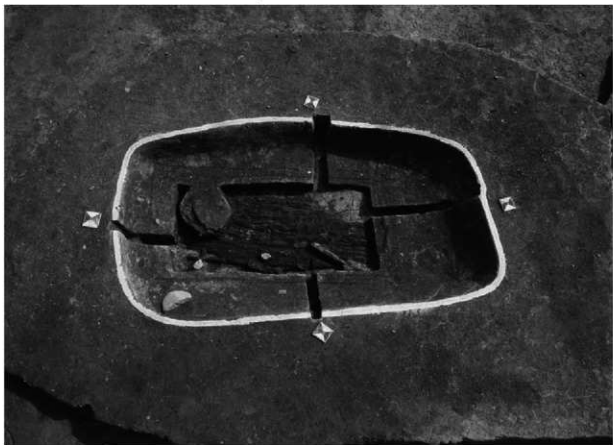
J7区 STj01 木棺検出状況 西から



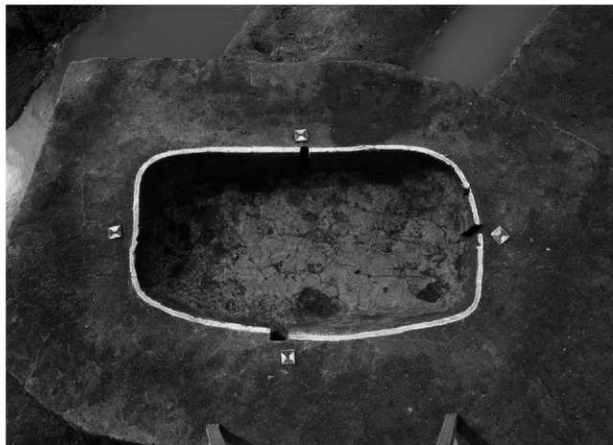
J7区 STj01 人骨出土状況 南から



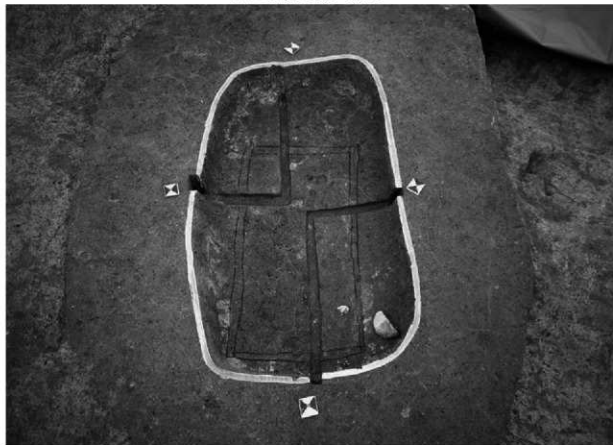
J7区 STj01 棺内完掘状況 南から



J7区 STj02 全景 西から



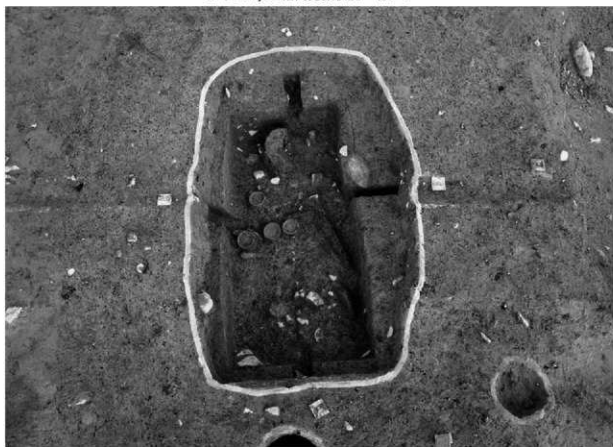
J7区 STj02 全景 東から



J7区 STj02 木棺検出状況 北から



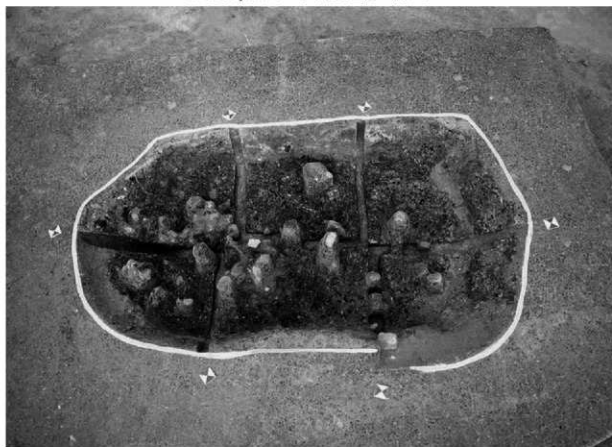
J7区 STj02 棺内完掘状況 北から



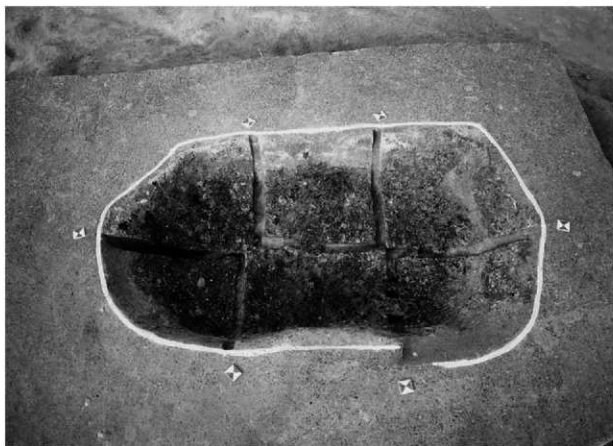
J2区 STj03 副葬品出土状況全景 西から



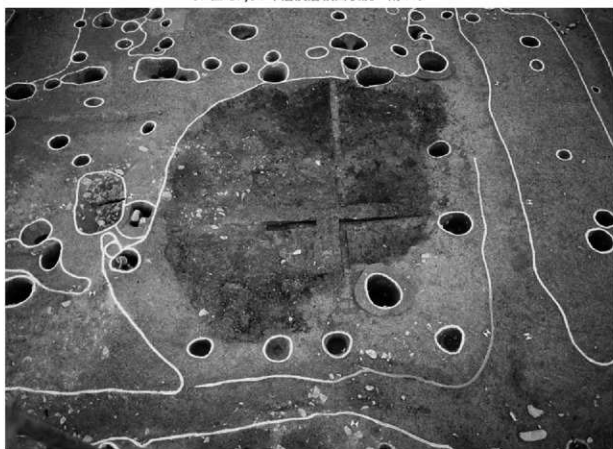
J7区 SFj04A ブロック西壁土層 東から



J7区 SFj04 中層遺物出土状況 南から



J7区 SFj04 下層炭層検出状況 南から

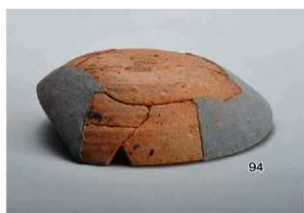


J3区 SXj24 下層（炭層）上面全景 南から

































調査区東壁土層 SRr02部分 西から



調査区東壁北半土層 北西から



SDr04 A-A' 断面 東から



SDr04 B-B' 断面 東から



SKr01 断面 北西から



SKr01 断面 東から





調査区西壁土層 SRr03部分 東から



SXr05 遺物出土状況 西から



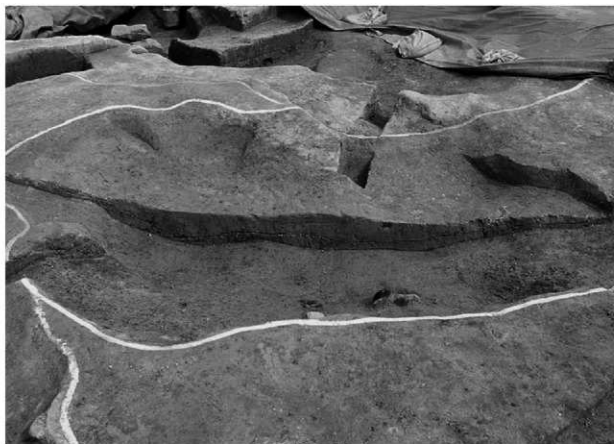
Sx05 遺物出土状況 南から



Sx06 遺物出土状況 南から



SXr07 断面 西から



SXr08 断面 南から



SXr10 東西断面 南から



SXr02 B 断面 東から



SXr13 断面 東から



SKr05 断面 東から



SXr22 断面 東から



SDr02 C 断面 南西から



SDr02 D 断面 北東から



34U・34T・33U グリッド全景 南西から



調査区南部全景 北西から



調査区南部全景 南東から





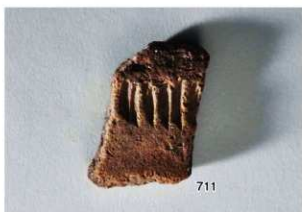
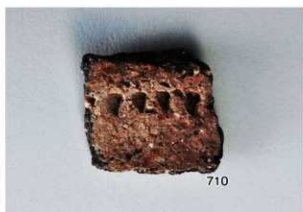
調査区北部全景 南東から



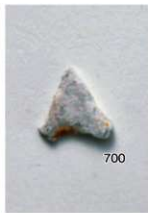
調査区南部全景 北東から



調査区西壁土層 SDr01部分 東から







# 報告書抄録

ふりがな	にしすえのりいせきV だい2ふんさつ							
書名	西末則遺跡V 第2分冊							
副書名	香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告							
巻次	第5冊							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	森格也(編) 小野秀幸 西村尋文 木下晴一 柏徹哉							
編集機関	香川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4 Tel 0877-48-2191 Fax 0877-48-3249							
発行機関名	香川県教育委員会							
発行年月日	西暦2015年3月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	発掘期間	発掘面積 (㎡)	調査原因
にしすえのりいせき 西末則遺跡	かがわけひんまやうこうごんあやかりょう 香川県綾歌郡綾川町 きた・やまごしも 北・山田下	37381		34° 13' 35"	133° 56' 15"	2002040 ～ 20030331	11,186	香川県農業試験場 移転
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
西末則遺跡	縄文時代 弥生時代 集落跡	縄文時代 弥生時代 古代時代 古代～中世	溝・自然河川 溝 溝 掘立柱建物・柱穴・ 土坑・木棺墓	土器・石器 土器・石器 須恵器・土師器・石製品 須恵器・土師器・石製巡 方・鉄刀・ガラス小玉				
要約	<p>縄文時代晩期の溝と自然河川を検出し、当該期の土器・石器が出土した。弥生時代では灌漑水路群を検出し、当時の低地部分の開発状況が窺えるものとなった。中世では多数の掘立柱建物跡とそれにより構成される複数の屋敷地や大規模灌漑水路の検出など、中世集落の景観を復元できる良好な資料となった。併せて中世の木棺墓の検出は当時の葬制を考えるうえで重要な資料となる。</p>							

香川県農業試験場移転事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告  
第5冊  
西末則遺跡Ⅴ  
第2分冊

2015年3月20日

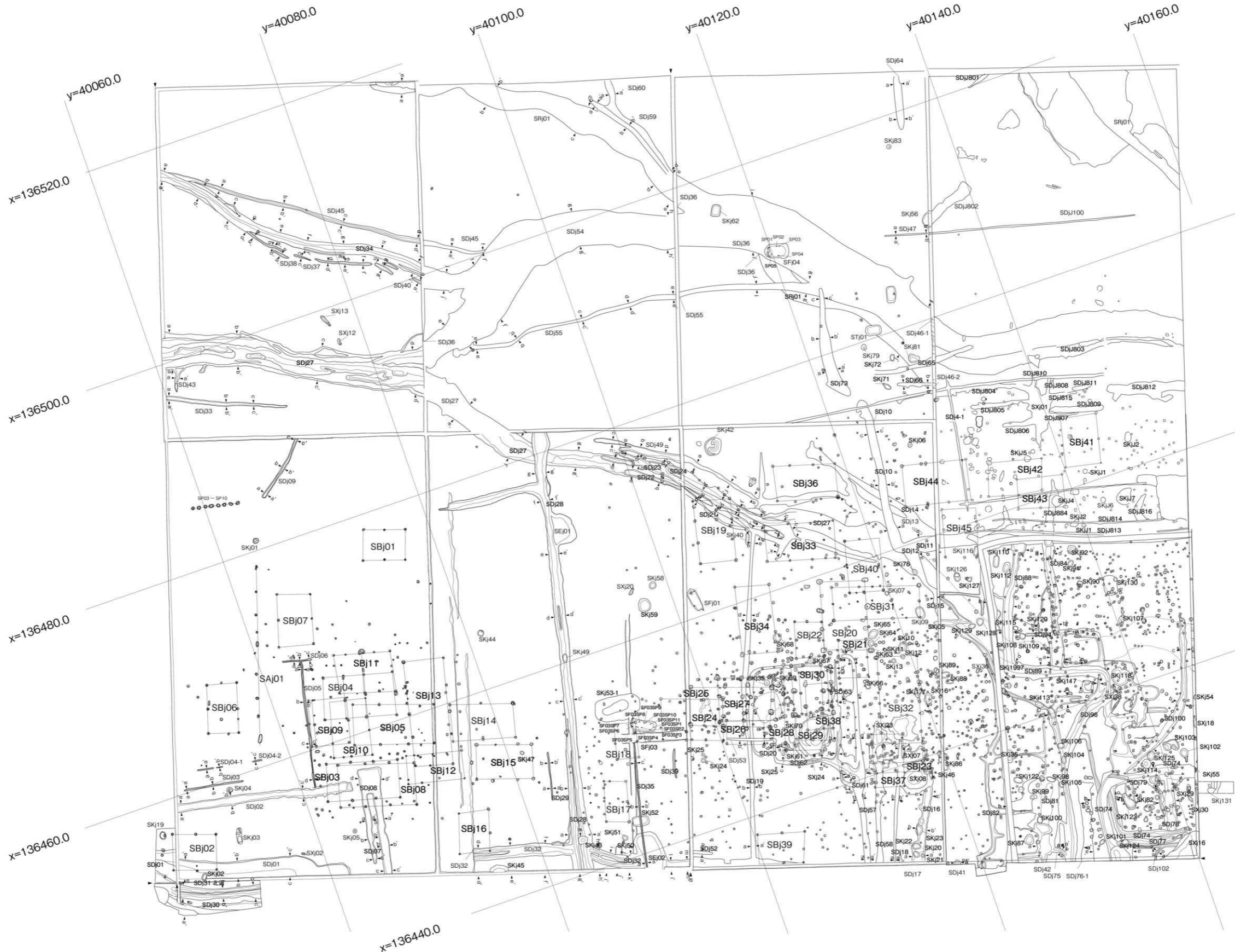
編集 香川県埋蔵文化財センター

〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4

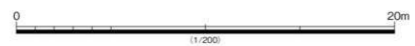
Tel 0877-48-2192 Fax 0877-48-3249

発行 香川県教育委員会

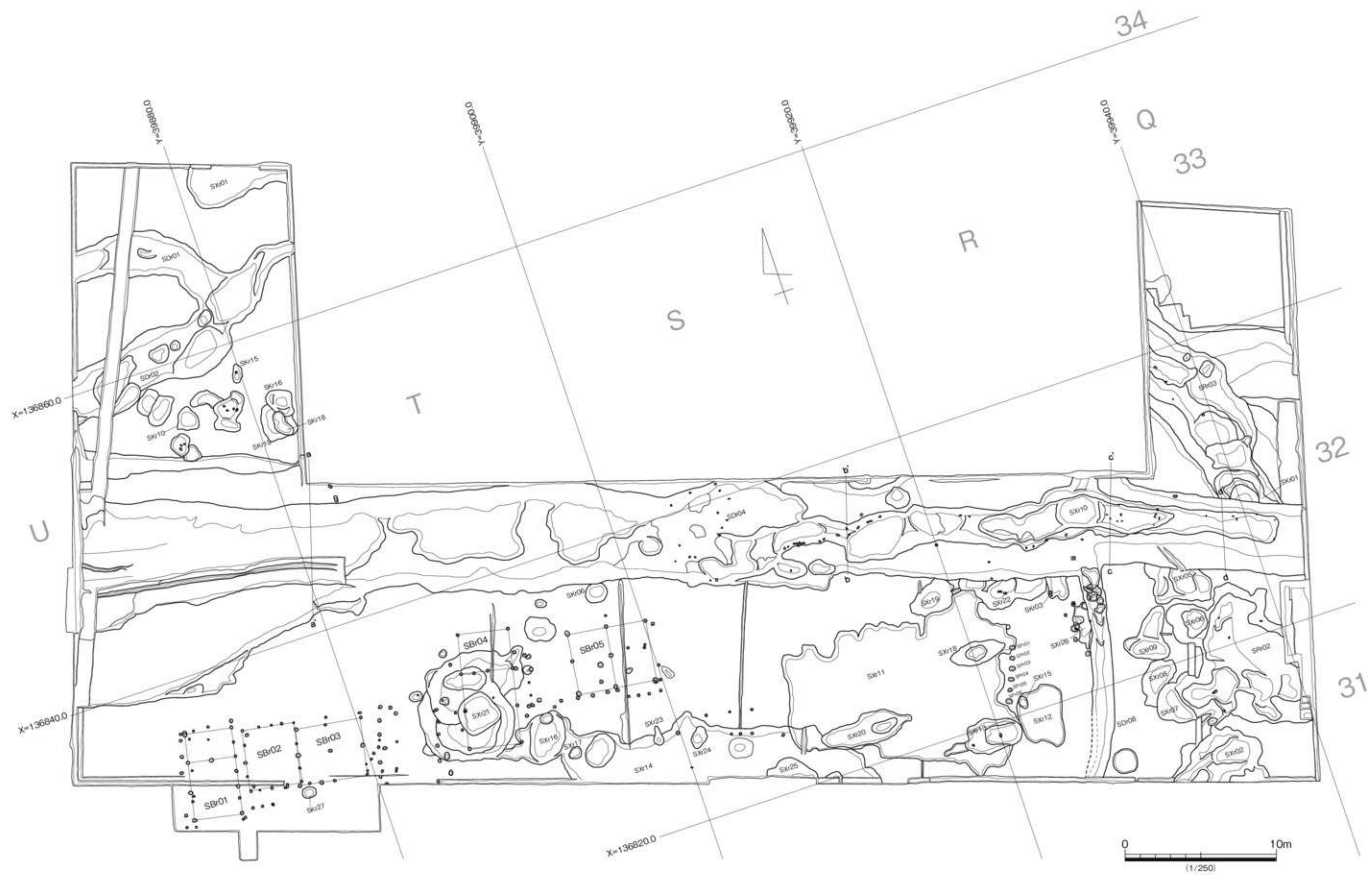
印刷 株式会社 中央印刷所



第2分冊 付図1 西末則遺跡V遺構配置図







第2分冊 付図2 西末則遺跡V遺構配置図 (R32区)